

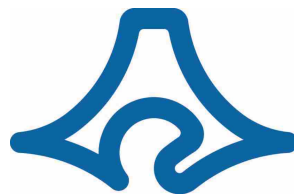
富国・有徳の美しい“ふじのくに”



Shizuoka Prefecture

令和4年度
県政世論調査

2022



静岡県

目 次

I	調査の概要	1
II	標本設計	2
III	回答者の属性	7
IV	調査結果	11
	この冊子の読みかた	11
	令和4年度 県政世論調査 調査結果の概要	13
	第1章 生活についての意識	15 (数表)
	1 暮らし向き	15
	(1) 暮らし向きの去年との比較	16 (1)
	(2) 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由	20 (3)
	2 日常生活の悩みや不安	26
	(1) 日常生活の悩みや不安の有無	26 (5)
	(2) 悩みや不安の内容	29 (7)
	3 静岡県の住みよさ	33
	(1) 静岡県の住みよさ	34 (9)
	(2) 静岡県が住みよいところだと思う理由	36 (11)
	第2章 県の仕事に対する関心	43
	1 県政への関心度	43
	(1) 県政への関心の有無	44 (13)
	(2) 関心がある理由	48 (15)
	(3) 関心がない理由	51 (17)
	2 行政機関への意見や要望、不満	54
	(1) 意見や要望、不満の有無	57 (19)
	(2) 意見等を持った仕事の担当行政機関	59 (21)
	(3) 伝達の必要性	61 (23)
	(4) 伝達の有無	62 (25)
	(5) 伝達方法	63 (27)
	(6) 伝達しなかった理由	63 (29)
	(7) 伝えても無駄だと思った理由	63 (31)
	3 広報媒体の浸透度	64 (33)
	4 日常の課題や生活における意識	78
	(1) 有徳の人づくり	78 (57)
	(2) 地域コミュニティの活性化	81 (59)
	(3) 富士山の世界文化遺産としての価値の理解	83 (61)
	(4) 子どもの生みやすさ、育てやすさ	86 (63)
	(5) 子どもをはぐくむ活動	88 (65)

(6)	住宅・住環境の満足度	90 (67)
(7)	心のユニバーサルデザインの実践	93 (69)
(8)	食品の安全性	95 (71)
(9)	環境保全活動の実践	97 (73)
(10)	県民の地域活動への参加	99 (75)
(11)	文化・芸術の鑑賞又は活動	105 (77)
(12)	中山間地域での生活意向	108 (79)
(13)	男女共同参画に関する意識	110 (81)
(14)	人権尊重の意識	112 (83)
(15)	生物多様性への理解	115 (85)
第3章	体感治安に関する意識	117
1	体感治安に関する意識	117
(1)	犯罪被害への不安の有無	118 (87)
(2)	不安を感じている犯罪	120 (89)
第4章	アルコール依存症に対する意識	125
1	アルコール依存症に対する意識	125
(1)	アルコール依存症又は依存症者のイメージ	125 (91)
(2)	アルコール依存症について知っているもの	129 (93)
(3)	アルコール依存症が疑われる場合に相談できる場所	133 (95)
(4)	住まいの地域で相談できる場所	136 (97)
(5)	相談窓口を知っていれば相談するか	139 (99)
(6)	相談しない理由	142 (101)
(7)	アルコール依存症についての情報取得	146 (103)
第5章	森の力再生事業に関する意識	149
1	森の力再生事業に関する意識	149
(1)	『森の力再生事業』の認知	149 (105)
(2)	『森の力再生事業』の情報取得方法	152 (107)
(3)	『森林（もり）づくり県民税』の認知	155 (109)
V	数表	157
VI	調査票	267

- I 調査の概要
- II 標本設計
- III 回答者の属性

I 調査の概要

1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) 体感治安に関する意識
- (4) アルコール依存症に対する意識
- (5) 森の力再生事業に関する意識

3 調査の設計

- (1) 調査地域 静岡県全域
- (2) 調査対象 県内の市町に居住する満18歳以上の県民
- (3) 標本数 3,500
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送配布（郵送及びWEB回収）
- (6) 調査時期 令和4年6月10日～7月4日
- (7) 調査機関 株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所

4 回収結果

- (1) 調査数(率) 3,500 (100.0%)
- (2) 回収数(率) 1,718 (49.1%)
 - 郵送回収数(率) 1,004 (28.7%)
 - WEB回収数(率) 714 (20.4%)
- (3) 有効回収数(率) 1,707 (48.8%)
 - 郵送有効回収数(率) 1,001 (28.6%)
 - WEB有効回収数(率) 706 (20.2%)
- (4) 未回収数(率) 1,782 (50.9%)
 - うち宛先不明等での戻り13票

II 標本設計

1 母集団

県内の市町に居住する満18歳以上の県民

2 標本数

3,500

3 地点数

23市	12町	計	35市町
262地点	18地点	計	280地点

4 抽出方法

層化二段無作為抽出法

(1) 層化

ア 県内の市町を、市又は郡を単位とし、次の3地域に分類した。

地域名		該当市名又は郡名
東部地域	(富士川以東)	沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、富士市、御殿場市、下田市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、賀茂郡、田方郡、駿東郡
中部地域	(静岡市以西) (榛原郡以東)	静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、榛原郡
西部地域	(菊川市以西)	浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、周智郡

イ 各地域については更に「人口30万人以上の市」「その他の市」「郡部」に分類し、それぞれを層とした。

(注) ここでいう市とは、令和4年4月1日現在市制施行の地域を指す。

(2) 標本数の配分

各層における満18歳以上人口数(令和4年4月16日現在選挙人名簿登録者総数)により、3,500の標本数を比例配分した。

(3) 抽出

- ア 第1次抽出単位となる調査地点として、令和2年国勢調査時に設定された調査区を使用した。
- イ 調査地点（国勢調査区）の抽出数は、1調査地点当たりの標本数が13件程度で、拠点により10件から15件と多少前後する標本数もあるが、第一次抽出単位でばらつきが小さいため影響はない。
- ウ 調査地点（国勢調査区）の抽出は、層内での抽出地点数が2地点以上割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における調査区数（計）}}{\text{層での抽出調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。

- エ 抽出に際して各層内における市町の配列順序は、令和2年国勢調査時における「市区町村コード一覧」の配列順序に従った。
- オ 抽出調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲（町・丁目・街区・番地・集落などを指定）内により、選挙人名簿から等間隔抽出法によって抽出した。
- カ 以上の作業の結果得られた地域別の標本数及び地点数は、次のとおりである。

市郡別 地域別	人口30万人 以上の市	その他の市	郡部	計
東部		861,331 986 (80)	143,834 187 (14)	1,005,165 1,173 (94)
中部	584,519 662 (53)	350,944 400 (32)	28,886 40 (3)	964,349 1,102 (88)
西部	652,130 743 (60)	408,713 467 (37)	14,929 15 (1)	1,075,772 1,225 (98)
計	1,236,649 1,405 (113)	1,620,988 1,853 (149)	187,649 242 (18)	3,045,286 3,500 (280)

(注) 上段：令和4年4月16日現在の母集団
下段：標本数、()内は地点数

(4) 調査地点一覧

東部

地域	調査地点	対象者数
沼津市	大岡	13
	新宿町	13
	高島町	13
	若葉町	13
	西島町	13
	平町	13
	中沢田	12
	西添町	12
	寿町	12
	石川	12
	鳥谷	12
	沼北町一丁目	12
	東熊堂	12
	本田町	12
	桃里	12
熱海市	春日町	13
	水口町	12
	桜木町	12
三島市	光ヶ丘	13
	青木	13
	安久	13
	南二日町	13
	富士ビレッジ	13
	徳倉一丁目	13
	松本	13
谷田	13	
富士宮市	小泉	13
	杉田	13
	黒田	13
	下条	12
	富士見ヶ丘	12
	淀平町	12
	田中町	12
	舞々木町	12
	上条	12
	舟久保町	12
伊東市	池	12
	松原	12
	赤沢	11
	大原三丁目	11
	竹の内二丁目	11
	猪戸一丁目	11

地域	調査地点	対象者数	
富士市	厚原	13	
	大淵	13	
	松本	13	
	鮫島	13	
	水戸島一丁目	13	
	青葉町	13	
	横割六丁目	13	
	水戸島元町	13	
	川成新町	12	
	前田	12	
	浅間上町	12	
	今宮	12	
御殿場市	富士見台三丁目	12	
	元町	12	
	永田町一丁目	12	
	水戸島本町	12	
	日乃出町	12	
	吉原四丁目	12	
	鈴川中町	12	
	萩原	12	
	二枚橋	12	
	北久原	12	
下田市	保土沢	12	
	御殿場	12	
裾野市	板妻	11	
	印野	11	
	河内	13	
	柿崎	12	
伊豆の国市	富沢	12	
	今里	12	
	須山	12	
	稲荷	12	
伊豆市	寺家	12	
	三福	12	
	原木	12	
田方郡函南町	奈古谷	11	
	熊坂	15	
	柏久保	15	
	賀茂郡東伊豆町	白田	13
	賀茂郡河津町	谷津	13
	賀茂郡南伊豆町	湊	13
	賀茂郡松崎町	松崎	13
	賀茂郡西伊豆町	田子	13
	駿東郡清水町	大土肥	13
		畑毛	12
桑原		12	
駿東郡長泉町	柿田	15	
	八幡	15	
	南一色	15	
駿東郡小山町	東野	15	
	元長窪	10	
中島	中島	15	

中部

地域	調査地点	対象者数		
静岡市	葵区	瀬名川二丁目	13	
		瀬名三丁目	13	
		北安東一丁目	13	
		安東一丁目	13	
		羽鳥五丁目	13	
		音羽町	13	
		大岩三丁目	13	
		内牧	13	
		沓谷一丁目	13	
		上足洗三丁目	13	
		北三丁目	13	
		西瀬名町	13	
		大岩本町	13	
		竜南一丁目	12	
		上土一丁目	12	
		西千代田町	12	
		唐瀬一丁目	12	
		井宮町	12	
	平和二丁目	12		
	駿河区	小鹿一丁目	13	
		南町	13	
		馬淵三丁目	13	
		下川原二丁目	13	
		有明町	13	
		手越原	12	
		寺田	12	
		曲金七丁目	12	
		青木	12	
		中田一丁目	12	
		敷地二丁目	12	
		中吉田	12	
		見瀬	12	
		登呂四丁目	12	
		新川二丁目	12	
		稲川一丁目	12	
		清水区	草薙一丁目	13
			船越南町	13
	高橋一丁目		13	
	駒越中二丁目		13	
	馬走		13	
	有東坂		13	
	平川地		13	
日立町	13			
折戸	12			
石川本町	12			
由比町屋原	12			
石川新町	12			
谷田	12			
川原町	12			
下野東	12			
蒲原中	12			
月見町	12			
中之郷二丁目	12			

地域	調査地点	対象者数
島田市	井口	12
	旭三丁目	12
	島	12
	船木	12
	金谷東二丁目	12
	野田	11
	金谷泉町	11
大柳	11	
焼津市	石津	13
	高新田	13
	中里	13
	一色	13
	上小杉	13
	小柳津	13
	中根新田	13
	利右衛門	13
	石津港町	13
坂本	12	
藤枝市	高柳一丁目	13
	田沼一丁目	13
	築地	13
	上藪田	13
	前島三丁目	12
	瀬古二丁目	12
	小石川町四丁目	12
	岡部町三輪	12
	志太二丁目	12
南新屋	12	
高岡一丁目	12	
牧之原市	菅ヶ谷	14
	大江	14
	地頭方	14
榛原郡吉田町	住吉	15
	大幡	12
榛原郡川根本町	上長尾	13

西部

地域	調査地点	対象者数	
浜松市	中区	高丘北二丁目	13
		鴨江二丁目	13
		葵西三丁目	13
		高丘西三丁目	13
		佐鳴台四丁目	12
		海老塚一丁目	12
		曳馬五丁目	12
		葵東二丁目	12
		十軒町	12
		高丘東三丁目	12
		上島六丁目	12
		山手町	12
		幸二丁目	12
		東伊場一丁目	12
		中島一丁目	12
		南伊場町	12
		城北一丁目	12
		鹿谷町	12
	中郡町	12	
	東区	有玉北町	12
		西ヶ崎町	12
		原島町	12
		天龍川町	12
		豊町	12
		中野町	12
		笠井新田町	12
		大島町	12
		半田山五丁目	12
		神ヶ谷町	13
	西区	館山寺町	13
		大平台三丁目	13
		志都呂町	13
		志都呂一丁目	13
		古人見町	12
		大久保町	12
		桜台二丁目	12
	南区	東若林町	12
		小沢渡町	12
		楊子町	12
		瓜内町	12
		寺脇町	12
		三和町	12
渡瀬町		12	
芳川町	11		
北区	東三方町	13	
	新都田五丁目	13	
	細江町三和	13	
	三幸町	13	
	豊岡町	12	
	三ヶ日町大崎	12	
細江町小野	12		

地域	調査地点	対象者数	
浜松市	浜北区	中条	14
		内野	13
		根堅	13
		平口	13
		尾野	13
		東美園	13
	天竜区	小林	13
		佐久間町中部	14
磐田市	渡ヶ島	13	
	新貝	13	
	森下	13	
	安久路	13	
	立野	13	
	草崎	13	
	豊浜中野	13	
	堀之内	13	
	上神増	13	
	川袋	13	
	元天神町	12	
	上新屋	12	
	海老塚	12	
	掛川市	緑ヶ丘二丁目	12
		長谷二丁目	12
		水垂	12
久保二丁目		12	
青葉台		12	
家代の里三丁目		12	
南二丁目		12	
家代		12	
秋葉路	11		
袋井市	春岡	14	
	国本	14	
	堀越	13	
	下山梨	13	
	鷺巣	13	
湖西市	広岡	13	
	鷺津	14	
	梅田	14	
	白須賀	13	
御前崎市	駅南三丁目	13	
	門屋	15	
菊川市	合戸	15	
	仲島一丁目	11	
	神尾	11	
	沢水加	11	
	棚草	10	
周智郡森町	谷中	15	

Ⅲ 回答者の属性

項目	特性	回答者 (人)	構成比 (%)	
地域	東部	536	31.4	
	中部	513	30.1	
	西部	634	37.1	
	無回答	24	1.4	
市・郡	静岡市	307	18.0	
	浜松市	385	22.6	
	その他の市部	878	51.4	
	郡部	113	6.6	
	無回答	24	1.4	
地域圏	伊豆半島地域	121	7.1	
	東部地域	415	24.3	
	中部地域	307	18.0	
	志太榛原・中東遠地域	431	25.2	
	西部地域	409	24.0	
	無回答	24	1.4	
	性別	男性	834	48.9
女性	848	49.7		
その他	2	0.1		
無回答	23	1.3		
年代	10代	16	0.9	
	20代	114	6.7	
	30代	180	10.5	
	40代	240	14.1	
	50代	301	17.6	
	60代	373	21.9	
	70歳以上	460	26.9	
	無回答	23	1.3	
性・年代	男性	10代	9	1.1
		20代	44	5.3
		30代	89	10.7
		40代	108	12.9
		50代	151	18.1
		60代	203	24.3
		70歳以上	230	27.6
	無回答	0	0.0	
	女性	10代	7	0.8
		20代	70	8.3
		30代	89	10.5
		40代	132	15.6
		50代	149	17.6
		60代	170	20.0
70歳以上		230	27.1	
無回答	1	0.1		
未既婚	未婚	287	16.8	
	既婚	1,201	70.4	
	結婚後に離別	177	10.4	
	無回答	42	2.5	
子どもの年代	子どもはいない	405	23.7	
	未就学児	76	4.5	
	小学生	106	6.2	
	中学生	56	3.3	
	高校生・予備校生・ 大学受験生	47	2.8	
	短大・高専・大学・ 大学院・専門学校生	51	3.0	
	社会人（未就業を含む）	913	53.5	
	無回答	53	3.1	

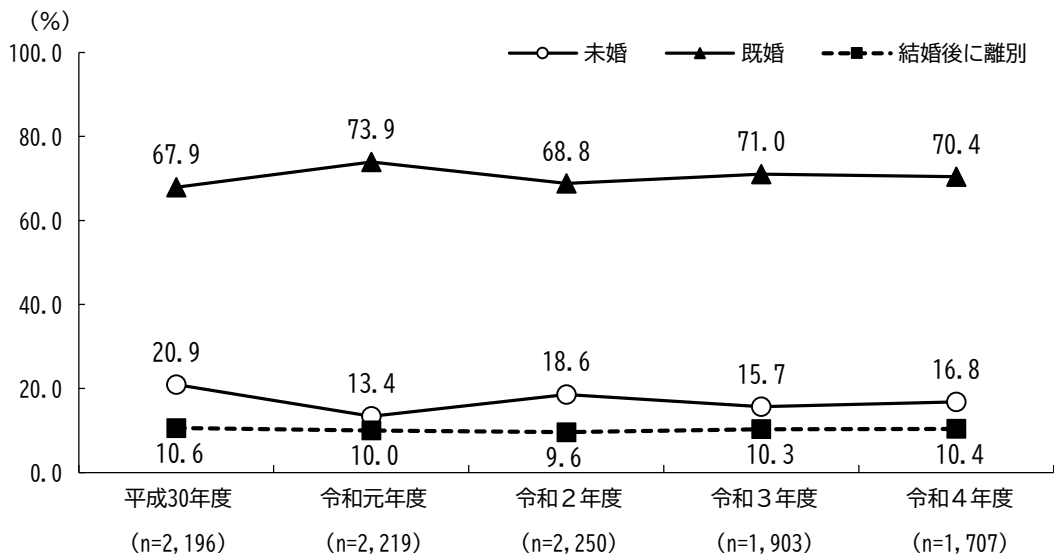
項目	特性	回答者 (人)	構成比 (%)
ライフステージ※	独身期	141	8.3
	家族形成期	118	6.9
	家族成長前期	159	9.3
	家族成長後期	90	5.3
	家族成熟期	197	11.5
	老齢期	833	48.8
	その他	129	7.6
	無回答	40	2.3
本人具体的職業	農林漁業	59	3.5
	商工サービス・自由業	139	8.1
	管理・専門技術・事務職	454	26.6
	労務作業	155	9.1
	無職	774	45.3
	学生・その他	83	4.9
	無回答	43	2.5
	自営・家族従業 小計	198	11.6
	給与所得者 小計	609	35.7
	その他 小計	857	50.2
無回答	43	2.5	
居住年数	10年未満	69	4.0
	10年～20年未満	97	5.7
	20年～30年未満	124	7.3
	30年以上	469	27.5
	生まれてからずっと	926	54.2
	無回答	22	1.3
居住形態	持家	1,416	83.0
	持家以外	269	15.8
	無回答	22	1.3
	一戸建	1,386	81.2
	一戸建以外	291	17.0
	その他	8	0.5
無回答	22	1.3	
ネットの利用	利用する	1,257	73.6
	利用しない	418	24.5
	無回答	32	1.9
住宅環境	住宅地域	1,286	75.3
	商業地域	107	6.3
	工業地域	29	1.7
	農漁業地域	145	8.5
	山間地域	99	5.8
	その他	11	0.6
	無回答	30	1.8

※ライフステージの分類基準は「この冊子の読み方」を参照

※性別について「その他」の回答が少数であったため、性・年代別ではクロス集計を省略した

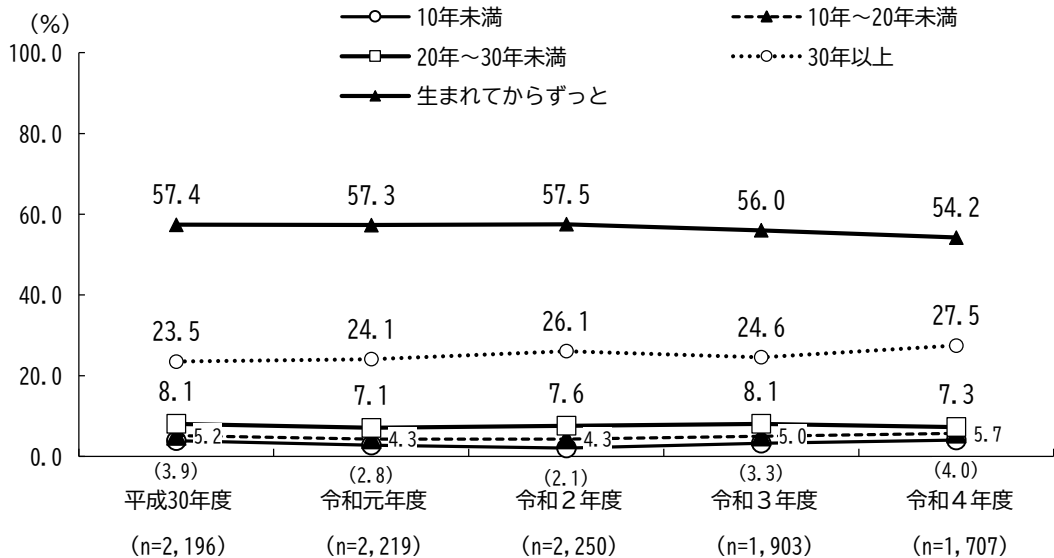
属性別経年比較

【 未既婚 】



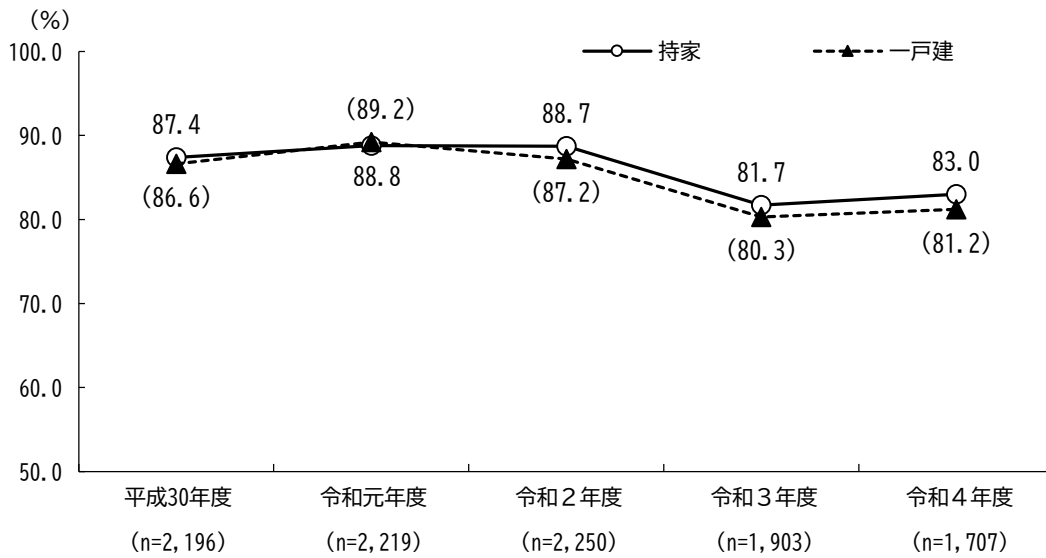
未既婚を平成30年度以降の推移で見ると、前年度の比較では各項目の割合はほぼ同程度で推移している。

【 居住年数 】



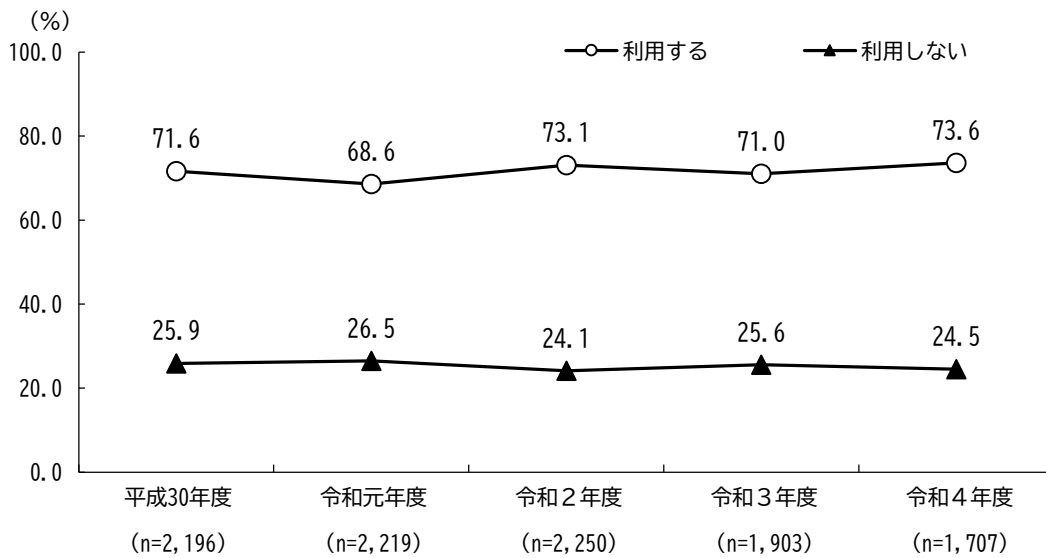
居住年数を平成30年度以降の推移で見ると、前年度の比較では各項目の割合はほぼ同程度で推移している。

【 居住形態 】



居住形態を平成30年度以降の推移で見ると、『持家』、『戸建』はほぼ同程度で推移しており、前年度の比較では各項目の割合はほぼ同程度で推移している。

【 インターネットの利用 】



インターネットの利用（利用率）を平成30年度以降の推移で見ると、前年度の比較では各項目の割合はほぼ同程度で推移している。

IV 調查結果

IV 調査結果

この冊子の読みかた

- 1 結果は百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 数値やグラフの中の「件数」、「n」（number of cases の略）は回答者総数（あるいは分類別の該当者数）を示し、回答比率はこれを100%で表した。「SQ」（Sub-Question の略）は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問を示す。
- 3 下表のとおり、標本誤差に応じて集計値を補正している。そのため、各設問・選択肢の回答状況が本来の有効回答数（n=1,707）に占める割合と一致しない部分があり、混乱を避けるため報告書のグラフ等においては回答者数（n）を表記していない。

カイ2乗値の算出

年代	実測度数	期待度数	統計量
10代	16	35.80	10.948
20代	114	159.84	13.148
30代	180	203.33	2.676
40代	240	275.12	4.483
50代	301	269.77	3.615
60代	373	256.87	52.503
70歳以上	460	483.27	1.121
			88.493

カイ2乗分布表：有意差5%

自由度	確率 (0.05)
1	3.841
2	5.991
3	7.814
4	9.487
5	11.071
6	12.591
…以下続く	

- 4 標本誤差は回答者数（n）と得られた結果の比率によって異なるが、層化二段無作為抽出法による場合の誤差（95%は信頼できる誤差の範囲）は下表のとおりである。

回答の比率 回答者数（n）	10% または 90%前後	20% または 80%前後	30% または 70%前後	40% または 60%前後	50%前後
2,250	±1.2	±1.7	±1.9	±2.0	±2.1
2,000	±1.3	±1.8	±2.0	±2.1	±2.2
1,800	±1.4	±1.8	±2.1	±2.3	±2.3
1,600	±1.5	±2.0	±2.2	±2.4	±2.4
1,400	±1.6	±2.1	±2.4	±2.6	±2.6
1,200	±1.7	±2.3	±2.6	±2.8	±2.8
1,000	±1.9	±2.5	±2.8	±3.0	±3.1

- 5 10代は18歳、19歳のみを対象としており、回答数が少ないため、分析時は20代以下とし、10代、20代の合計を分析対象としている。
- 6 質問の末尾に（○は3つまで） および（○はいくつでも）とあるのは、1人の対象者に2つ以上の回答を認めたもので、その百分率の合計は100%を超える場合がある。
- 7 回答者の属性に無回答があるため、各図表の内訳の合計が全体の回答者数と異なる場合がある。無回答は全体の比率計算に含めている。
- 8 分析の軸として「ライフステージ」は以下の基準で分類した。

ライフステージ	基準
独身期	10代・20代・30代の未婚者かつ子どもはいない
家族形成期	第一子が未就学児、または40歳未満の夫婦のみ
家族成長前期	第一子が小・中学生
家族成長後期	第一子が高校・大学生（短大・専門学校・大学受験生を含む）
家族成熟期	第一子が学校教育終了
老齢期	60歳以上の人
その他	上記以外の人

（注1） 家族形成期～家族成熟期の子どものある人は、いずれも60歳未満の人とした。

（注2） 結婚後に離別の人は未婚とした。

- 9 「地域圏」は、県内の市町を次の6地域に分類した。

地域圏	市 町
伊豆半島地域	熱海市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町
東部地域	沼津市、三島市、富士宮市、富士市、御殿場市、裾野市、函南町、清水町、長泉町、小山町
中部地域	静岡市
志太榛原・中東遠地域	島田市、磐田市、焼津市、掛川市、藤枝市、袋井市、御前崎市、菊川市、牧之原市、吉田町、川根本町、森町
西部地域	浜松市、湖西市
伊豆半島地域 （沼津市、三島市、 函南町を含む）	沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町

調査結果の概要

暮らし向きが「苦しくなっている」45.1%

日常生活に「悩みや不安を感じている」74.7%

【調査時点での社会情勢】

新型コロナウイルス感染症による移動制限が徐々に緩和されている一方、感染者数・死者数は全国各地で過去最大の水準となっており、予断を許さない状況が続いている。

個人消費や生産・雇用状況については持ち直しや改善の兆しがみられるが、前述の感染症による供給面の制約やウクライナ危機による資源高騰の懸念が残る。

現段階では最終財価格や消費者物価指数に急激な変化は見られないが、今後、企業活動や家計まで波及することを鑑み、国内外の動向に注視する必要がある。

1 生活についての意識

(1) 暮らし向き

- ・暮らし向きが「苦しくなっている」と答えた人の割合は、前年度に35.9%と3割台だったが、今年度は45.1%と9.2ポイント増加し、平成21年度以降の推移で見ると、最大の上がり幅となっている。年代別では『50代』が49.8%と最も高く、『20代以下』が33.7%と最も低い。子どもの年代別では『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』が6割以上と最も高くなっている。
- ・「苦しくなっている」理由は「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」と答えた人の割合が57.2%と最も高く、次いで「給料や収益が増えない、又は減ったから」が56.3%、「預貯金が増えない、又は減ったから」が41.2%となっている。

(2) 日常生活の悩みや不安

- ・日常生活に悩みや不安を感じている人の割合は74.7%と、平成25年度から10年連続で7割を超えている。なお、『70歳以上』では68.3%と、他の世代よりも不安を感じている人が少なくなっている。
- ・悩みや不安の内容は、「自分や家族の健康」と答えた人の割合は65.4%と最も高く、次いで「老後の生活設計」が58.7%、「今後の生活費の見通し」が54.1%と続き、健康や生活に関することが中心となっている。

(3) 静岡県の住みよさ

- ・静岡県は住みよいところだと「思う」人の割合は51.7%で、「どちらかといえばそう思う」人を合わせた割合は89.2%となり、前年度の89.5%より0.3ポイント下回ったものの、毎年度9割前後で推移している。

2 県の仕事に対する関心

(1) 県政への関心度

- ・県の政治や行政に「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた「関心がある」は61.9%で、毎年度6割前後で推移している。

(2) 行政機関への意見や要望、不満

- ・行政機関の仕事について意見や要望、不満がある人のうち、県が担当する仕事について意見や要望、不満がある人は55.7%で、前年度の54.6%より1.1ポイント高くなっている。
- ・県が担当する仕事について意見や要望、不満がある人のうち、県に実際に伝えた人の割合は13.9%で、前年度の10.9%より3.0ポイント高くなっている。

(3) 広報媒体の浸透度

- ・県民だより(49.0% 前年度比-2.1ポイント)、県議会だより(30.5% 前年度比-0.6ポイント)、ラジオ広報(22.2% 前年度比-7.7ポイント)、県のホームページ(33.1% 前年度比+1.8ポイント)、SNS(16.0% 前年度比+3.4ポイント)、YouTube(3.8%)となっており、県のホームページ、SNSでは浸透度が高くなっているものの、その他の広報媒体では浸透度が低くなっている。その中でも、YouTubeはその他の広報媒体よりも10%以上低くなっている。

第1章 生活についての意識

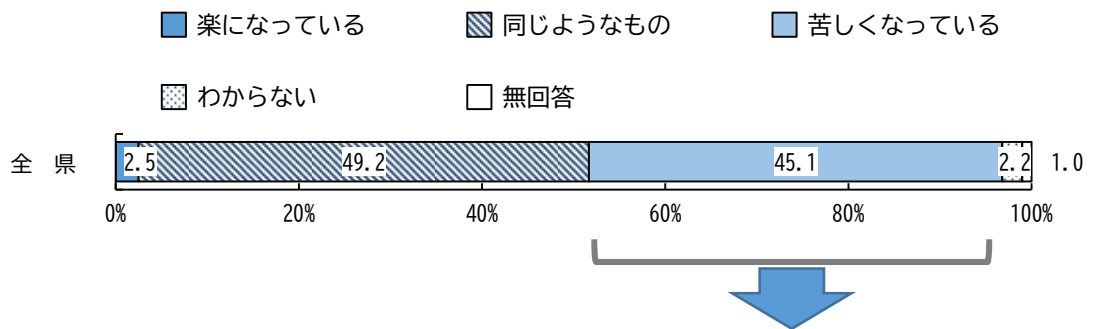
1 暮らし向き

— 「苦しくなっている」が45.1%

その理由は、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」が高い —

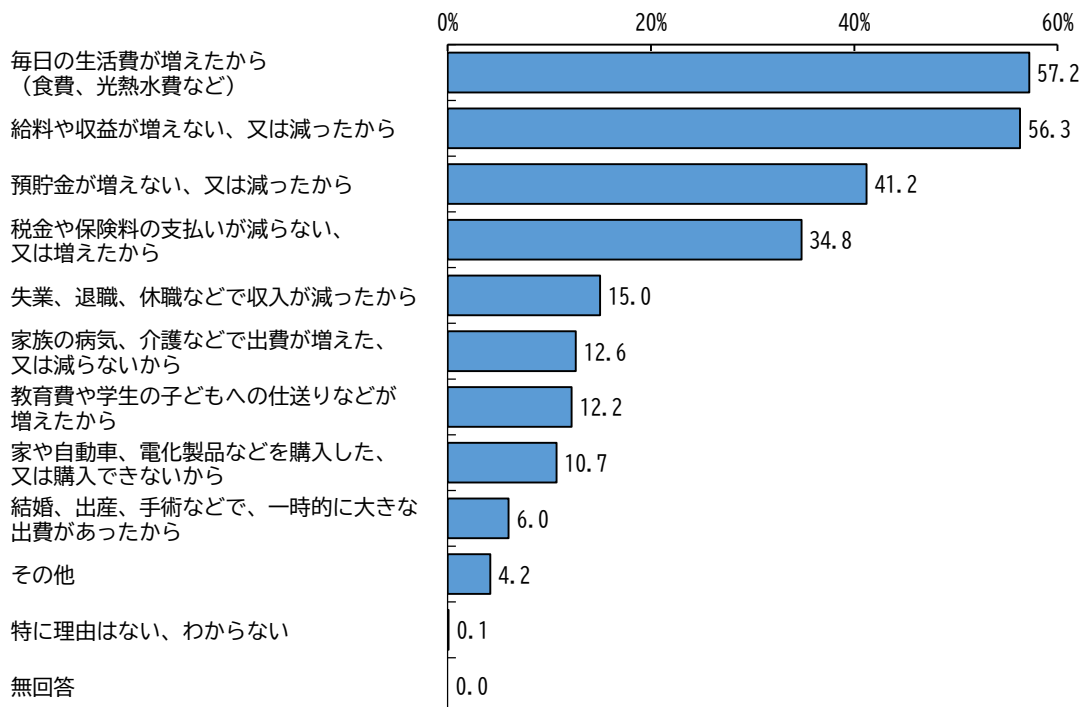
Q 1 お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべて楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。（〇は1つ）

【 暮らし向きの去年との比較 】



S Q お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由はなんですか。（〇は3つまで）

【 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由 】



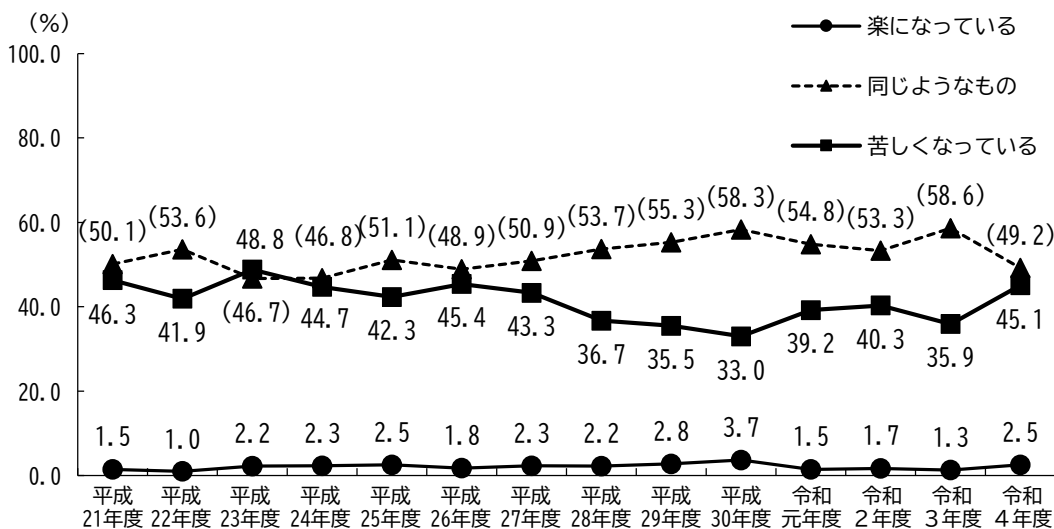
(1) 暮らし向き较去年との比較

暮らし向きについては、「同じようなもの」と回答した人の割合が49.2%と最も高く、「苦しくなっている」の45.1%を上回っている。一方、「楽になっている」は2.5%にとどまっている。

[過去の調査との比較] (図1-1)

平成21年度以降の推移でみると、暮らし向きが「苦しくなっている」人の割合は、平成21年度から7年連続で4割を超えていたが、平成28年度以降は4年連続で3割台であった。令和3年度は3割台に下がったが、今年度は「苦しくなっている」が45.1%（前年度比+9.2ポイント）と4割台に上がり、「同じようなもの」が減少して49.2%（前年度比-9.4ポイント）となった。

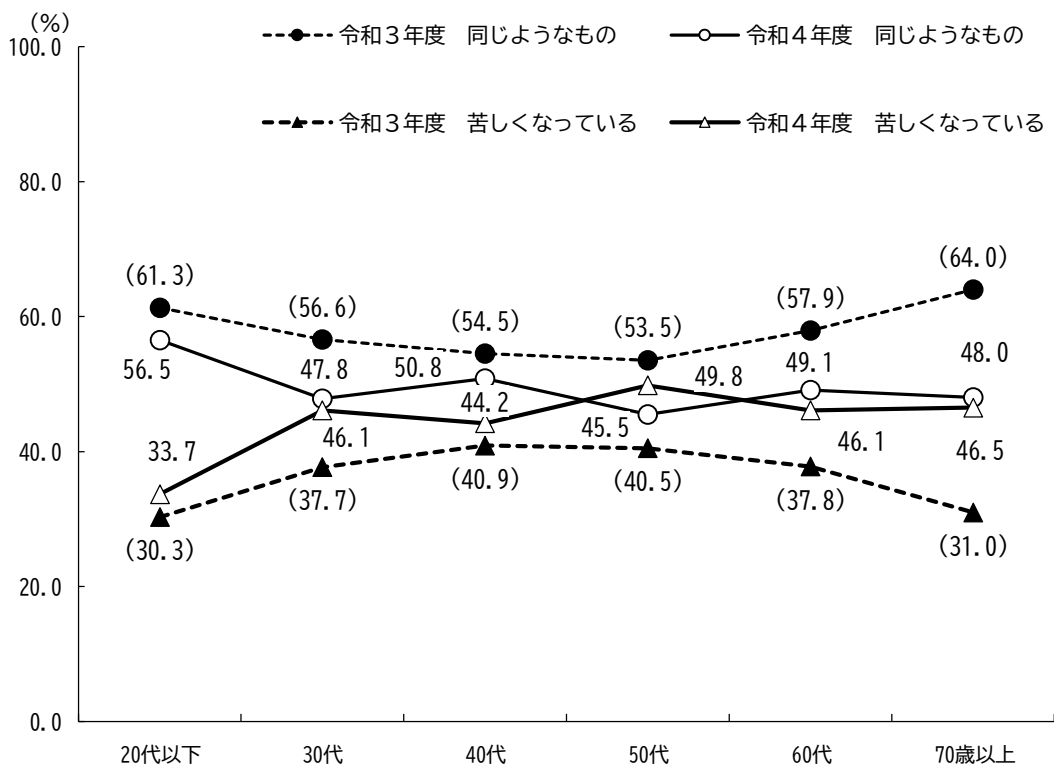
【 図1-1 暮らし向き 経年比較 】



【属性による比較】（図1-2、図1-3）

年代別に前年度と比較してみると、「同じようなもの」と回答した人の割合は『30代』、『60代』で前年度を8.8ポイント下回り、『70歳以上』では16.0ポイント下回るなど、いずれの年代も前年度を下回っている。一方、「苦しくなっている」と回答した人の割合は『70歳以上』で前年度を15.5ポイント上回るなど、いずれの年代も前年度を上回っている。

【 図1-2 暮らし向き 年代別 前年度比較 】

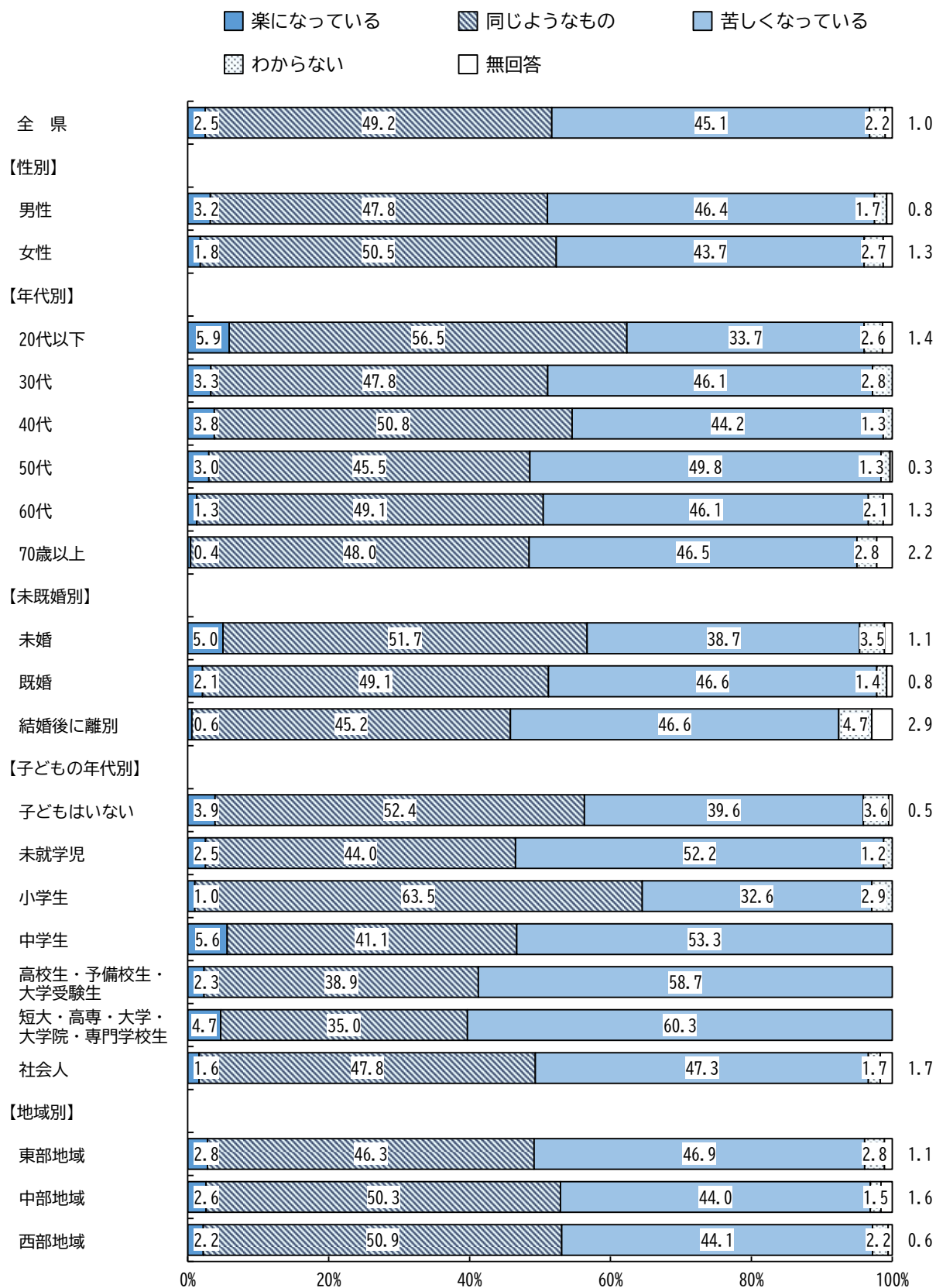


性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別で見ると、『20代以下』は、「同じようなもの」(56.5%)が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別で見ると、『小学生』は、「同じようなもの」(63.5%)が全体と比較して高くなっている。また、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「苦しくなっている」(60.3%)が全体と比較して高くなっている。

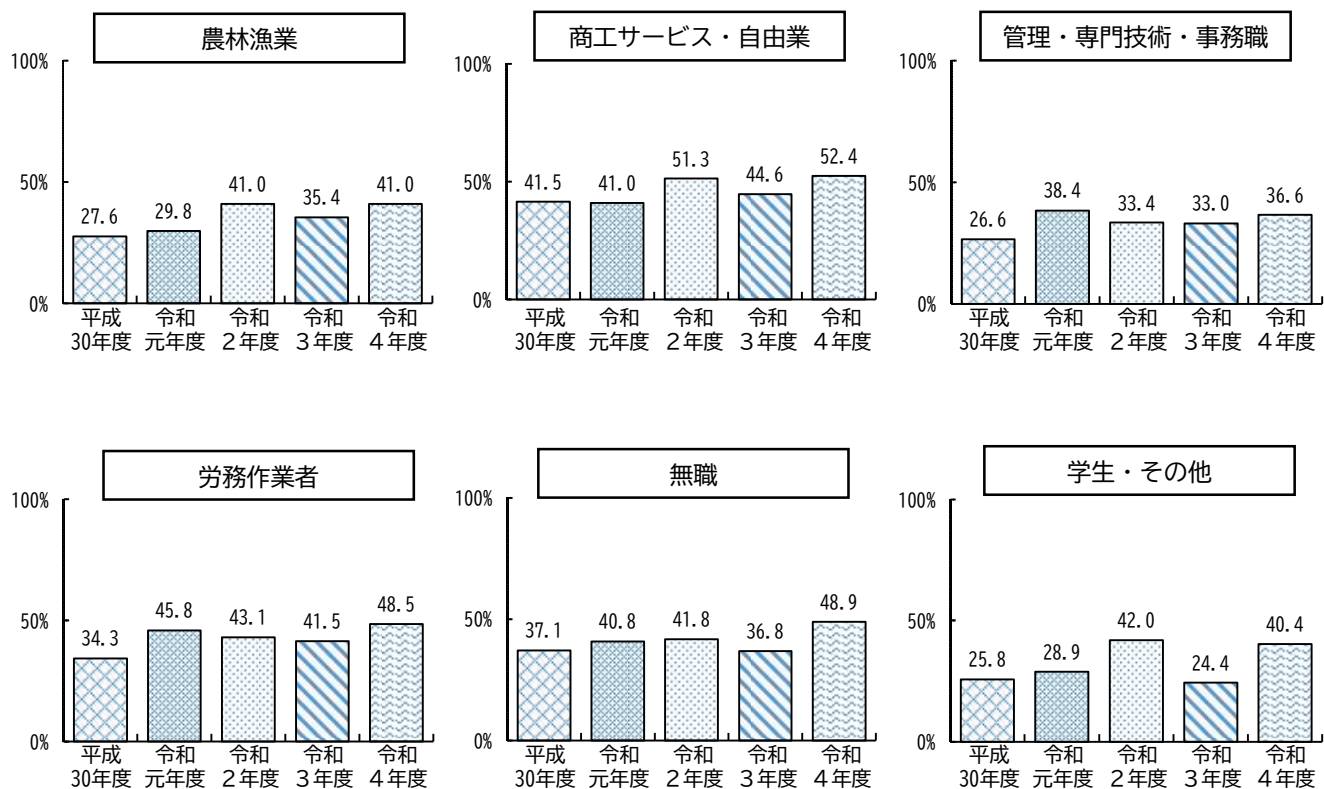
【 図 1-3 暮らし向き 性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域別 】



[本人具体的職業別 経年比較] (図1-4)

「苦しくなっている」と回答した人の割合を本人具体的職業別に平成30年度以降の推移をみると、『学生・その他』は前年度と比較して16.0ポイント高く、いずれの職業でも前年度よりも高くなっている。

【 図1-4 暮らし向き 本人具体的職業別 経年比較 】



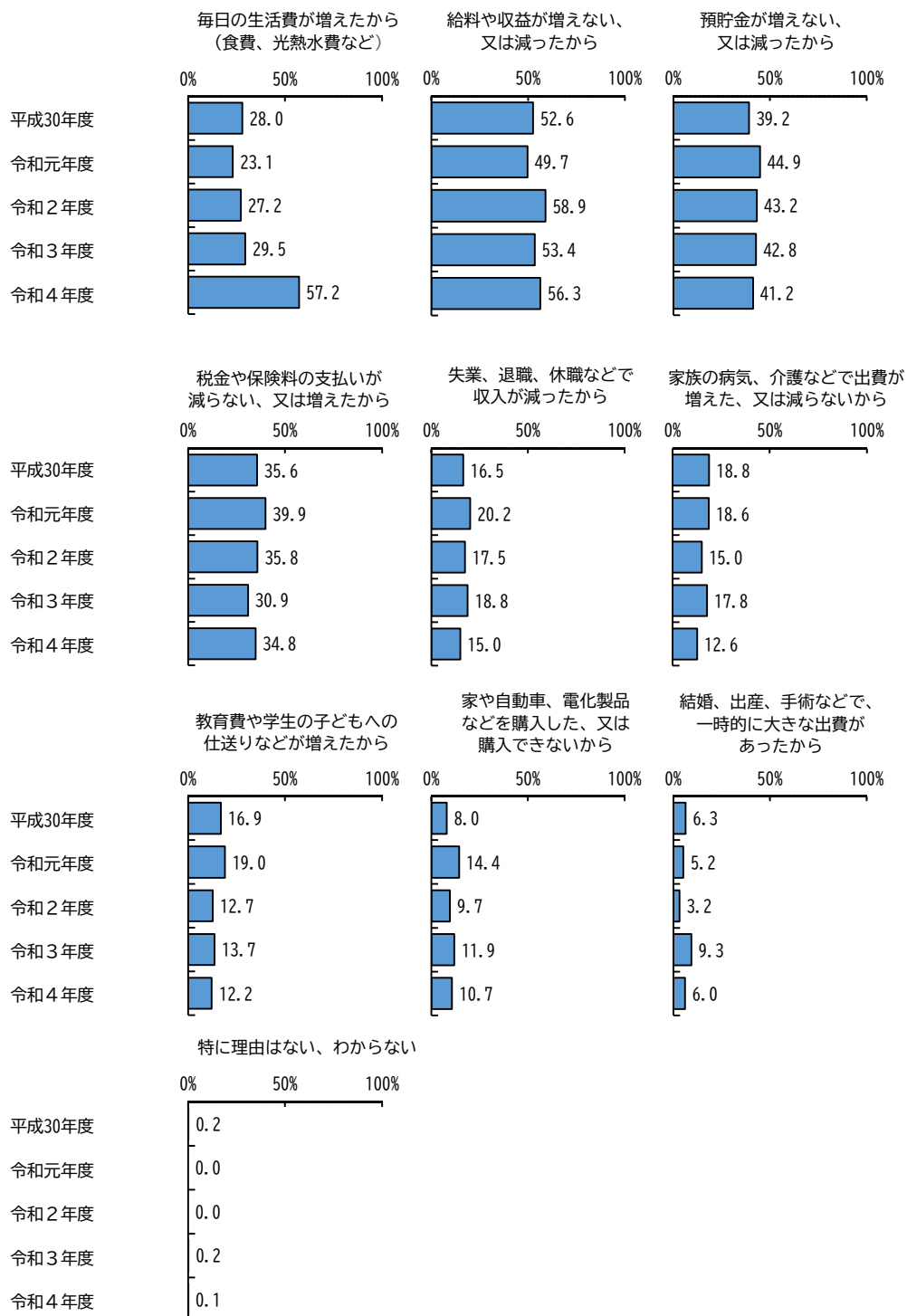
(2) 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由

暮らし向きが苦しくなっていると感じる理由については、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」(57.2%)が最も高く、以下「給料や収益が増えない、又は減ったから」(56.3%)、「預貯金が増えない、又は減ったから」(41.2%)、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」(34.8%)、「失業、退職、休職などで収入が減ったから」(15.0%)などとなっている。

[過去の調査との比較] (図1-5)

平成30年度以降の推移でみると、「毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など）」が過去4回調査は20%台で推移していたが、今年度は57.2%と前年度より27.7ポイント上回り、過去4回調査に比べ最も高くなっている。

【 図1-5 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由 経年比較 】



【属性による比較】（図1-6、表1-1、表1-2）

性別、地域別では、大きな差はみられない。

性・年代別でみると、『男性30代』、『男性50代』、『男性60代』、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』は、「給料や収益が増えない、又は減ったから」が全体と比較して高くなっている。

また、『女性50代』、『女性70歳以上』は、「家族の病気、介護などで出費が増えた、又は減らないから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性20代以下』、『男性30代』、『女性20代以下』、『女性30代』は、「結婚、出産、手術などで、一時的に大きな出費があったから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性20代以下』、『男性30代』、『女性20代以下』、『女性60代』は、「家や自動車、電化製品などを購入した、又は購入できないから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性20代以下』、『男性40代』、『男性50代』、『女性40代』、『女性50代』は、「教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性60代』、『男性70歳以上』は、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」が全体と比較して高くなっている。

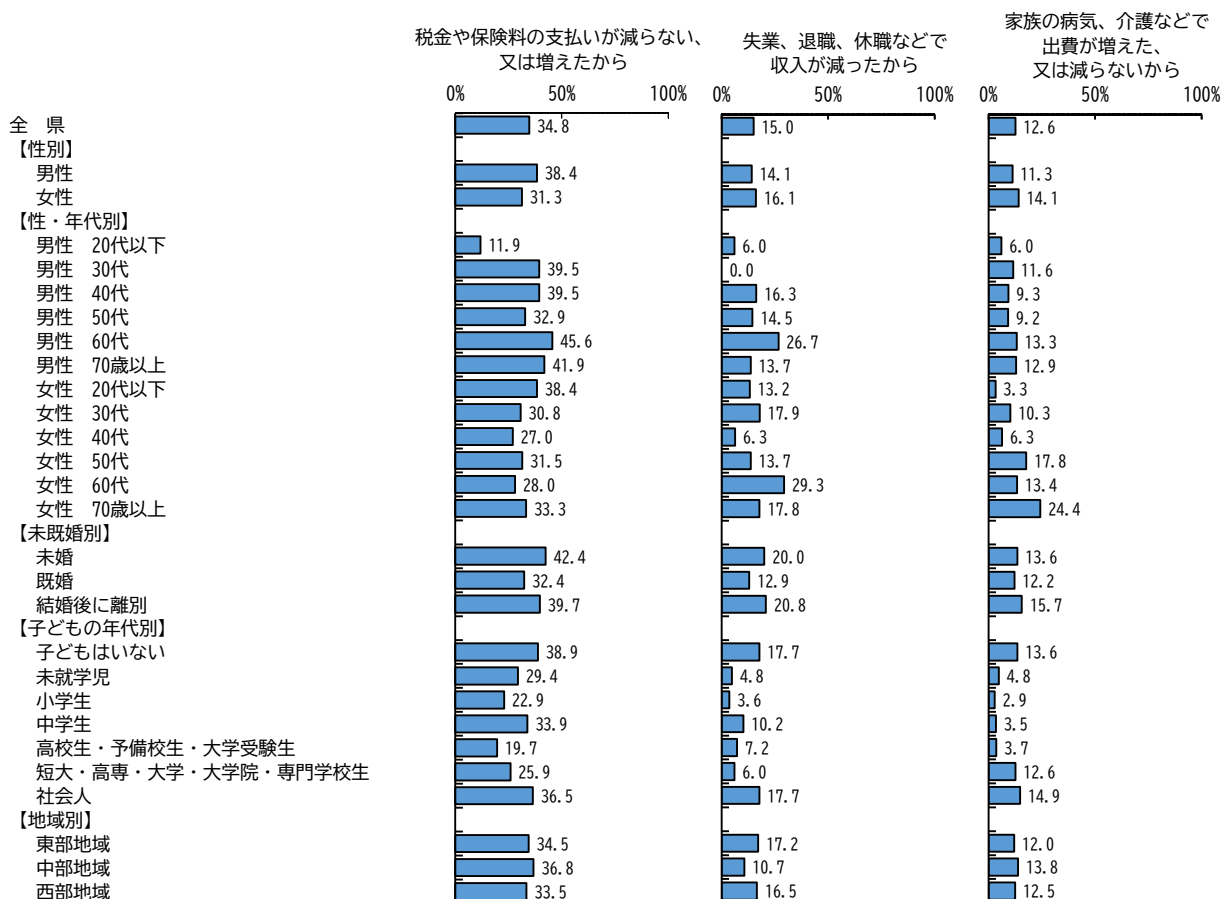
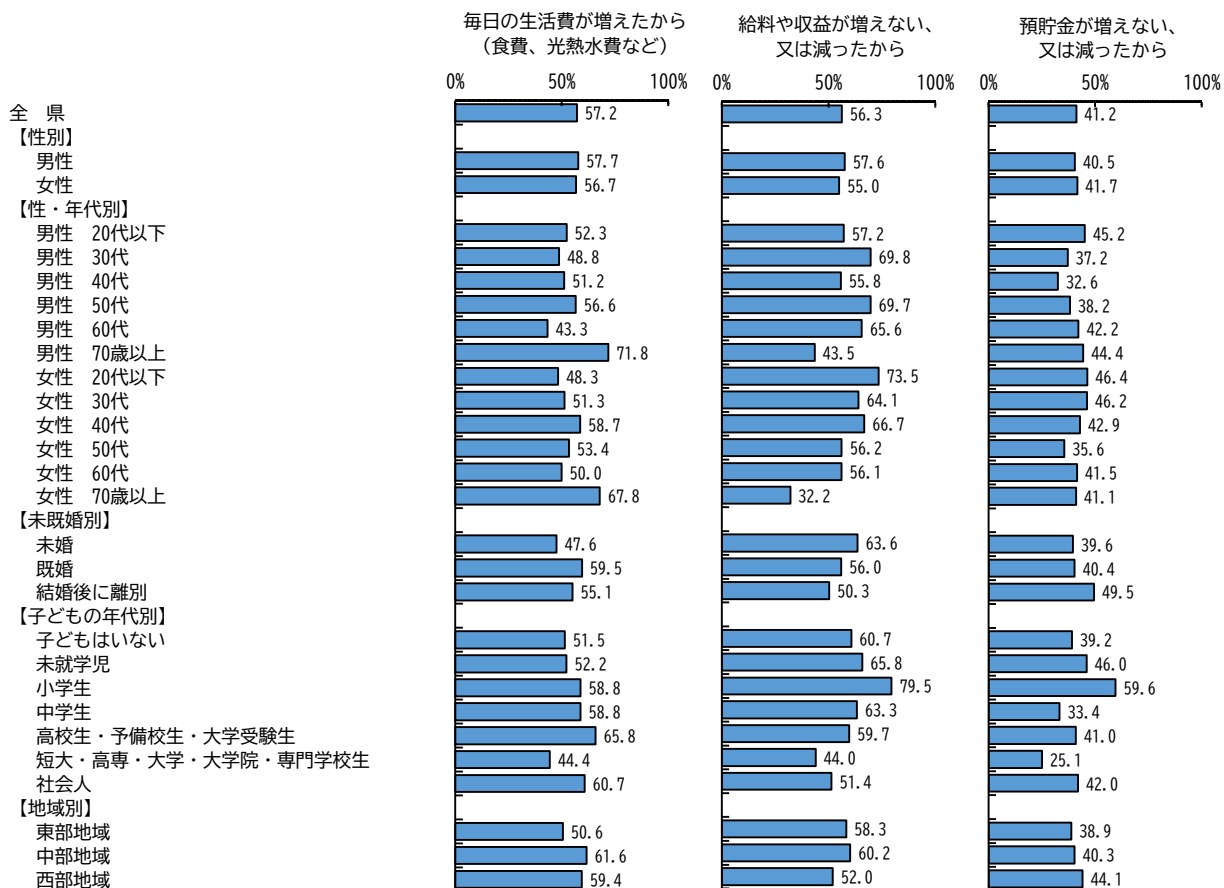
未既婚別でみると、『未婚』は、「給料や収益が増えない、又は減ったから」（63.6%）、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」（42.4%）が全体と比較して高くなっている。

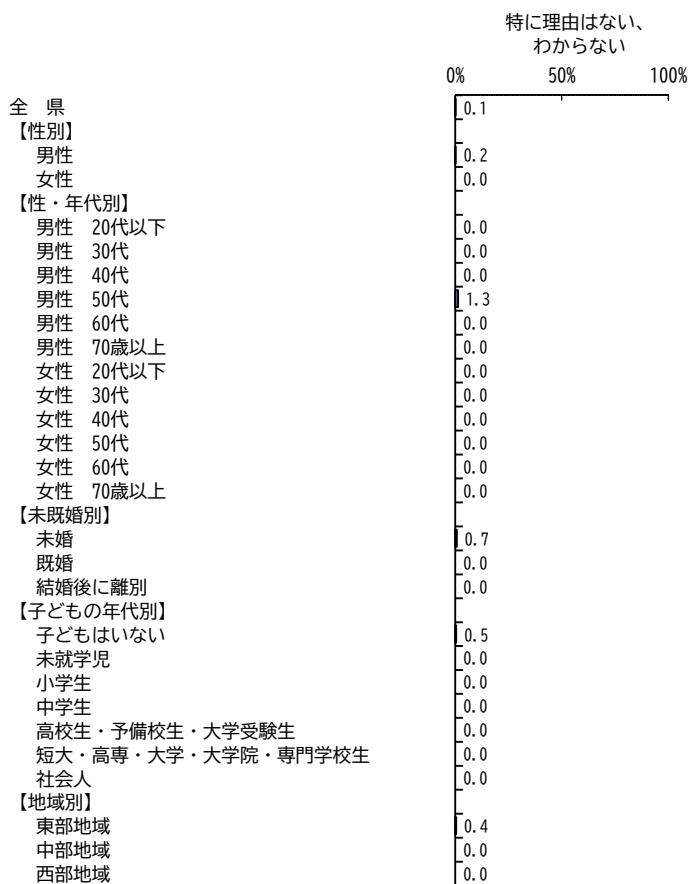
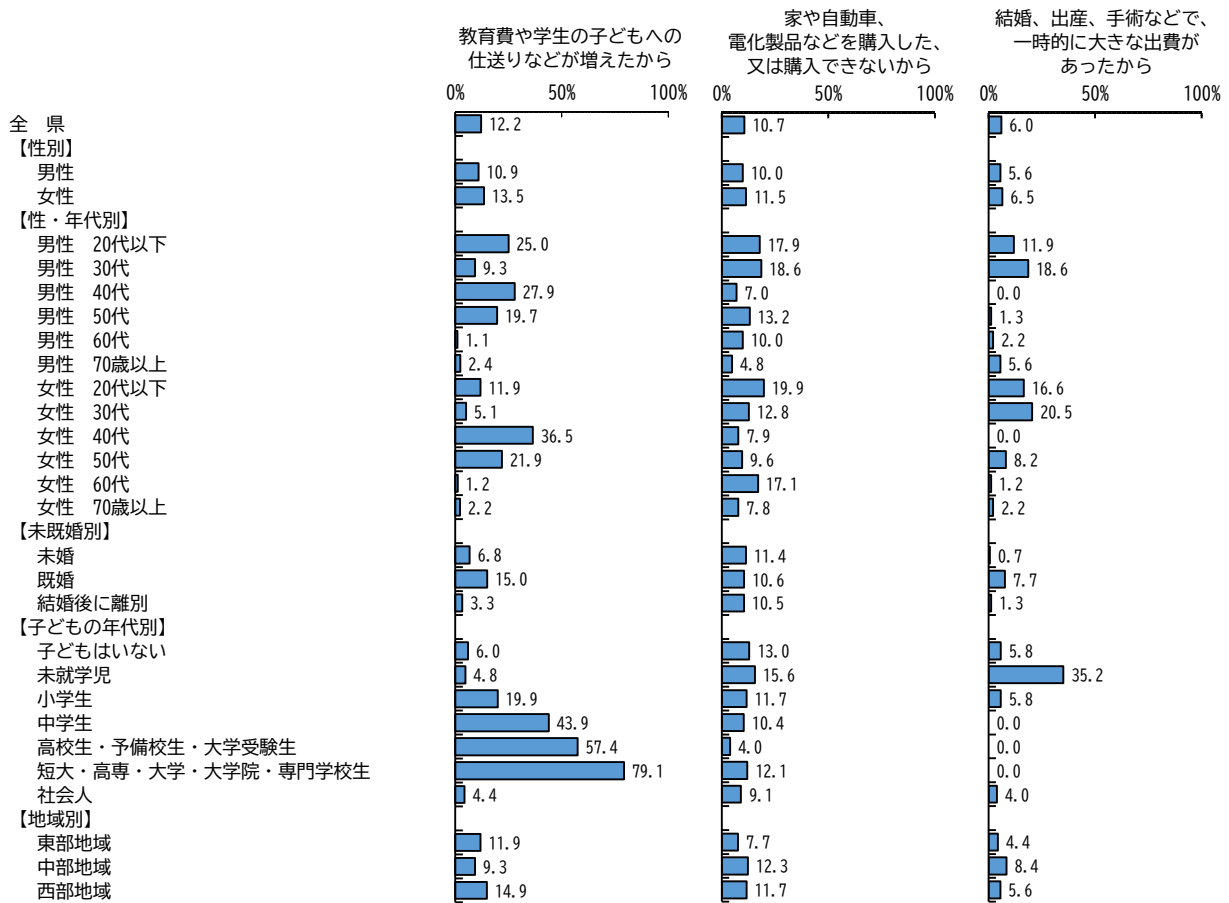
また、『結婚後に離別』は、「預貯金が増えない、又は減ったから」（49.5%）、「失業、退職、休職などで収入が減ったから」（20.8%）が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『未就学児』、『小学生』、『中学生』は、「給料や収益が増えない、又は減ったから」が全体と比較して高くなっている。

また、『小学生』、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから」が全体と比較して高くなっている。

【 図1-6 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由 性別、性・年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域別 】





【 表 1-1 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由 性別、性・年代別 】

		1位	2位	3位	4位	5位
全県		毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 57.2	給料や収益が増えない、又は減ったから 56.3	預貯金が増えない、又は減ったから 41.2	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 34.8	失業、退職、休職などで収入が減ったから 15.0
性別	男性	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 57.7	給料や収益が増えない、又は減ったから 57.6	預貯金が増えない、又は減ったから 40.5	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 38.4	失業、退職、休職などで収入が減ったから 14.1
	女性	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 56.7	給料や収益が増えない、又は減ったから 55.0	預貯金が増えない、又は減ったから 41.7	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 31.3	失業、退職、休職などで収入が減ったから 16.1
性・年代別(男性)	20代以下	給料や収益が増えない、又は減ったから 57.2	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 52.3	預貯金が増えない、又は減ったから 45.2	教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから 25.0	家や自動車、電化製品などを購入した、又は購入できないから 17.9
	30代	給料や収益が増えない、又は減ったから 69.8	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 48.8	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 39.5	預貯金が増えない、又は減ったから 37.2	家や自動車、電化製品などを購入した、又は購入できないから 結婚、出産、手術などで、一時的に大きな出費があったから 18.6
	40代	給料や収益が増えない、又は減ったから 55.8	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 51.2	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 39.5	預貯金が増えない、又は減ったから 32.6	教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから 27.9
	50代	給料や収益が増えない、又は減ったから 69.7	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 56.6	預貯金が増えない、又は減ったから 38.2	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 32.9	教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから 19.7
	60代	給料や収益が増えない、又は減ったから 65.6	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 45.6	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 43.3	預貯金が増えない、又は減ったから 42.2	失業、退職、休職などで収入が減ったから 26.7
	70歳以上	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 71.8	預貯金が増えない、又は減ったから 44.4	給料や収益が増えない、又は減ったから 43.5	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 41.9	失業、退職、休職などで収入が減ったから 13.7
	20代以下	給料や収益が増えない、又は減ったから 73.5	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 48.3	預貯金が増えない、又は減ったから 46.4	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 38.4	家や自動車、電化製品などを購入した、又は購入できないから 19.9
性・年代別(女性)	30代	給料や収益が増えない、又は減ったから 64.1	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 51.3	預貯金が増えない、又は減ったから 46.2	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 30.8	結婚、出産、手術などで、一時的に大きな出費があったから 20.5
	40代	給料や収益が増えない、又は減ったから 66.7	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 58.7	預貯金が増えない、又は減ったから 42.9	教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから 36.5	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 27.0
	50代	給料や収益が増えない、又は減ったから 56.2	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 53.4	預貯金が増えない、又は減ったから 35.6	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 31.5	教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから 21.9
	60代	給料や収益が増えない、又は減ったから 56.1	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 50.0	預貯金が増えない、又は減ったから 41.5	失業、退職、休職などで収入が減ったから 29.3	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 28.0
	70歳以上	毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など) 67.8	預貯金が増えない、又は減ったから 41.1	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 33.3	給料や収益が増えない、又は減ったから 32.2	家族の病気、介護などで出費が増えた、又は減らないから 24.4

(注1) は全県よりも10ポイント以上高いものである。

【 表 1-2 暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由 子どもの年代別、周辺地域別、地域別 】

		1位	2位	3位	4位	5位
全県		毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 57.2	給料や収益が増えない、又は減ったから 56.3	預貯金が増えない、又は減ったから 41.2	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 34.8	失業、退職、休職などで収入が減ったから 15.0
子どもの年代（長子年代）	子どもはいない	給料や収益が増えない、又は減ったから 60.7	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 51.5	預貯金が増えない、又は減ったから 39.2	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 38.9	失業、退職、休職などで収入が減ったから 17.7
	未就学児（小学校入学前）	給料や収益が増えない、又は減ったから 65.8	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 52.2	預貯金が増えない、又は減ったから 46.0	結婚、出産、手術などで、一時的に大きな出費があったから 35.2	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 29.4
	小学生	給料や収益が増えない、又は減ったから 79.5	預貯金が増えない、又は減ったから 59.6	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 58.8	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 22.9	教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから 19.9
	中学生	給料や収益が増えない、又は減ったから 63.3	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 58.8	教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから 43.9	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 33.9	預貯金が増えない、又は減ったから 33.4
	高校生・予備校生・大学受験生	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 65.8	給料や収益が増えない、又は減ったから 59.7	教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから 57.4	預貯金が増えない、又は減ったから 41.0	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 19.7
	短大・高専・大学・大学院・専門学校生	教育費や学生の子どもへの仕送りなどが増えたから 79.1	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 44.4	給料や収益が増えない、又は減ったから 44.0	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 25.9	預貯金が増えない、又は減ったから 25.1
	社会人（未就業を含む）	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 60.7	給料や収益が増えない、又は減ったから 51.4	預貯金が増えない、又は減ったから 42.0	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 36.5	失業、退職、休職などで収入が減ったから 17.7
周辺地域	住宅地域	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 57.8	給料や収益が増えない、又は減ったから 57.1	預貯金が増えない、又は減ったから 41.5	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 35.5	失業、退職、休職などで収入が減ったから 15.1
	商業地域	給料や収益が増えない、又は減ったから 61.1	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 55.9	預貯金が増えない、又は減ったから 40.9	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 36.4	家族の病気、介護などで出費が増えた、又は減らないから 13.8
	工業地域	給料や収益が増えない、又は減ったから 64.0	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 46.1	預貯金が増えない、又は減ったから 37.2	家族の病気、介護などで出費が増えた、又は減らないから 31.6	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 23.2
	農漁業地域	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 60.7	給料や収益が増えない、又は減ったから 53.0	預貯金が増えない、又は減ったから 38.3	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 34.3	家や自動車、電化製品などを購入した、又は購入できないから 17.7
	山間地域	給料や収益が増えない、又は減ったから 48.1	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 47.3	預貯金が増えない、又は減ったから 44.3	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 25.1	失業、退職、休職などで収入が減ったから 24.5
	その他	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 40.0	給料や収益が増えない、又は減ったから 40.0	預貯金が増えない、又は減ったから 40.0	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 40.0	失業、退職、休職などで収入が減ったから 40.0
地域	東部地域	給料や収益が増えない、又は減ったから 58.3	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 50.6	預貯金が増えない、又は減ったから 38.9	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 34.5	失業、退職、休職などで収入が減ったから 17.2
	中部地域	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 61.6	給料や収益が増えない、又は減ったから 60.2	預貯金が増えない、又は減ったから 40.3	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 36.8	家族の病気、介護などで出費が増えた、又は減らないから 13.8
	西部地域	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 59.4	給料や収益が増えない、又は減ったから 52.0	預貯金が増えない、又は減ったから 44.1	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 33.5	失業、退職、休職などで収入が減ったから 16.5
	静岡市	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 64.3	給料や収益が増えない、又は減ったから 55.6	預貯金が増えない、又は減ったから 36.9	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 36.7	失業、退職、休職などで収入が減ったから 14.0
	浜松市	毎日の生活費が増えたから（食費、光熱水費など） 61.1	給料や収益が増えない、又は減ったから 52.5	預貯金が増えない、又は減ったから 43.4	税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから 38.7	失業、退職、休職などで収入が減ったから 17.9

（注1） は全県よりも10ポイント以上高いものである。

（注2）地域内の「中部地域」は静岡市を、「西部地域」は浜松市を、それぞれ含めた数字である。

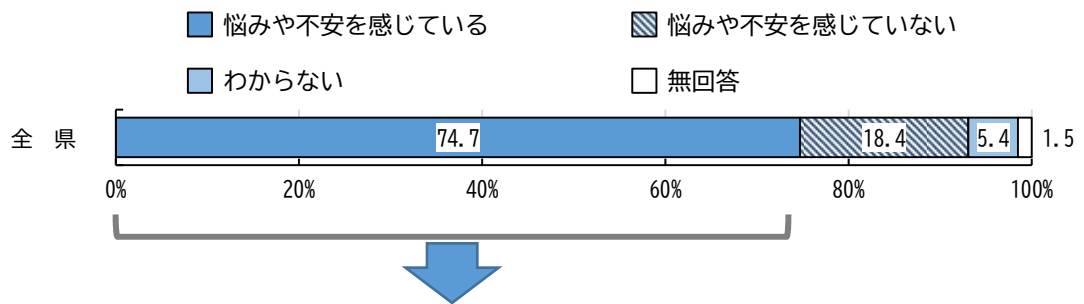
2 日常生活の悩みや不安

— 「悩みや不安を感じている」人が74.7%

その内容は1位「自分や家族の健康」、2位「老後の生活設計」 —

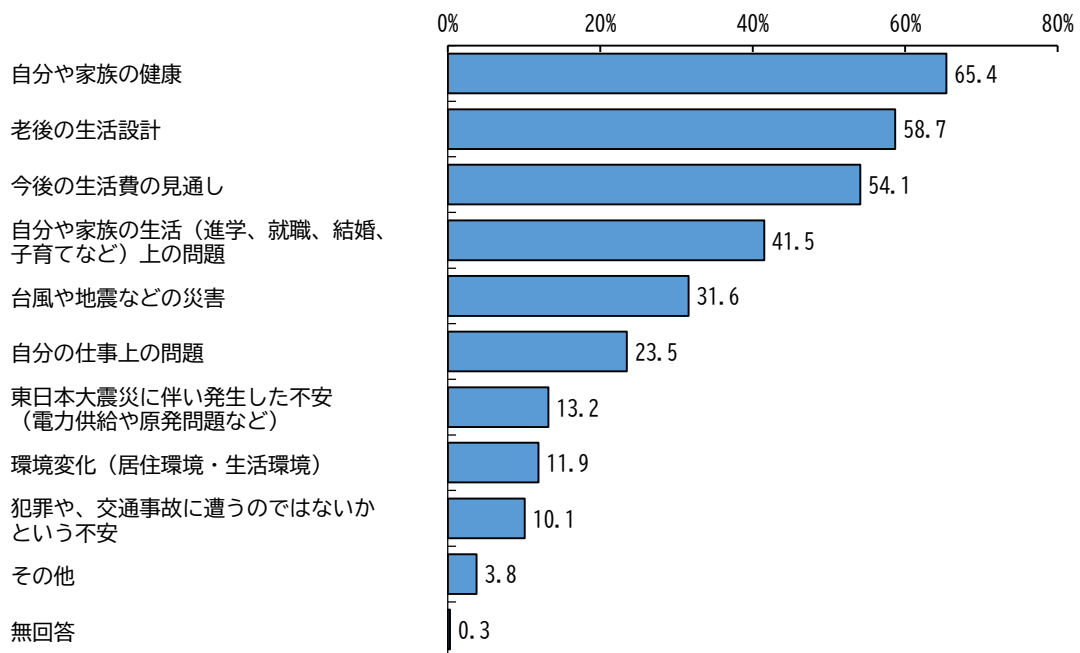
Q2 あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも特に悩みや不安を感じていませんか。(〇は1つ)

【 日常生活の悩みや不安の有無 】



SQ 悩みや不安を感じていることは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

【 悩みや不安の内容 】



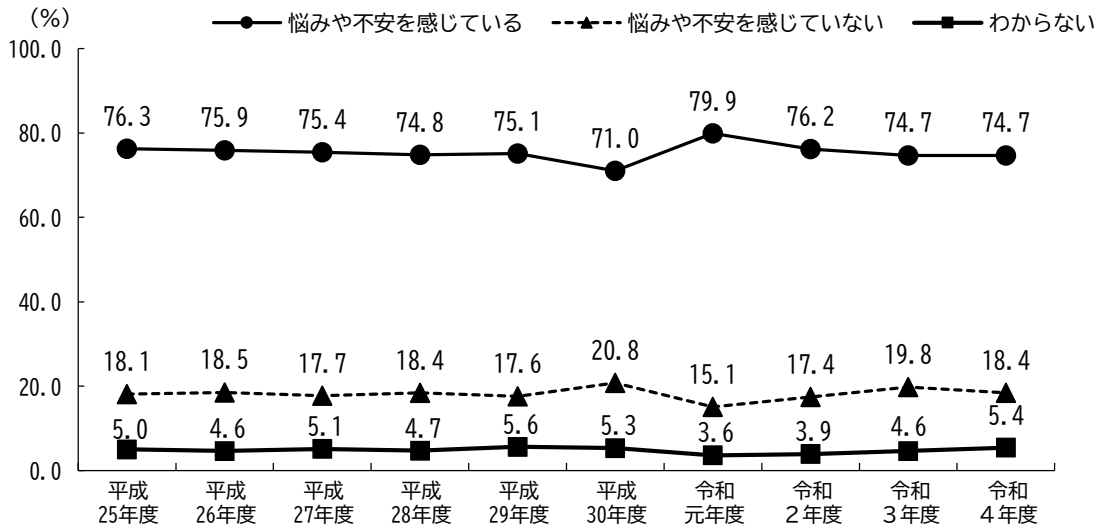
(1) 日常生活の悩みや不安の有無

日常生活の悩みや不安の有無については、「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合が74.7%と最も高く、「悩みや不安を感じていない」は18.4%だった。「わからない」は5.4%となっている。

【過去の調査との比較】（図1-7）

平成25年度以降の推移でみると、「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合は、平成25年度以降においては7割以上で推移している。今年度（74.7%）は前年度と同値で推移している。

【 図1-7 日常生活の悩みや不安の有無 経年比較 】



【属性による比較】（図1-8）

性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。

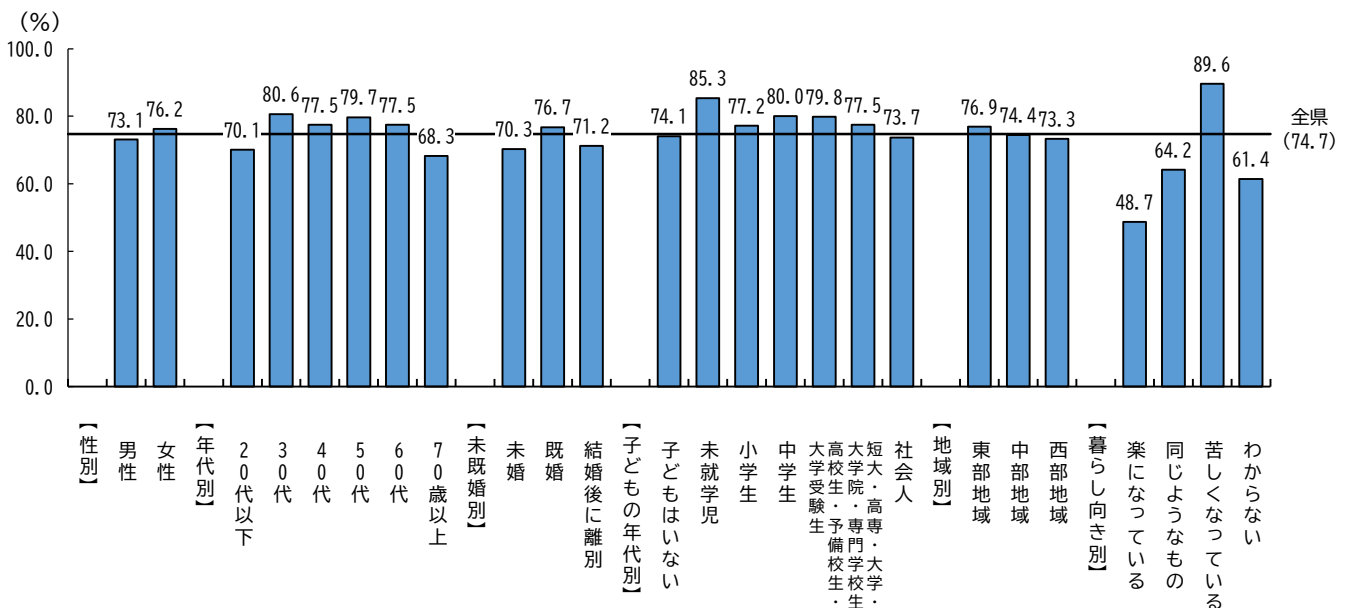
年代別でみると、『30代』は、「悩みや不安を感じている」（80.6%）が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『未就学児』、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』は、「悩みや不安を感じている」が全体と比較して高くなっている。

前問の暮らし向き別でみると、「悩みや不安を感じている」は『苦しくなっている』（89.6%）において約9割と非常に高くなっている。

【 図1-8 日常生活の悩みや不安の有無 性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域別、暮らし向き別 】

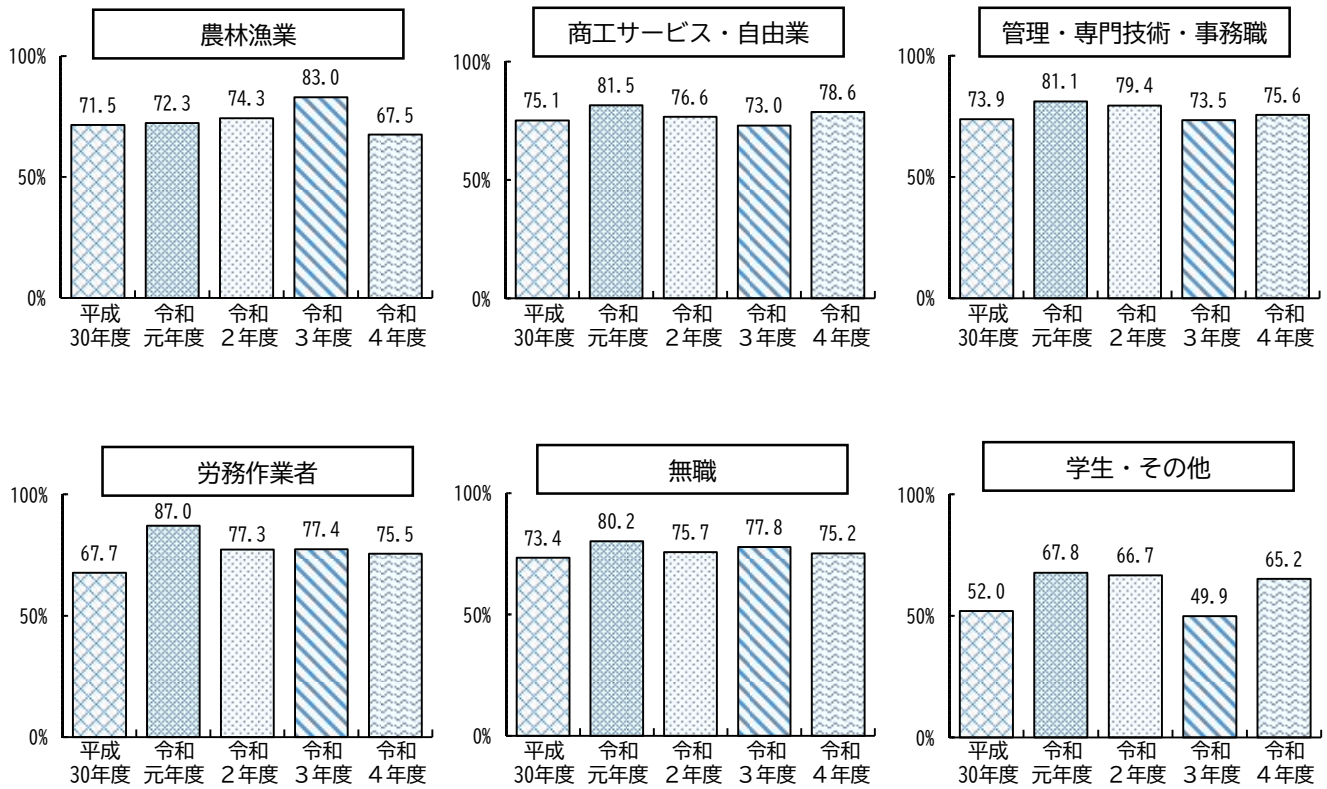
悩みや不安を感じている



【本人具体的職業別 経年比較】（図1-9）

「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合について、本人具体的職業別に平成30年度以降の推移をみると、『農林漁業』において67.5%と前年度より15.5ポイント減少し、『学生・その他』において65.2%と前年度より15.3ポイント増加している。

【 図1-9 日常生活の悩みや不安の有無 本人具体的職業別 経年比較 】



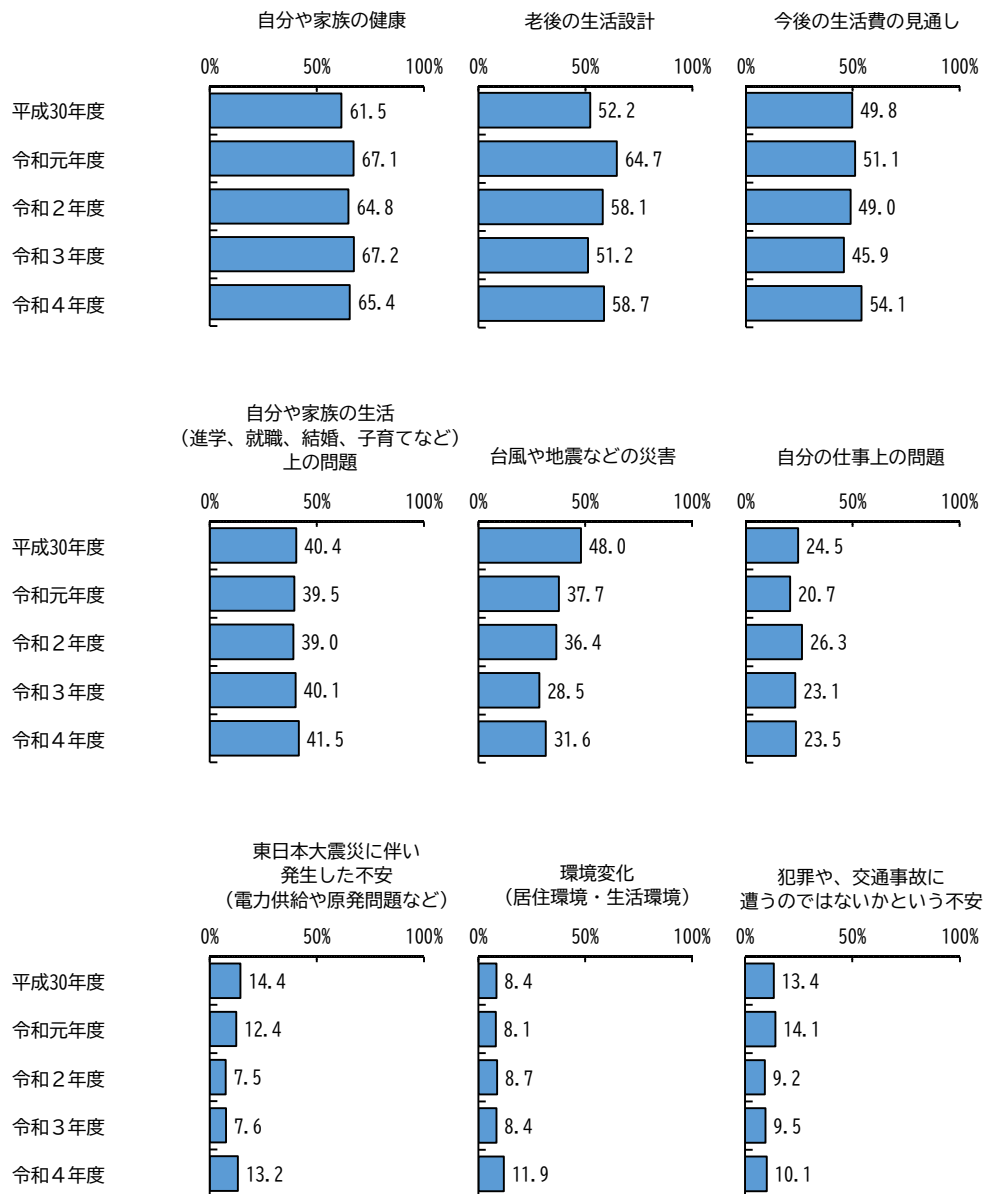
(2) 悩みや不安の内容

悩みや不安の内容では、「自分や家族の健康」(65.4%)が最も多く、以下「老後の生活設計」(58.7%)、「今後の生活費の見通し」(54.1%)、「自分や家族の生活(進学、就職、結婚、子育てなど)上の問題」(41.5%)、「台風や地震などの災害」(31.6%)となっている。

[過去の調査との比較] (図1-10)

平成30年度以降の推移でみると、「老後の生活設計」においては58.7%と前年度の51.2%から7.5ポイント、「今後の生活費の見通し」においては54.1%と前年度の45.9%から8.2ポイント、「東日本大震災に伴い発生した不安(電力供給や原発問題など)」においては13.2%と前年度の7.6%から5.6ポイント高くなっている。

【 図1-10 悩みや不安の内容 経年比較 】



【属性による比較】（図1-11、表1-3）

性別、地域別では、大きな差はみられない。

性・年代別でみると、『男性20代以下』、『男性30代』、『男性40代』、『男性50代』、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』、『女性50代』は、「自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題」が全体と比較して高くなっている。

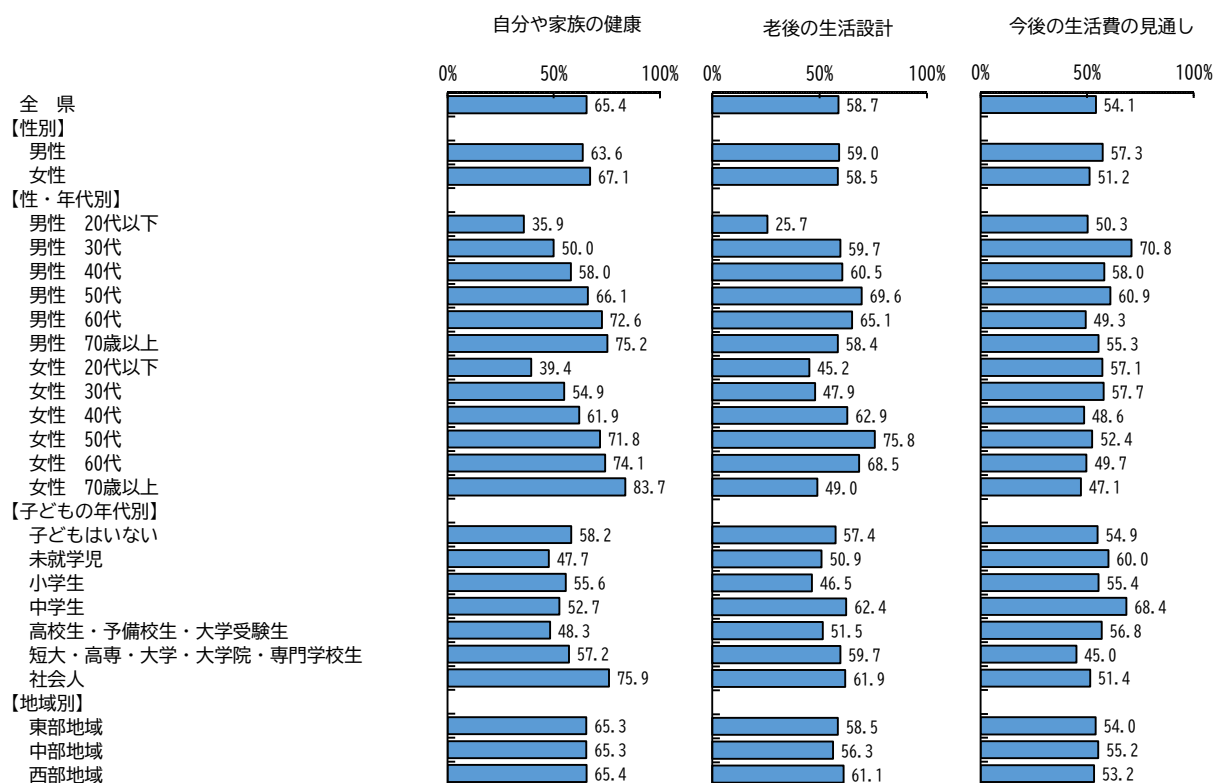
また、『男性20代以下』、『男性30代』、『男性40代』、『男性50代』、『女性20代以下』は、「自分の仕事上の問題」が全体と比較して高くなっている。

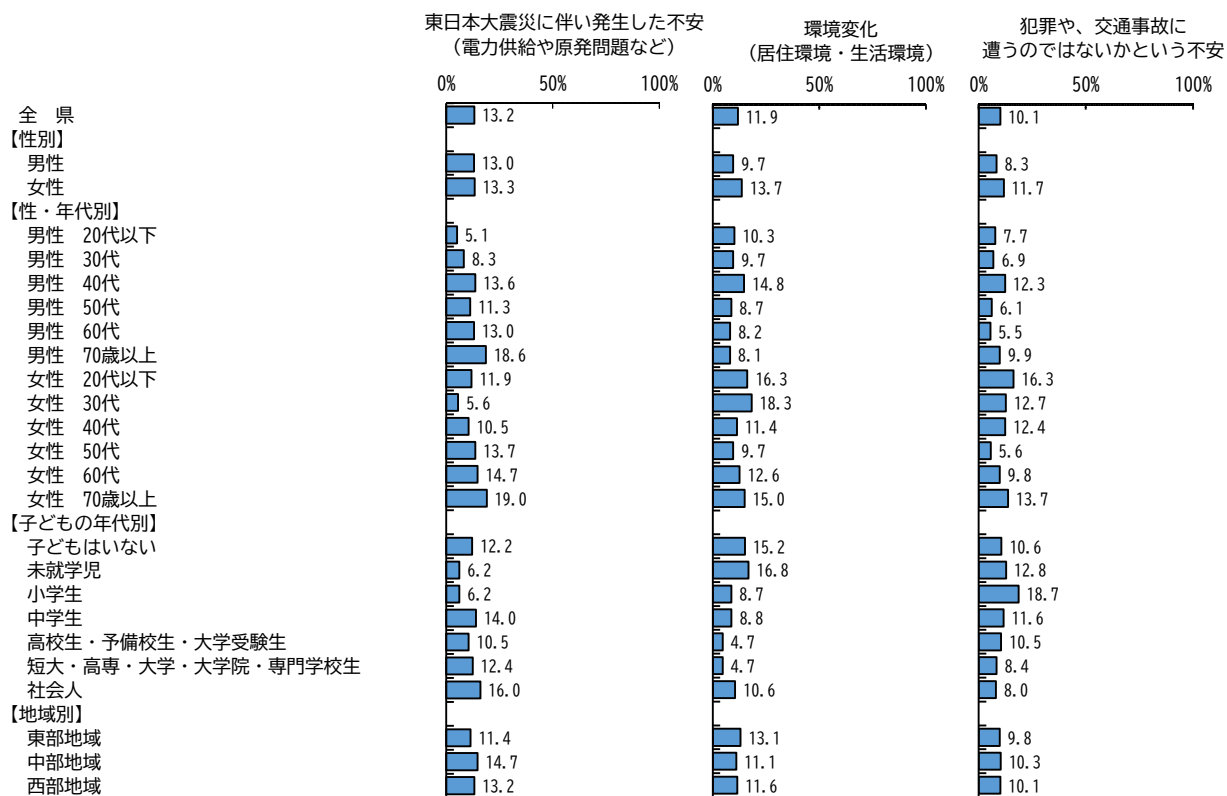
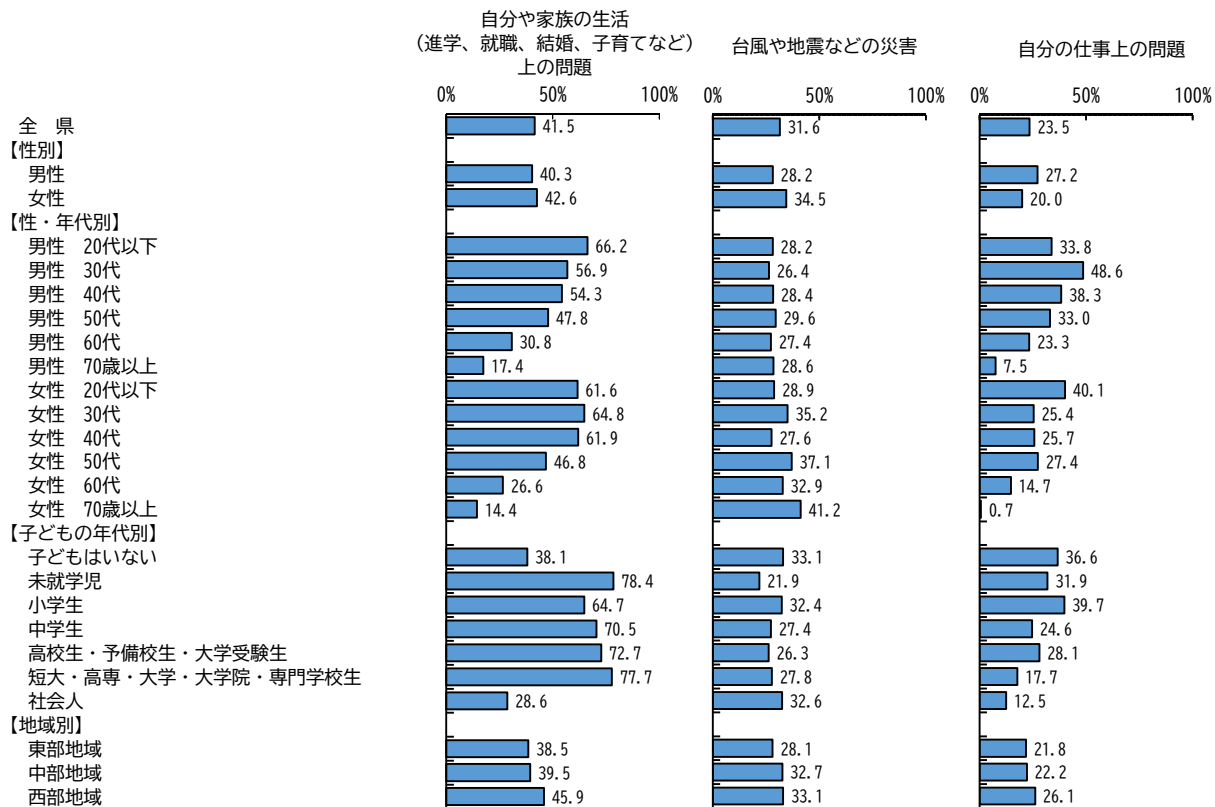
また、『男性60代』、『男性70歳以上』、『女性50代』、『女性60代』、『女性70歳以上』は、「自分や家族の健康」が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『未就学児』、『小学生』、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題」が全体と比較して高くなっている。

また、『子どもはいない』、『未就学児』、『小学生』は、「自分の仕事上の問題」が全体と比較して高くなっている。

【 図1-11 悩みや不安の内容 性別、性・年代別、子どもの年代別、地域別 】





【 表 1-3 悩みや不安の内容 性別、性・年代別、地域別 】

		1位	2位	3位	4位	5位
全県		自分や家族の健康 65.4	老後の生活設計 58.7	今後の生活費の見通し 54.1	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 41.5	台風や地震などの災害 31.6
性別	男性	自分や家族の健康 63.6	老後の生活設計 59.0	今後の生活費の見通し 57.3	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 40.3	台風や地震などの災害 28.2
	女性	自分や家族の健康 67.1	老後の生活設計 58.5	今後の生活費の見通し 51.2	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 42.6	台風や地震などの災害 34.5
性・年代別（男性）	20代以下	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 66.2	今後の生活費の見通し 50.3	自分や家族の健康 35.9	自分の仕事上の問題 33.8	台風や地震などの災害 28.2
	30代	今後の生活費の見通し 70.8	老後の生活設計 59.7	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 56.9	自分や家族の健康 50.0	自分の仕事上の問題 48.6
	40代	老後の生活設計 60.5	自分や家族の健康 今後の生活費の見通し 58.0	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 54.3	自分の仕事上の問題 38.3	台風や地震などの災害 28.4
	50代	老後の生活設計 69.6	自分や家族の健康 66.1	今後の生活費の見通し 60.9	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 47.8	自分の仕事上の問題 33.0
	60代	自分や家族の健康 72.6	老後の生活設計 65.1	今後の生活費の見通し 49.3	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 30.8	台風や地震などの災害 27.4
	70歳以上	自分や家族の健康 75.2	老後の生活設計 58.4	今後の生活費の見通し 55.3	台風や地震などの災害 28.6	東日本大震災に伴い発生した不安（電力供給や原発問題など） 18.6
性・年代別（女性）	20代以下	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 61.6	今後の生活費の見通し 57.1	老後の生活設計 45.2	自分の仕事上の問題 40.1	自分や家族の健康 39.4
	30代	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 64.8	今後の生活費の見通し 57.7	自分や家族の健康 54.9	老後の生活設計 47.9	台風や地震などの災害 35.2
	40代	老後の生活設計 62.9	自分や家族の健康 自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 61.9	今後の生活費の見通し 48.6	台風や地震などの災害 27.6	自分の仕事上の問題 25.7
	50代	老後の生活設計 75.8	自分や家族の健康 71.8	今後の生活費の見通し 52.4	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 46.8	台風や地震などの災害 37.1
	60代	自分や家族の健康 74.1	老後の生活設計 68.5	今後の生活費の見通し 49.7	台風や地震などの災害 32.9	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 26.6
	70歳以上	自分や家族の健康 83.7	老後の生活設計 49.0	今後の生活費の見通し 47.1	台風や地震などの災害 41.2	東日本大震災に伴い発生した不安（電力供給や原発問題など） 19.0
地域	東部地域	自分や家族の健康 65.3	老後の生活設計 58.5	今後の生活費の見通し 54.0	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 38.5	台風や地震などの災害 28.1
	中部地域	自分や家族の健康 65.3	老後の生活設計 56.3	今後の生活費の見通し 55.2	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 39.5	台風や地震などの災害 32.7
	西部地域	自分や家族の健康 65.4	老後の生活設計 61.1	今後の生活費の見通し 53.2	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 45.9	台風や地震などの災害 33.1
	静岡市	自分や家族の健康 63.4	老後の生活設計 58.9	今後の生活費の見通し 57.8	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 43.4	台風や地震などの災害 29.4
	浜松市	自分や家族の健康 65.8	老後の生活設計 61.6	今後の生活費の見通し 54.7	自分や家族の生活（進学、就職、結婚、子育てなど）上の問題 43.1	台風や地震などの災害 27.3

(注1) ■ は全県よりも10ポイント以上高いものである。

(注2) 地域内の「中部地域」は静岡市を、「西部地域」は浜松市を、それぞれ含めた数字である。

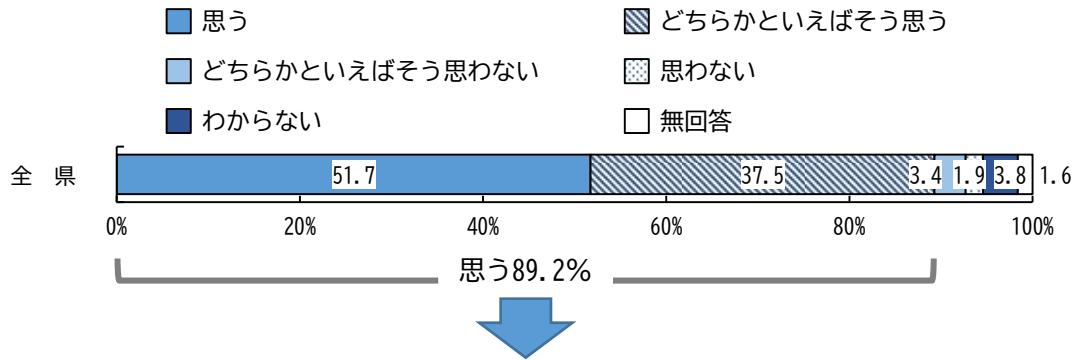
3 静岡県の住みよさ

— 住みよいところだと「思う」人は89.2%

その理由は「気候が温暖で、自然が豊かだから」が86.9%

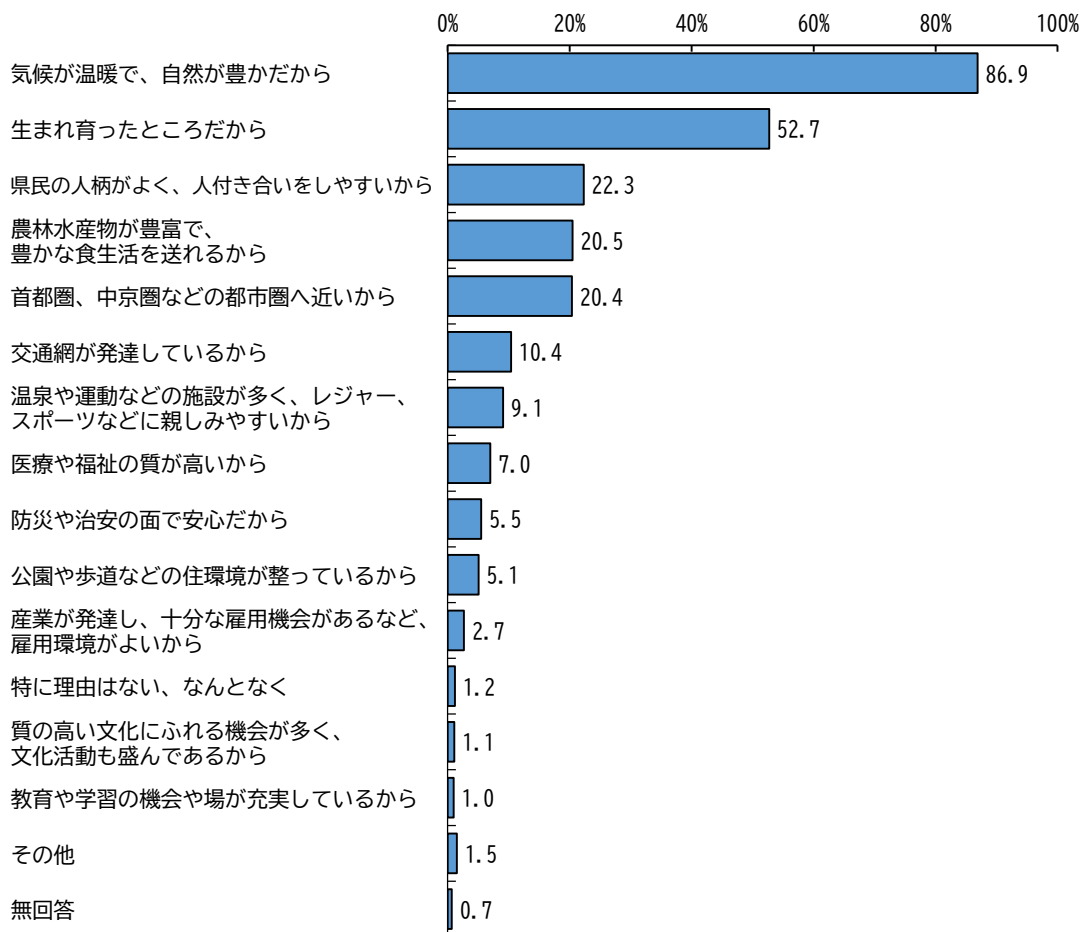
Q3 あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。(○は1つ)

【 静岡県の住みよさ 】



SQ あなたが、静岡県が住みよいところだと思う理由はなんですか。(○は3つまで)

【 静岡県が住みよいところだと思う理由 】



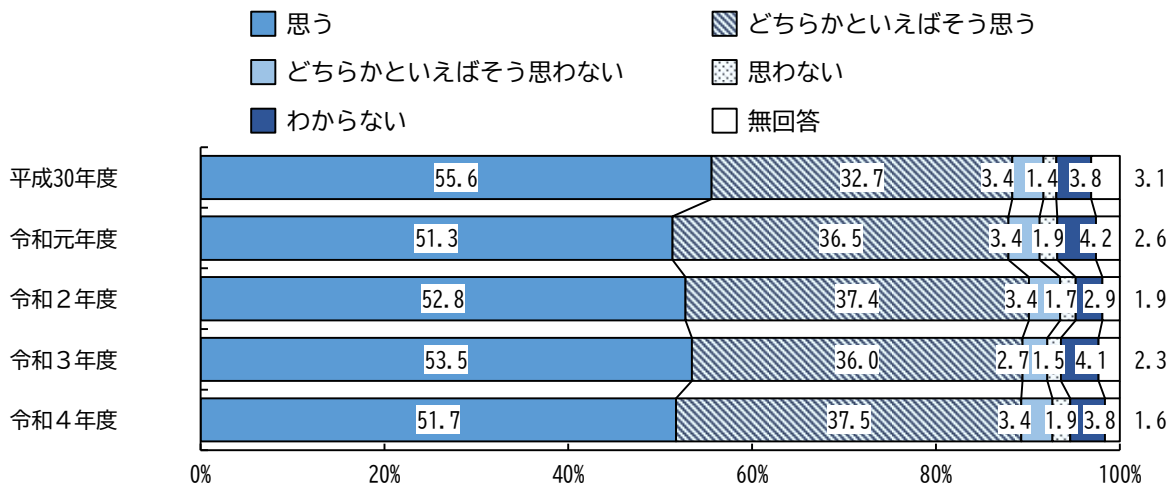
(1) 静岡県の住みよさ

静岡県は住みやすいところだと思うかについては、「思う」(51.7%)と「どちらかといえばそう思う」(37.5%)を合わせた“思う”が89.2%、「どちらかといえばそう思わない」(3.4%)と「思わない」(1.9%)を合わせた“思わない”が5.3%となっており、静岡県は住みよいところだと“思う”の方が圧倒的に高くなっている。

【過去の調査との比較】(図1-12)

平成30年度以降の推移でみると、「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“思う”の割合は毎年度9割前後で推移している。

【 図1-12 静岡県の住みよさ 経年比較 】



【属性による比較】(図1-13)

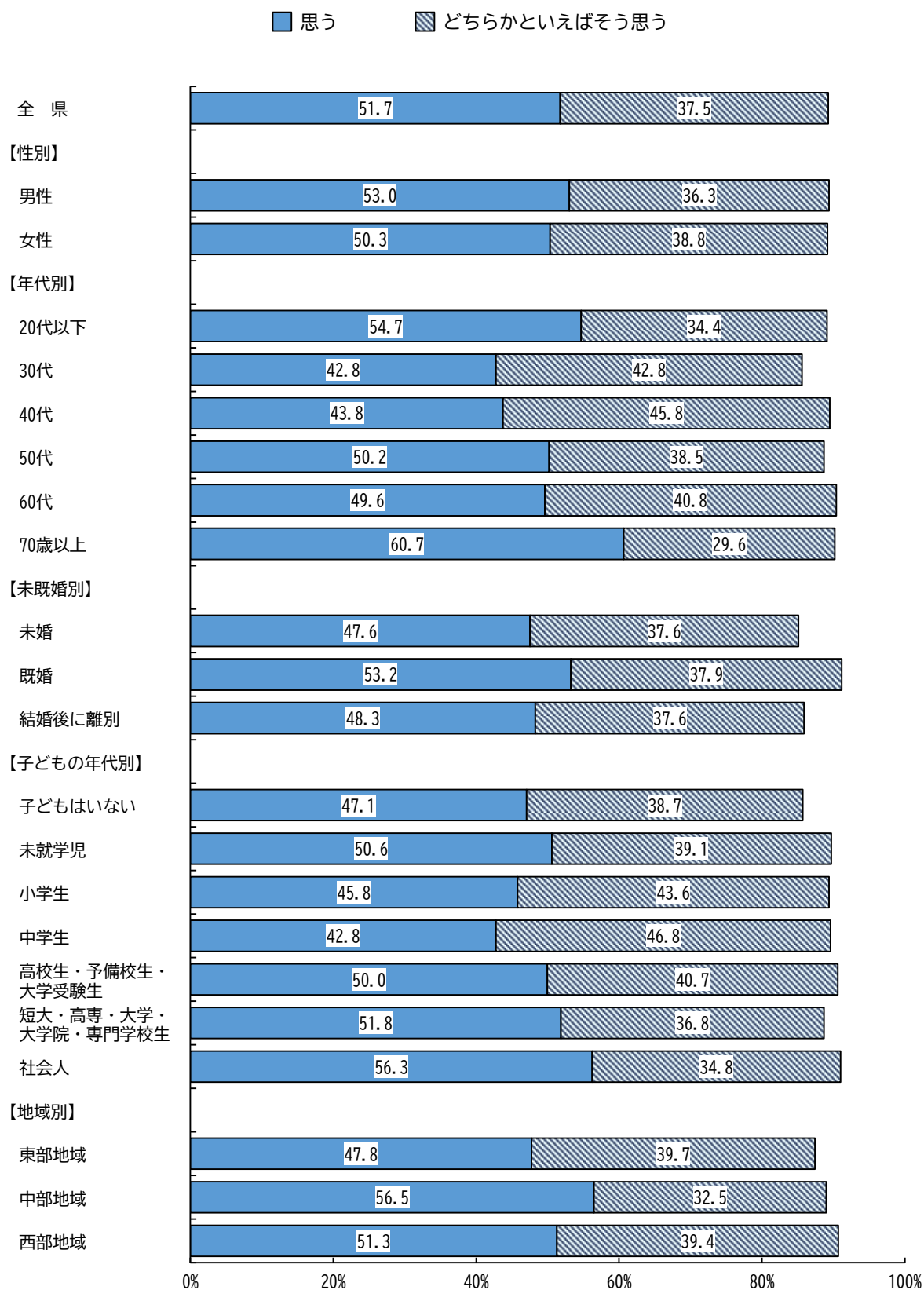
性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『30代』、『40代』は、「どちらかといえばそう思う」が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「思う」(60.7%)が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『小学生』、『中学生』は、「どちらかといえばそう思う」が全体と比較して高くなっている。

【 図 1-13 静岡県の住みよさ 性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域別 】



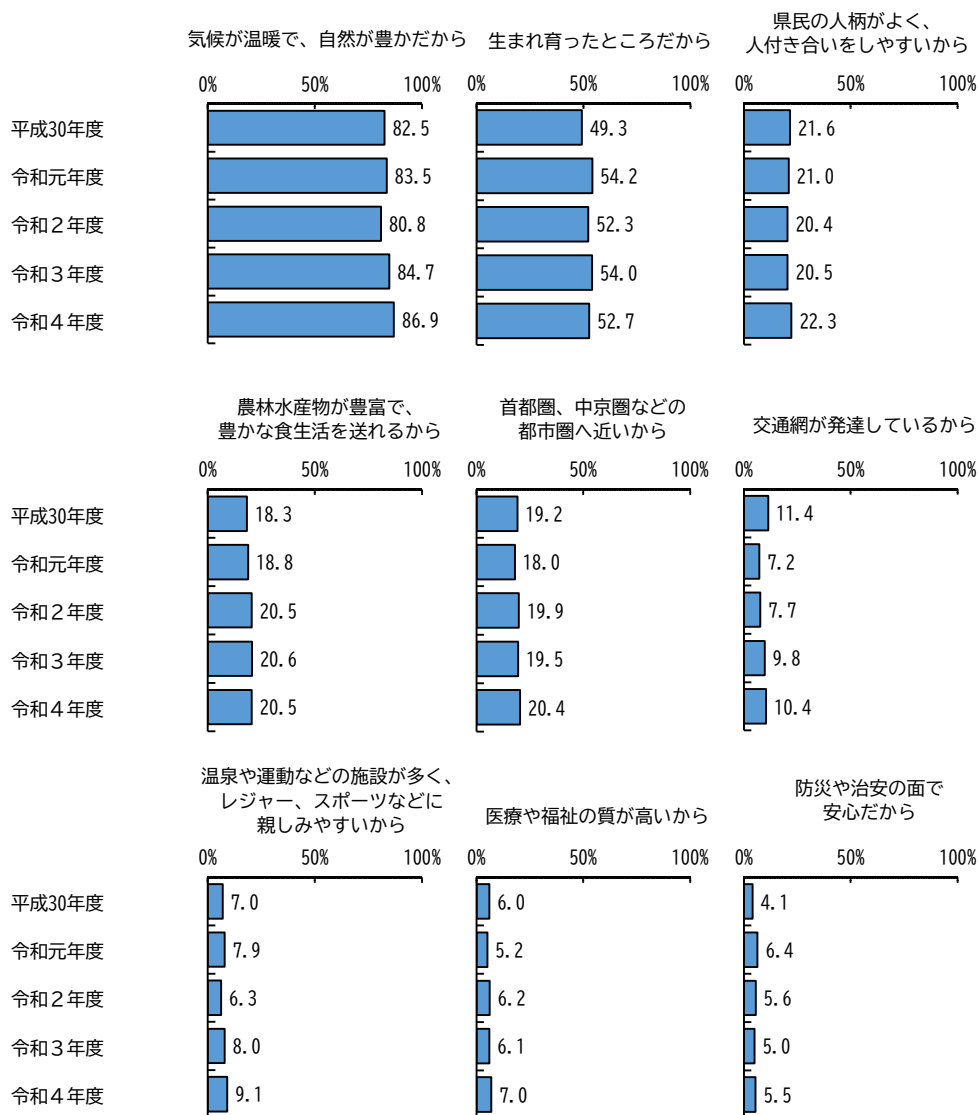
(2) 静岡県が住みよいところだと思う理由

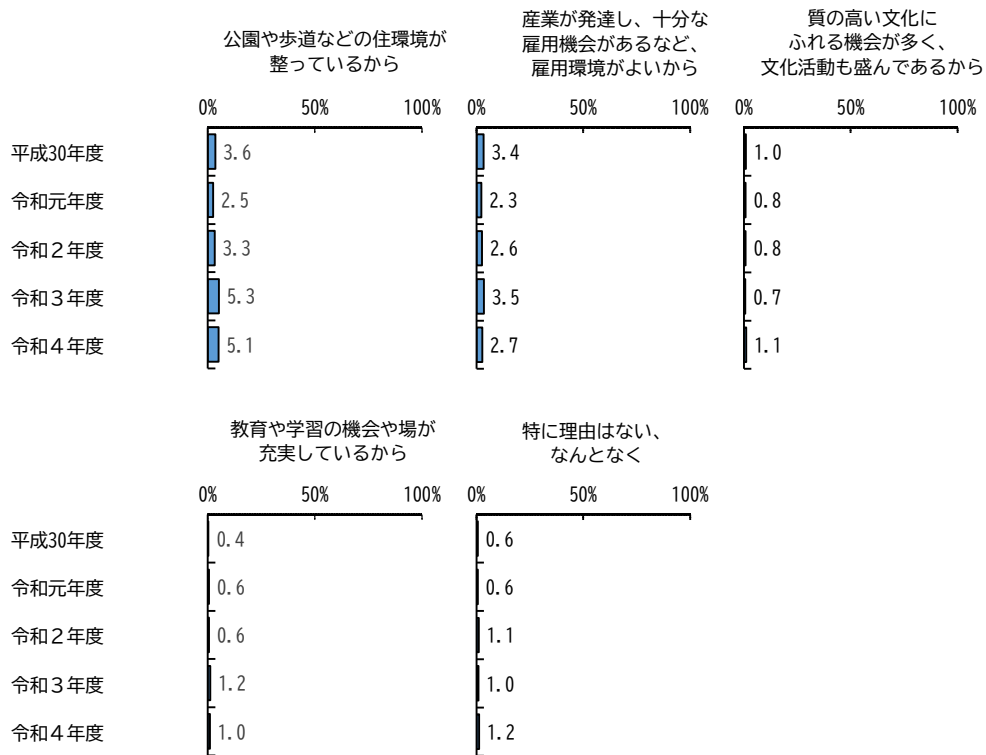
静岡県が住みよいところだと思う理由については、「気候が温暖で、自然が豊かだから」(86.9%)が最も多く、以下「生まれ育ったところだから」(52.7%)、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」(22.3%)、「農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから」(20.5%)、「首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから」(20.4%)となっている。

[過去の調査との比較] (図1-14)

平成30年度以降の推移では、大きな差はみられない。

【 図1-14 静岡県が住みよいところだと思う理由 経年比較 】





【属性による比較】（図1-15、表1-4、表1-5）

性別では、大きな差はみられない。

性・年代別で見ると、『男性20代以下』、『男性40代』は、「交通網が発達しているから」が全体と比較して高くなっている。

また、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』は、「首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから」が全体と比較して高くなっている。

未婚別で見ると、『未婚』は、「首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから」（27.2%）が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別で見ると、『子どもはいない』、『高校生・予備校生・大学受験生』は、「首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから」が全体と比較して高くなっている。

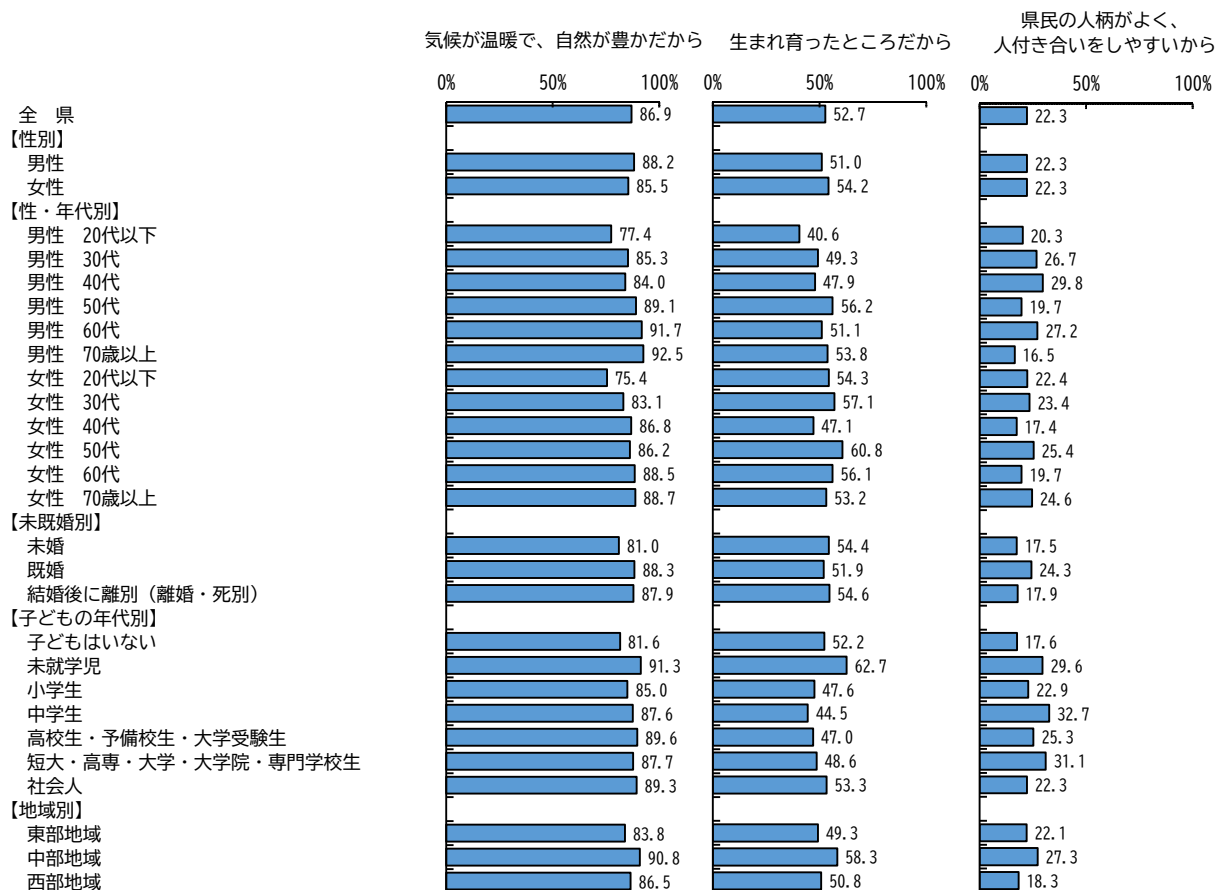
また、『未就学児』、『中学生』、『短大・高専・大学・大学院』は、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」が全体と比較して高くなっている。

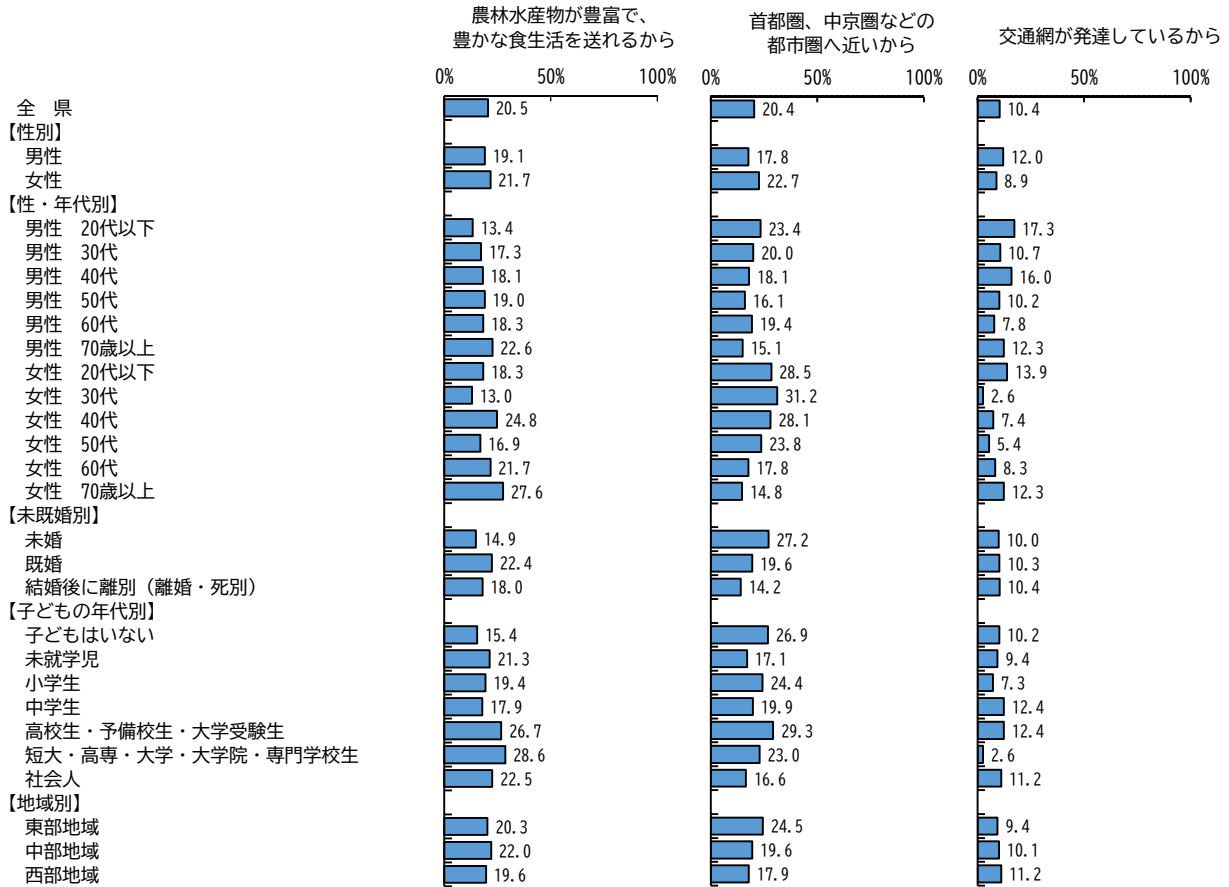
また、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから」が全体と比較して高くなっている。

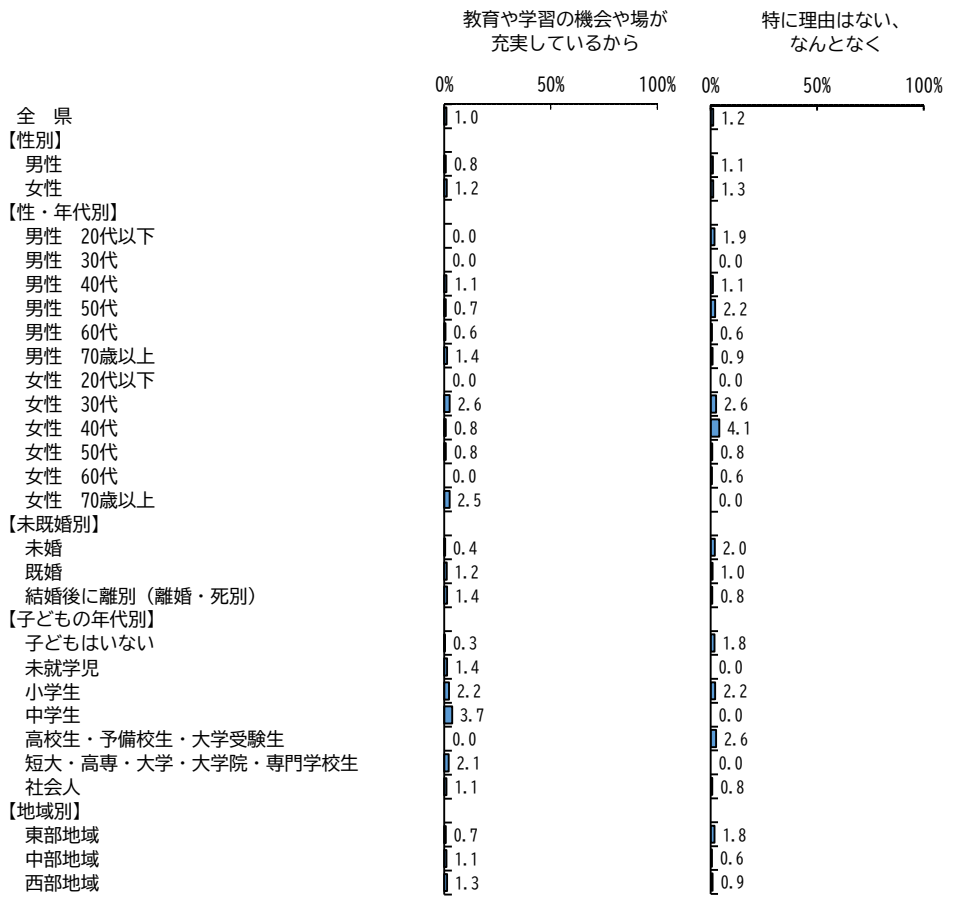
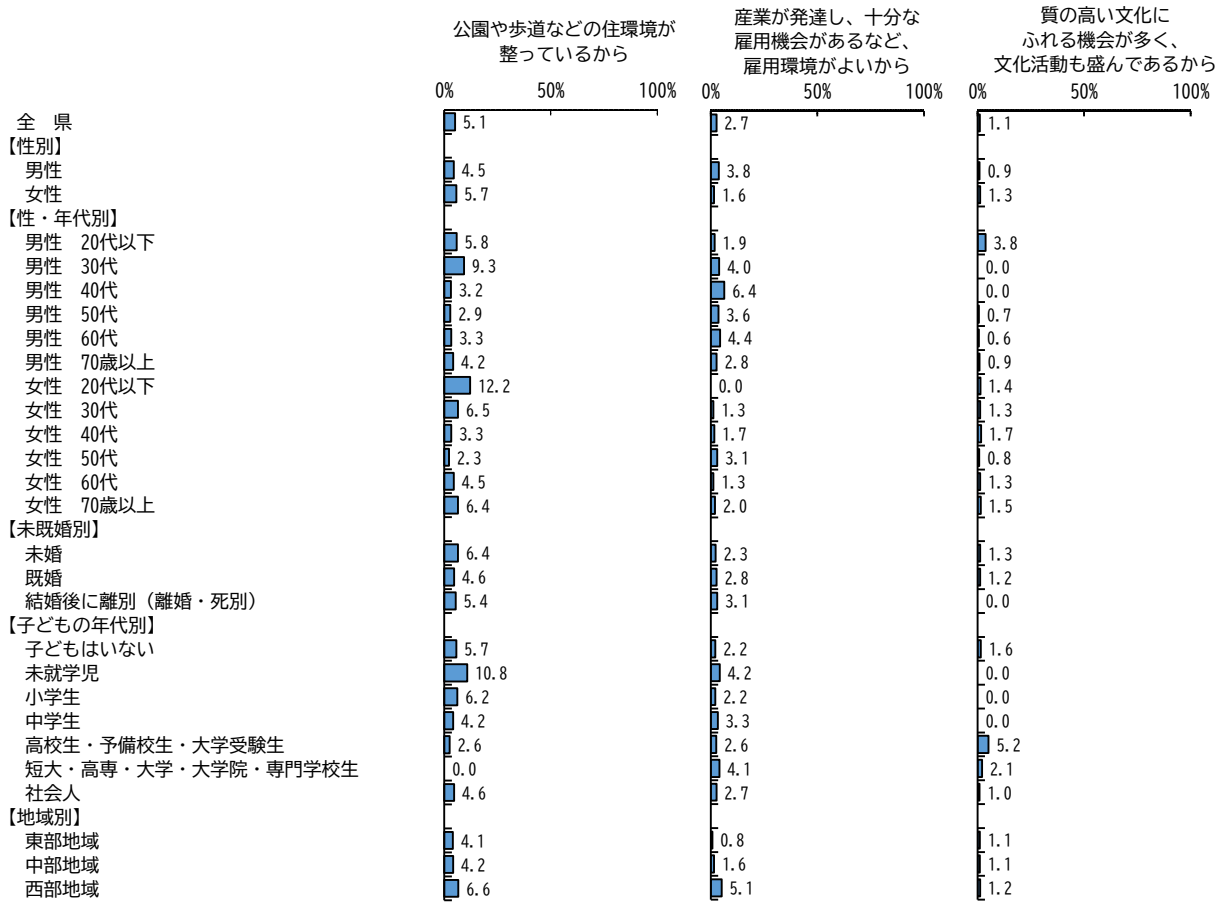
地域別で見ると、『東部地域』は、「温泉や運動などの施設が多く、レジャー、スポーツなどに親しみやすいから」（14.5%）が全体と比較して高くなっている。

また、『中部地域』は、「生まれ育ったところだから」（58.3%）が全体と比較して高くなっている。

【 図1-15 静岡県が住みよいところだと思う理由 性別、性・年代別、未婚別、子どもの年代別、地域別 】







【 表 1-4 静岡県が住みよいところだと思う理由 性別、性・年代別 】

		1位	2位	3位	4位	5位
全県		気候が温暖で、自然が豊かだから 86.9	生まれ育ったところだから 52.7	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 22.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 20.5	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 20.4
性別	男性	気候が温暖で、自然が豊かだから 88.2	生まれ育ったところだから 51.0	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 22.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 19.1	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 17.8
	女性	気候が温暖で、自然が豊かだから 85.5	生まれ育ったところだから 54.2	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 22.7	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 22.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 21.7
性・年代別(男性)	20代以下	気候が温暖で、自然が豊かだから 77.4	生まれ育ったところだから 40.6	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 23.4	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 20.3	交通網が発達しているから 17.3
	30代	気候が温暖で、自然が豊かだから 85.3	生まれ育ったところだから 49.3	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 26.7	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 20.0	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 17.3
	40代	気候が温暖で、自然が豊かだから 84.0	生まれ育ったところだから 47.9	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 29.8	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 18.1	交通網が発達しているから 16.0
	50代	気候が温暖で、自然が豊かだから 89.1	生まれ育ったところだから 56.2	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 19.7	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 19.0	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 16.1
	60代	気候が温暖で、自然が豊かだから 91.7	生まれ育ったところだから 51.1	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 27.2	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 19.4	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 18.3
	70歳以上	気候が温暖で、自然が豊かだから 92.5	生まれ育ったところだから 53.8	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 22.6	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 16.5	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 15.1
性・年代別(女性)	20代以下	気候が温暖で、自然が豊かだから 75.4	生まれ育ったところだから 54.3	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 28.5	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 22.4	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 18.3
	30代	気候が温暖で、自然が豊かだから 83.1	生まれ育ったところだから 57.1	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 31.2	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 23.4	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 13.0
	40代	気候が温暖で、自然が豊かだから 86.8	生まれ育ったところだから 47.1	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 28.1	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 24.8	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 17.4
	50代	気候が温暖で、自然が豊かだから 86.2	生まれ育ったところだから 60.8	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 25.4	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 23.8	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 16.9
	60代	気候が温暖で、自然が豊かだから 88.5	生まれ育ったところだから 56.1	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 21.7	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 19.7	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 17.8
	70歳以上	気候が温暖で、自然が豊かだから 88.7	生まれ育ったところだから 53.2	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 27.6	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 24.6	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 14.8

(注1) は全県よりも10ポイント以上高いものである。

【 表 1-5 静岡県が住みよいところだと思う理由 子どもの年代別、周辺地域別、地域別 】

		1位	2位	3位	4位	5位
全県		気候が温暖で、自然が豊かだから 86.9	生まれ育ったところだから 52.7	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 22.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 20.5	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 20.4
子どもの年代 (長子年代)	子どもはいない	気候が温暖で、自然が豊かだから 81.6	生まれ育ったところだから 52.2	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 26.9	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 17.6	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 15.4
	未就学児 (小学校入学前)	気候が温暖で、自然が豊かだから 91.3	生まれ育ったところだから 62.7	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 29.6	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 21.3	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 17.1
	小学生	気候が温暖で、自然が豊かだから 85.0	生まれ育ったところだから 47.6	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 24.4	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 22.9	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 19.4
	中学生	気候が温暖で、自然が豊かだから 87.6	生まれ育ったところだから 44.5	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 32.7	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 19.9	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 17.9
	高校生・予備校生・大学受験生	気候が温暖で、自然が豊かだから 89.6	生まれ育ったところだから 47.0	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 29.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 26.7	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 25.3
	短大・高专・大学・大学院・専門学校生	気候が温暖で、自然が豊かだから 87.7	生まれ育ったところだから 48.6	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 31.1	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 28.6	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 23.0
	社会人 (未就業を含む)	気候が温暖で、自然が豊かだから 89.3	生まれ育ったところだから 53.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 22.5	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 22.3	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 16.6
周辺地域	住宅地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 86.2	生まれ育ったところだから 50.8	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 22.3	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 21.4	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 20.8
	商業地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 89.1	生まれ育ったところだから 61.6	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 25.6	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 13.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 11.9
	工業地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 95.5	生まれ育ったところだから 51.8	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 27.0	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 23.2	交通網が発達しているから 13.0
	農漁業地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 92.2	生まれ育ったところだから 64.2	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 27.5	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 24.0	交通網が発達しているから 9.6
	山間地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 81.0	生まれ育ったところだから 51.8	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 25.2	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 23.4	温泉や運動などの施設が多く、レジャー、スポーツなどに親しみやすいから 13.4
	その他	気候が温暖で、自然が豊かだから 88.3	生まれ育ったところだから 58.9	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 41.1	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 29.4	交通網が発達しているから 17.8
	地域	東部地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 83.8	生まれ育ったところだから 49.3	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 24.5	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 22.1
中部地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 90.8	生まれ育ったところだから 58.3	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 27.3	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 22.0	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 19.6	
西部地域	気候が温暖で、自然が豊かだから 86.5	生まれ育ったところだから 50.8	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 19.6	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 18.3	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 17.9	
静岡市	気候が温暖で、自然が豊かだから 89.5	生まれ育ったところだから 54.8	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 27.0	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 24.0	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 21.4	
浜松市	気候が温暖で、自然が豊かだから 86.5	生まれ育ったところだから 50.4	農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから 17.8	首都圏、中京圏などの都市圏へ近いから 16.5	県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから 15.9	

(注1) は全県よりも10ポイント以上高いものである。

(注2) 地域内の「中部地域」は静岡市を、「西部地域」は浜松市を、それぞれ含めた数字である。

第2章 県の仕事に対する関心

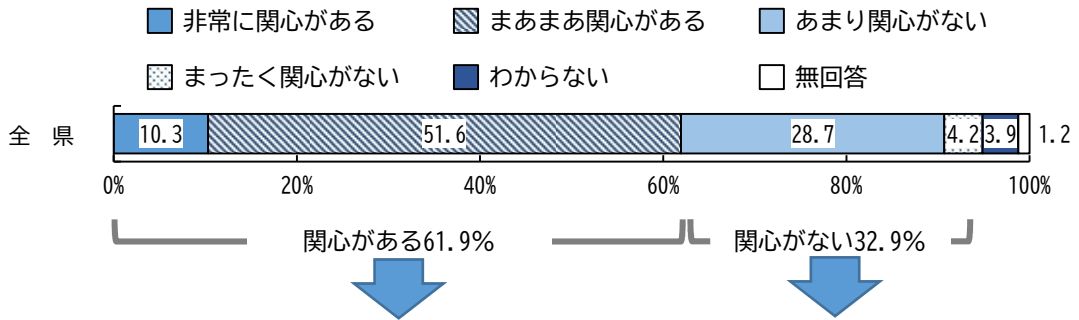
1 県政への関心度

—— 「関心がある」人は61.9% 理由は「自分の生活に関係があるから」52.0%

「関心がない」人は32.9% 理由は「県の政治や行政はわかりにくいから」30.2% ——

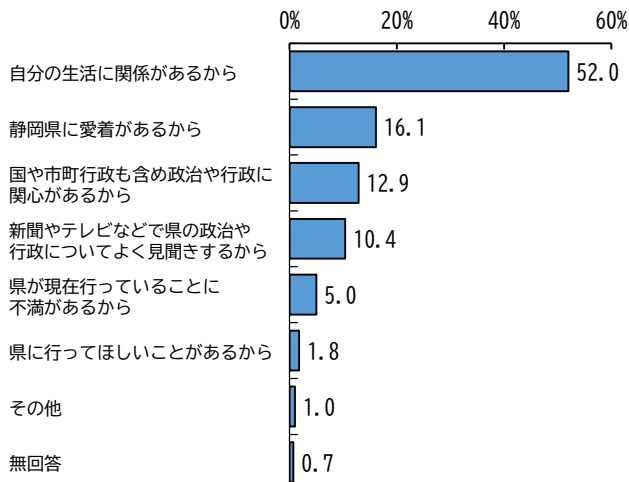
Q 4 あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。(○は1つ)

【県政への関心の有無】



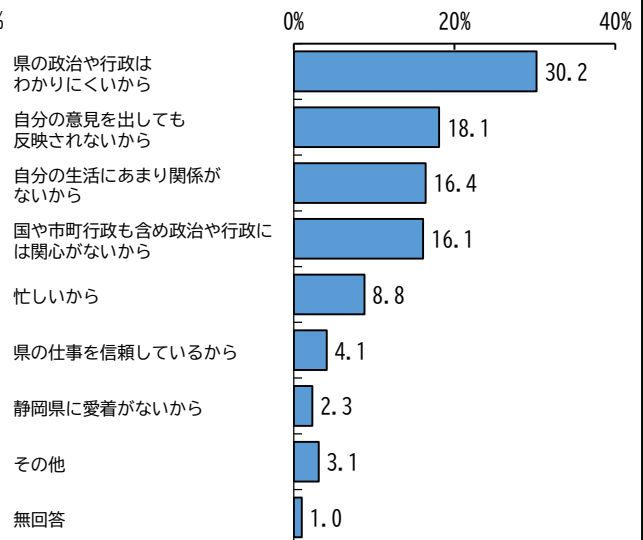
S Q 1 県の政治や行政に関心がある理由はなんですか。(○は1つ)

【 県政に関心がある理由 】



S Q 2 県の政治や行政に関心がない理由はなんですか。(○は1つ)

【 県政に関心がない理由 】



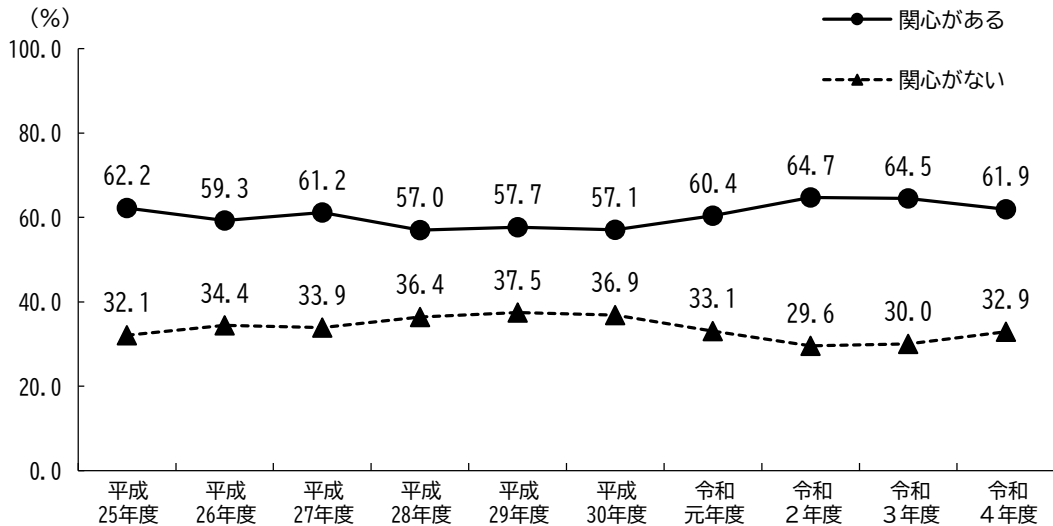
(1) 県政への関心の有無

県政への関心の有無については、「非常に興味がある」(10.3%)と「まあまあ興味がある」(51.6%)を合わせた“興味がある”が61.9%、「あまり興味がない」(28.7%)と「まったく興味がない」(4.2%)を合わせた“興味がない”が32.9%となっている。

【過去の調査との比較】(図2-1)

平成25年度以降の推移でみると、「非常に興味がある」と「まあまあ興味がある」を合わせた“興味がある”の割合は毎年度6割前後で推移している。

【 図2-1 県政への関心の有無 経年比較 】



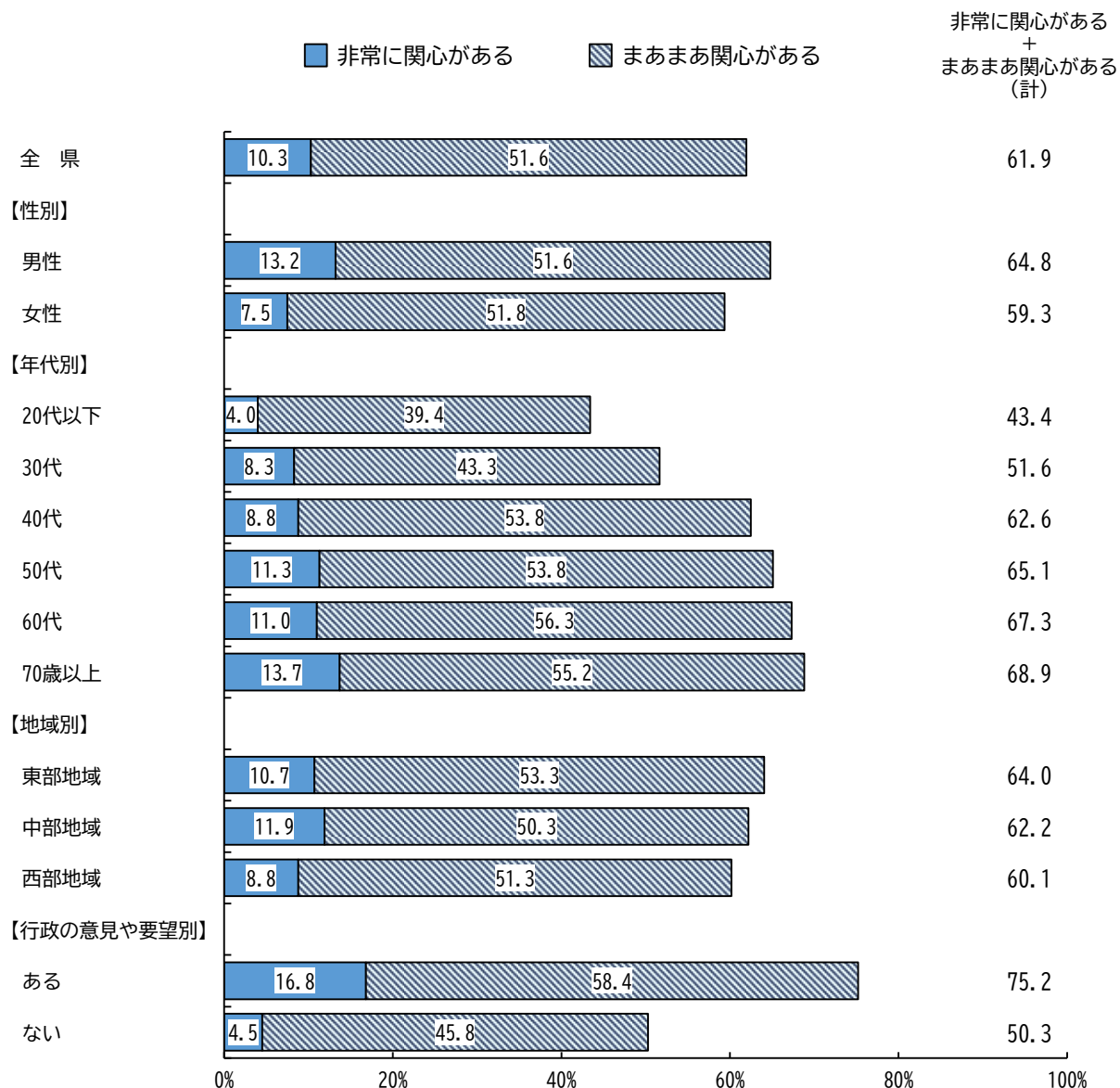
【属性による比較】（図2-2）

性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『60代』、『70歳以上』は、“関心がある”が全体と比較して高くなっている。

後述する（P54）行政機関への意見や要望の有無別でみると、意見や要望が『ある』人において“関心がある”人の割合が75.2%と7割を超え、『ない』人（50.3%）を24.9ポイント上回っている。

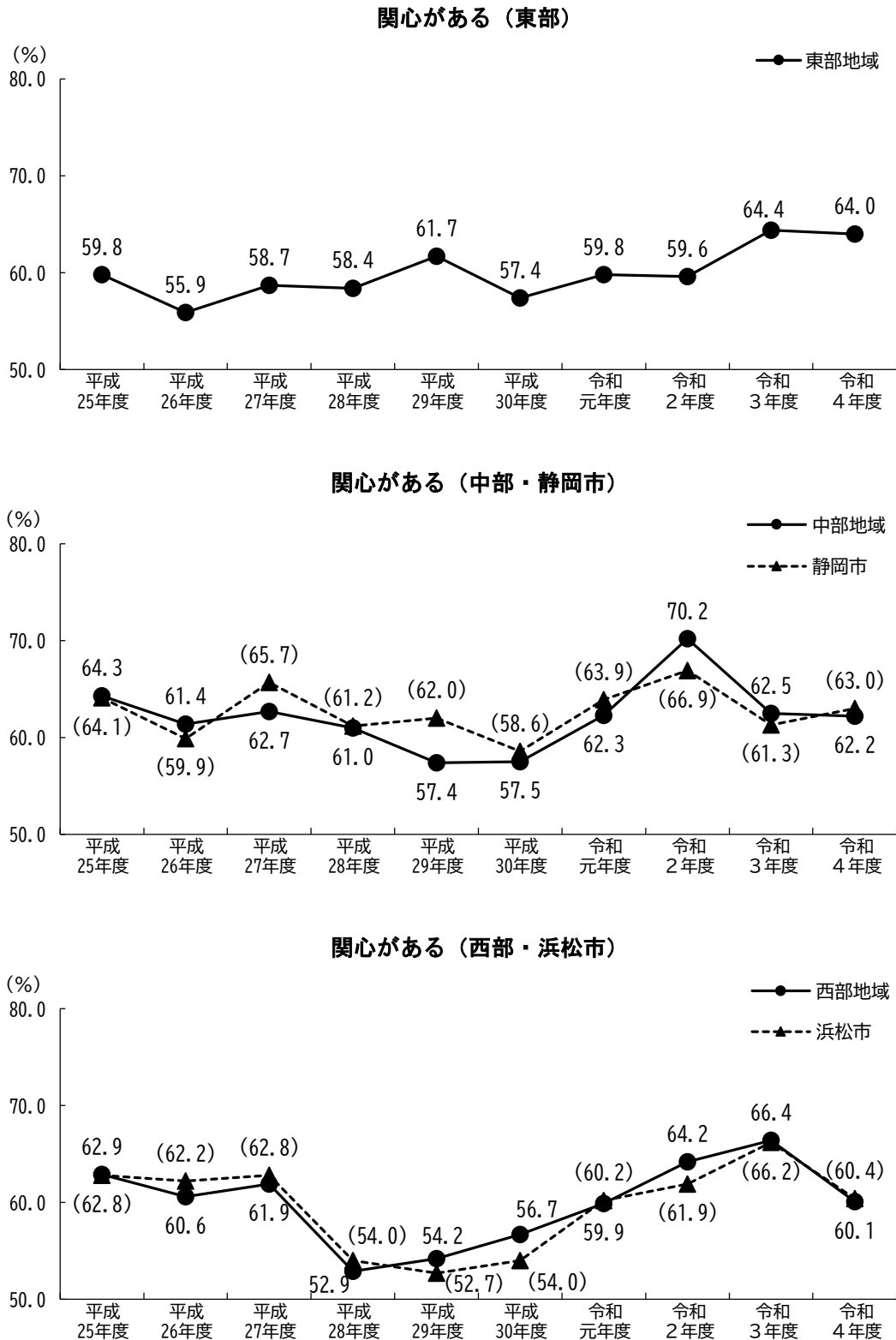
【 図2-2 県政への関心の有無 性別、年代別、地域別、行政機関への意見や要望別 】



【地域別による過去の調査との比較】（図2-3）

平成25年度以降の推移でみると、『中部地域』の令和2年度を除き、“関心がある”人の割合がどの地域も5割から6割台で推移しており、『西部地域』は平成28年度以降、浜松市は平成29年度以降、増加傾向にあったが、今年度は約6ポイント減少している。

【 図2-3 県政への関心の有無 地域別 経年比較 】

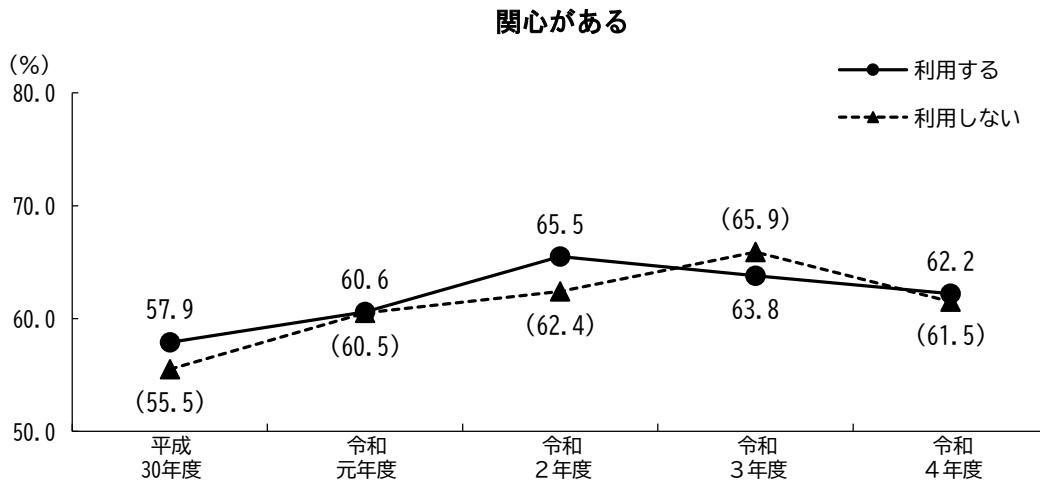


(注) 地域内の「中部」は静岡市を、「西部」は浜松市を、それぞれ含めた数字である

[インターネットの利用別による過去調査との比較] (図2-4)

県政に“関心がある”人の割合をインターネットの利用別で見ると、『利用する』人と『利用しない』人での“関心がある”人の割合は、インターネット利用別による差はほとんどみられない。

【 図2-4 県政への関心の有無 インターネットの利用別 経年比較 】



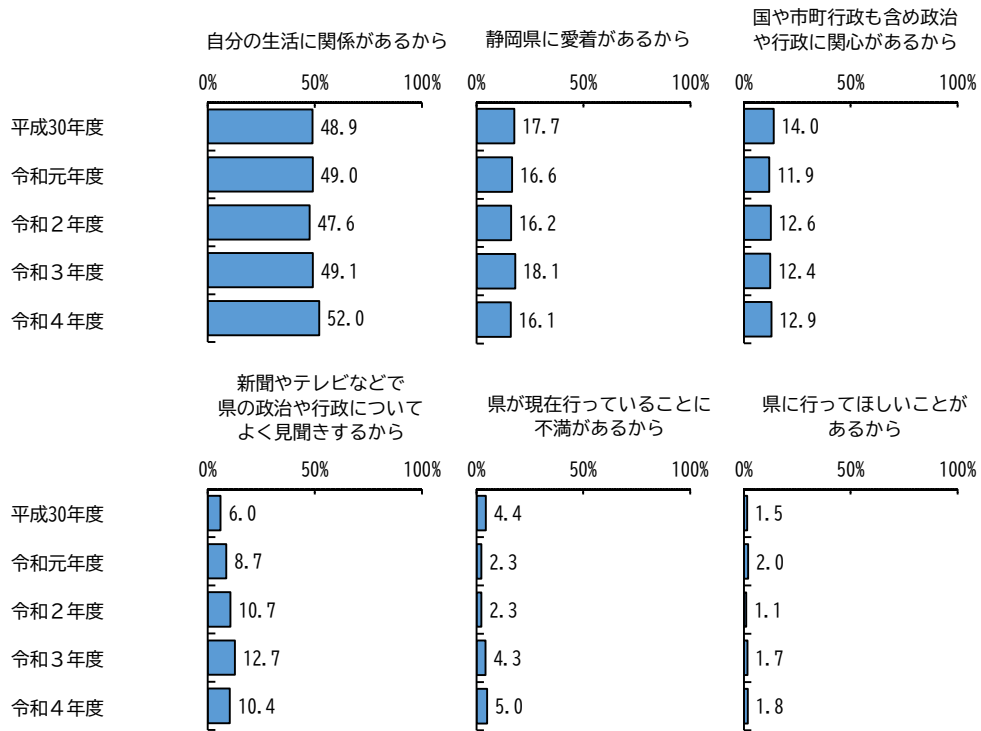
(2) 関心がある理由

関心がある理由については、「自分の生活に関係があるから」(52.0%)が最も多く、以下「静岡県に愛着があるから」(16.1%)、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」(12.9%)、「新聞やテレビなどで県の政治や行政についてよく見聞きするから」(10.4%)、「県が現在行っていることに不満があるから」(5.0%)となっている。

[過去の調査との比較] (図2-5)

平成30年度以降の推移では、大きな差はみられない。

【 図2-5 関心がある理由 経年比較 】



【属性による比較】（図2-6）

性別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『70歳以上』は、「静岡県に愛着があるから」（23.0%）、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」（18.0%）、「新聞やテレビなどで県の政治や行政についてよく見聞きするから」（18.0%）が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『30代』、『40代』、『50代』は、「自分の生活に関係があるから」が全体と比較して高くなっている。

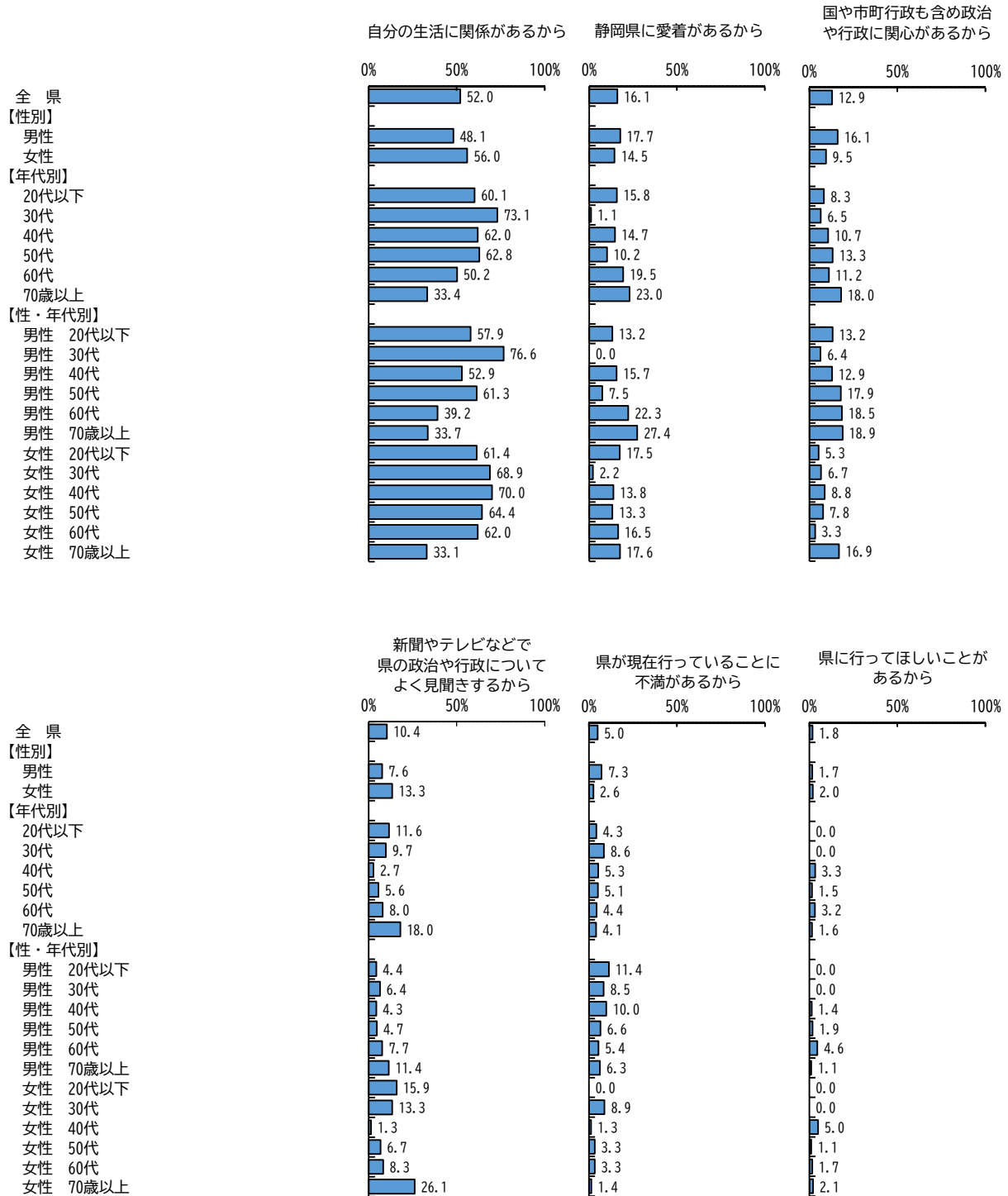
性・年代別でみると、『男性20代以下』、『男性30代』、『男性50代』、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』、『女性50代』、『女性60代』は、「自分の生活に関係があるから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性60代』、『男性70歳以上』、「静岡県に愛着があるから」、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」が全体と比較して高くなっている。

また、『女性20代以下』、『女性70歳以上』は、「新聞やテレビなどで県の政治や行政についてよく見聞きするから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性20代以下』、『男性40代』は、「県が現在行っていることに不満があるから」が全体と比較して高くなっている。

【 図2-6 関心がある理由 性別、年代別、性・年代別 】



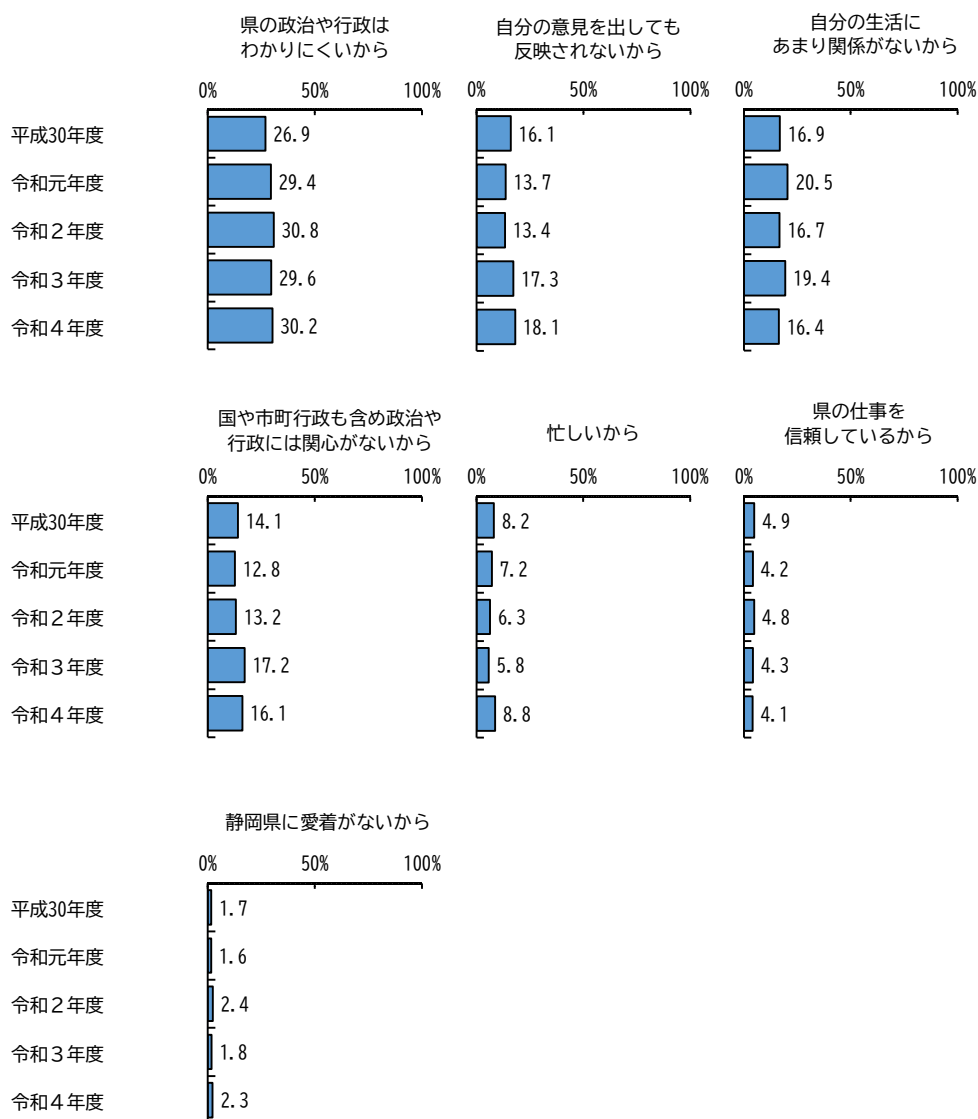
(3) 関心がない理由

関心がない理由については、「県の政治や行政はわかりにくいから」(30.2%)が最も多く、以下「自分の意見を出しても反映されないから」(18.1%)、「自分の生活にあまり関係がないから」(16.4%)、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」(16.1%)、「忙しいから」(8.8%)となっている。

[過去の調査との比較] (図2-7)

平成30年度以降の推移で、大きな差はみられない。

【 図2-7 関心がない理由 経年比較 】



【属性による比較】（図2-8）

性別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『60代』、『70歳以上』は、「自分の生活にあまり関係がないから」が全体と比較して高くなっている。

また、『30代』は、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」（22.5%）が全体と比較して高くなっている。

また、『40代』は、「忙しいから」（18.5%）が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「県の仕事を信頼しているから」（12.3%）が全体と比較して高くなっている。

性・年代別でみると、『男性30代』、『男性40代』、『女性20代以下』、『女性50代』は、「自分の意見を出しても反映されないから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性60代』、『男性70歳以上』、『女性60代』は、「自分の生活にあまり関係がないから」が全体と比較して高くなっている。

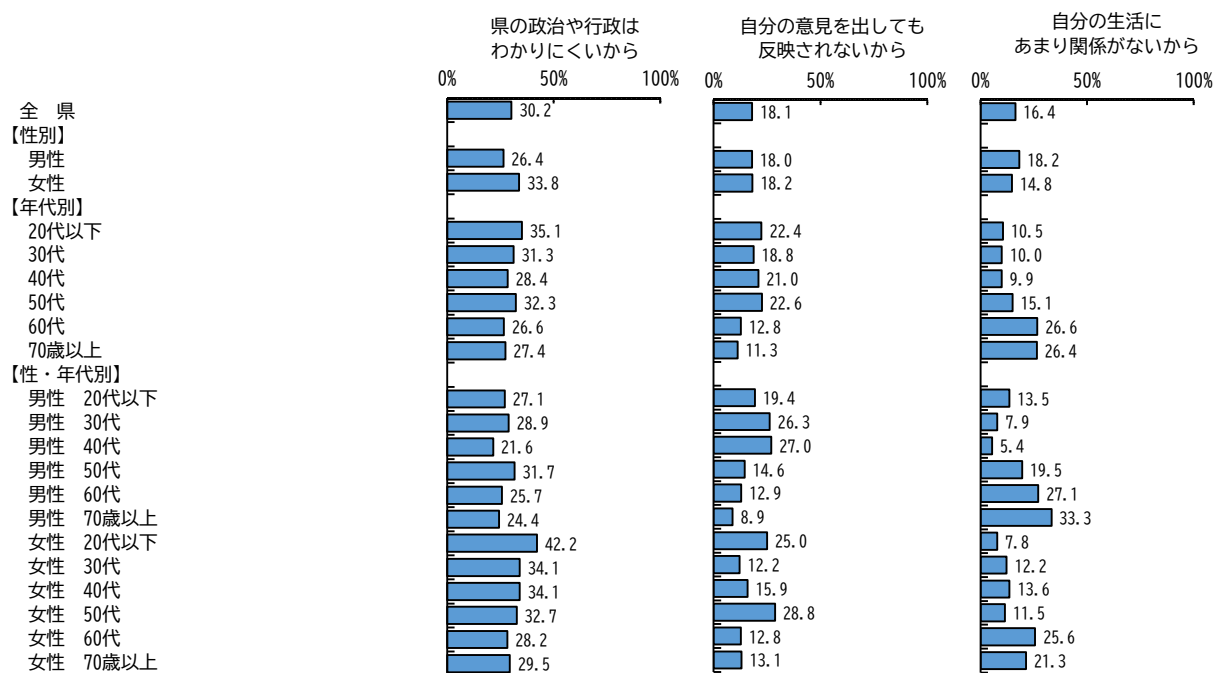
また、『女性30代』、『女性60代』は、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」が全体と比較して高くなっている。

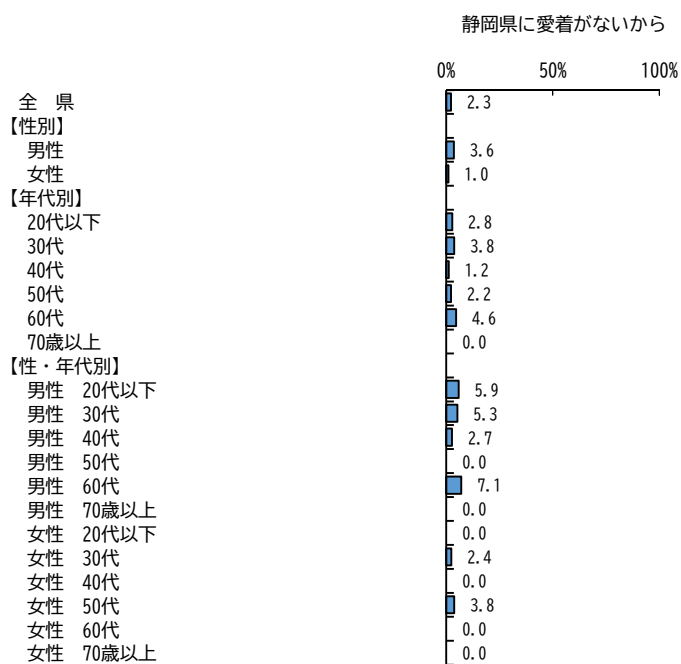
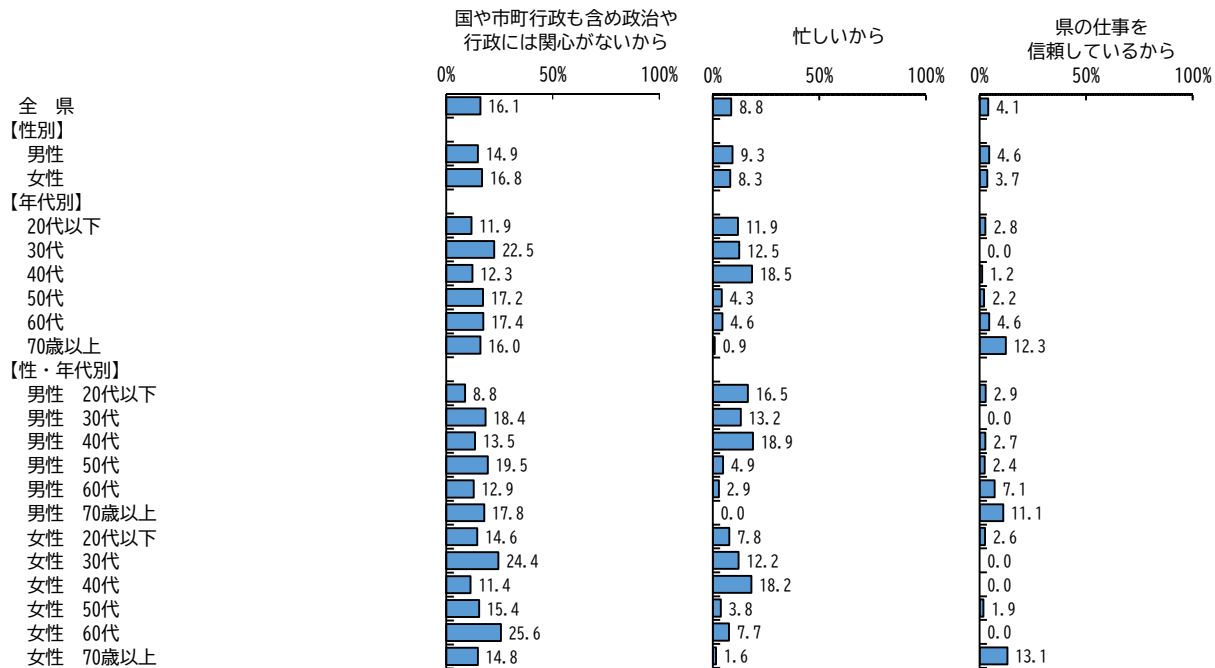
また、『女性20代以下』は、「県の政治や行政はわかりにくいから」（42.2%）が全体と比較して高くなっている。

また、『男性70歳以上』、『女性70歳以上』は、「県の仕事を信頼しているから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性20代以下』、『男性40代』、『女性40代』は、「忙しいから」が全体と比較して高くなっている。

【 図2-8 関心がない理由 性別、年代別、性・年代別 】





2 行政機関への意見や要望、不満

— 行政機関に意見や要望、不満が「ある」人の46.5%のうち

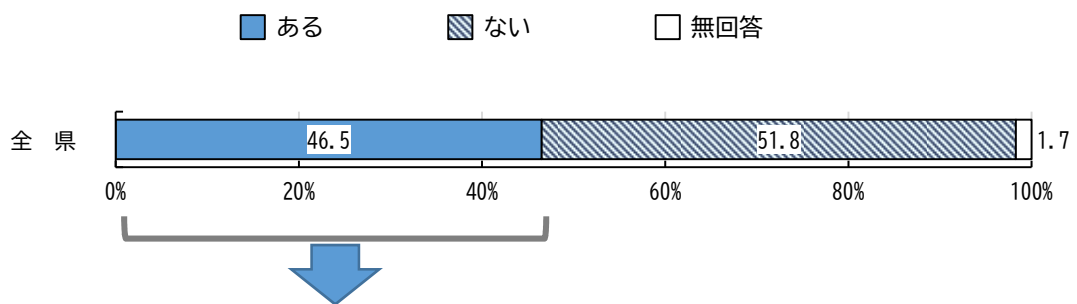
県に意見や要望、不満が「ある」人は55.7%

そのうち県に「伝える必要がある」と思った人は67.4%

そのうち県に「伝えた」人は13.9%、「伝えなかった」人は85.7% —

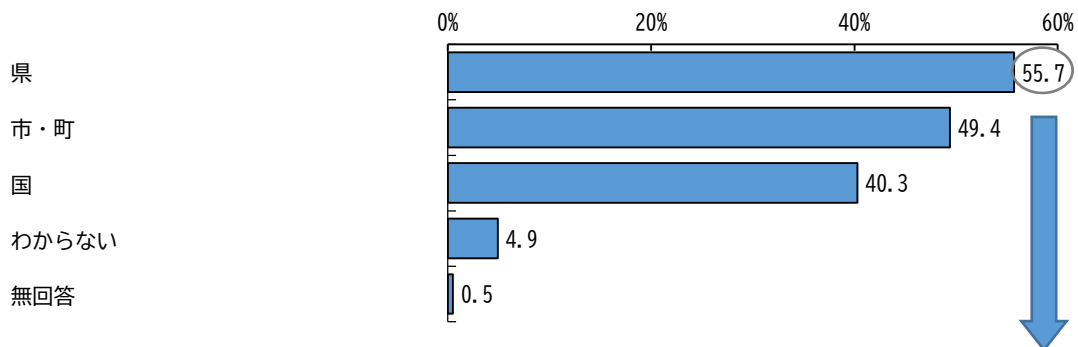
Q5 あなたは、この1年間に行政機関の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたりしたことがありますか。(〇は1つ)

【 行政機関への意見や要望、不満の有無 】



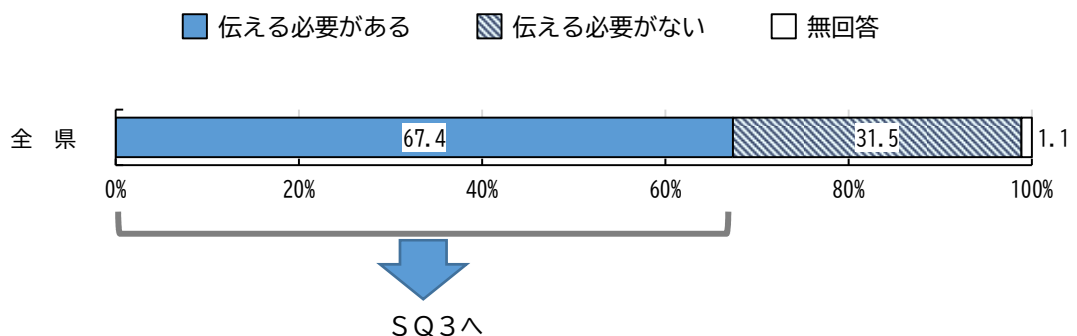
SQ1 それは、どの行政機関が担当する仕事ですか。(〇はいくつでも)

【 意見等を持った仕事の担当行政機関 】



SQ2 その県が担当する仕事についての意見や要望、不満は、県に伝える必要がありましたか。(〇は1つ)

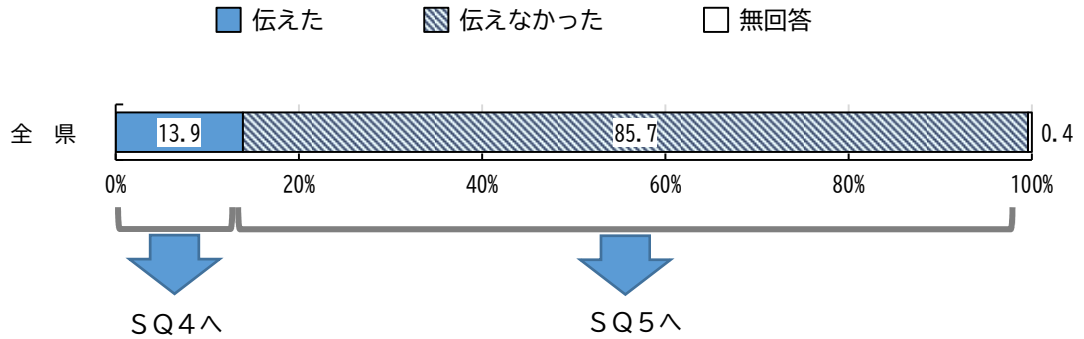
【 伝達の必要性 】



SQ3^

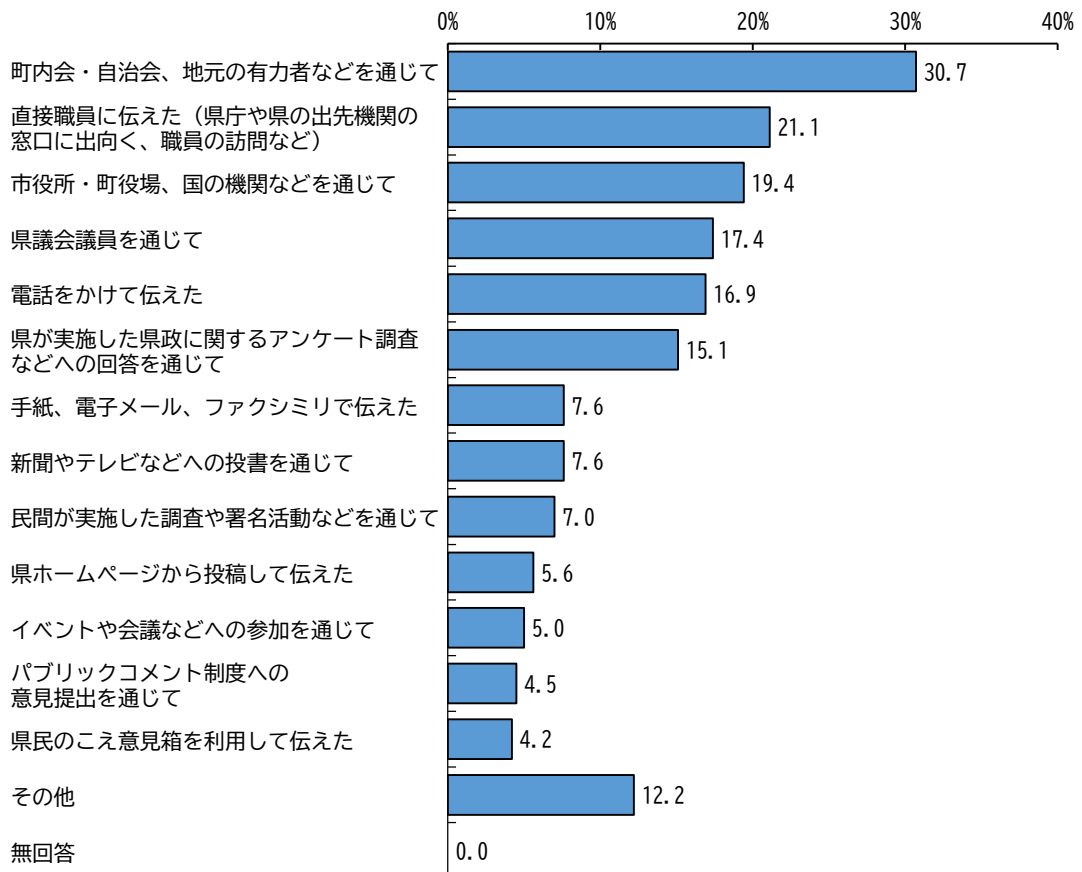
SQ3 それでは、そのことを県に伝えましたか。(〇は1つ)

【 伝達の有無 】



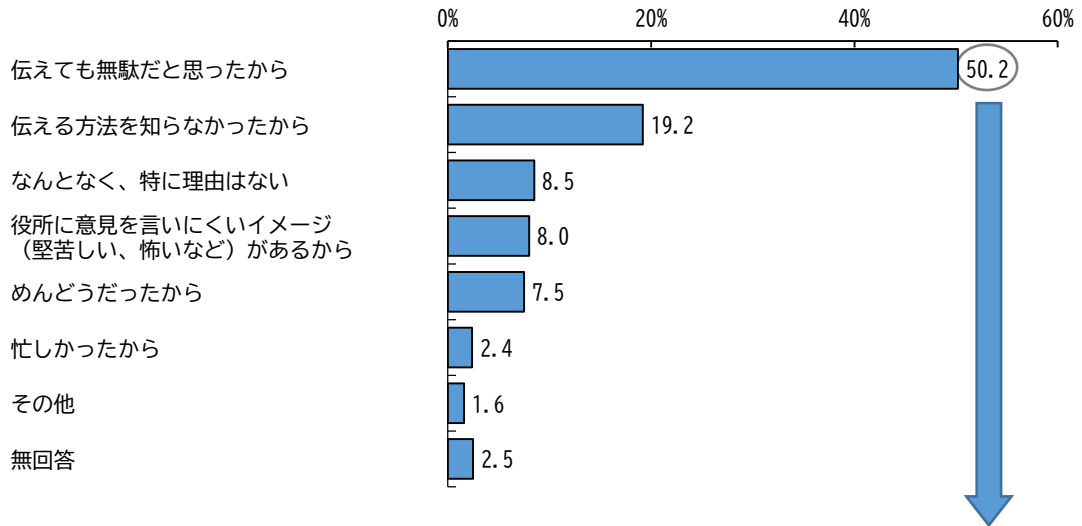
SQ4 どのような手段で伝えましたか。(〇はいくつでも)

【 伝達方法 】



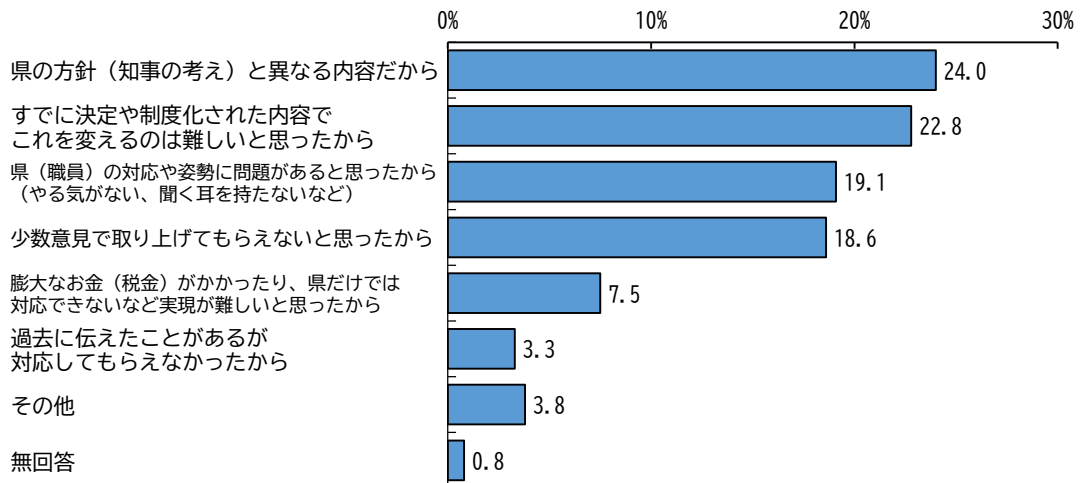
S Q 5 意見や要望不満があっても、県に伝えなかった主な理由は何ですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(○は1つ)

【 伝達しなかった理由 】



S Q 6 どうしてそのように思ったのですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(○は1つ)

【 伝えても無駄だと思った理由 】



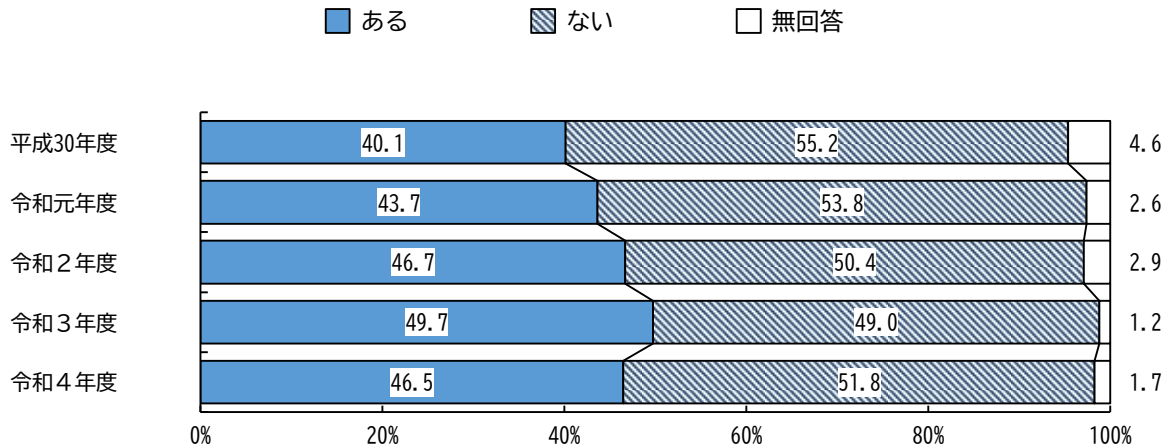
(1) 意見や要望、不満の有無

行政機関への意見や要望、不満の有無については、「意見等がある」と回答した人の割合が46.5%、「意見等がない」は51.8%となっており、「意見等がある」と回答した人は「意見等がない」と回答した人より5.3ポイント少なくなっている。

[過去の調査との比較] (図2-9)

平成30年度以降の推移でみると、「意見等がある」は毎年度4割台で推移している。

【 図2-9 行政機関への意見や要望、不満の有無 経年比較 】



【属性による比較】（図2-10、図2-11）

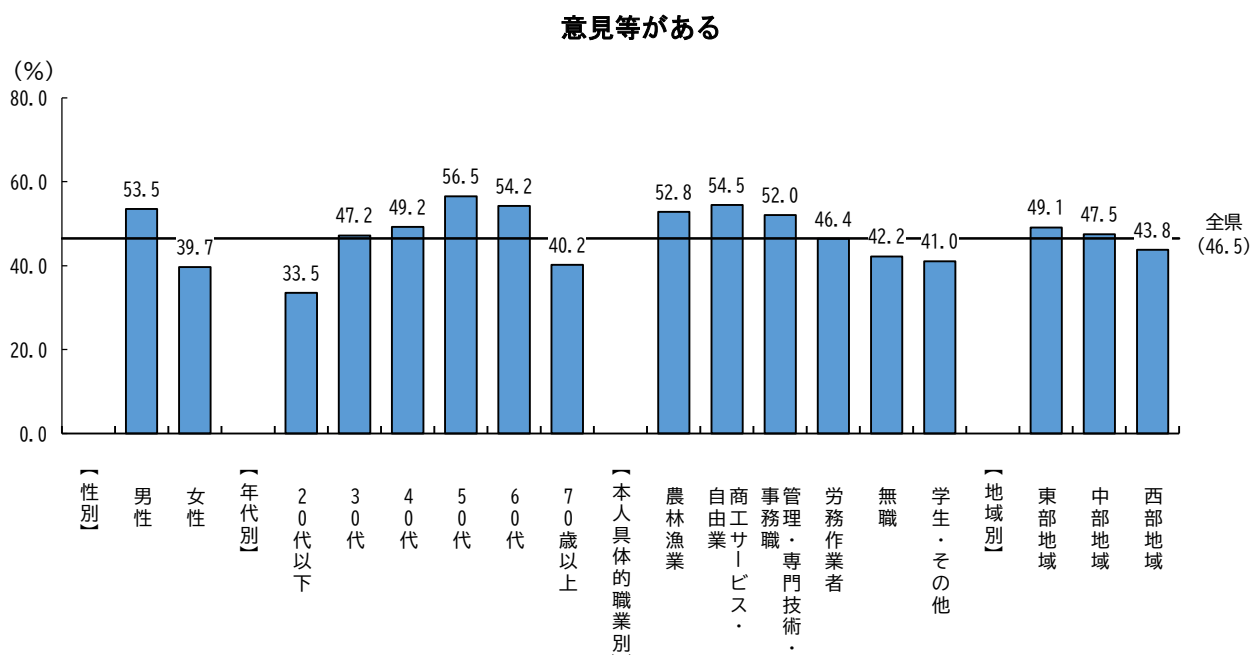
性別でみると、『男性』は、「ある」（53.5%）が全体と比較して高くなっている。

年代別でみると、『50代』、『60代』は、「ある」が全体と比較して高くなっている。

本人具体的職業別でみると、『農林漁業』、『商工サービス・自由業』、『管理・専門技術・事務職』は、「ある」が全体と比較して高くなっている。

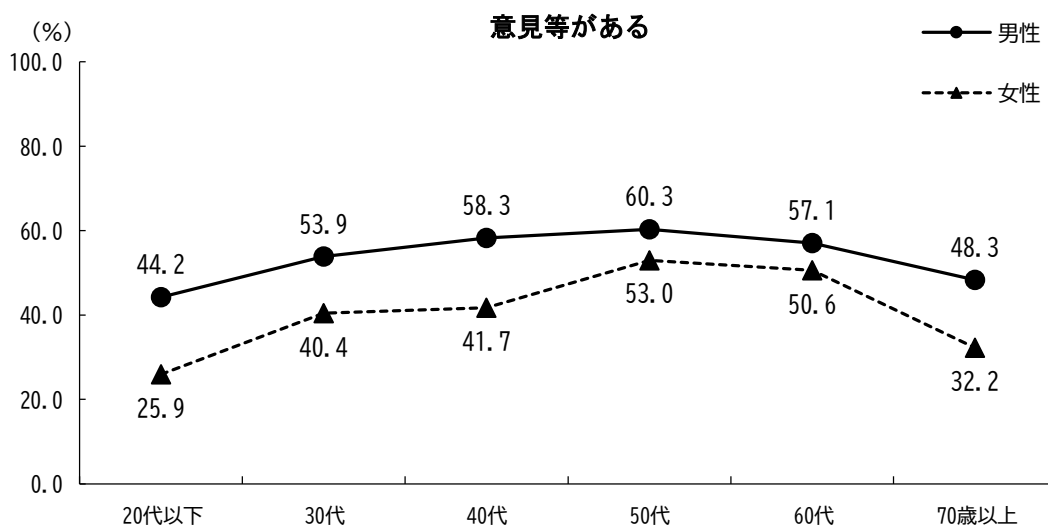
地域別では、大きな差はみられない。

【 図2-10 行政機関への意見や要望、不満の有無 性別、年代別、本人具体的職業別、地域別 】



性・年代別でみると、『男性30代』、『男性40代』、『男性50代』、『男性60代』、『女性50代』は、「ある」が全体と比較して高くなっている。

【 図2-11 行政機関への意見や要望、不満の有無 性・年代別 】



(2) 意見等を持った仕事の担当行政機関

意見等を持った仕事の担当行政機関については、「県」(55.7%)が最も多く、以下「市・町」(49.4%)、「国」(40.3%)となっている。

[過去の調査との比較] (図2-12)

平成30年度以降の推移で見ると、「国」は、今年度は40.3%と前年度の43.7%より3.4ポイント低くなっている。

「市・町」は、今年度は49.4%と前年度の48.7%より0.7ポイント高くなっている。

「県」は、今年度は55.7%と前年度の54.6%より1.1ポイント高くなっている。

【 図2-12 意見等を持った仕事の担当行政機関 経年比較 】



【属性による比較】（図2-13）

性別では、大きな差はみられない。

性・年代別でみると、『男性20代以下』、『男性40代』、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』は、「国」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性40代』は、「県」（66.7%）が全体と比較して高くなっている。

また、『女性30代』は、「市・町」（63.9%）が全体と比較して高くなっている。

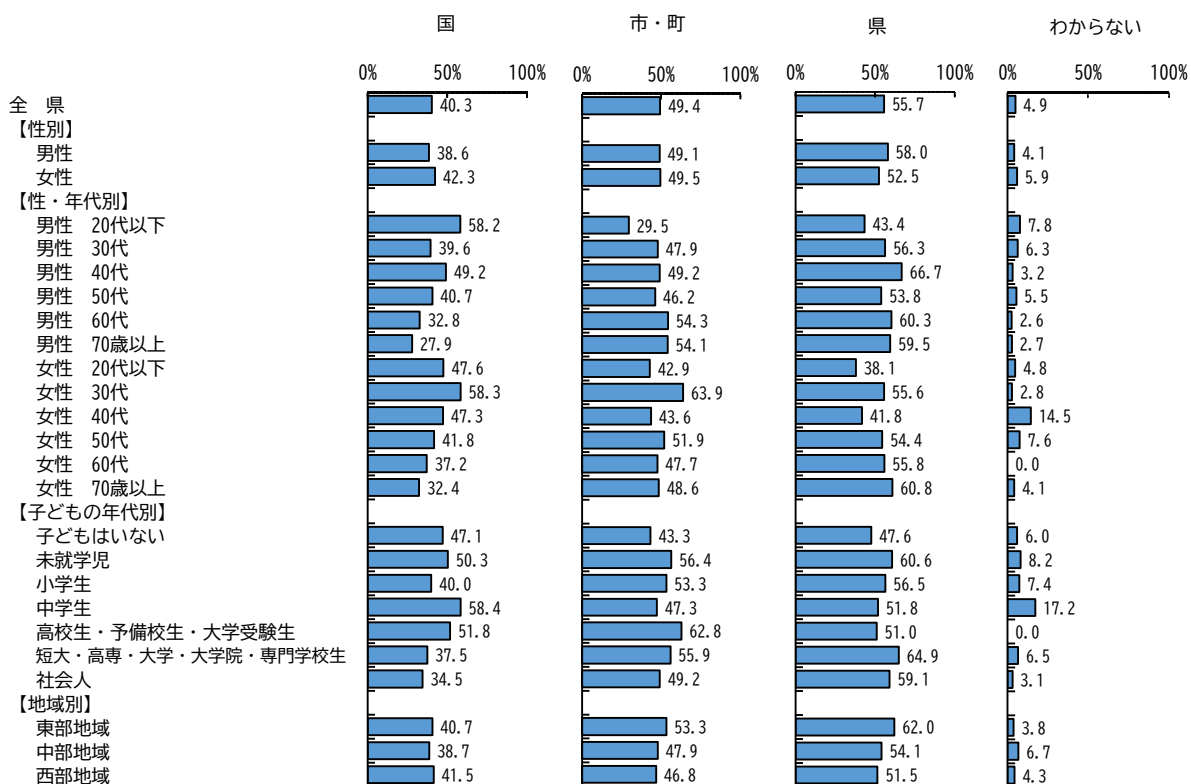
子どもの年代別でみると、『子どもはいない』、『未就学児』、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』は、「国」が全体と比較して高くなっている。

また、『未就学児』、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「市・町」が全体と比較して高くなっている。

また、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「県」（64.9%）が全体と比較して高くなっている。

地域別でみると、『東部地域』は、「県」（62.0%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-13 意見等を持った仕事の担当行政機関 性別、性・年代別、子どもの年代別、地域別 】



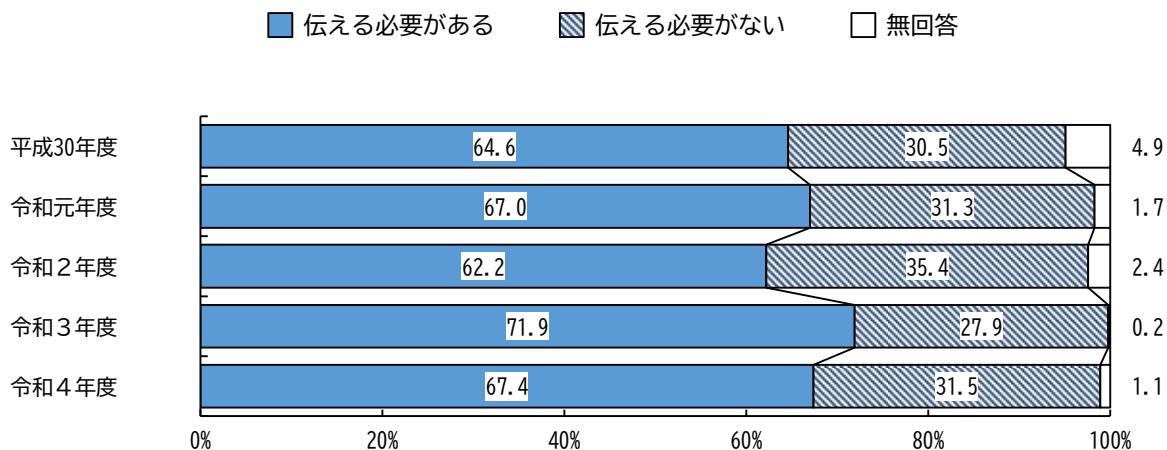
(3) 伝達の必要性

県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝える必要がある」と回答した人の割合は67.4%、「伝える必要がない」は31.5%となっている。

【過去の調査との比較】(図2-14)

平成30年度以降の推移に大きな変化はみられない。

【 図2-14 伝達の必要性 経年比較 】



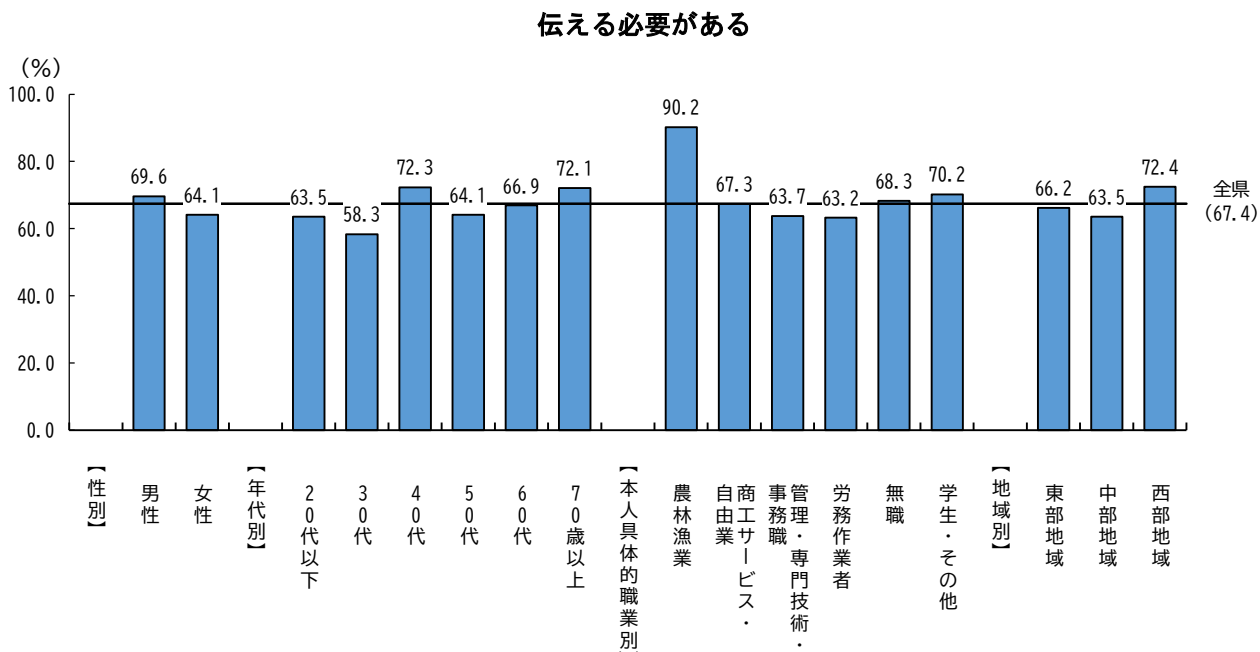
【属性による比較】(図2-15)

県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝える必要がある」と回答した人の割合を、性別、年代別、本人具体的職業別、地域別でみたところ、性別、年代別では、大きな差はみられない。

本人具体的職業別でみると、『農林漁業』は、「伝える必要がある」(90.2%)が全体と比較して高くなっている。

地域別でみると、『西部地域』は、「伝える必要がある」(72.4%)が全体と比較して高くなっている。

【 図2-15 伝達の必要性 性別、年代別、本人具体的職業別、地域別 】



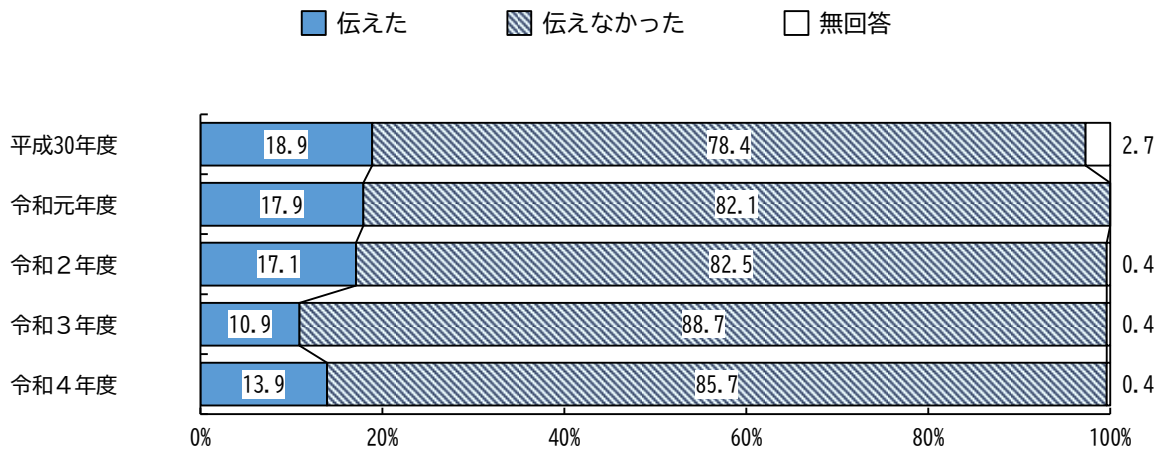
(4) 伝達の有無

県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝えなかった」と回答した人の割合が85.7%と大半を占め、「伝えた」は13.9%にとどまっている。

【過去の調査との比較】(図2-16)

平成30年度以降の推移でみると、「伝えた」と回答した人の割合は平成30年度以降減少が続いていたが、今年度は増加に転じた。

【 図2-16 伝達の有無 経年比較 】



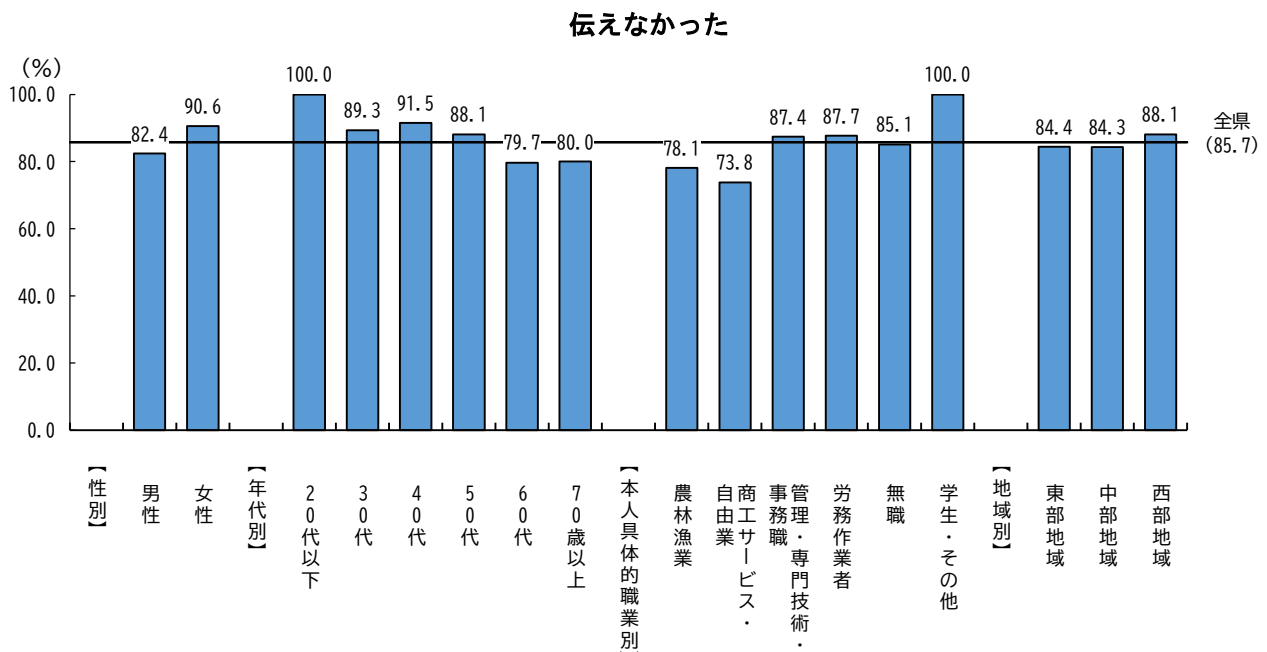
【属性による比較】(図2-17)

県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝えなかった」と回答した人の割合を、性別、年代別、本人具体的職業別、地域別でみたところ、性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』、『40代』は、「伝えなかった」が全体と比較して高くなっている。

本人具体的職業別でみると、『学生・その他』は、「伝えなかった」(100.0%)が全体と比較して高くなっている。

【 図2-17 伝達の有無 性別、年代別、本人具体的職業別、地域別 】



(5) 伝達方法

県の仕事について意見等がある人が県に伝えた方法は、「町内会・自治会、地元の有力者などを通じて」(30.7%)が最も多く、以下「直接職員に伝えた(県庁や県の出先機関の窓口に出向く、職員の訪問など)」(21.1%)、「市役所・町役場、国の機関などを通じて」(19.4%)、「県議会議員を通じて」(17.4%)、「電話をかけて伝えた」(16.9%)となっている。

(6) 伝達しなかった理由

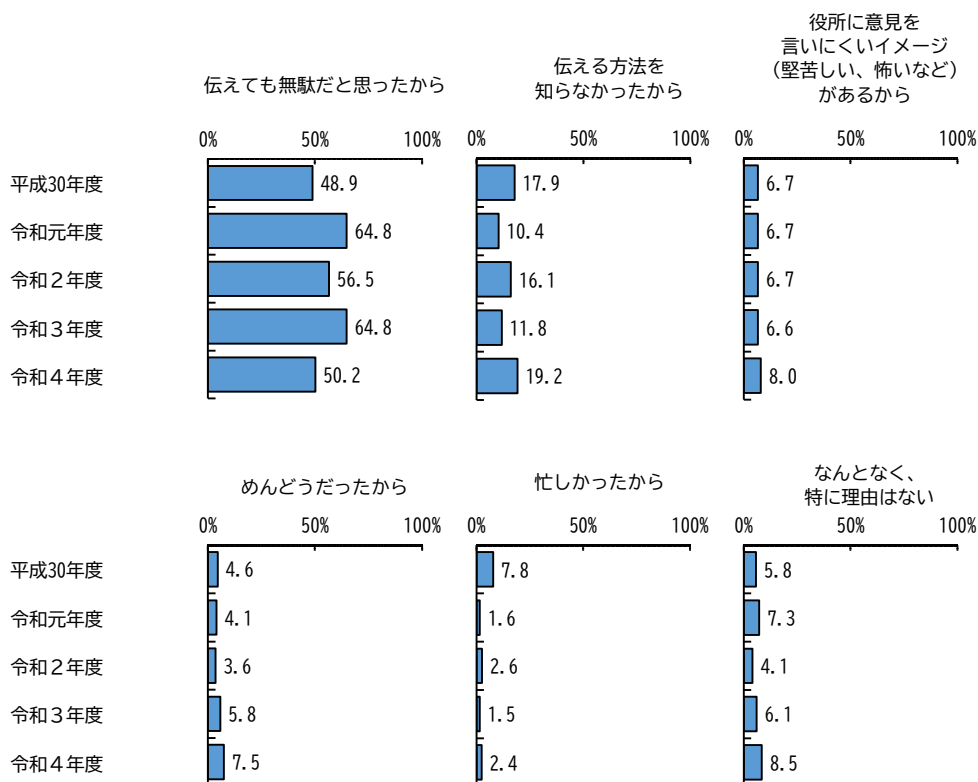
意見等があっても県に伝えなかった理由は、「伝えても無駄だと思ったから」(50.2%)が最も多く、以下「伝える方法を知らなかったから」(19.2%)、「なんとなく、特に理由はない」(8.5%)、「役所に意見を言いにくいイメージ(堅苦しい、怖いなど)があるから」(8.0%)、「めんどうだったから」(7.5%)となっている。

[過去の調査との比較] (図2-18)

平成30年度以降の推移でみると、「伝えても無駄だと思ったから」は、今年度は50.2%と前年度の64.8%より14.6ポイント低くなっている。

「伝える方法を知らなかったから」は、今年度は19.2%と前年度の11.8%より7.4ポイント高くなっている。

【 図2-18 伝達しなかった理由 経年比較 】



(7) 伝えても無駄だと思った理由

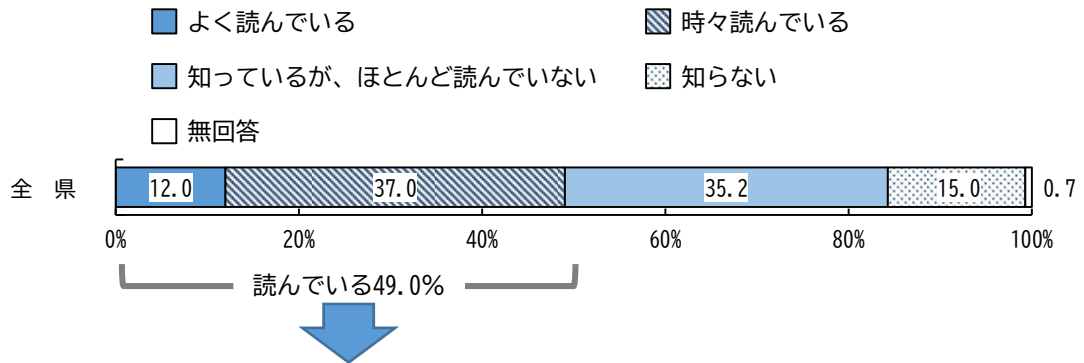
伝えても無駄だと思った理由については、「県の方針(知事の考え)と異なる内容だから」(24.0%)が最も多く、以下「すでに決定や制度化された内容でこれを変えるのは難しいと思ったから」(22.8%)、「県(職員)の対応や姿勢に問題があると思ったから(やる気がない、聞く耳を持たないなど)」(19.1%)、「少数意見で取り上げてもらえないと思ったから」(18.6%)、「膨大なお金(税金)がかかったり、県だけでは対応できないなど実現が難しいと思ったから」(7.5%)となっている。

3 広報媒体の浸透度

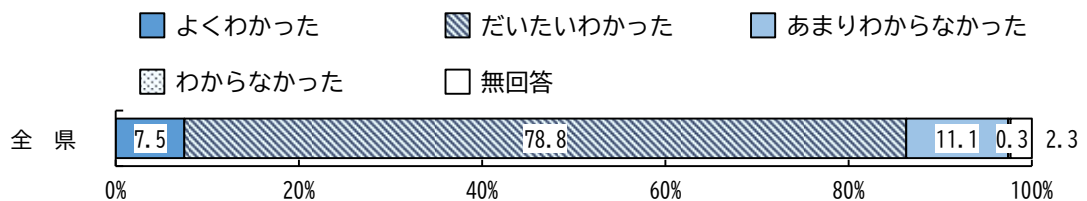
— 「県民だより」を「読んでいる」人は49.0% —

Q 6 あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。

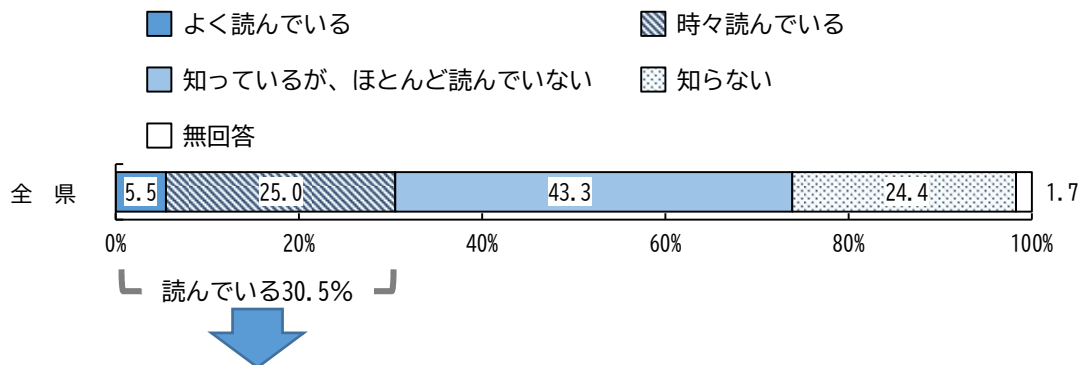
【 県民だより 】



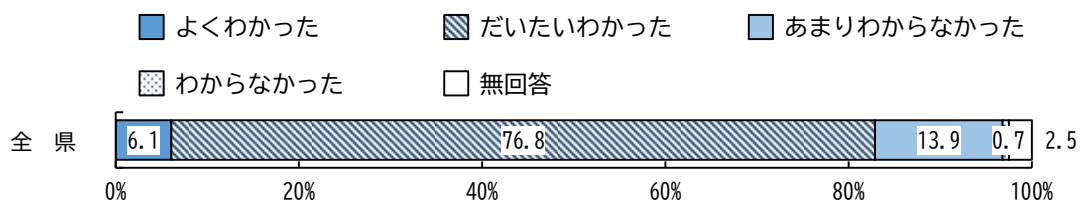
S Q 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)



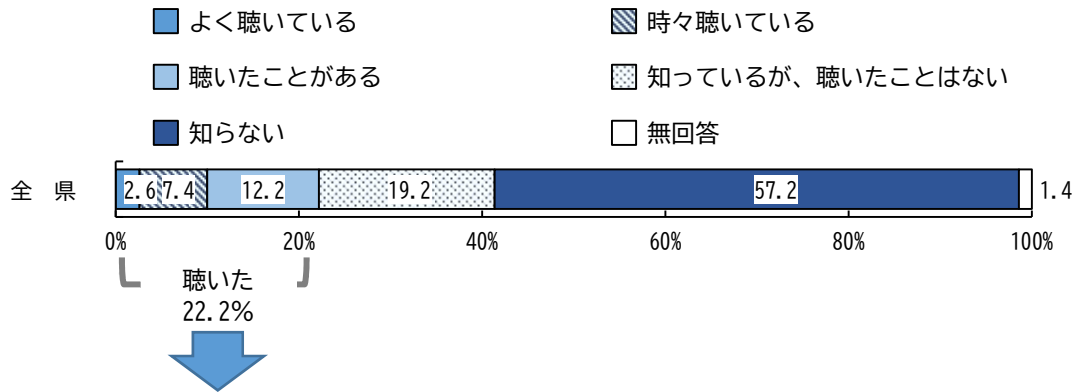
【 静岡県議会だより 】



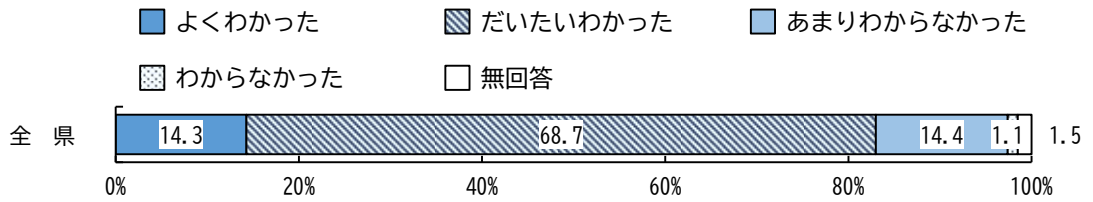
S Q 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)



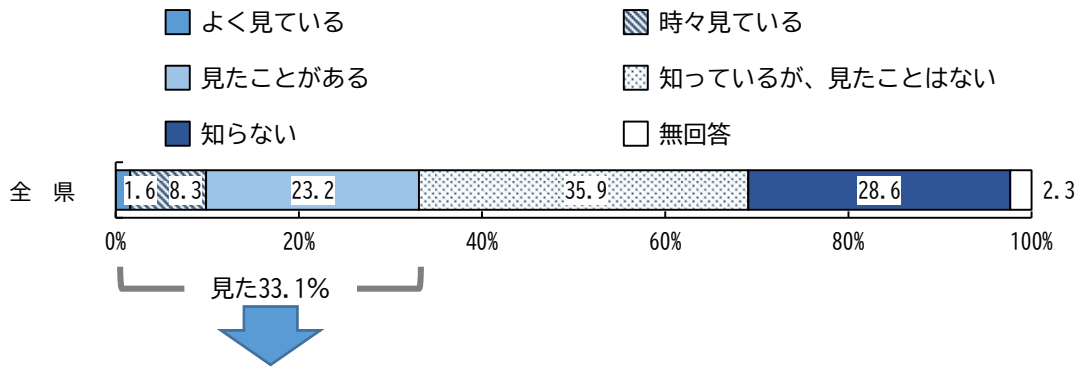
【 ラジオ広報 】



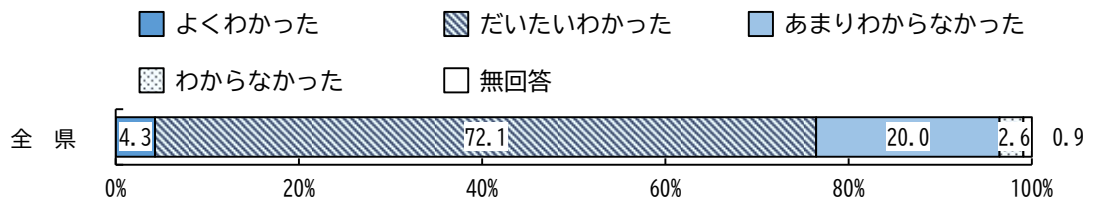
S Q 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)



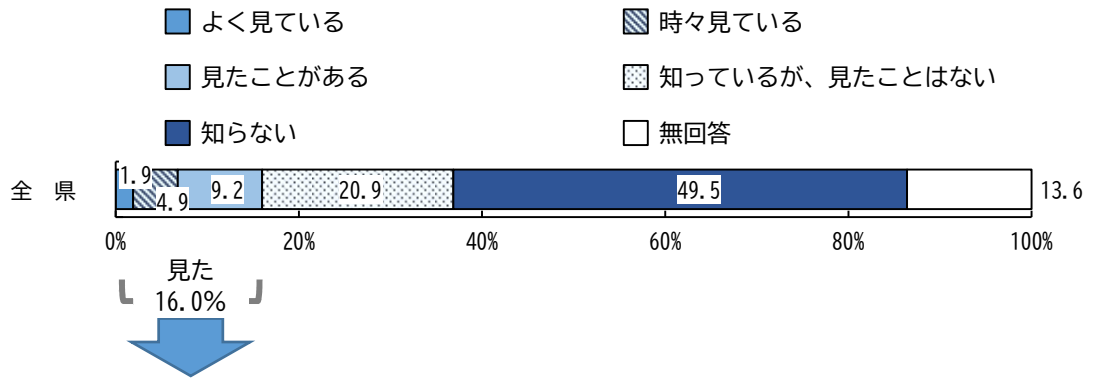
【 県のホームページ 】



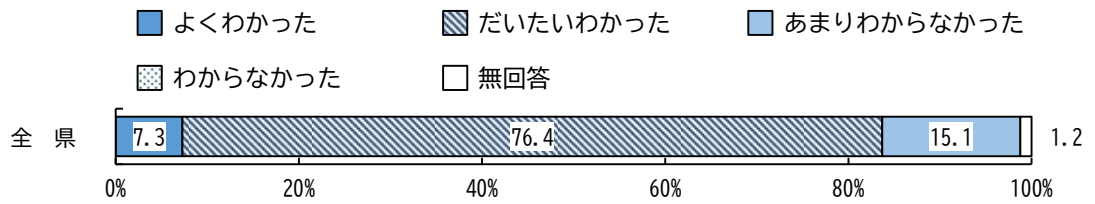
S Q 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)



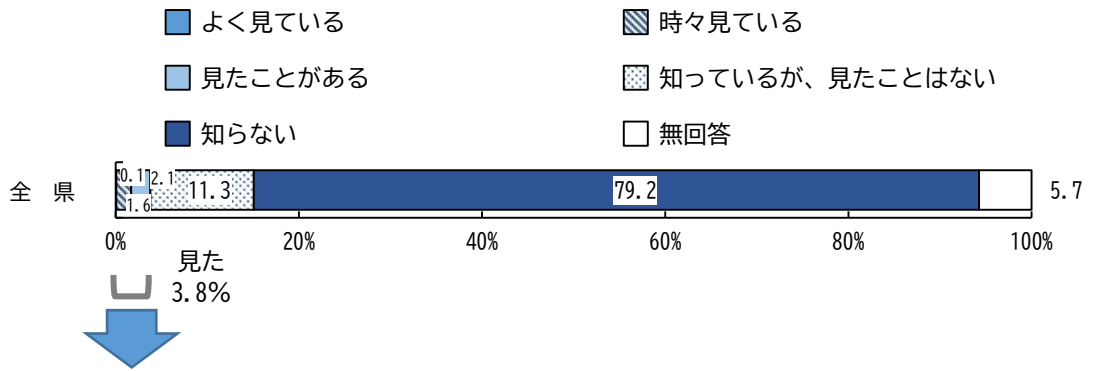
【 SNS 】



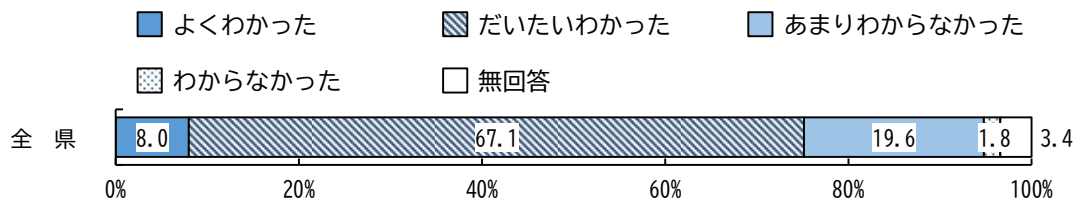
S Q 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)



【 YouTube 】



S Q 内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)



■ 県民だより

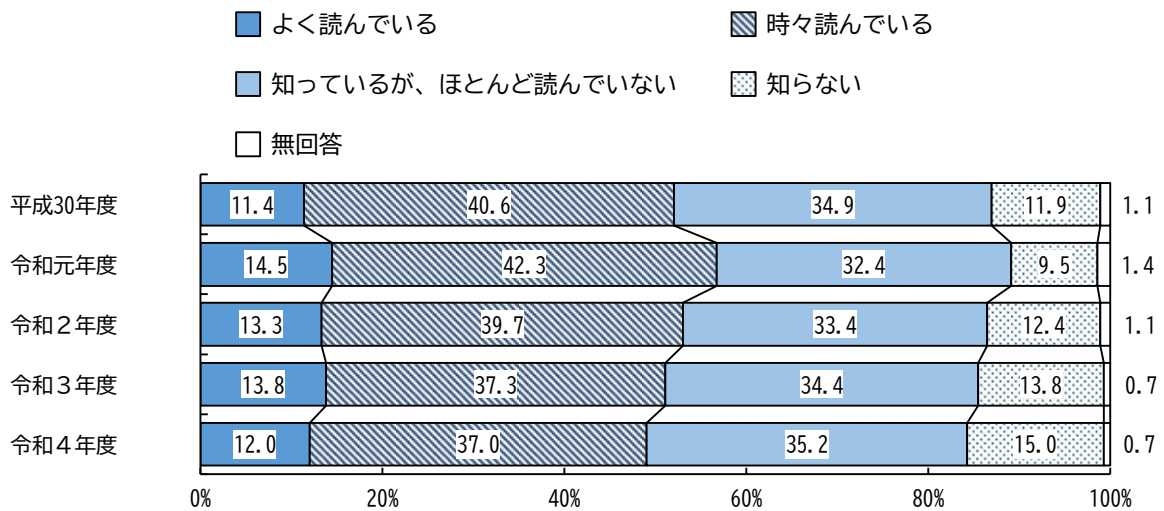
県民だよりの浸透度については、「時々読んでいる」(37.0%)が最も多く、以下「知っているが、ほとんど読んでいない」(35.2%)、「知らない」(15.0%)、「よく読んでいる」(12.0%)となっている。「よく読んでいる」(12.0%)と「時々読んでいる」(37.0%)を合わせた49.0%が県民だよりを読んでおり、それに「知っているが、ほとんど読んでいない」(35.2%)を合わせた84.2%が県民だよりを認知していると考えられる。

県民だよりを読んでいると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「だいたいわかった」(78.8%)が最も多く、以下「あまりわからなかった」(11.1%)、「よくわかった」(7.5%)、「わからなかった」(0.3%)となっている。「よくわかった」(7.5%)と「だいたいわかった」(78.8%)を合わせた86.3%の人がわかりやすかったと回答している。

【過去の調査との比較】(図2-19)

平成30年度以降の推移でみると、県民だよりを読んでいる割合は、令和元年度以降減少傾向にあり、今年度(49.0%)は前年度(51.1%)より2.1ポイント減少した。

【 図2-19 県民だより 経年比較 】



【属性による比較】（図2-20）

性別では、大きな差はみられない。

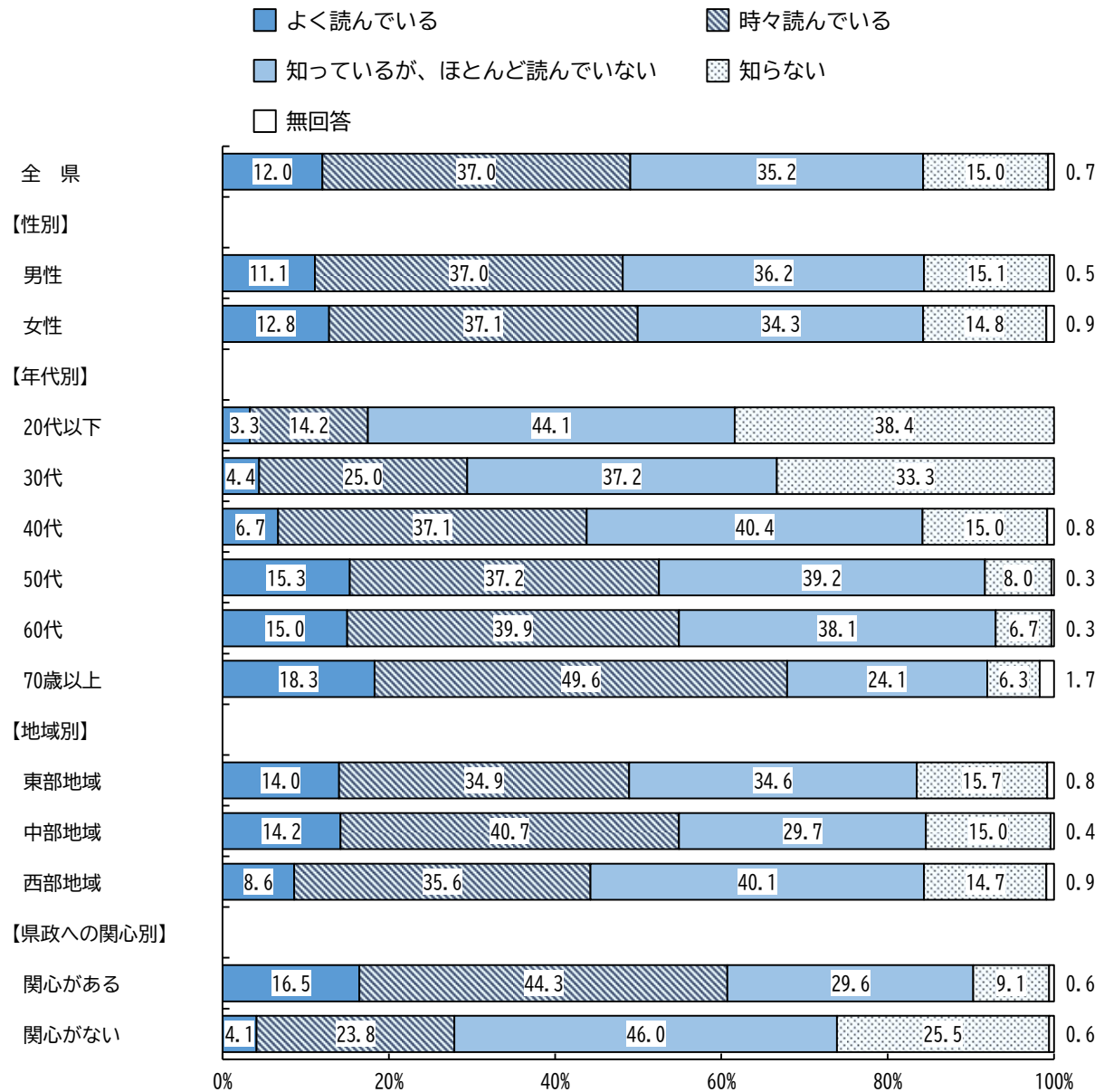
年代別でみると、『60代』、『70歳以上』は、“読んでいる”が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『30代』は、「知らない」が全体と比較して高くなっている。

地域別でみると、『中部地域』は、“読んでいる”（54.9%）が全体と比較して高くなっている。

前問（P43）の県政への関心別でみると、県民だよりを読んでいる割合は、『関心がある』において60.8%となり、『関心がない』（27.9%）を32.9ポイント上回っている。

【 図2-20 県民だより 性別、年代別、地域別、県政への関心別 】



■ 静岡県議会だより

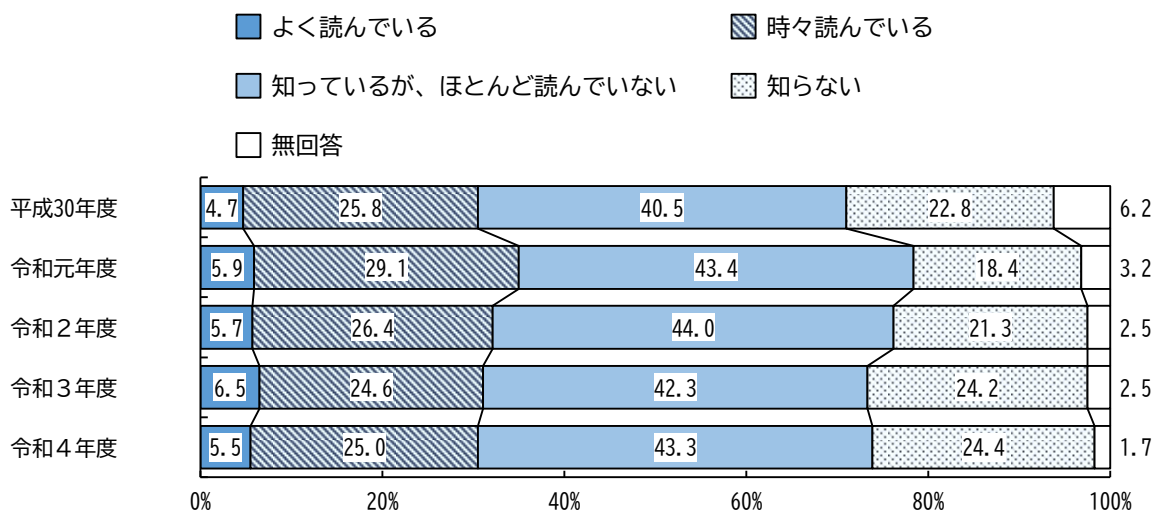
静岡県議会だよりの浸透度については、「知っているが、ほとんど読んでいない」(43.3%)が最も多く、以下「時々読んでいる」(25.0%)、「知らない」(24.4%)、「よく読んでいる」(5.5%)となっている。「よく読んでいる」(5.5%)と「時々読んでいる」(25.0%)を合わせた30.5%が静岡県議会だよりを読んでおり、それに「知っているが、ほとんど読んでいない」(43.3%)を合わせた73.8%が静岡県議会だよりを認知していると考えられる。

静岡県議会だよりを読んでいると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「だいたいわかった」(76.8%)が最も多く、以下「あまりわからなかった」(13.9%)、「よくわかった」(6.1%)、「わからなかった」(0.7%)となっている。「よくわかった」(6.1%)と「だいたいわかった」(76.8%)を合わせた82.9%の人がわかりやすかったと回答している。

【過去の調査との比較】(図2-21)

平成30年度以降の推移でみると、静岡県議会だよりを読んでいる割合は、今年度(30.5%)は前年度(31.1%)に比べ0.6ポイント減少した。なお、静岡県議会だよりを認知している割合は毎年度7割台で推移している。

【 図2-21 静岡県議会だより 経年比較 】



【属性による比較】（図2-22）

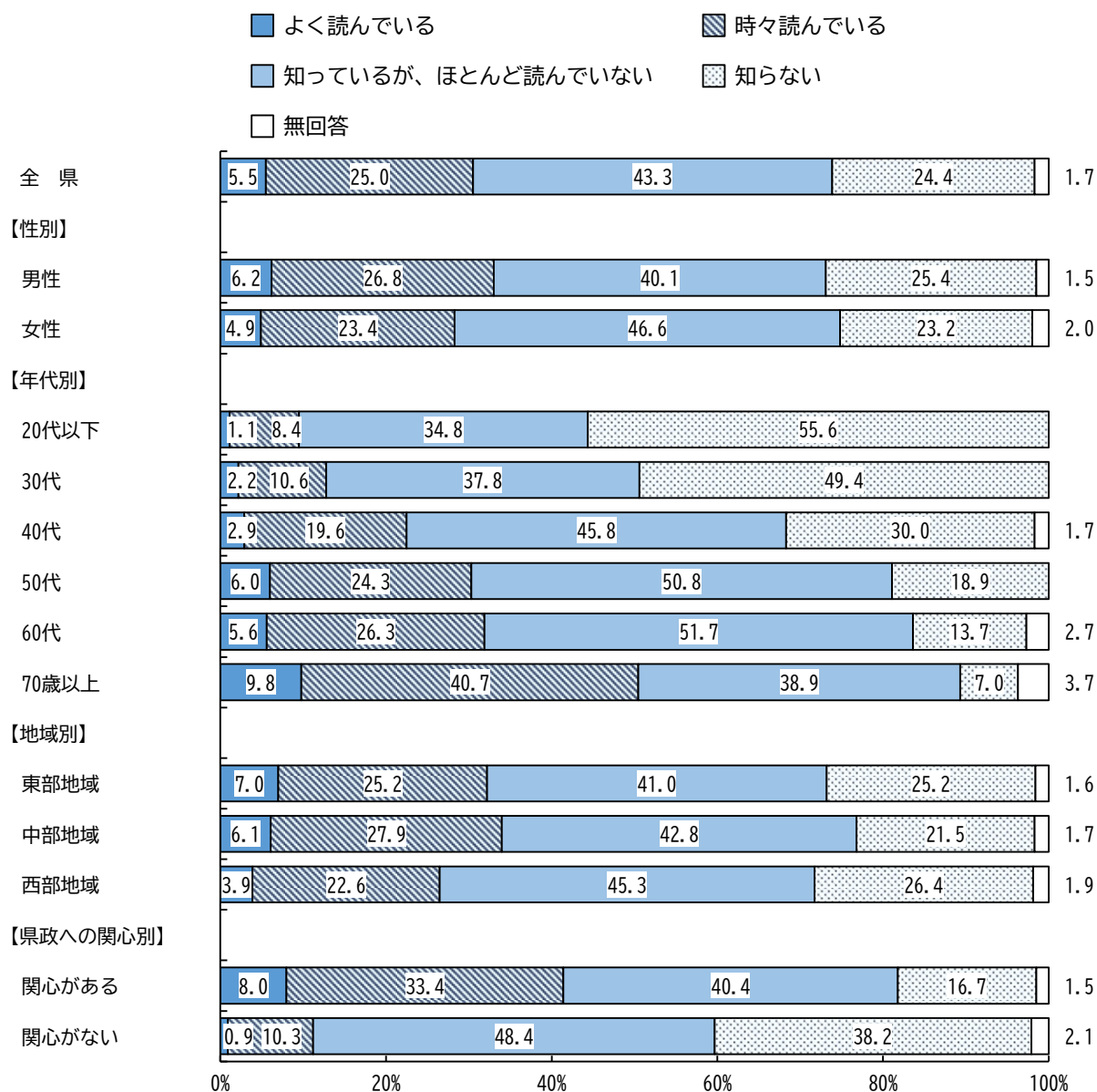
性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『70歳以上』は、“読んでいる”（50.5%）が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『30代』、『40代』は、「知らない」が全体と比較して高くなっている。

前問（P43）の県政への関心別でみると、静岡県議会だよりを読んでいる割合は『関心がある』において41.4%となっており、『関心がない』（11.2%）を30.2ポイント上回っている。

【 図2-22 静岡県議会だより 性別、年代別、地域別、県政への関心別 】



■ ラジオ広報

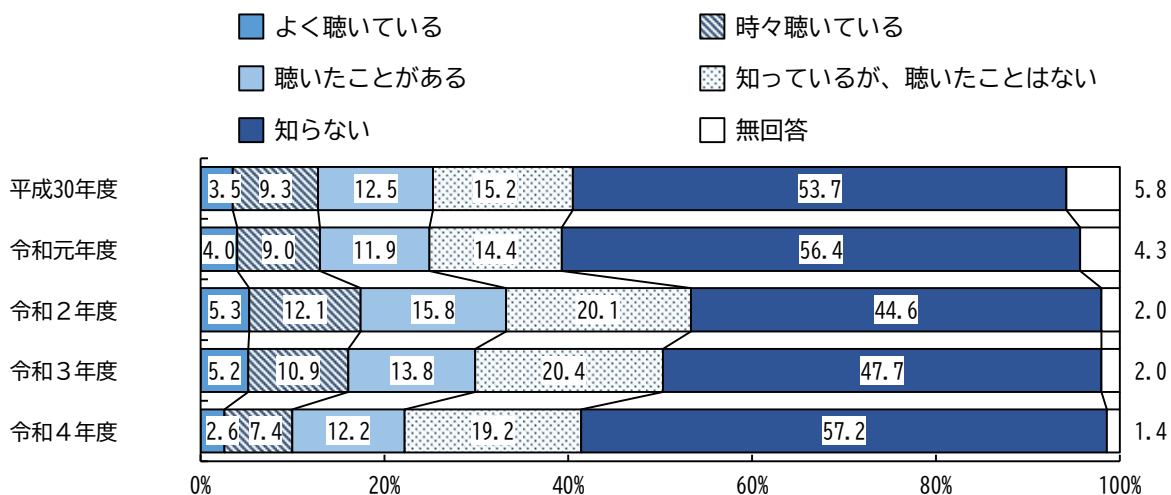
ラジオ広報の浸透度については、「知らない」(57.2%)が最も多く、以下「知っているが、聞いたことはない」(19.2%)、「聞いたことがある」(12.2%)、「時々聴いている」(7.4%)、「よく聴いている」(2.6%)となっている。「よく聴いている」(2.6%)と「時々聴いている」(7.4%)、「聞いたことがある」(12.2%)を合わせた22.2%がラジオ広報を聴いており、それに「知っているが、聞いたことはない」(19.2%)を合わせた41.4%がラジオ広報を認知していると考えられる。

ラジオ広報を聴いていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「だいたいわかった」(68.7%)が最も多く、以下「あまりわからなかった」(14.4%)、「よくわかった」(14.3%)、「わからなかった」(1.1%)となっている。「よくわかった」(14.3%)と「だいたいわかった」(68.7%)を合わせた83.0%の人がわかりやすかったと回答している。

【過去の調査との比較】(図2-23)

平成30年度以降の推移でみると、ラジオ広報を聴いている人の割合は、令和2年度調査以降、減少傾向にあり、今年度(22.2%)は前年度(29.9%)と比較して7.7ポイント下回っている。

【 図2-23 ラジオ広報 経年比較 】



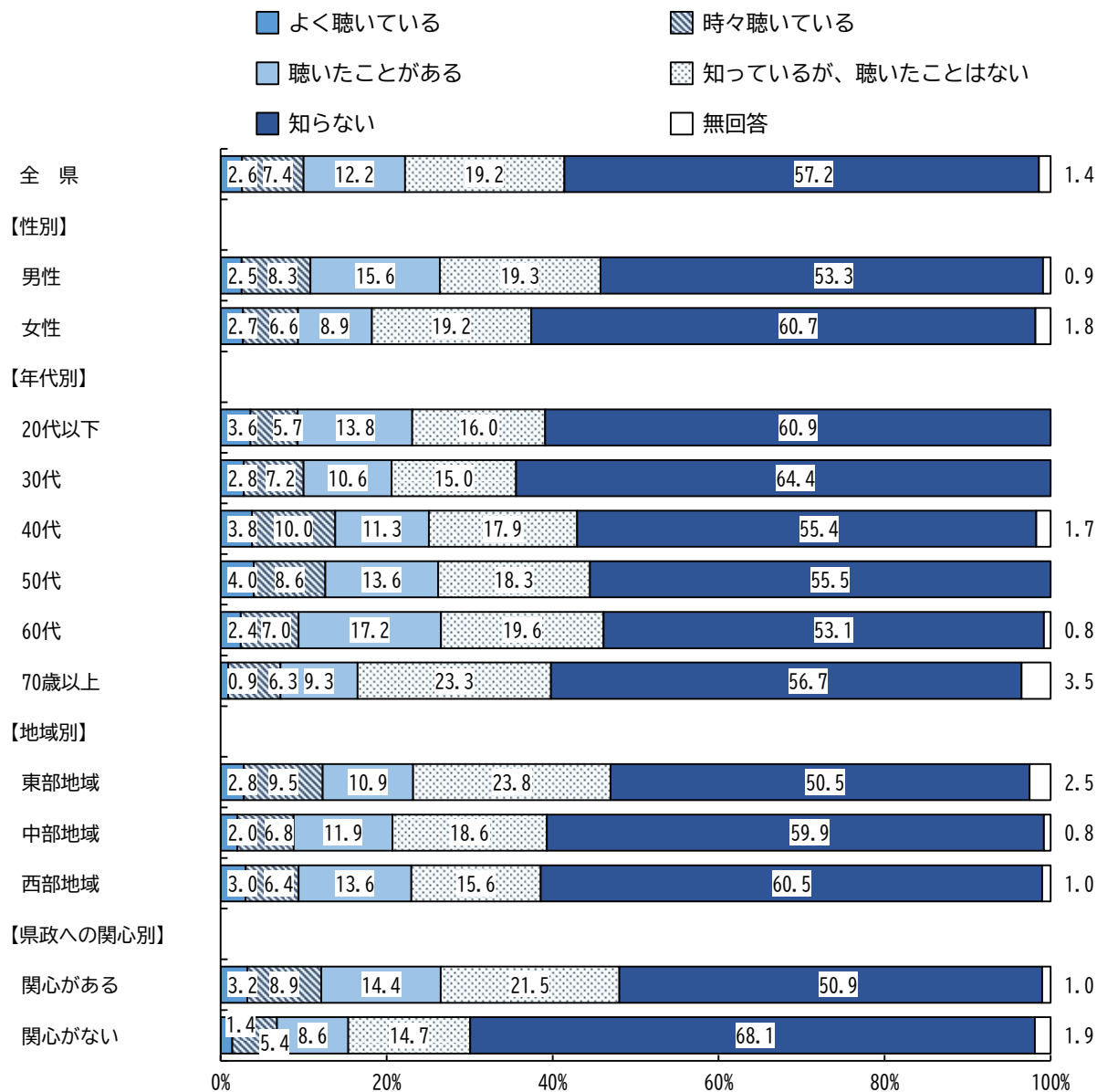
【属性による比較】（図2-24）

性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『30代』は、「知らない」（64.4%）が全体と比較して高くなっている。

前問（P43）の県政への関心別でみると、ラジオ広報を聴いている割合は『関心がある』において26.5%となっており、『関心がない』（15.4%）を11.1ポイント上回っている。

【 図2-24 ラジオ広報 性別、年代別、地域別、県政への関心別 】



■ 県のホームページ

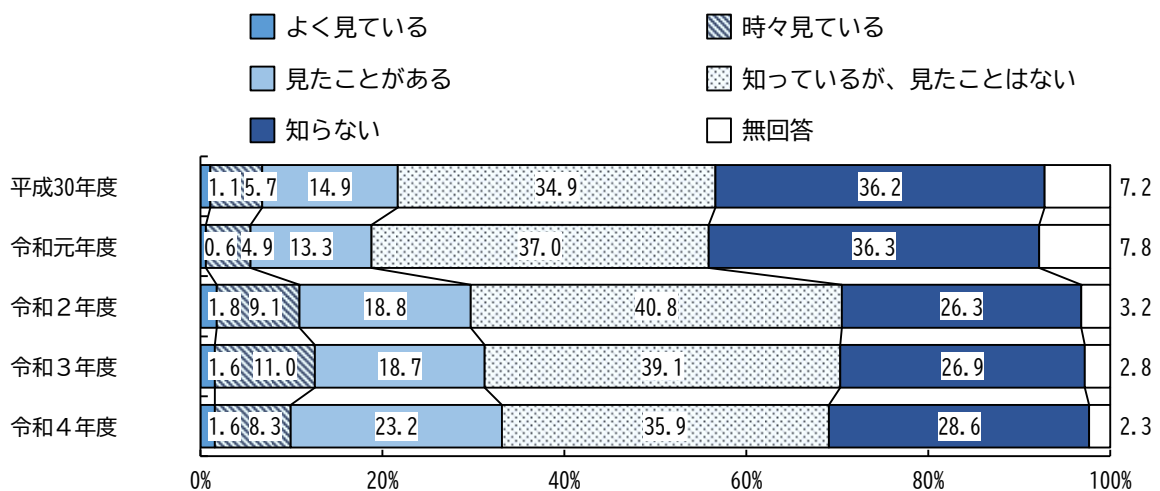
県のホームページの浸透度については、「知っているが、見たことはない」(35.9%)が最も多く、以下「知らない」(28.6%)、「見たことがある」(23.2%)、「時々見ている」(8.3%)、「よく見ている」(1.6%)となっている。「よく見ている」(1.6%)、「時々見ている」(8.3%)、「見たことがある」(23.2%)を合わせた33.1%が県のホームページを見ており、それに「知っているが、見たことはない」(35.9%)を合わせた69.0%が県のホームページを認知していると考えられる。

県のホームページを見ていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「だいたいわかった」(72.1%)が最も多く、以下「あまりわからなかった」(20.0%)、「よくわかった」(4.3%)、「わからなかった」(2.6%)となっている。「よくわかった」(4.3%)と「だいたいわかった」(72.1%)を合わせた76.4%の人がわかりやすかったと回答している。

【過去の調査との比較】(図2-25)

平成30年度以降の推移でみると、県のホームページを見ている割合は、今年度(33.1%)は前年度(31.3%)から1.8ポイント上回っており、過去5年で最も高くなっている。

【 図2-25 県のホームページ 経年比較 】



【属性による比較】（図2-26）

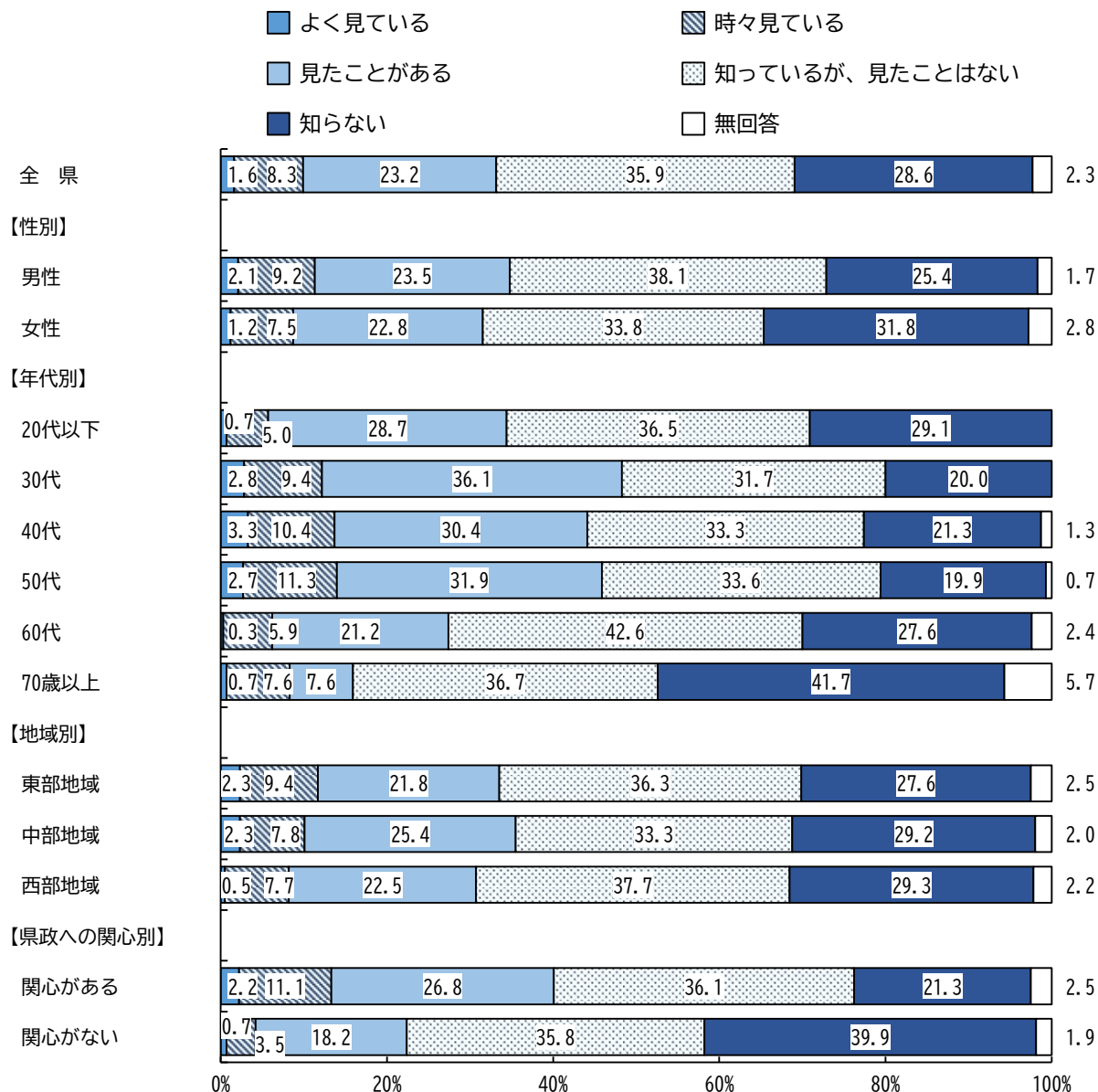
性別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『30代』、『40代』、『50代』は、“見た”が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「知らない」（41.7%）が全体と比較して高くなっている。

前問（P43）の県政への関心別でみると、県のホームページを見ている割合は『関心がある』において40.1%となっており、『関心がない』（22.4%）を17.7ポイント上回っている。

【 図2-26 県のホームページ 性別、年代別、地域別、県政への関心別 】



■ SNS

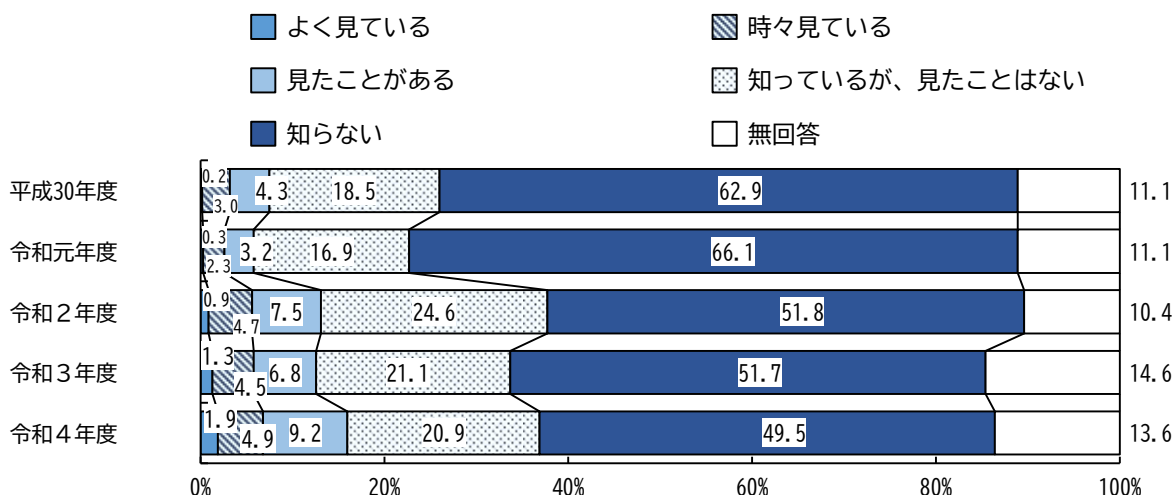
SNSの浸透度については、「知らない」(49.5%)が最も多く、以下「知っているが、見たことはない」(20.9%)、「見たことがある」(9.2%)、「時々見ている」(4.9%)、「よく見ている」(1.9%)となっている。「よく見ている」(1.9%)、「時々見ている」(4.9%)、「見たことがある」(9.2%)を合わせた16.0%がSNSを見ており、それに「知っているが、見たことはない」(20.9%)を合わせた36.9%がSNSを認知していると考えられる。

SNSを見ていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「だいたいわかった」(76.4%)が最も多く、以下「あまりわからなかった」(15.1%)、「よくわかった」(7.3%)となっている。「よくわかった」(7.3%)と「だいたいわかった」(76.4%)を合わせた83.7%の人がわかりやすかったと回答している。

【過去の調査との比較】(図2-27)

平成30年度以降の推移でみると、SNSを見ている割合は、今年度(16.0%)は前年度(12.6%)と比較して3.4ポイント上回っている。

【 図2-27 SNS 経年比較 】



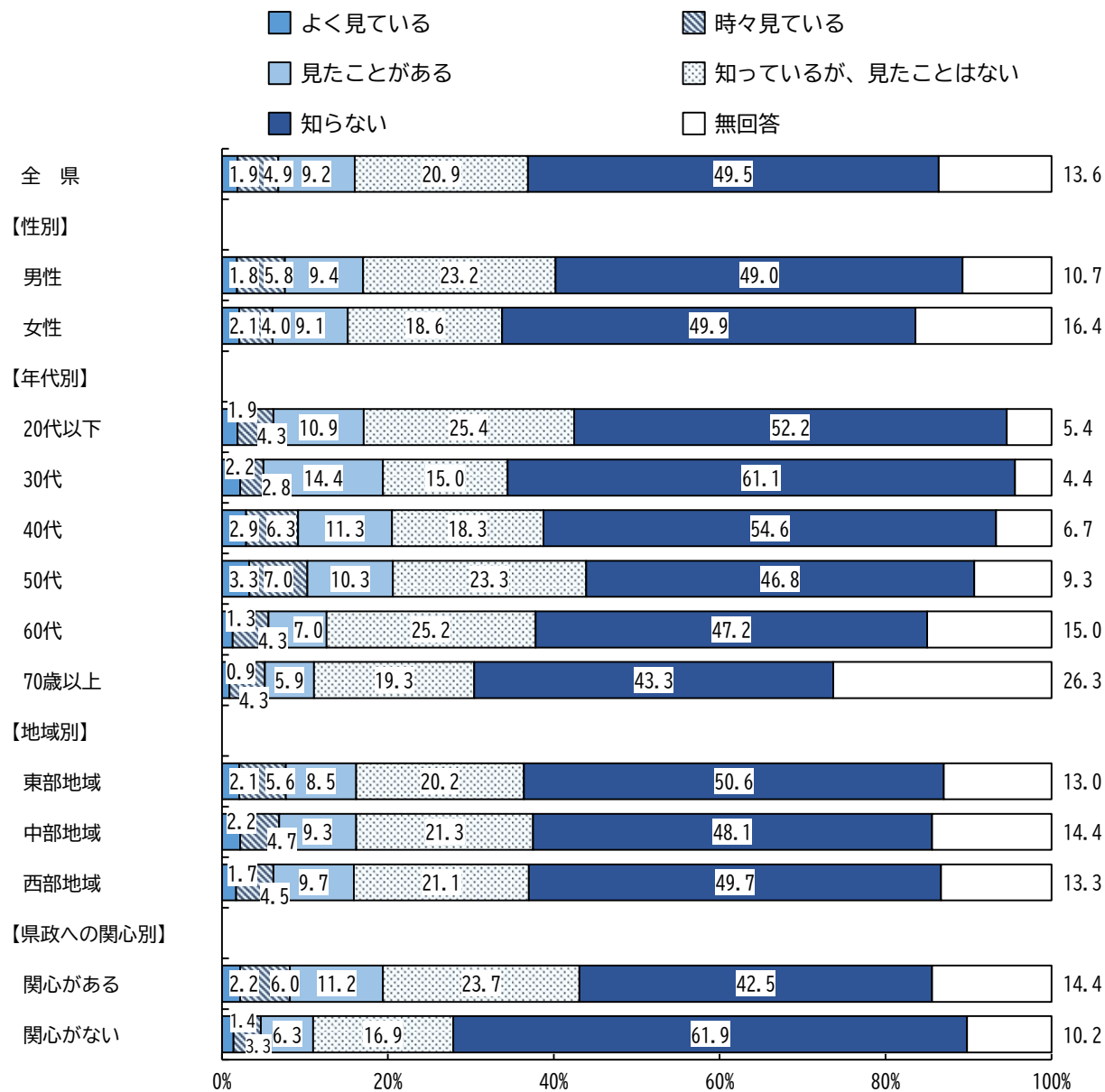
【属性による比較】（図2-28）

性別、地域別で見ると、大きな差はみられない。

年代別で見ると、『30代』、『40代』は、「知らない」が全体と比較して高くなっている。

前問（P43）の県政への関心別で見ると、SNSを見ている割合は『関心がある』において19.4%となっており、『関心がない』（11.0%）を8.4ポイント上回っている。

【 図2-28 SNS 性別、年代別、地域別、県政への関心別 】



■ YouTube

YouTubeの浸透度については、「知らない」(79.2%)が最も多く、以下「知っているが、見たことはない」(11.3%)、「見たことがある」(2.1%)、「時々見ている」(1.6%)、「よく見ている」(0.1%)となっている。「よく見ている」(0.1%)、「時々見ている」(1.6%)、「見たことがある」(2.1%)を合わせた3.8%がYouTubeを見ており、それに「知っているが、見たことはない」(11.3%)を合わせた15.1%がYouTubeを認知していると考えられる。

YouTubeを見ていると回答した人に、そのわかりやすさをたずねたところ、「だいたいわかった」(67.1%)が最も多く、以下「あまりわからなかった」(19.6%)、「よくわかった」(8.0%)、「わからなかった」(1.8%)となっている。「よくわかった」(8.0%)と「だいたいわかった」(67.1%)を合わせた75.1%の人がわかりやすかったと回答している。

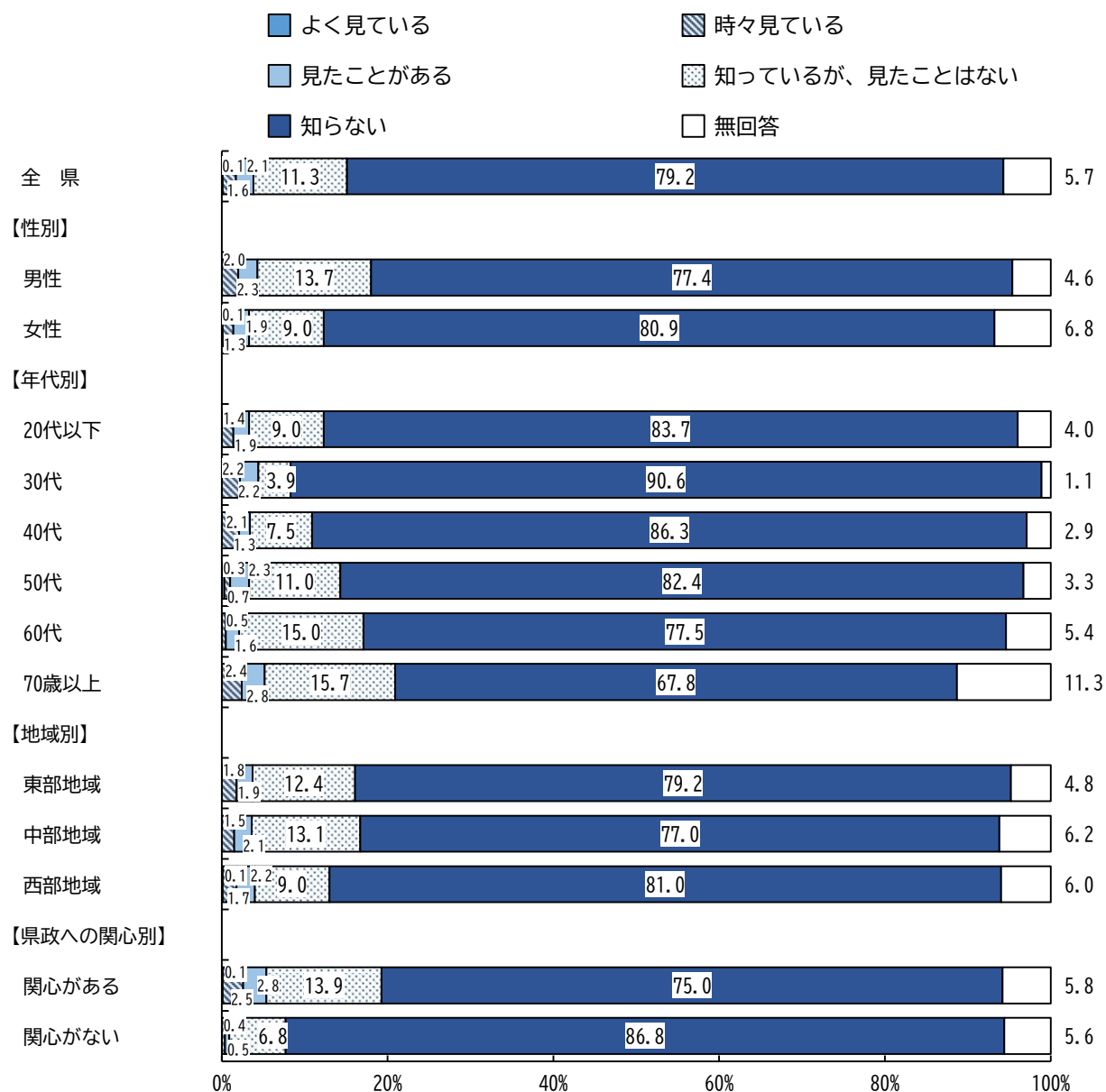
【属性による比較】(図2-29)

性別、地域別でみると、大きな差はみられない。

年代別でみると、『30代』、『40代』は、「知らない」が全体と比較して高くなっている。

前問(P43)の県政への関心別でみると、YouTubeを見ている割合は『関心がある』において5.4%となっており、『関心がない』(0.9%)を4.5ポイント上回っている。

【 図2-29 YouTube 性別、年代別、地域別、県政への関心別 】



4 日常の課題や生活における意識

(1) 有徳の人づくり

—— 「有徳の人」としての行動ができていると思う人は31.4%

行動ができていると思う人は31.4% 行動ができていると思う人は47.0% ——

Q7 静岡県では、「有徳の人」づくりを進めています。あなたは、ご自身が日頃から「有徳の人」としての行動ができていると思いますか。(○は1つ)

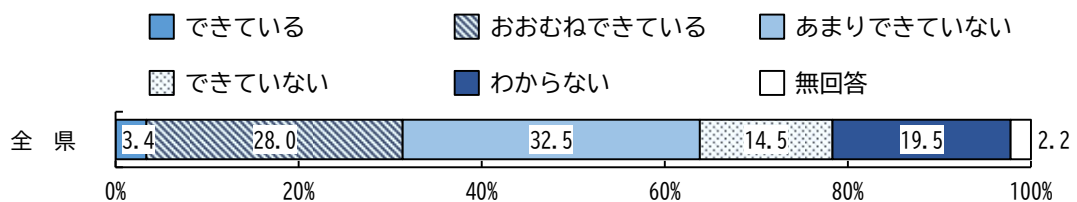
※「有徳の人」の具体例

①様々なことに興味・関心を持ちながら、自らの個性を生かし、自らの知性・感性や身体能力等を高めるために努力し続ける人(見識を高める努力をする人、自分なりに勉強やスポーツを頑張る人、興味を持って文化・芸術に接する人、他人の協力を得て自分のやりたいことに打ち込む人 など)

②生き方や価値観の違いを認め合い、他人を思いやる気持ちはもとより、自分や自分の住んでいる地域、人だけでなくモノや自然などを大切にする姿勢を磨き続ける人(何事にも感謝の気持ちを大切にする人、社会人としての規律を守る人、他人の立場を尊重し他人のことを思いやる人、困っている人に手を差し伸べる人 など)

③自らの個性を生かし、自他を大切にする心を持って、時には助け合いながら、社会や人のために行動する人(科学の才能を社会の発展に生かす人、スポーツ選手として元気を与える人、ボランティア活動を行う人、地域で子どもの見守りをする人 など)

【 有徳の人づくり 】

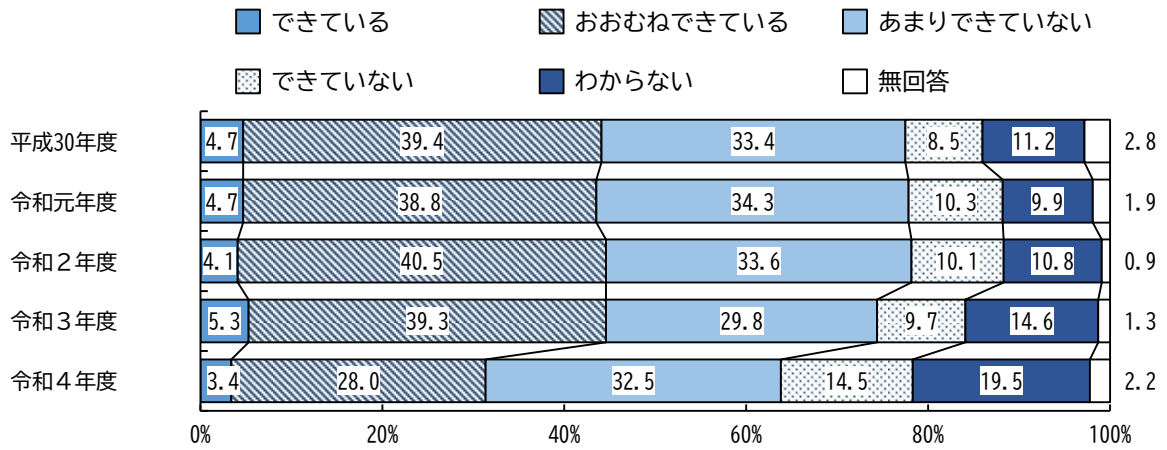


「有徳の人」としての行動については、「あまりできていない」(32.5%)が最も多く、以下「おおむねできている」(28.0%)、「わからない」(19.5%)、「できていない」(14.5%)、「できている」(3.4%)となっている。「できている」(3.4%)と「おおむねできている」(28.0%)を合わせた31.4%が“できている”と回答し、「あまりできていない」(32.5%)と「できていない」(14.5%)を合わせた47.0%は“できていない”と回答している。

【過去の調査との比較】（図2-30）

平成30年度以降の推移でみると、「有徳の人」として行動できていると思う人の割合は、前年度までは大きな差はみられなかったが、今年度（31.4%）は前年度（44.6%）と比較して、13.2ポイント下回っている。

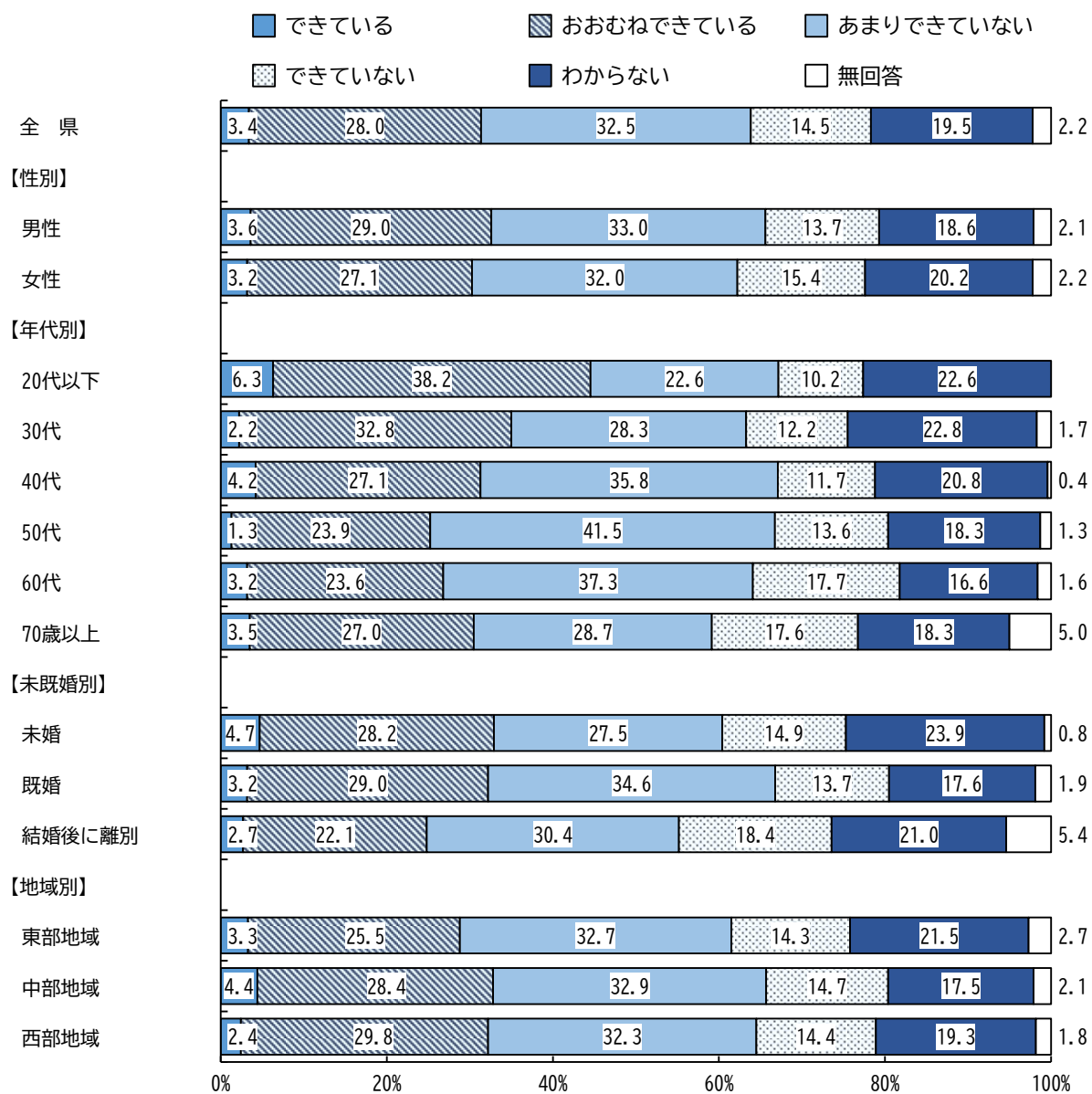
【 図2-30 有徳の人づくり 経年比較 】



【属性による比較】（図2-31）

性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。
 年代別でみると、『20代以下』は、“できている”（44.5%）が全体と比較して高くなっている。
 また、『50代』、『60代』は、“できていない”が全体と比較して高くなっている。

【 図2-31 有徳の人づくり 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



(2) 地域コミュニティの活性化

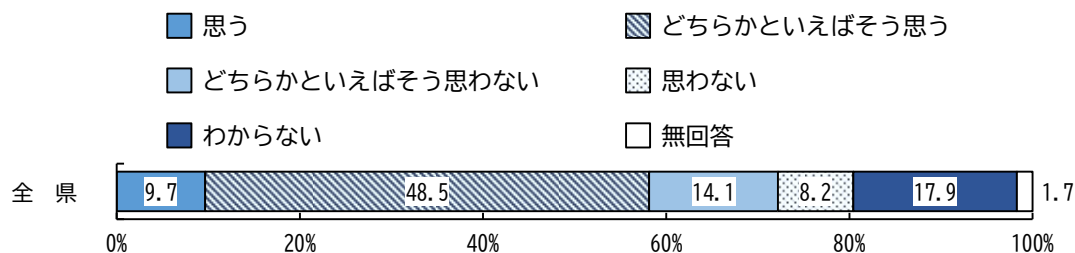
—— 地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると

「思う」人は58.2% 「思わない」人は22.3% ——

Q 8 あなたのお住まいの地域は、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思いますか。(○は1つ)

※「地域の絆や支え合い」…地域の防災や防犯、環境美化、高齢者の見守り等の福祉などを含む、幅広い住民のふれあいや助け合いの仕組みのことをいいます。

【 地域コミュニティの活性化 】

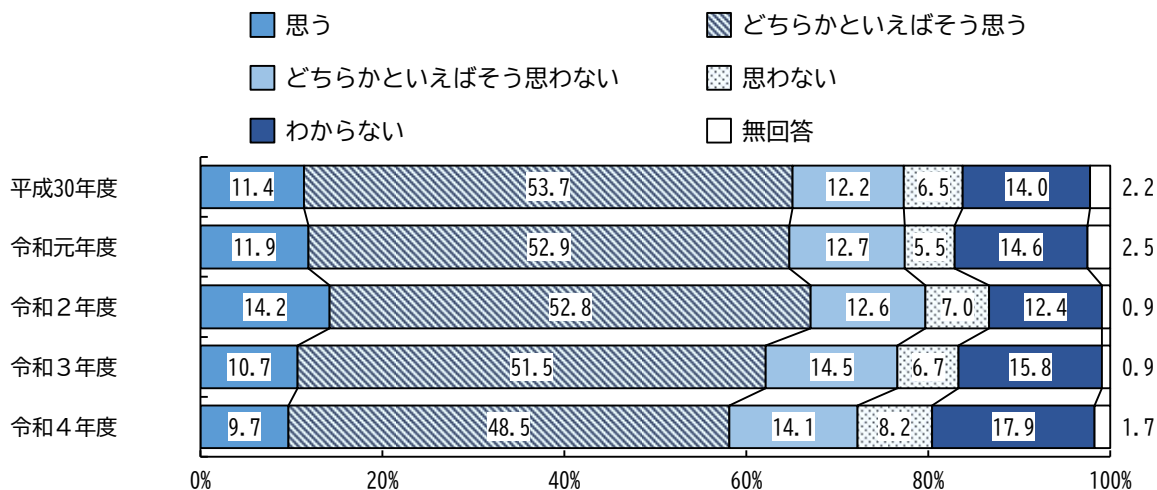


地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思うかについては、「どちらかといえばそう思う」(48.5%)が最も多く、以下「わからない」(17.9%)、「どちらかといえばそう思わない」(14.1%)、「思う」(9.7%)、「思わない」(8.2%)となっている。「思う」(9.7%)と「どちらかといえばそう思う」(48.5%)を合わせた58.2%が、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると“思う”と回答し、「どちらかといえばそう思わない」(14.1%)と「思わない」(8.2%)を合わせた22.3%は、“思わない”と回答している。

【過去の調査との比較】(図2-32)

平成30年度以降の推移でみると、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思う人の割合は、今年度(58.2%)は前年度(62.2%)と比較して4.0ポイント下回っている。

【 図2-32 地域コミュニティの活性化 経年比較 】



【属性による比較】（図2-33）

性別でみると、大きな差はみられない。

年代別でみると、『60代』は、“思う”（66.2%）が全体と比較して高くなっている。

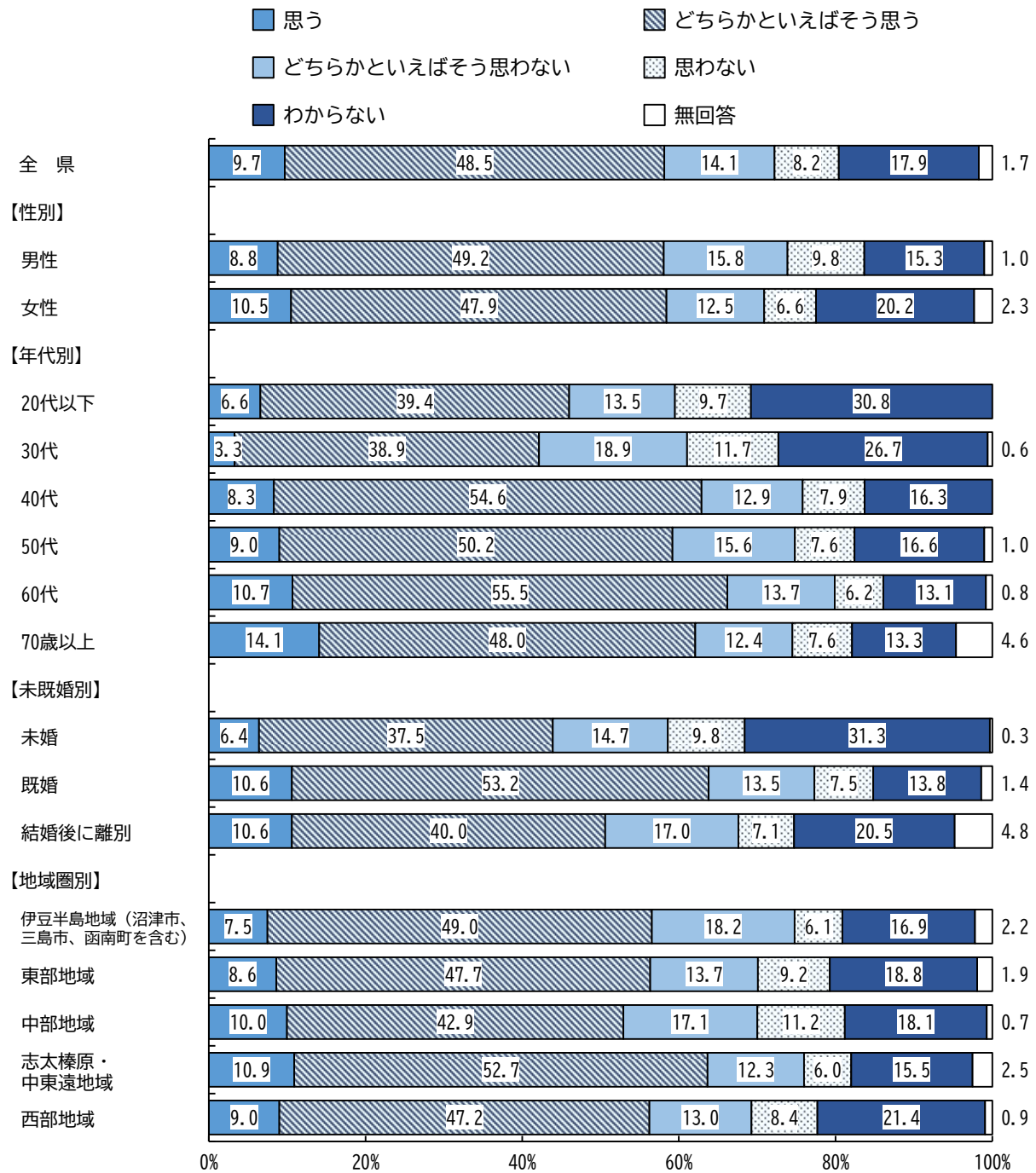
また、『30代』は、“思わない”（30.6%）が全体と比較して高くなっている。

未既婚別でみると、『既婚』は、“思う”（63.8%）が全体と比較して高くなっている。

地域圏別でみると、『志太榛原・中東遠地域』は、“思う”（63.6%）が全体と比較して高くなっている。

また、『中部地域』は、“思わない”（28.3%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-33 地域コミュニティの活性化 性別、年代別、未既婚別、地域圏別 】



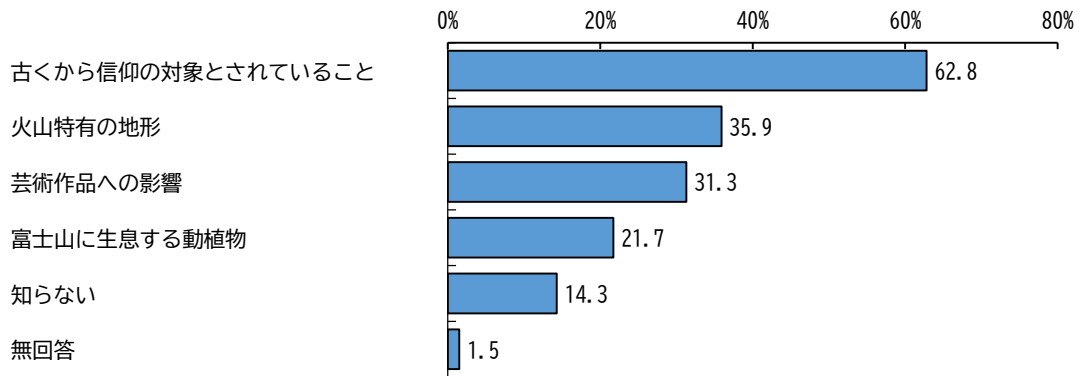
(3) 富士山の世界文化遺産としての価値の理解

— 「古くから信仰の対象とされていること」が62.8%、「火山特有の地形」が35.9%

「知らない」は14.3% —

Q 9 富士山は世界遺産として大きく2つの価値が認められました。あなたは、次のうち、どれが認められたと思いますか。(〇は2つ)

【 富士山の世界文化遺産としての価値の理解 】



※令和2年度より回答制限が「〇はいくつでも」から「〇は2つ」に変更。

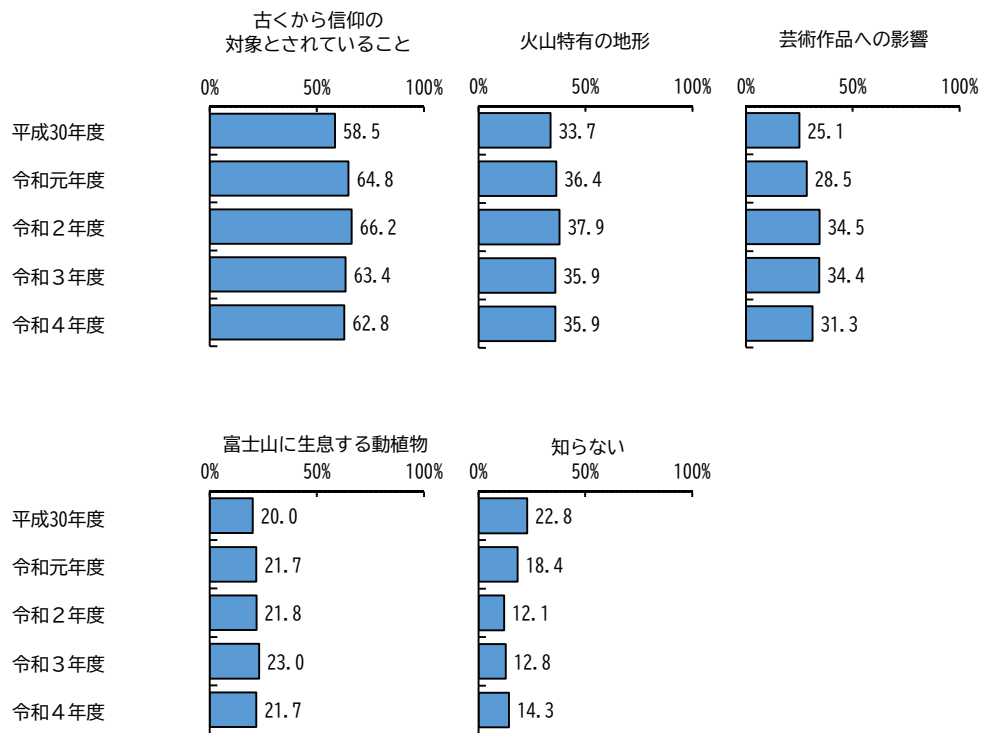
認められた価値は、「古くから信仰の対象とされていること」及び「芸術作品への影響」。

富士山の世界遺産としての価値の理解については、「古くから信仰の対象とされていること」(62.8%)が最も多く、以下「火山特有の地形」(35.9%)、「芸術作品への影響」(31.3%)、「富士山に生息する動植物」(21.7%)となっている。また、「知らない」は14.3%となっている。

【過去の調査との比較】（図2-34）

平成30年度以降の推移でみると、大きな差はみられなかった。

【 図2-34 富士山の世界文化遺産としての価値の理解 経年比較 】



【属性による比較】（図2-35）

性別でみると、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』、『30代』は、「芸術作品への影響」が全体と比較して高くなっている。

また、『30代』は、「古くから信仰の対象とされていること」（68.9%）が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「火山特有の地形」（47.0%）が全体と比較して高くなっている。

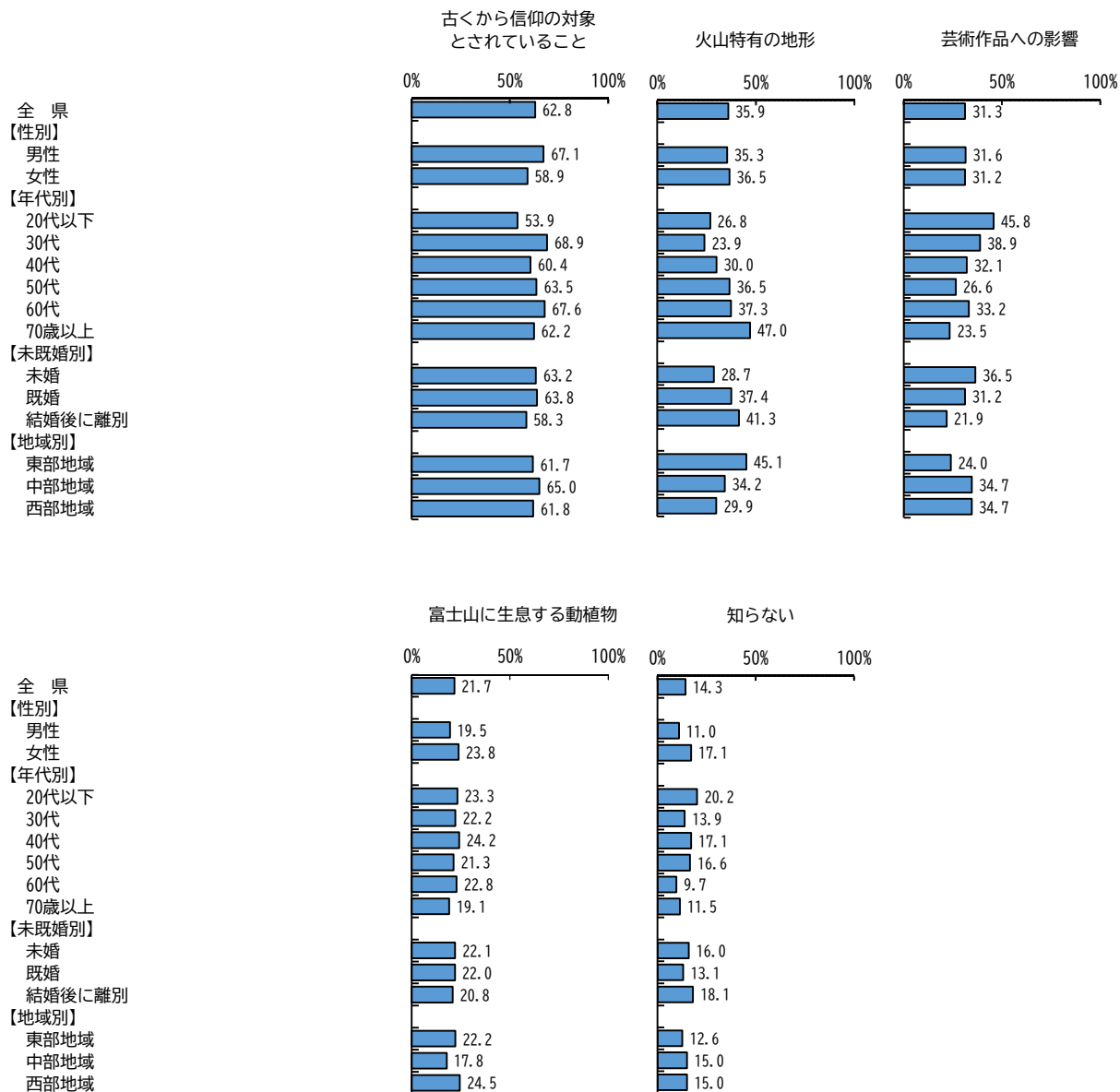
また、『20代以下』は、「知らない」（20.2%）が全体と比較して高くなっている。

未既婚別でみると、『未婚』は、「芸術作品への影響」（36.5%）が全体と比較して高くなっている。

また、『結婚後に離別』は、「火山特有の地形」（41.3%）が全体と比較して高くなっている。

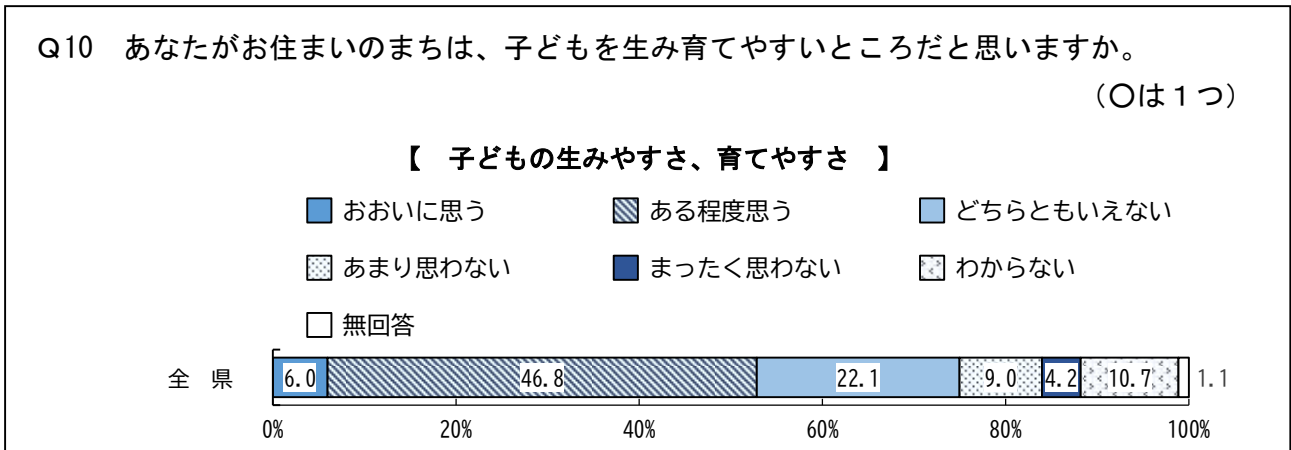
地域別でみると、『東部地域』は、「火山特有の地形」（45.1%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-35 富士山の世界文化遺産としての価値の理解 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



(4) 子どもの生みやすさ、育てやすさ

— 子どもを生み、育てやすいと「思う」人は52.8% 「思わない」人は13.2% —

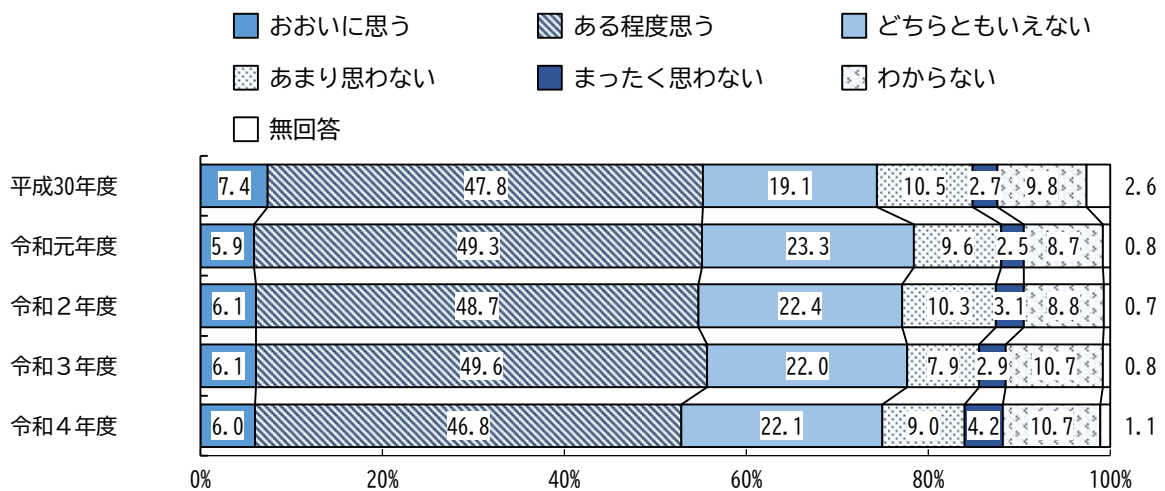


子どもの生みやすさ、育てやすさについては、「ある程度思う」(46.8%)が最も多く、以下「どちらともいえない」(22.1%)、「わからない」(10.7%)、「あまり思わない」(9.0%)、「おおいに思う」(6.0%)、「まったく思わない」(4.2%)となっている。「おおいに思う」(6.0%)と「ある程度思う」(46.8%)を合わせた52.8%が、子どもを生み、育てやすいところだと“思う”と回答し、「あまり思わない」(9.0%)と「まったく思わない」(4.2%)を合わせた13.2%は、子どもを生み、育てやすいところだとは“思わない”と回答している。

【過去の調査との比較】(図2-36)

平成30年度以降の推移でみると、子どもを生み、育てやすいところだと“思う”人の割合は毎年度5割台で推移している。

【 図2-36 子どもの生みやすさ、育てやすさ 経年比較 】



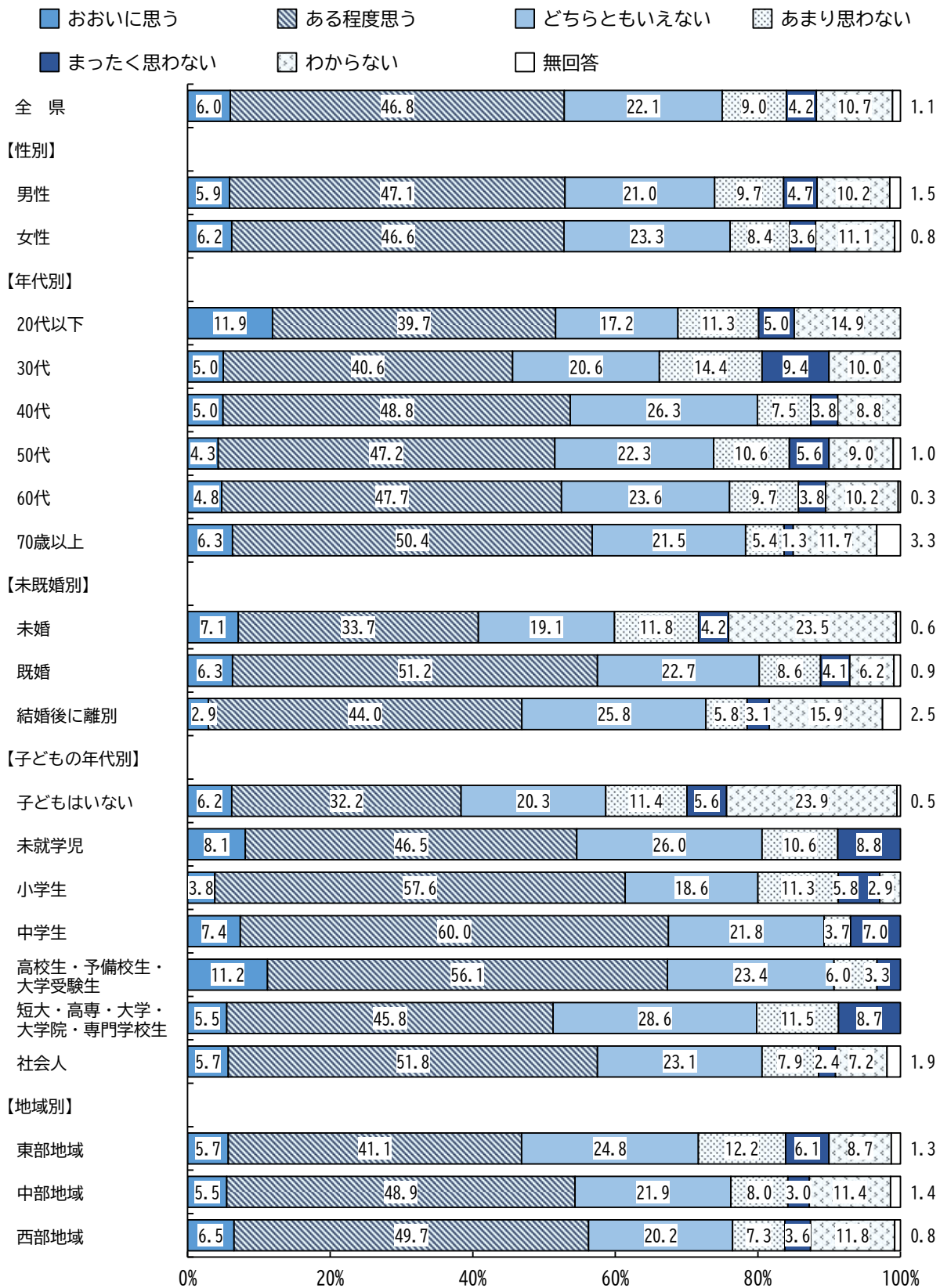
【属性による比較】（図2-37）

性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『30代』は、“思わない”（23.8%）が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『小学生』、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』は、“思う”が全体と比較して高くなっている。

【 図2-37 子どもの生みやすさ、育てやすさ 性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域別 】



(5) 子どもをはぐくむ活動

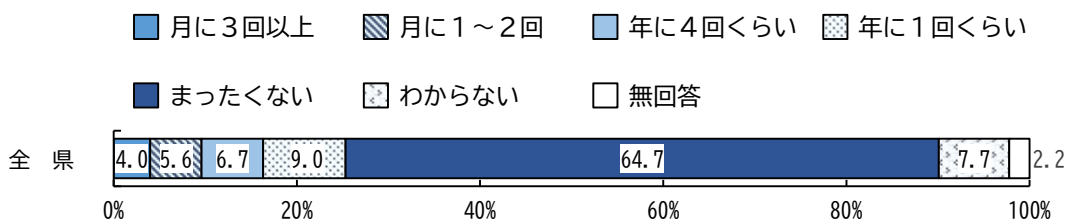
— 子どもをはぐくむ活動を「している」人は25.3% 「していない」人は64.7% —

Q11 あなたは、この1年でどのくらい、次にあげるような「子どもをはぐくむ活動」に参加しましたか。(〇は1つ)

※「子どもをはぐくむ活動」の例

- ・PTAや健全育成会、子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、子育てサークル等の活動（役員活動だけではなく、保護者やボランティア等としての参加や活動の手伝いも含む）
- ・学校支援活動や地域における活動（授業や学校行事への協力、部活動支援、放課後の学習支援、放課後子供教室、体験学習、郷土学習、花壇整備、登下校見守り、本の読み聞かせ など）

【 子どもをはぐくむ活動 】

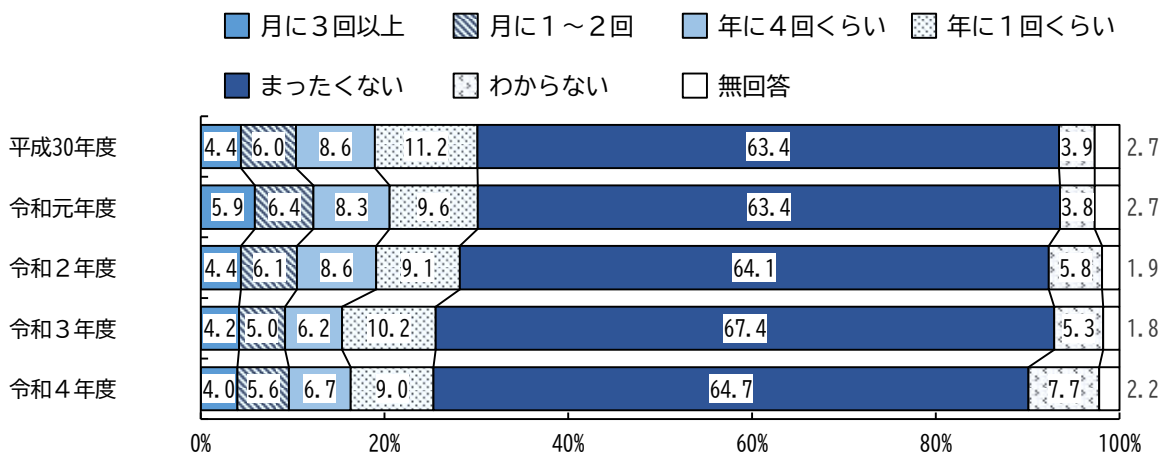


子どもをはぐくむ活動については、「まったくない」(64.7%)が最も多く、以下「年に1回くらい」(9.0%)、「わからない」(7.7%)、「年に4回くらい」(6.7%)、「月に1~2回」(5.6%)となっている。「月に3回以上」(4.0%)、「月に1~2回」(5.6%)、「年に4回くらい」(6.7%)、「年に1回くらい」(9.0%)を合わせた25.3%が子どもをはぐくむ活動を“している”と回答しており、「まったくない」(64.7%)の半数以下となっている。

【過去の調査との比較】(図2-38)

平成30年度以降の推移でみると、子どもをはぐくむ活動を“している”人の割合は、減少傾向にあり、今年度(25.3%)は前年度(25.6%)を0.3ポイント下回っている。

【 図2-38 子どもをはぐくむ活動 経年比較 】



【属性による比較】（図2-39）

性別、地域別では、大きな差はみられない。

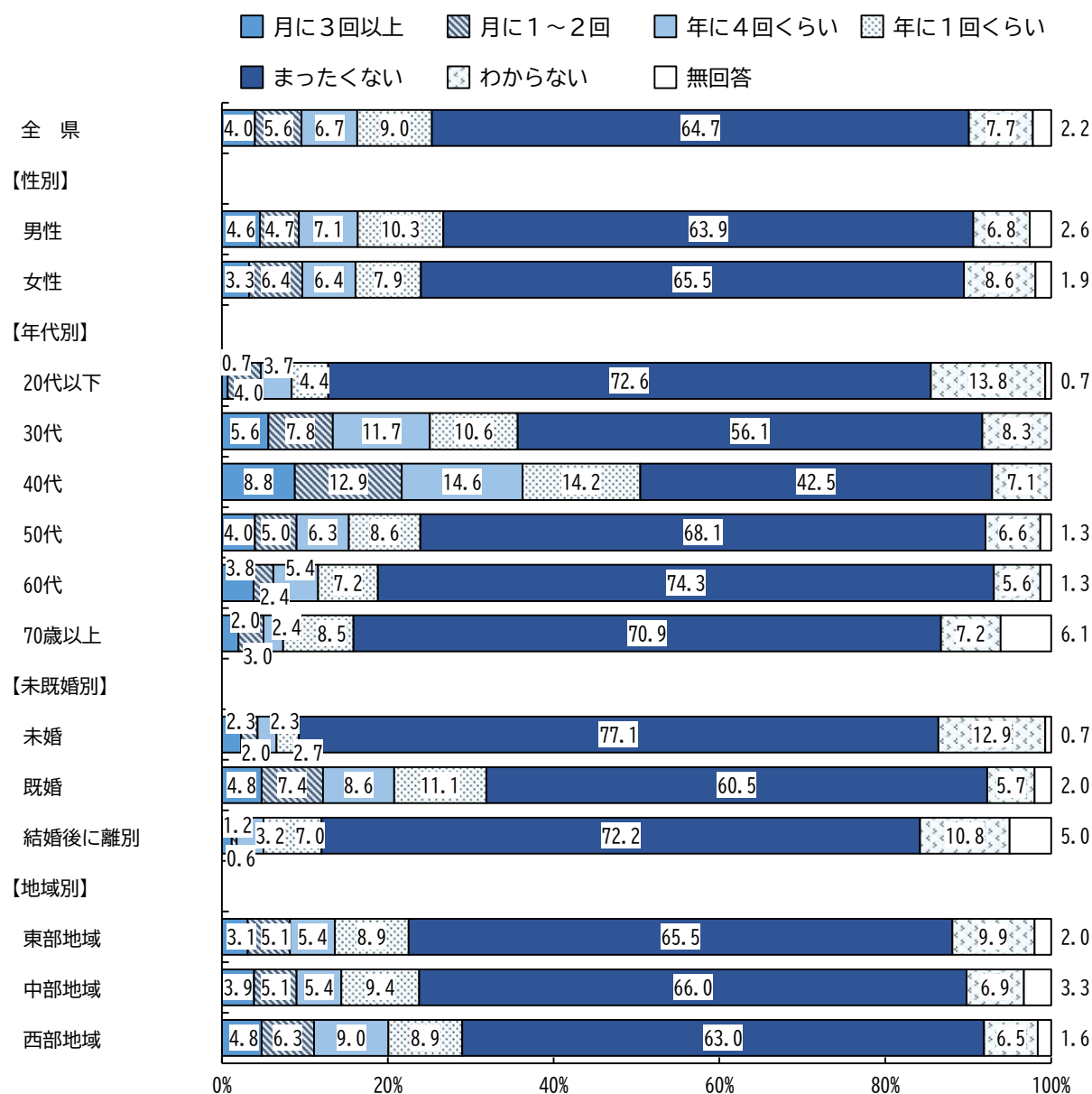
年代別でみると、『30代』、『40代』は、子どもをはぐくむ活動を“している”が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『60代』、『70歳以上』は、「まったくない」が全体と比較して高くなっている。

未既婚別でみると、『既婚』は、子どもをはぐくむ活動を“している”（31.9%）が全体と比較して高くなっている。

また、『未婚』、『結婚後に離別』は、「まったくない」が全体と比較して高くなっている。

【 図2-39 子どもをはぐくむ活動 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



(6) 住宅・住環境の満足度

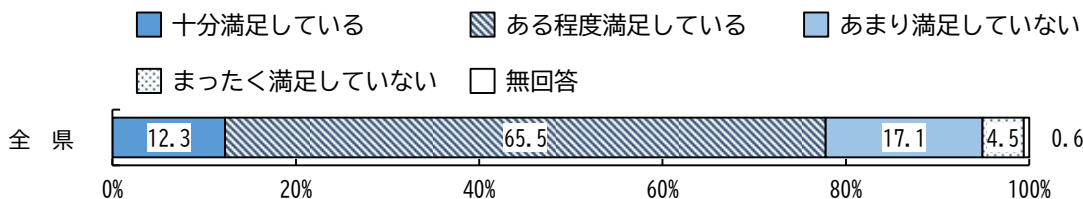
—— 住宅と住宅のまわりの環境に、「満足している」人は77.8%

「満足していない」人は21.6% ——

Q12 あなたは、現在お住まいの住宅と、住宅のまわりの環境について、どの程度満足していますか。(〇は1つ)

※「住宅のまわりの環境」…敷地や近隣だけでなく、歩いて回れる程度の地域の居住環境を含みます。

【 住宅・住環境の満足度 】

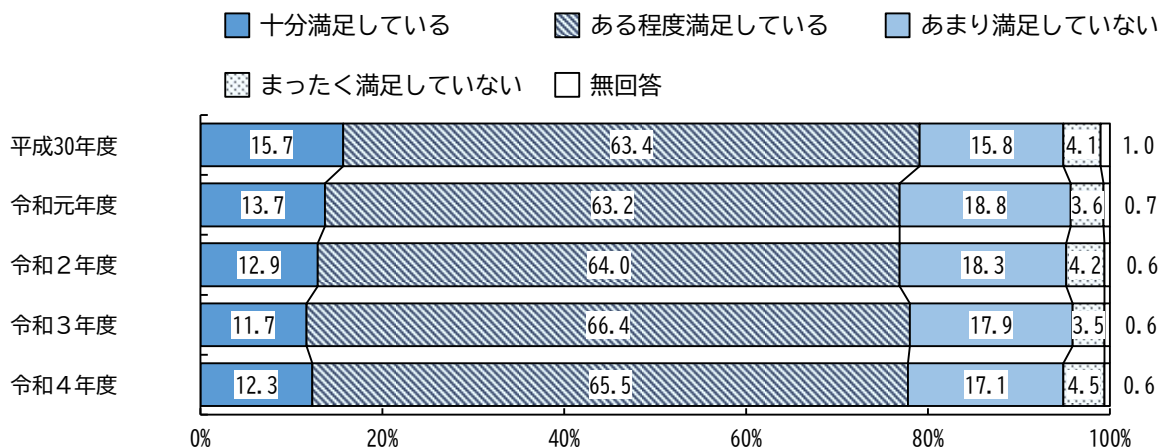


住宅と住宅のまわりの環境に対する満足度は、「ある程度満足している」(65.5%)が最も多く、以下「あまり満足していない」(17.1%)、「十分満足している」(12.3%)、「まったく満足していない」(4.5%)となっている。「十分満足している」(12.3%)と「ある程度満足している」(65.5%)を合わせた77.8%が“満足している”と回答している。

【過去の調査との比較】(図2-40)

平成30年度以降の推移でみると、“満足している”人の割合は7割台で推移している。

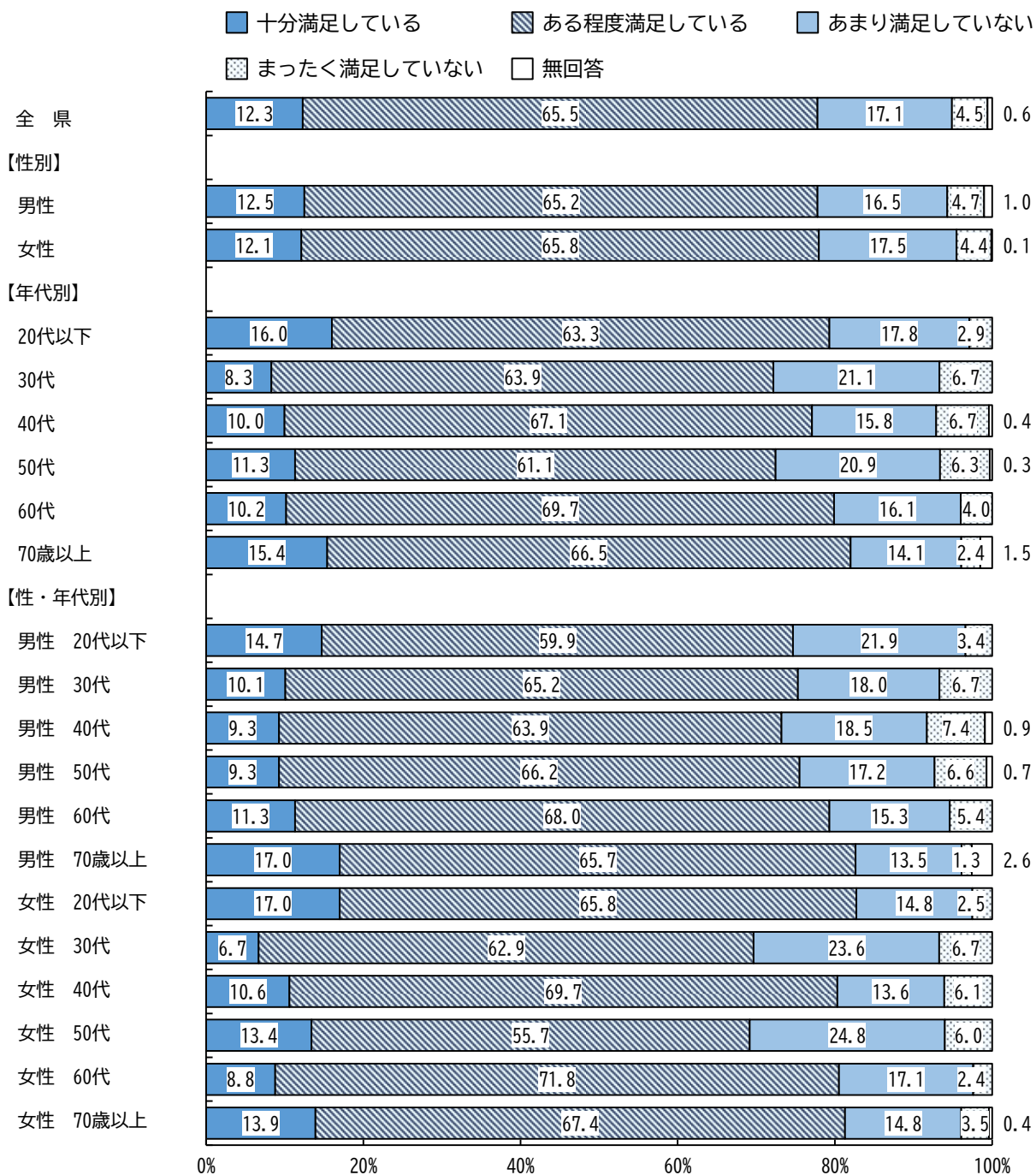
【 図2-40 住宅・住環境の満足度 経年比較 】



【属性による比較】（図2-41、図2-42）

性別、未既婚別、本人具体的職業別、住居形態別、地域別では、大きな差はみられない。
 年代別でみると、『30代』、『50代』は、“満足していない”が全体と比較して高くなっている。
 性・年代別でみると、『女性20代以下』は、“満足している”（82.8%）が全体と比較して高くなっている。
 また、『女性30代』、『女性50代』は、“満足していない”が全体と比較して高くなっている。
 子どもの年代別でみると、『中学生』は、“満足していない”（29.6%）が全体と比較して高くなっている。

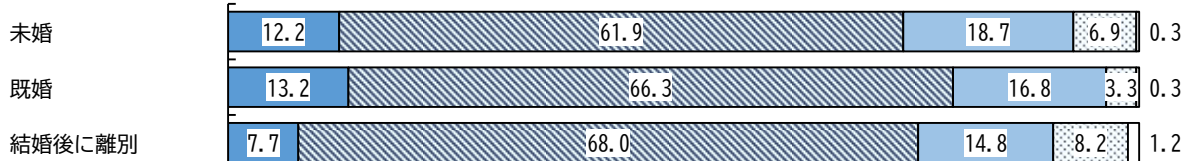
【 図2-41 住宅・住環境の満足度 性別、年代別、性・年代別 】



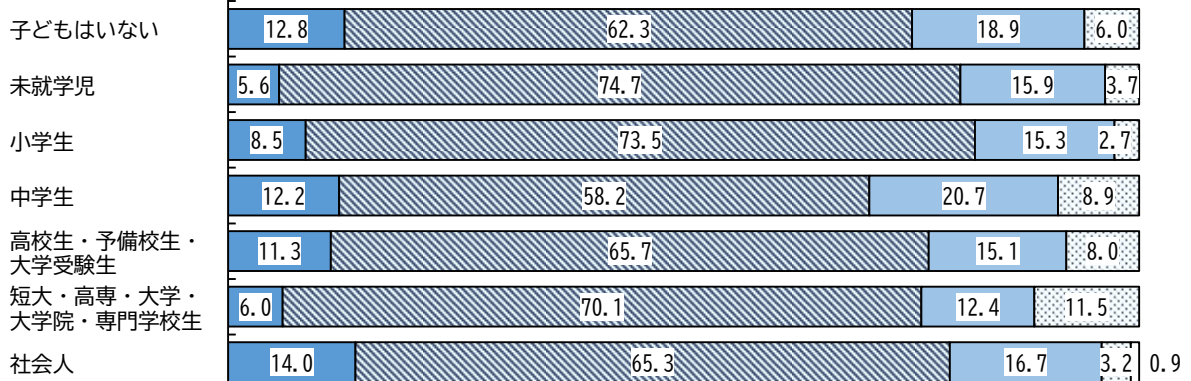
【 図2-42 住宅・住環境の満足度 未既婚別、子どもの年代別、本人具体的職業別、住居形態別、地域別 】

十分満足している
 ある程度満足している
 あまり満足していない
 まったく満足していない
 無回答

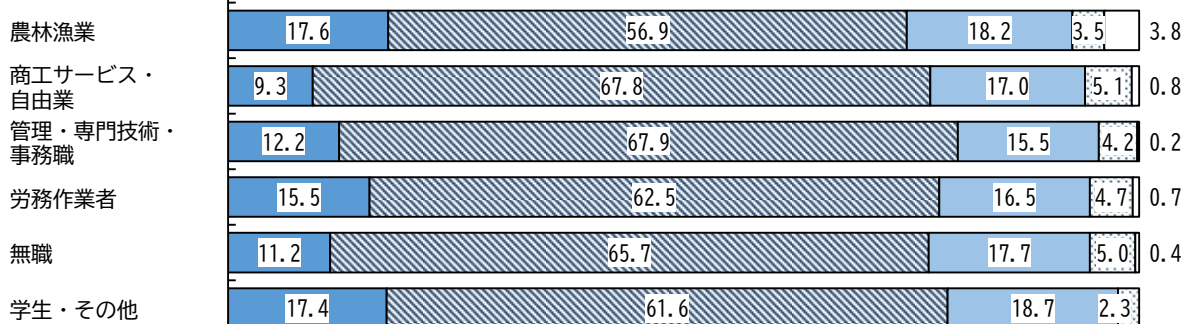
【未既婚別】



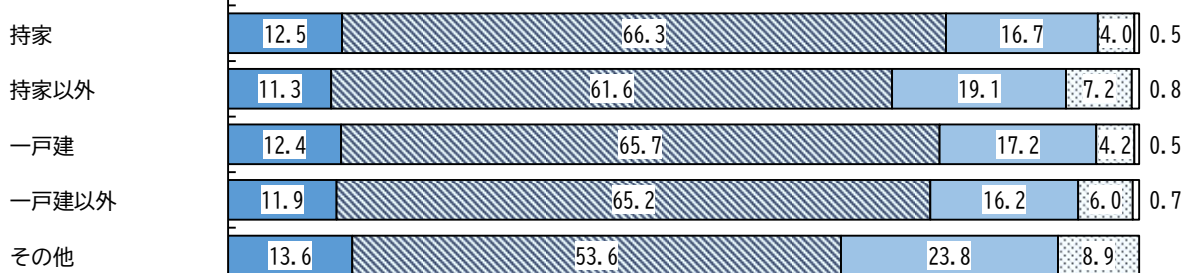
【子どもの年代別】



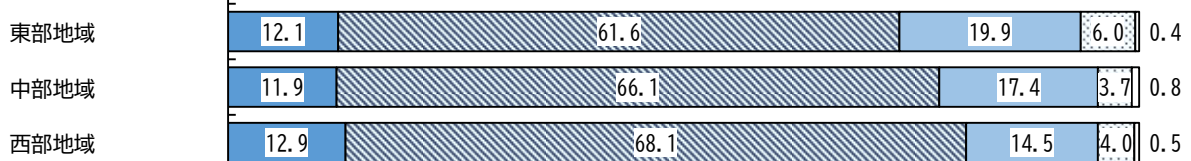
【本人具体的職業別】



【住居形態別】



【地域別】



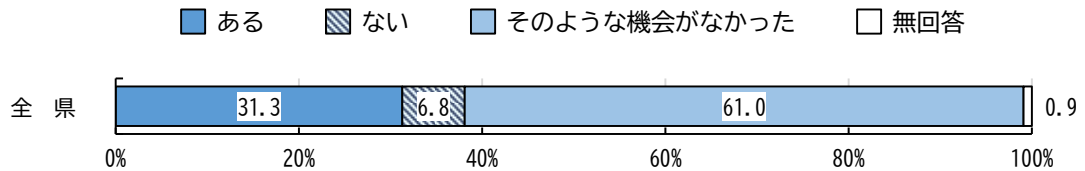
0% 20% 40% 60% 80% 100%

(7) 心のユニバーサルデザインの実践

— 困っている人に声をかけたことが「ある」人は31.3% 「ない」人は6.8% —

Q13 あなたは、この1年間に、困っている人を見かけた際に声をかけたことがありますか。困っている人を見かけなかった方は「3 そのような機会がなかった」を選んでください。(〇は1つ)

【 心のユニバーサルデザインの実践 】

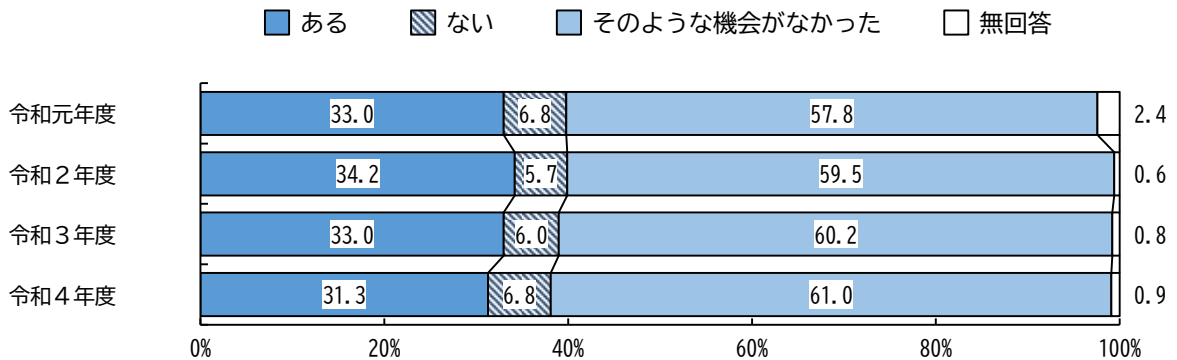


心のユニバーサルデザインの実践については、困っている人に声をかけたことが「ある」と回答した割合は31.3%で、「ない」と回答した割合は6.8%となっている。なお、「そのような機会がなかった」は61.0%となっている。

【過去の調査との比較】(図2-43)

令和元年度以降の推移でみると、心のユニバーサルデザインを実践している人の割合は3割台で推移している。

【 図2-43 心のユニバーサルデザインの実践 経年比較 】



【属性による比較】（図2-44）

性別、地域別では、大きな差はみられない。

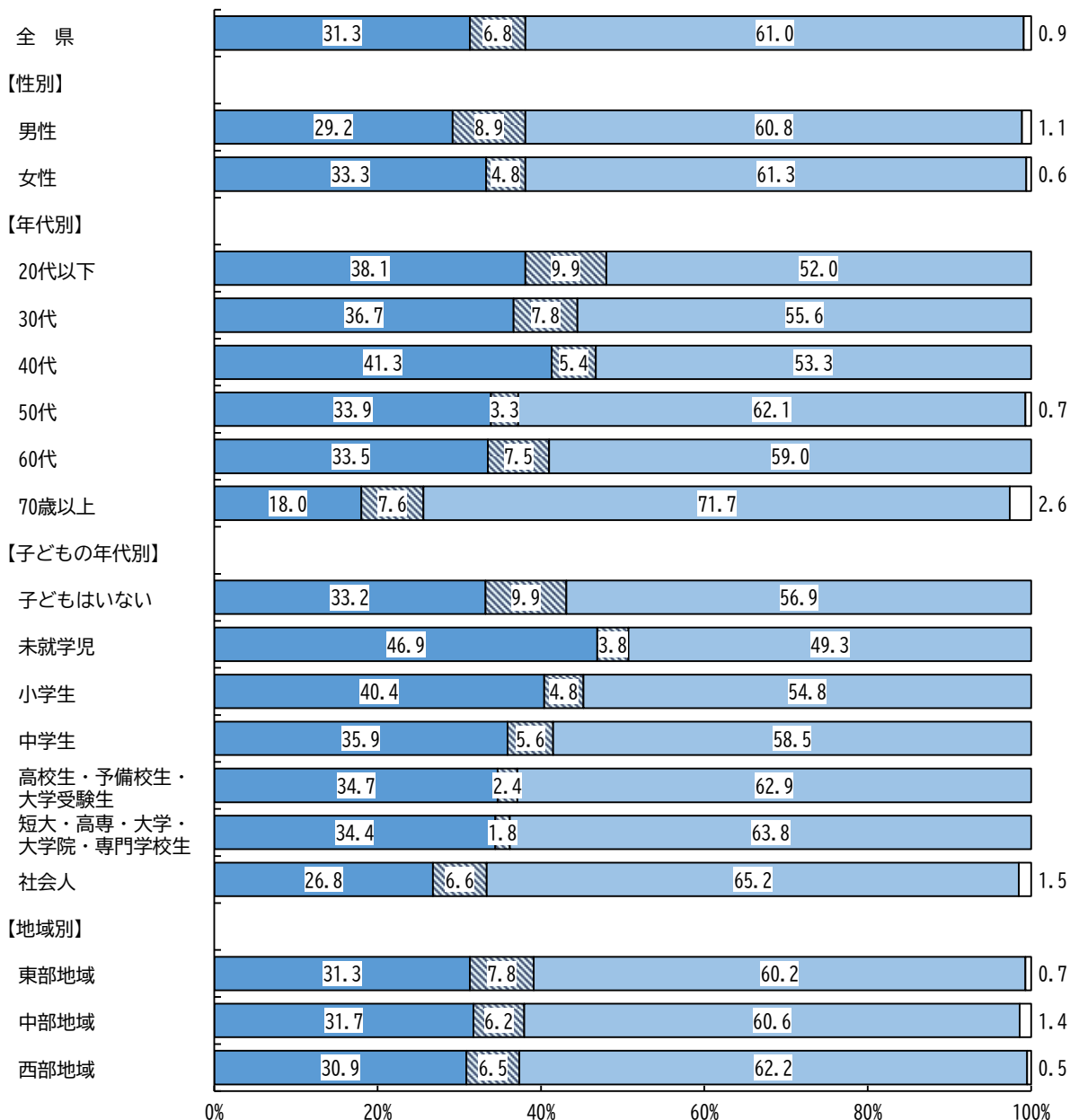
年代別でみると、『20代以下』、『30代』、『40代』は、「ある」が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「そのような機会がなかった」（71.7%）が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『未就学児』、『小学生』は、「ある」が全体と比較して高くなっている。

【 図2-44 心のユニバーサルデザインの実践 性別、年代別、子どもの年代別、地域別 】

■ある ▨ない □そのような機会がなかった □無回答



(8) 食品の安全性

—— 県内で購入する食品の安全性を「信頼できる」人は73.1%

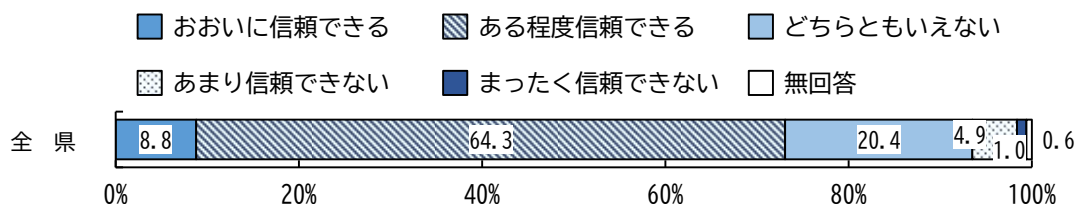
「信頼できない」人は5.9% ——

Q14 あなたは、県内で購入する食品の安全性について、どの程度信頼できると思いますか。

(○は1つ)

※「食品の安全性」…農産物など輸入食品の安全性や、遺伝子組換え食品・食品添加物・農薬などの安全性、食品表示自体の信頼性などをいいます。

【 食品の安全性 】

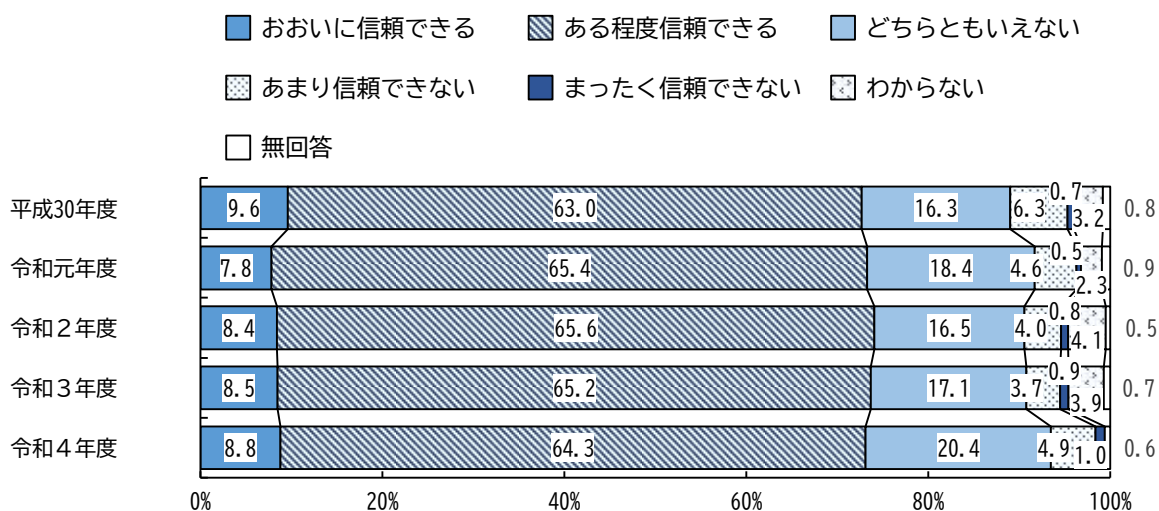


県内で購入する食品の安全性の信頼については、「ある程度信頼できる」(64.3%)が最も多く、以下「どちらともいえない」(20.4%)、「おいに信頼できる」(8.8%)、「あまり信頼できない」(4.9%)、「まったく信頼できない」(1.0%)となっている。「おいに信頼できる」(8.8%)と「ある程度信頼できる」(64.3%)を合わせた73.1%が県内で購入する食品の安全性を“信頼できる”と回答し、「あまり信頼できない」(4.9%)と「まったく信頼できない」(1.0%)を合わせた5.9%が県内で購入する食品の安全性を“信頼できない”と回答している。

【過去の調査との比較】(図2-45)

平成30年度以降の推移でみると、県内で購入する食品の安全性を“信頼できる”人の割合は、7割台で推移している。

【 図2-45 食品の安全性 経年比較 】



※令和4年度より選択肢から「わからない」を削除。

【属性による比較】（図2-46）

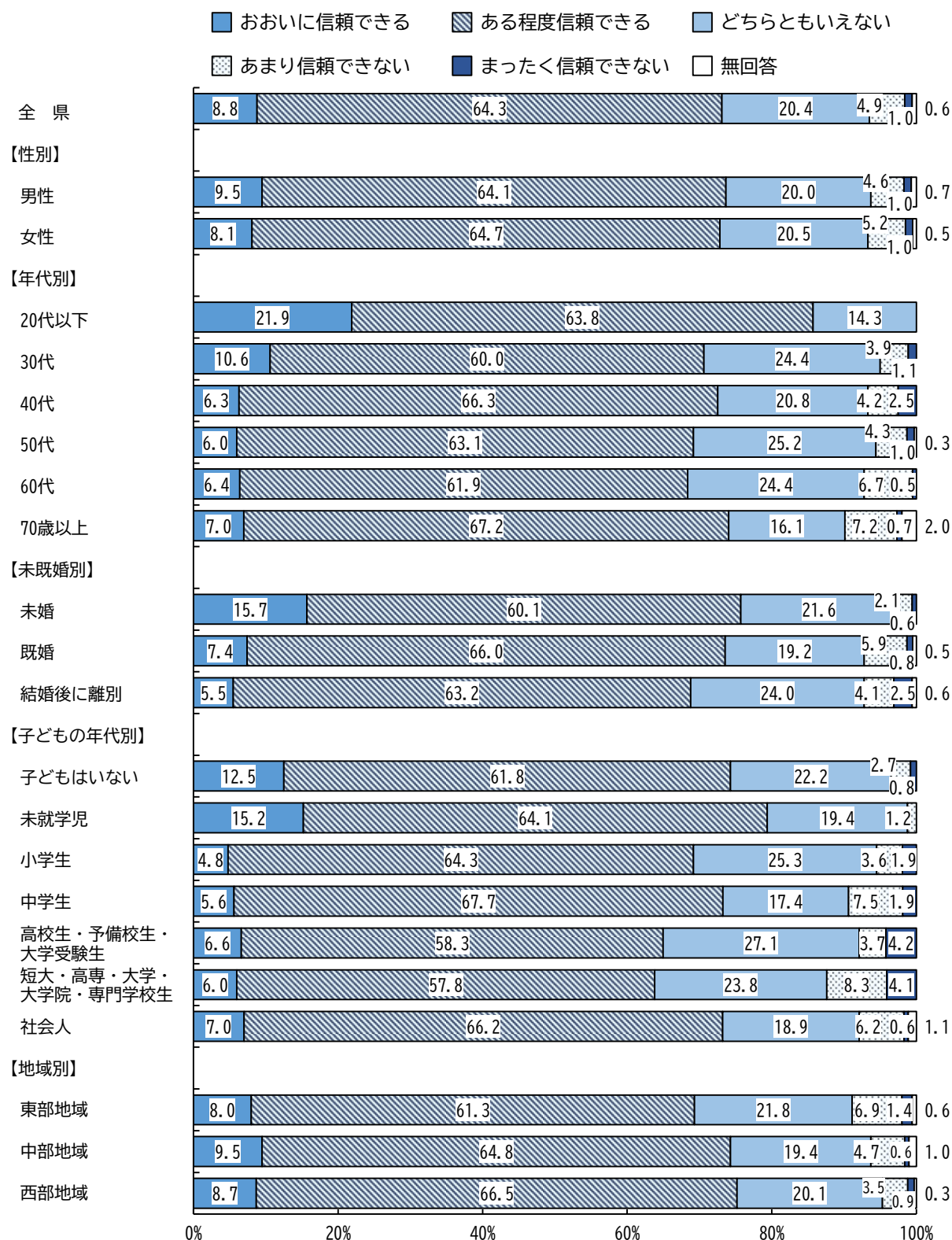
性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』は、“信頼できる”（85.7%）が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『未就学児』は、“信頼できる”（79.3%）が全体と比較して高くなっている。

また、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、“信頼できない”（12.4%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-46 食品の安全性 性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域別 】



(9) 環境保全活動の実践

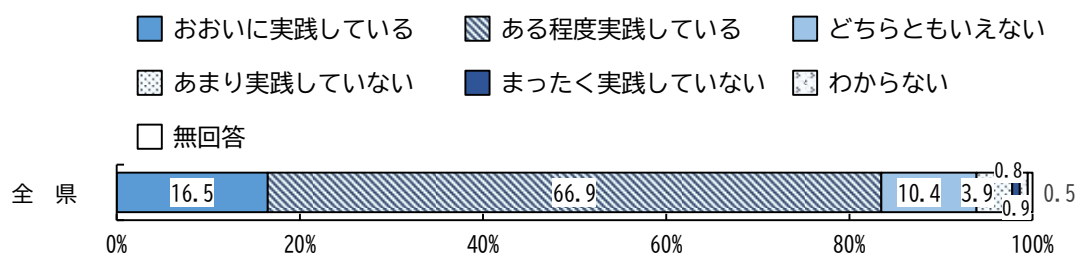
— 環境への配慮を「実践している」人は83.4% 「実践していない」人は4.7% —

Q15 あなたは、環境への配慮を実践していますか。(○は1つ)

※「環境への配慮」の例

- ・節電や節水、家庭ごみの分別、マイバッグの持参、
低燃費車や省エネ家電への切り替え、エコドライブ、清掃活動への参加、緑化など

【 環境保全活動の実践 】

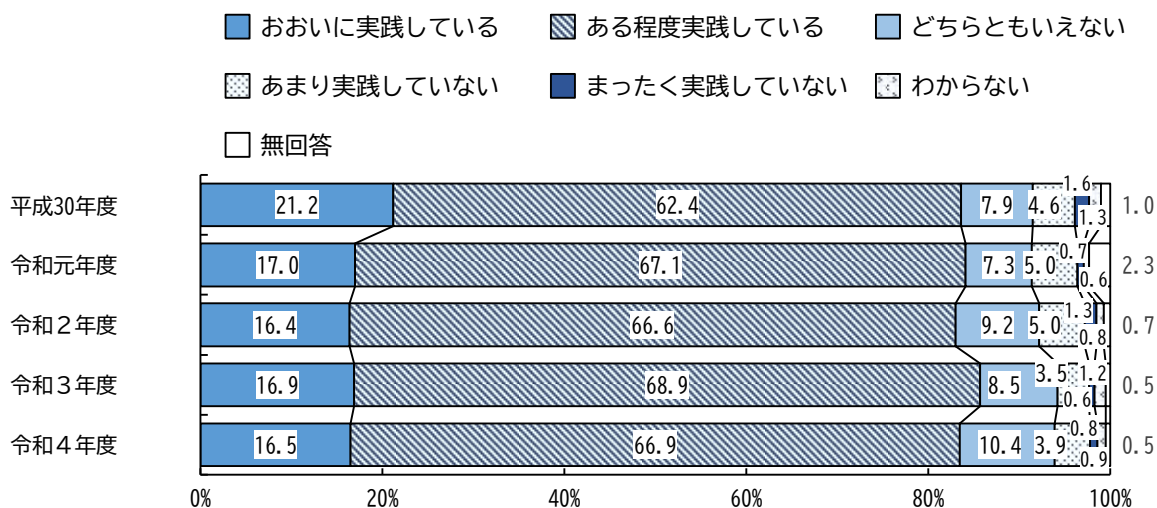


環境保全活動の実践については、「ある程度実践している」(66.9%)が最も多く、以下「おおいに実践している」(16.5%)、「どちらともいえない」(10.4%)、「あまり実践していない」(3.9%)、「わからない」(0.9%)となっている。「おおいに実践している」(16.5%)と「ある程度実践している」(66.9%)を合わせた83.4%が環境への配慮を“実践している”と回答し、「あまり実践していない」(3.9%)と「まったく実践していない」(0.8%)を合わせた4.7%は環境への配慮を“実践していない”と回答している。

【過去の調査との比較】(図2-47)

平成30年度以降の推移でみると、環境への配慮を“実践している”人の割合は毎年度8割台で推移している。

【 図2-47 環境保全活動の実践 経年比較 】

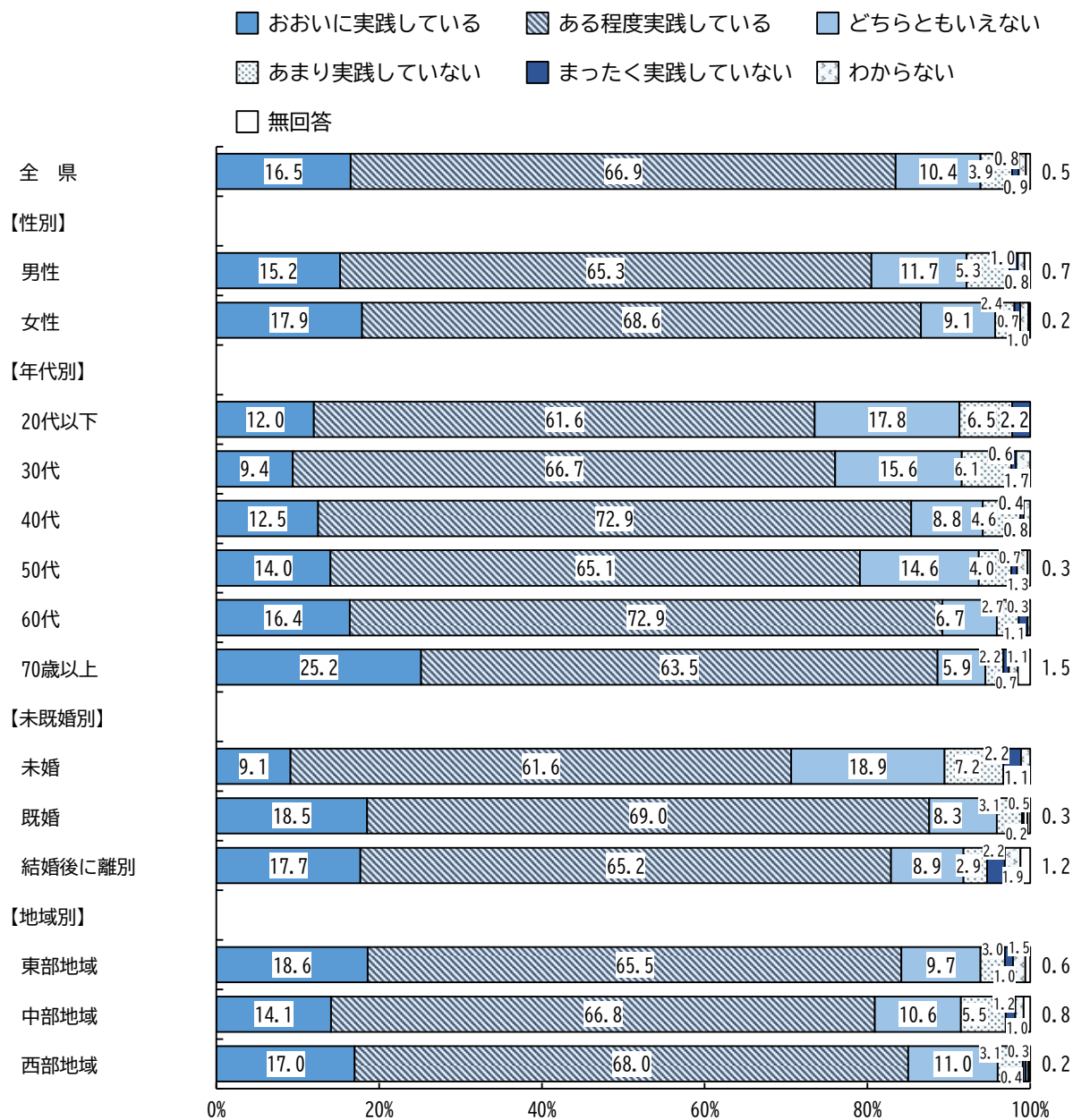


【属性による比較】（図2-48）

性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『60代』、『70歳以上』は、環境への配慮を“実践している”が全体と比較して高くなっている。

【 図2-48 環境保全活動の実践 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



(10) 県民の地域活動への参加

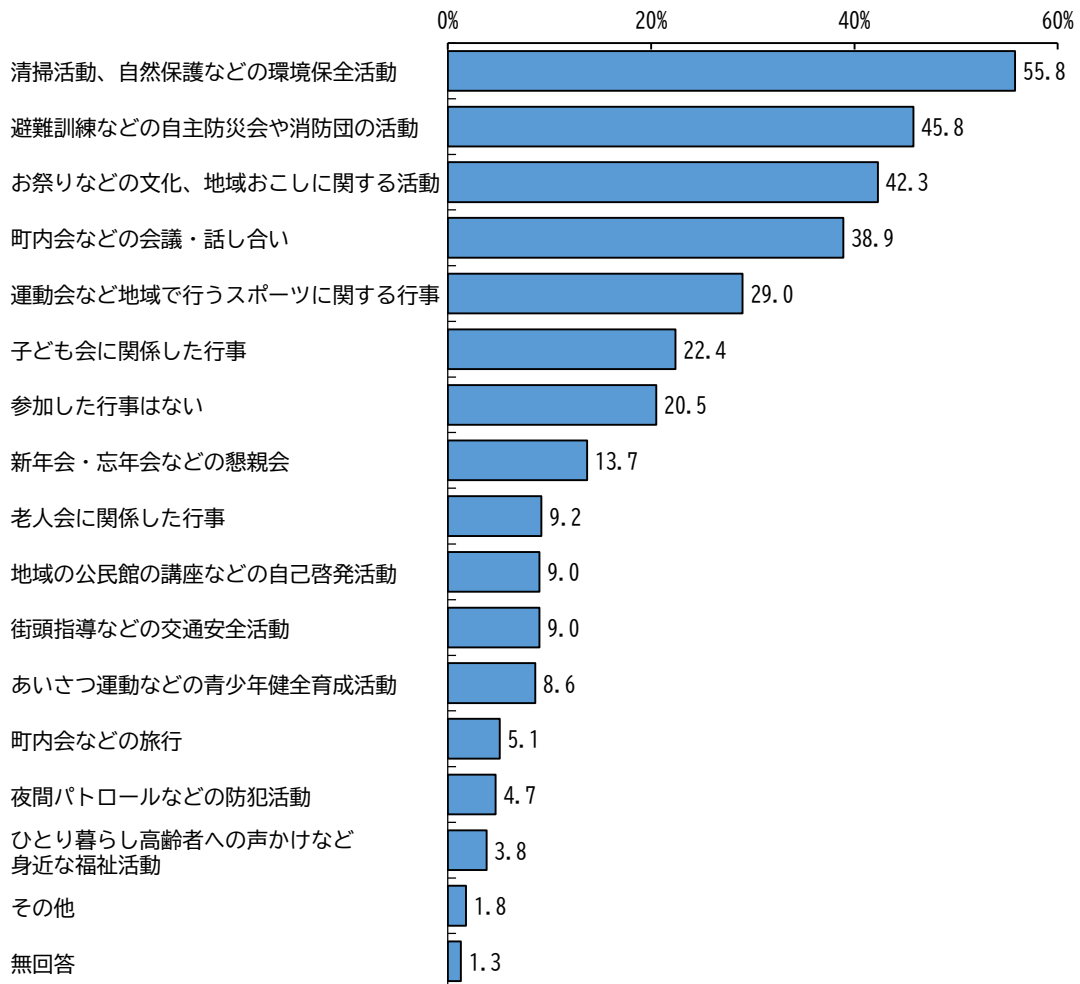
—— 「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」への参加が55.8%

「参加した行事はない」は20.5% ——

Q16 あなたは、地域のどのような行事や活動に参加したことがありますか。

(○はいくつでも)

【 県民の地域活動への参加 】

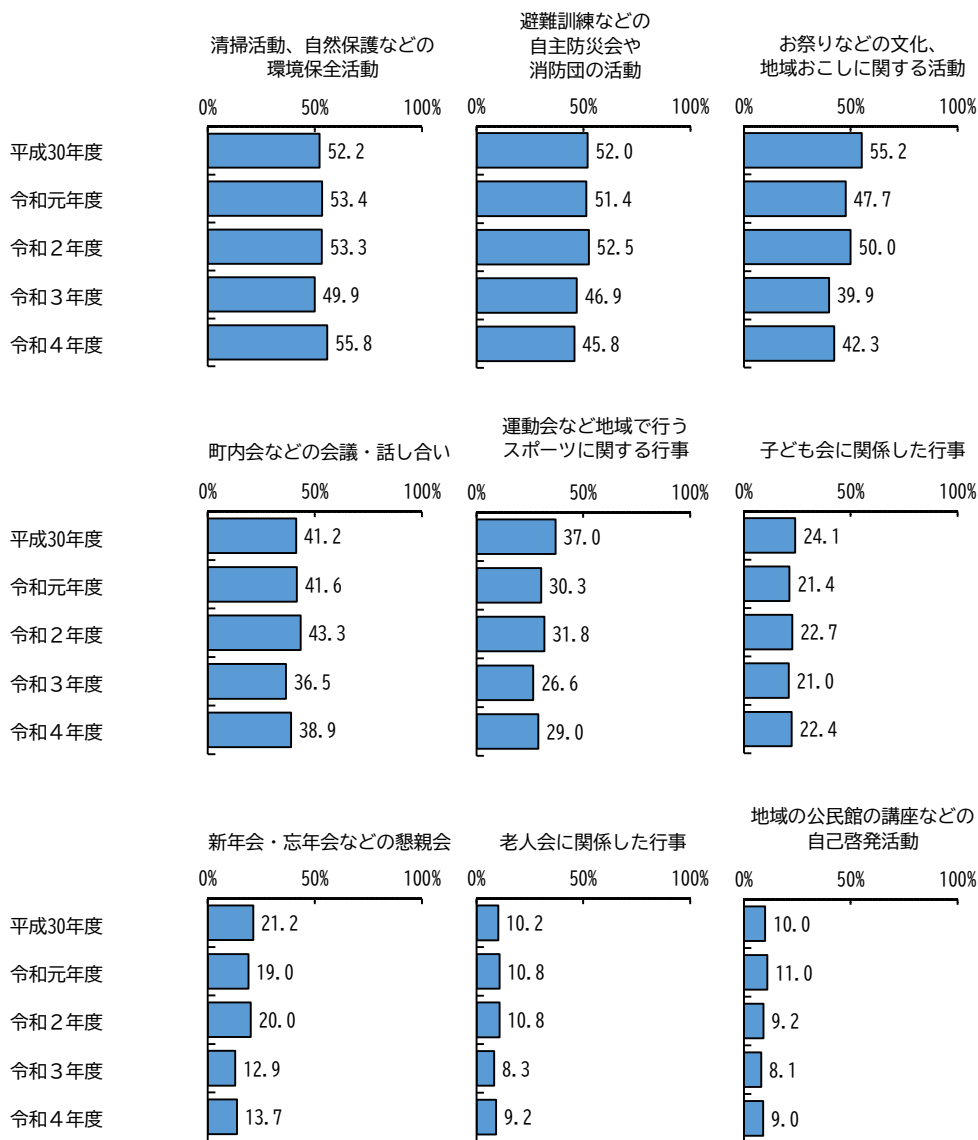


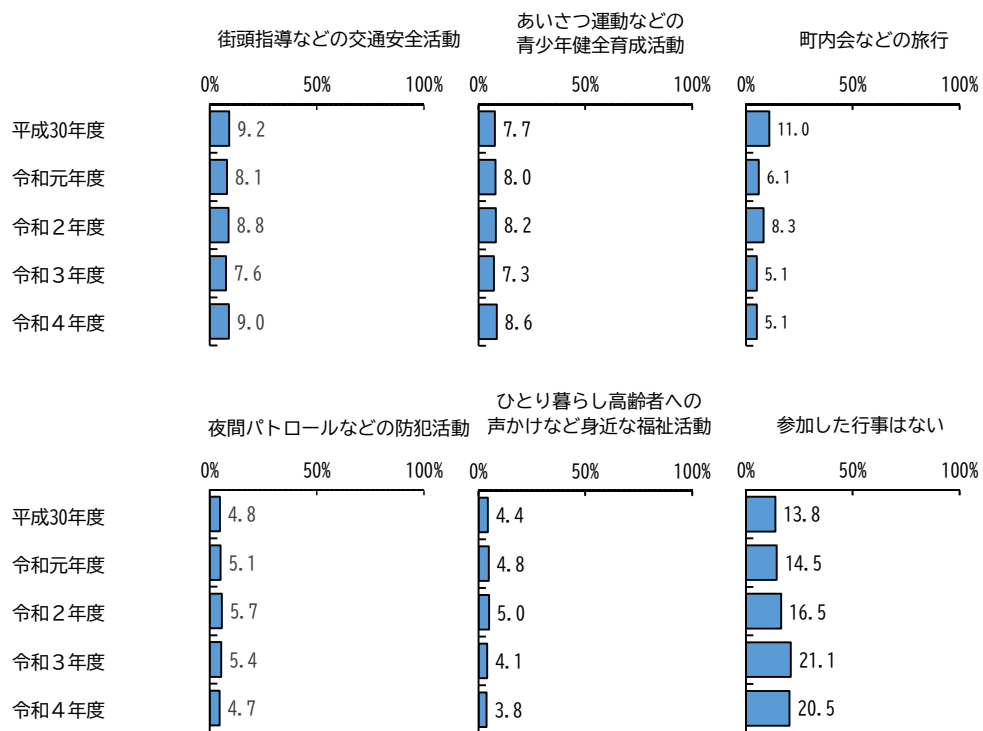
参加している地域の行事や活動については、「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」(55.8%)が最も多く、以下「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」(45.8%)、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」(42.3%)、「町内会などの会議・話し合い」(38.9%)、「運動会など地域で行うスポーツに関する行事」(29.0%)となっている。「参加した行事はない」は20.5%となっている。

【過去の調査との比較】（図2-49）

平成30年度以降の推移でみると、「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」と回答した人の割合は、今年度（55.8%）は前年度（49.9%）と比較して5.9ポイント上回っている。

【 図2-49 県民の地域活動への参加 経年比較 】





【属性による比較】（図2-50）

性別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『40代』、『50代』は、「子ども会に関係した行事」が全体と比較して高くなっている。

また、『40代』、『60代』は、「運動会など地域で行うスポーツに関する行事」が全体と比較して高くなっている。

また、『50代』、『60代』、『70歳以上』は、「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『30代』は、「参加した行事はない」が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『小学生』、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「子ども会に関係した行事」、「運動会など地域で行うスポーツに関する行事」が全体と比較して高くなっている。

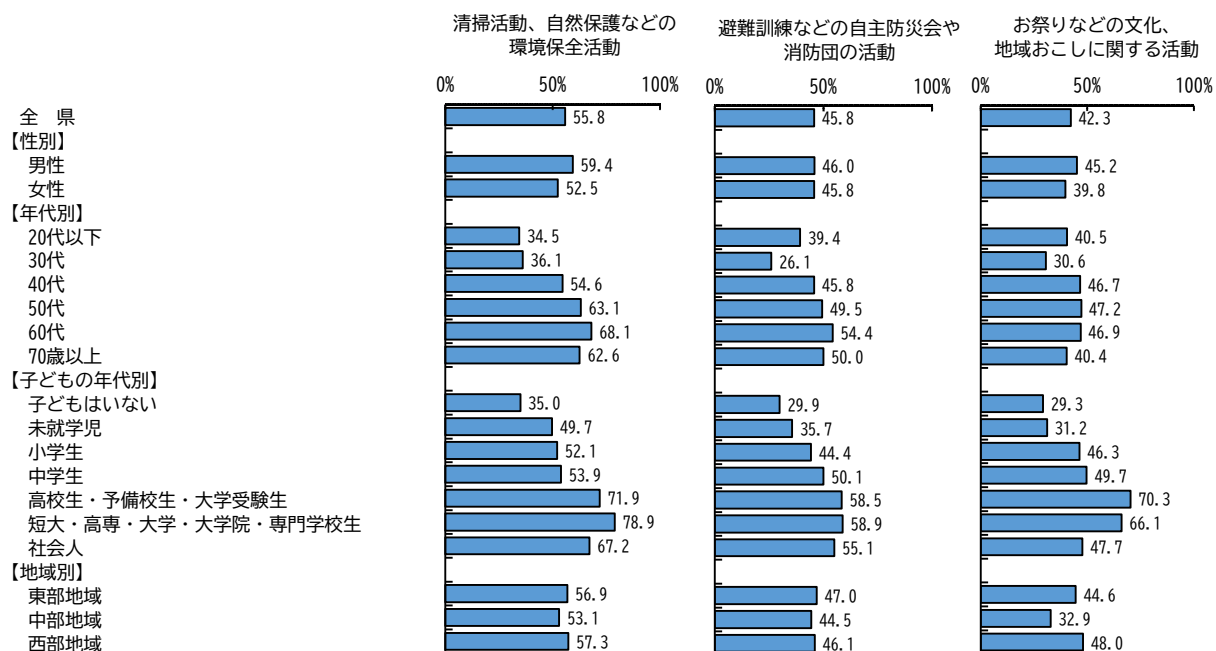
また、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』、『社会人』は、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」が全体と比較して高くなっている。

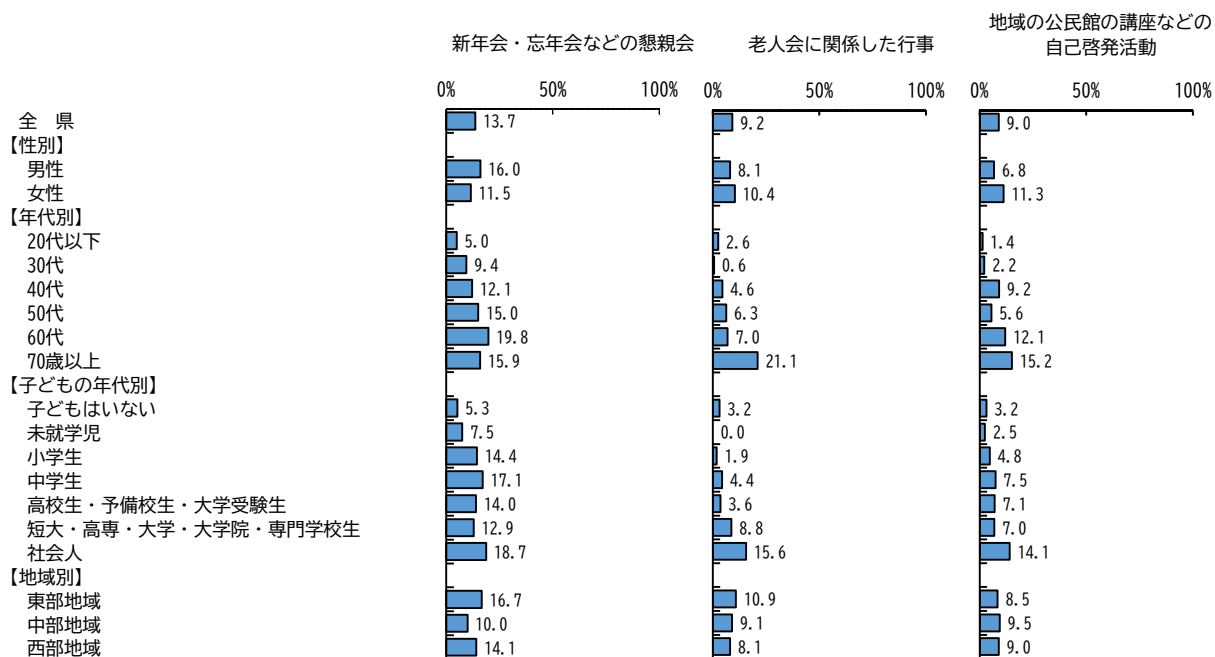
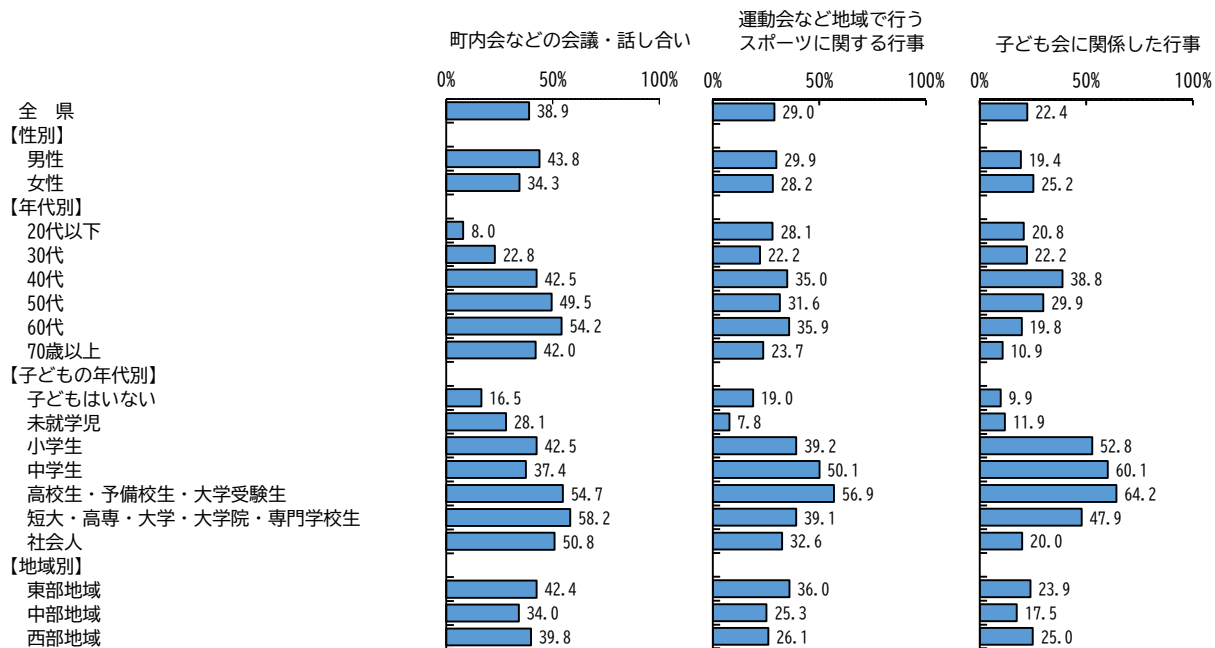
また、『子どもはいない』、『未就学児』は、「参加した行事はない」が全体と比較して高くなっている。

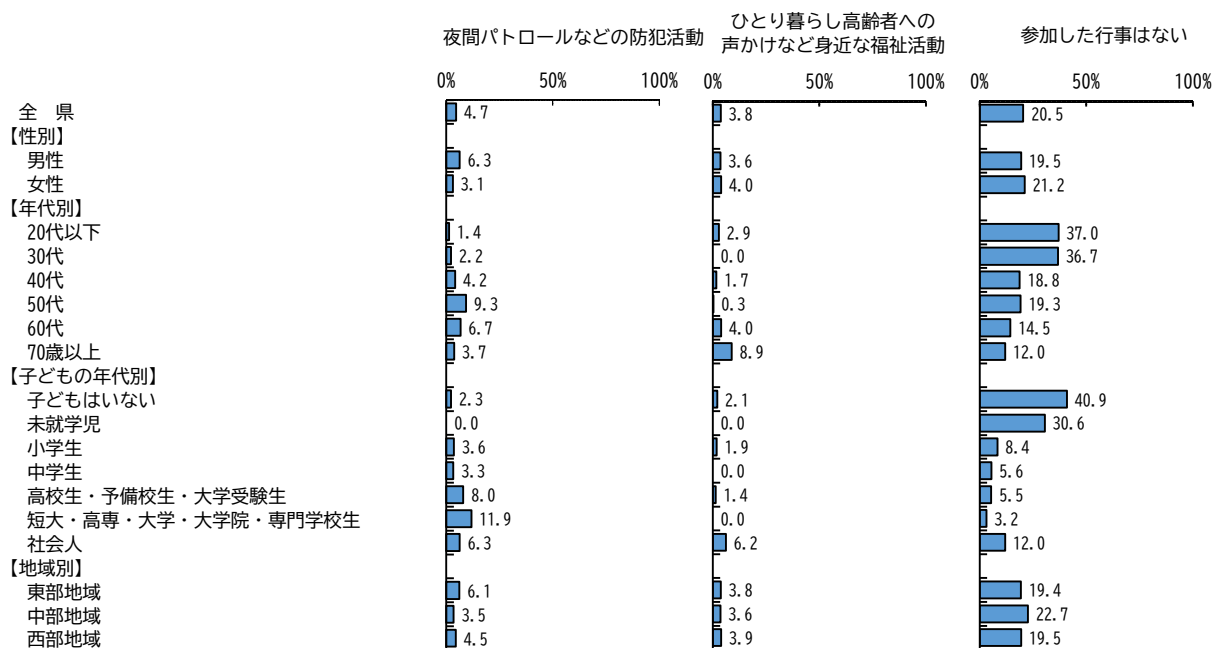
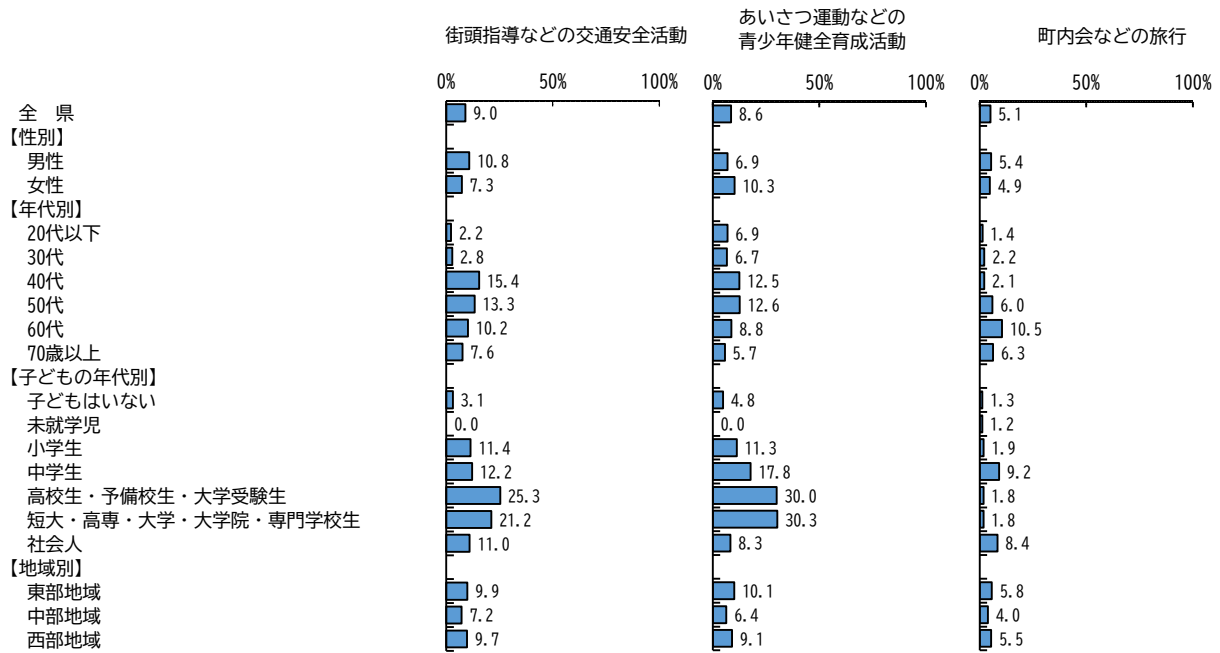
地域別でみると、『東部地域』は、「運動会など地域で行うスポーツに関する行事」（36.0%）が全体と比較して高くなっている。

また、『西部地域』は、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」（48.0%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-50 県民の地域活動への参加 性別、年代別、子どもの年代別、地域別 】







(11) 文化・芸術の鑑賞又は活動

— この1年で文化・芸術の鑑賞又は活動をした人は49.7%、過去3年に遡ると67.7% —

Q17 あなたは、この1年でどのくらい、文化・芸術に関する鑑賞又は活動をしましたか。

(〇は1つ)

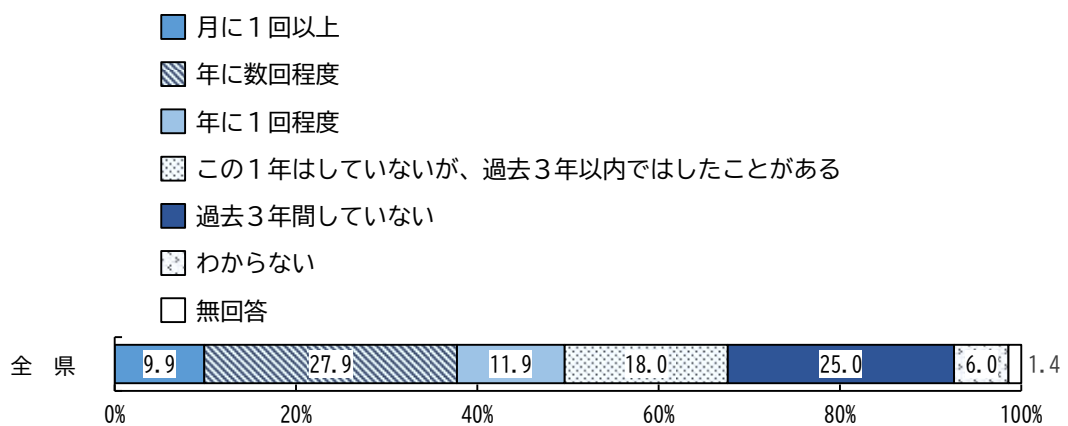
※「文化・芸術」…芸術(音楽、映画、美術、演劇、舞踊等)、芸能(漫才、落語、歌唱、歌舞伎、能、講談、浪曲等)、文芸(短歌、俳句、詩、小説等)、生活文化(囲碁、将棋、お茶、生け花、手芸等)、お祭りへの参加や見物、文化財(建造物、遺跡、古文書等)を意味しています。

※「鑑賞」…映画館や美術館、博物館、またホールや劇場などの会場で、作品やコンサートを見たり聞いたりした経験を意味しています。

※「活動」…個人又はグループで、文化・芸術を継続して行う経験を意味しています。単発の活動やお試しの体験講座等は含みません。

※「鑑賞」と「活動」のどちらか一方でも行えば、「経験した」とします。

【 文化・芸術の鑑賞又は活動 】



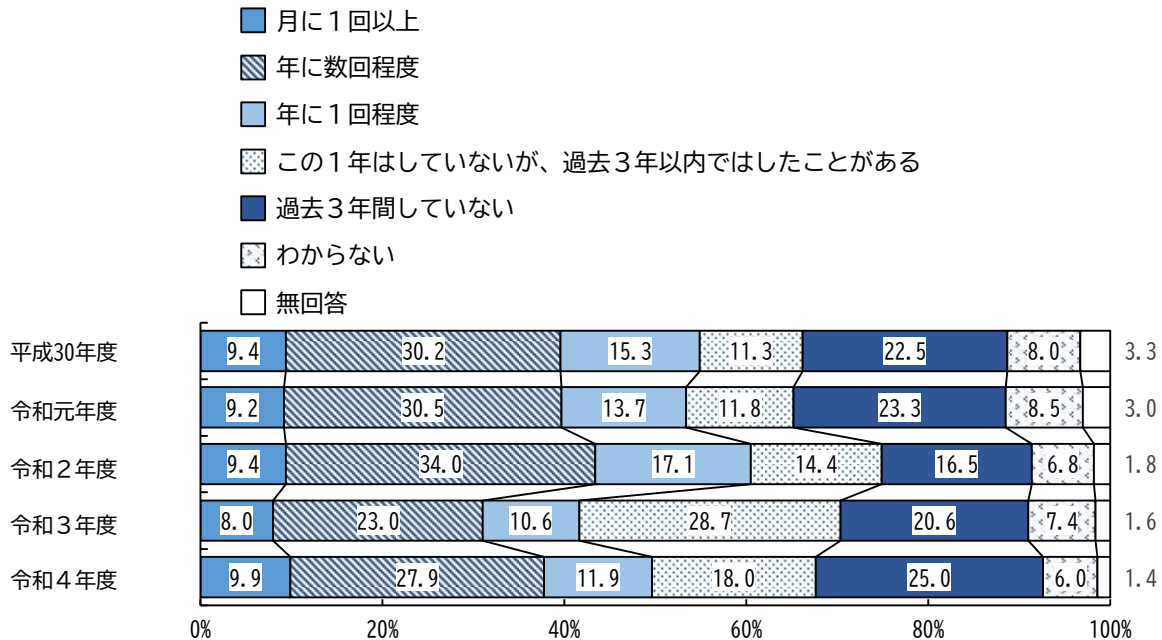
この1年で、文化・芸術に関する鑑賞又は活動をした回数については、「年に数回程度」(27.9%)が最も多く、以下「過去3年間していない」(25.0%)、「この1年はしていないが、過去3年以内ではしたことがある」(18.0%)、「年に1回程度」(11.9%)、「月に1回以上」(9.9%)となっている。

「月に1回以上」(9.9%)、「年に数回程度」(27.9%)、「年に1回程度」(11.9%)を合わせた49.7%がこの1年で文化・芸術の鑑賞又は活動をしており、それに、「この1年はしていないが、過去3年以内ではしたことがある」(18.0%)を合わせた67.7%がこの3年以内に文化・芸術の鑑賞又は活動をしている。

【過去の調査との比較】（図2-51）

平成30年度以降の推移でみると、この1年で文化・芸術の鑑賞又は活動をした人の割合は、今年度（49.7%）は前年度（41.6%）と比較して8.1ポイント上回っている。

【 図2-51 文化・芸術の鑑賞又は活動 経年比較 】



【属性による比較】（図2-52）

性別、地域別では、大きな差はみられない。

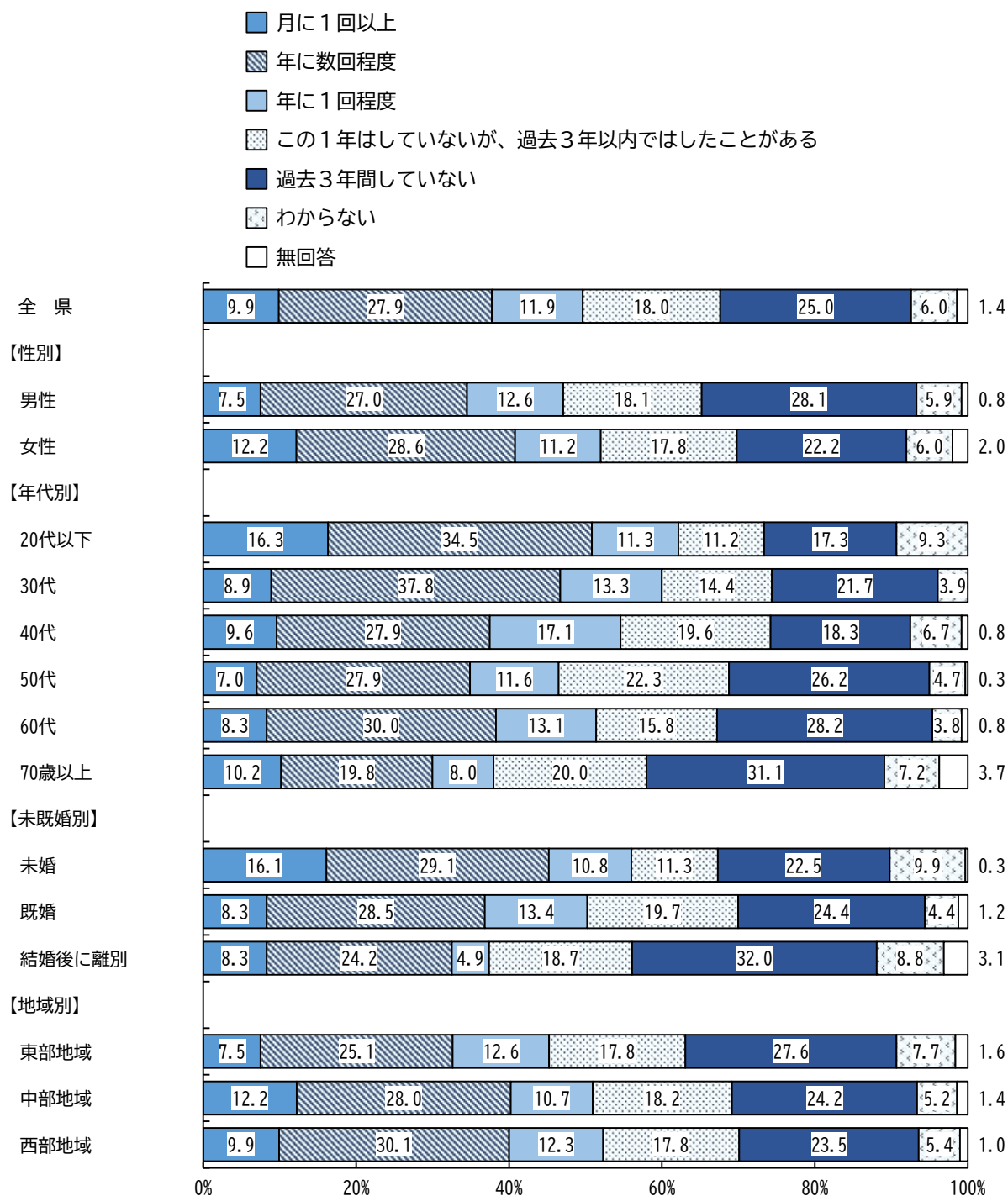
年代別でみると、『20代以下』、『30代』は、“1年以内に活動した”が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「過去3年間していない」（31.1%）が全体と比較して高くなっている。

未既婚別でみると、『未婚』は、“1年以内に活動した”（56.0%）が全体と比較して高くなっている。

また、『結婚後に離別』は、「過去3年間していない」（32.0%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-52 文化・芸術の鑑賞又は活動 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



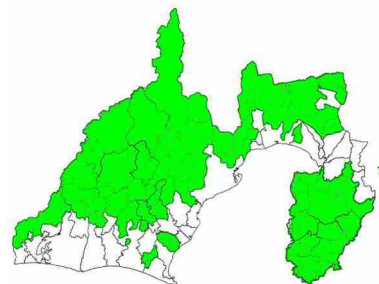
(12) 中山間地域での生活意向

—— 中山間地域に住みたいと「思う」人は22.6% 「思わない」人は69.4% ——

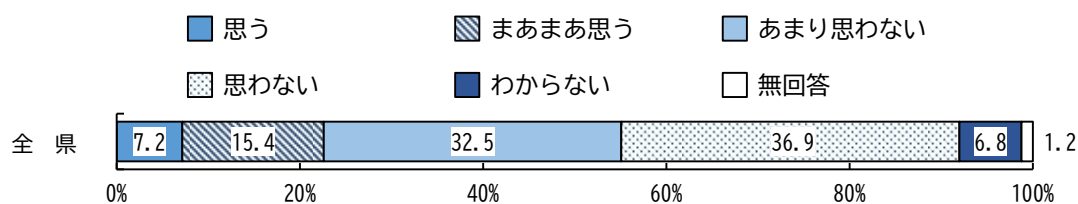
Q18 あなたは、中山間地域に住みたいと思いますか。(中山間地域にお住まいの方は、住み続けたいと思いますか。)(○は1つ)

※「中山間地域」…「平野の周辺部から山間部に至る地域」で、農林業を主な産業としている地域のことをいいます。

※県内の中山間地域のイメージは、右図の網掛け部分です。



【 中山間地域での生活意向 】

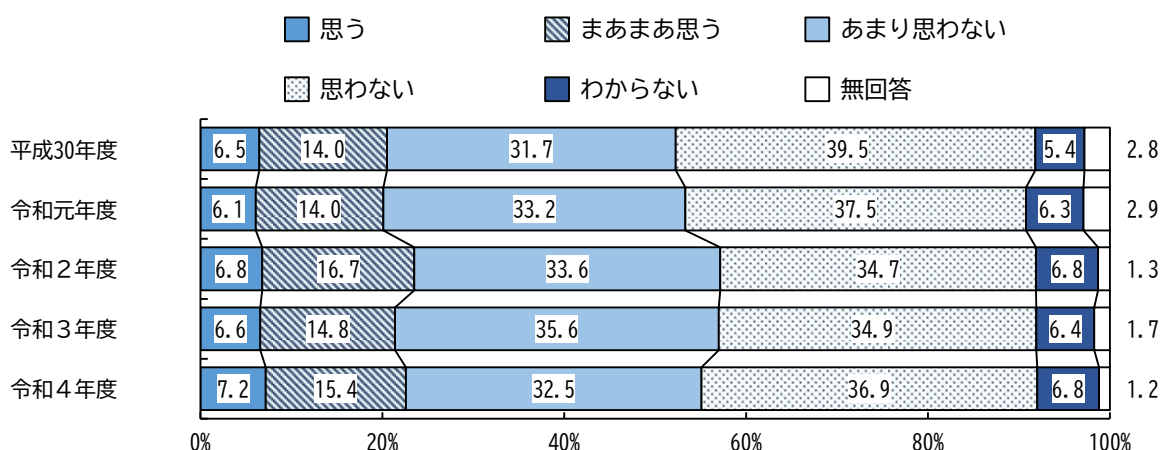


中山間地域に住みたいと思うかについては、「思わない」(36.9%)が最も多く、以下「あまり思わない」(32.5%)、「まあまあ思う」(15.4%)、「思う」(7.2%)、「わからない」(6.8%)となっている。「思う」(7.2%)と「まあまあ思う」(15.4%)を合わせた22.6%が、中山間地域に住みたいと“思う”と回答し、「あまり思わない」(32.5%)と「思わない」(36.9%)を合わせた69.4%は、中山間地域に住みたいと“思わない”と回答している。

【過去の調査との比較】(図2-53)

平成30年度以降の推移でみると、中山間地域に住みたいと“思う”人の割合は、毎年度2割台で推移している。

【 図2-53 中山間地域での生活意向 経年比較 】



【属性による比較】（図2-54）

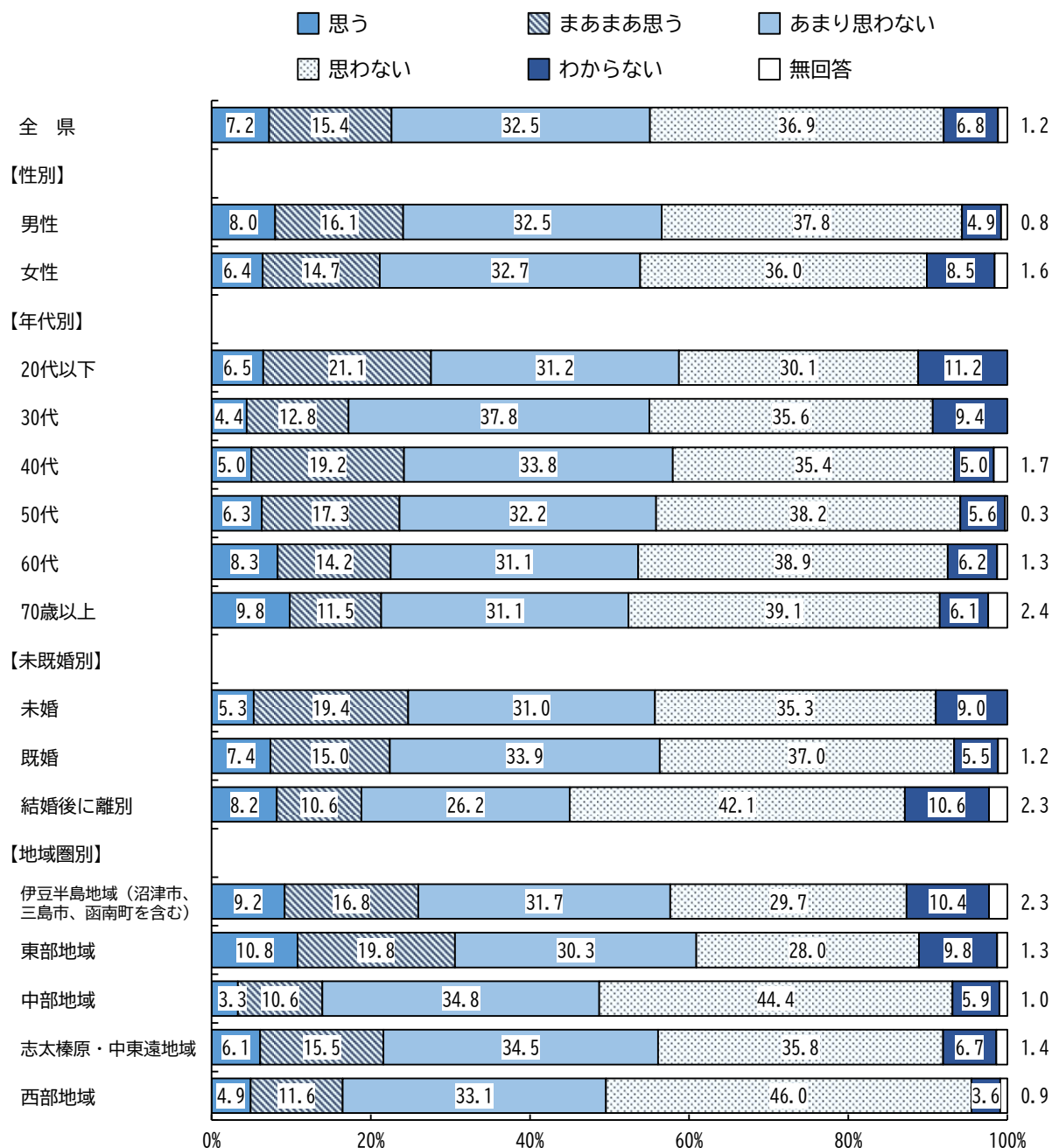
性別、未既婚別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』は、“住みたいと思う”（27.6%）が全体と比較して高くなっている。

地域圏別でみると、『東部地域』は、“住みたいと思う”（30.6%）が全体と比較して高くなっている。

また、『中部地域』、『西部地域』は、“住みたいと思わない”が全体と比較して高くなっている。

【 図2-54 中山間地域での生活意向 性別、年代別、未既婚別、地域圏別 】

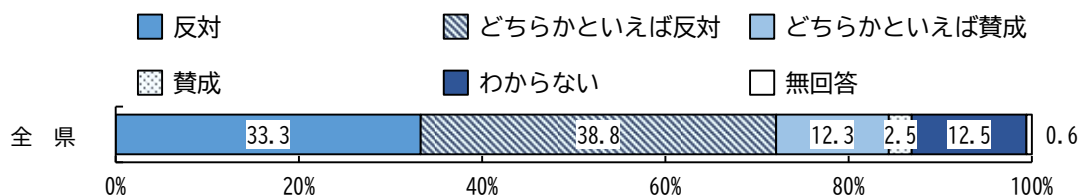


(13) 男女共同参画に関する意識

—— 男女の役割を固定的に考えることに「反対」は72.1% 「賛成」は14.8% ——

Q19 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。(○は1つ)

【 男女共同参画に関する意識 】

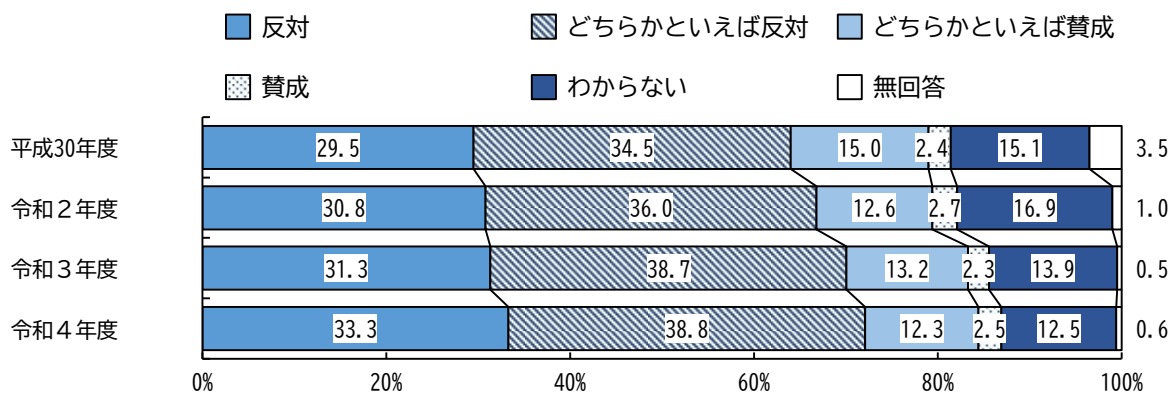


男女の役割を固定的に考えることについては、「どちらかといえば反対」(38.8%)が最も多く、以下「反対」(33.3%)、「わからない」(12.5%)、「どちらかといえば賛成」(12.3%)、「賛成」(2.5%)となっている。「反対」(33.3%)と「どちらかといえば反対」(38.8%)を合わせた72.1%が、男女の役割を固定的に考えることに“反対”と回答し、「どちらかといえば賛成」(12.3%)と「賛成」(2.5%)を合わせた14.8%が、男女の役割を固定的に考えることに“賛成”と回答している。

【過去の調査との比較】(図2-55)

男女の役割を固定的に考えることについて、「反対」または「どちらかといえば反対」と思う人の割合は、今年度(72.1%)は前年度(70.0%)を2.1ポイント上回っている。

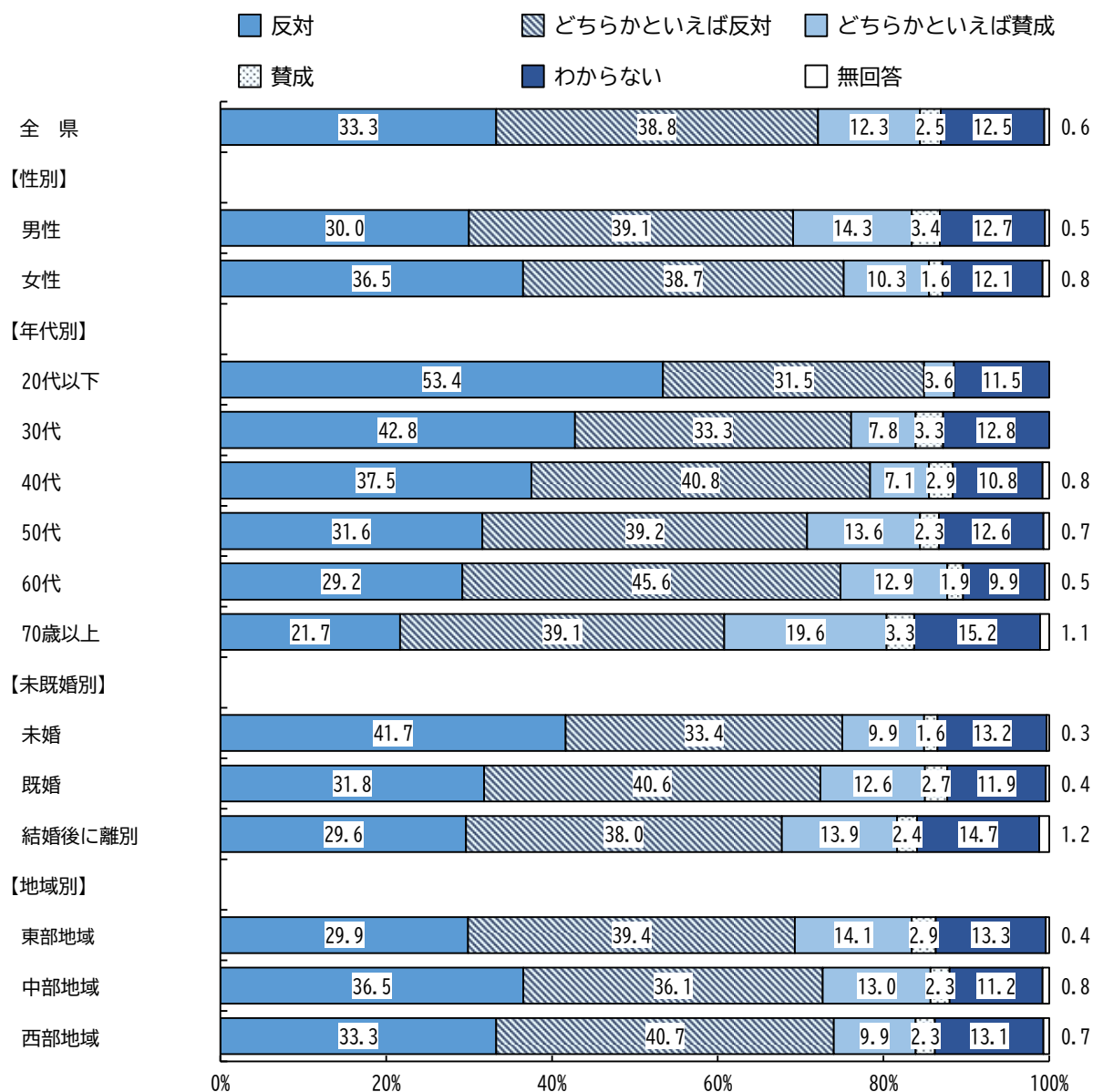
【 図2-55 男女共同参画に関する意識 経年比較 】



【属性による比較】（図2-56）

性別、未既婚別、地域別では、大きな差はみられない。
 年代別で見ると、『20代以下』、『40代』は、“反対”が全体と比較して高くなっている。
 また、『70歳以上』は、“賛成”（22.9%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-56 男女共同参画に関する意識 性別、年代別、未既婚別、地域別 】



(14) 人権尊重の意識

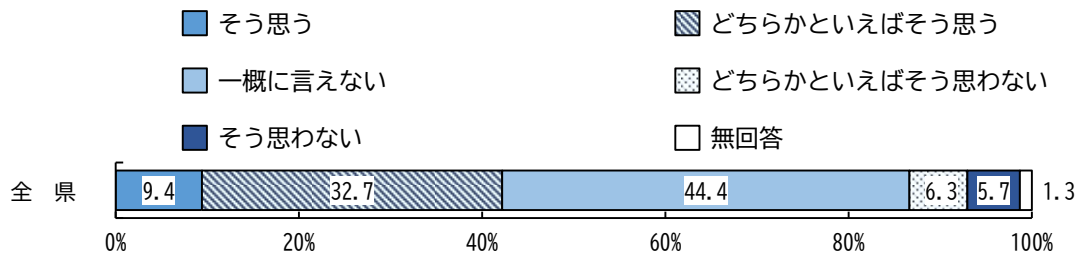
— 人権尊重の意識が生活の中に定着した県だと

「思う」人は42.1% 「思わない」人は12.0% —

Q20 あなたは、今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」であると感じますか。(○は1つ)

※「人権尊重の意識」…人権は、私たち一人ひとりの生命や自由・平等を保障し、日常生活を支えている大切な権利で、日本国憲法にも保障されています。この権利を尊重し、私たち一人ひとりが自分や他者を大切にしようとする意識のことをいいます。

【 人権尊重の意識 】

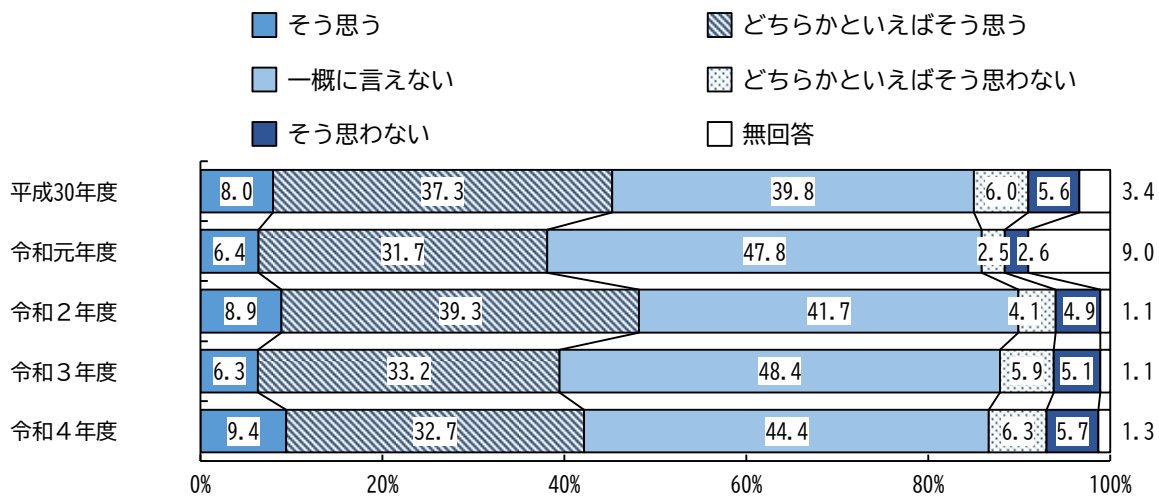


今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」になっていると感じるかについては、「一概に言えない」(44.4%)が最も多く、以下「どちらかといえばそう思う」(32.7%)、「そう思う」(9.4%)、「どちらかといえばそう思わない」(6.3%)、「そう思わない」(5.7%)となっている。「そう思う」(9.4%)と「どちらかといえばそう思う」(32.7%)を合わせた42.1%が、「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」だと“思う”と回答し、「どちらかといえばそう思わない」(6.3%)と「そう思わない」(5.7%)を合わせた12.0%は、「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」だと“思わない”と回答している。

【過去の調査との比較】（図2-57）

平成30年度以降の推移でみると、「人権尊重の意識が生活の中に定着した県」だと思ふ人の割合が、今年度（42.1%）は前年度（39.5%）を2.6ポイント上回っている。

【 図2-57 人権尊重の意識 経年比較 】



※令和元年度は、人権問題に関する県民意識調査（地域福祉課人権同和室実施）の結果を、参考値としてグラフに掲載している。

※令和2年度以前については、『今の静岡県が「人権尊重の意識が生活の中に定着した住みよい県」になっていると感じますか』という設問に対する結果を、グラフに掲載している。

【属性による比較】（図2-58）

性別、地域別では、大きな差はみられない。

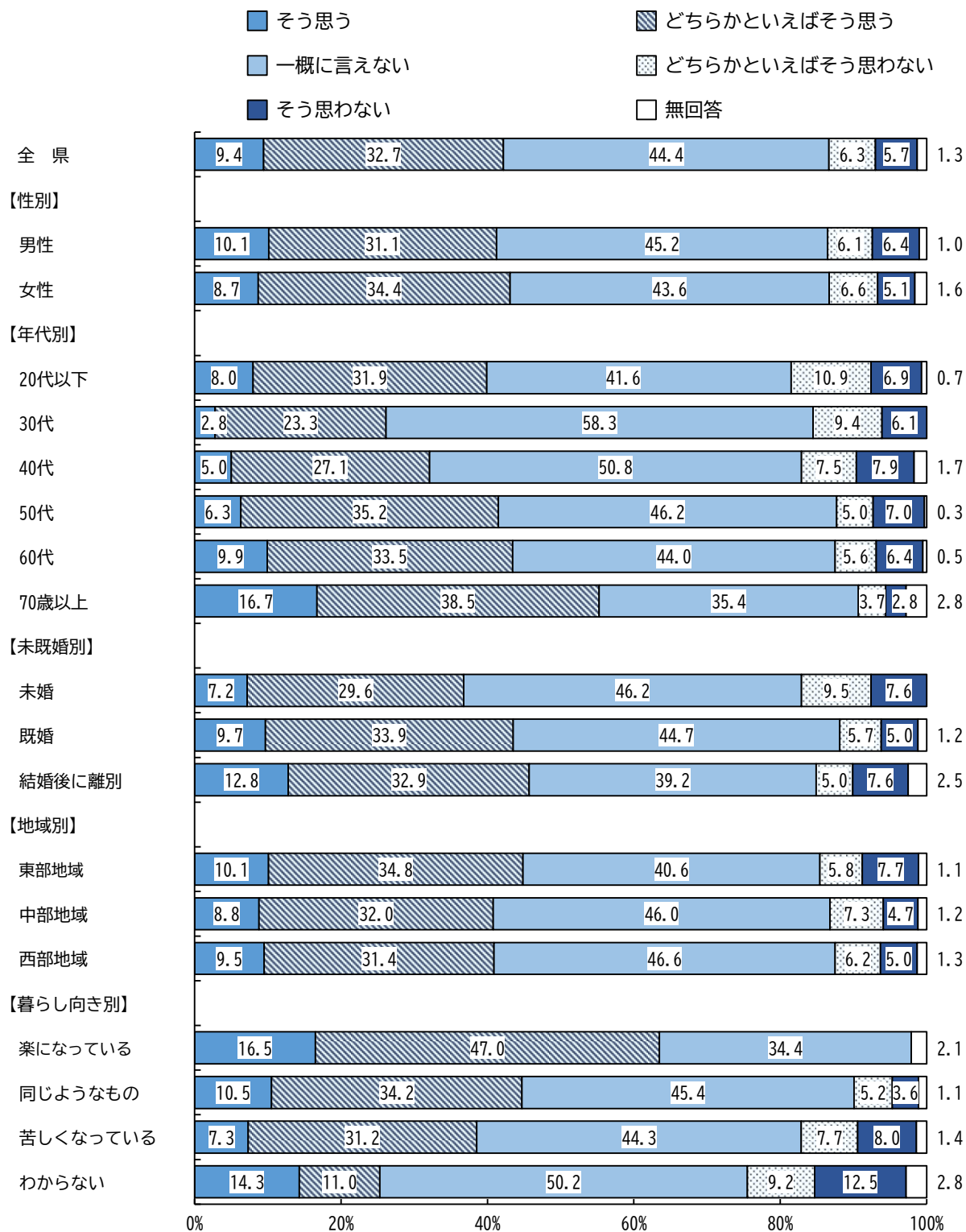
年代別でみると、『20代以下』は、“思わない”（17.8%）が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、“思う”（55.2%）が全体と比較して高くなっている。

未既婚別でみると、『未婚』は、“思わない”（17.1%）が全体と比較して高くなっている。

暮らし向き別でみると、『楽になっている』は、“思う”（63.5%）が全体と比較して高くなっている。

【 図2-58 人権尊重の意識 性別、年代別、未既婚別、地域別、暮らし向き別 】



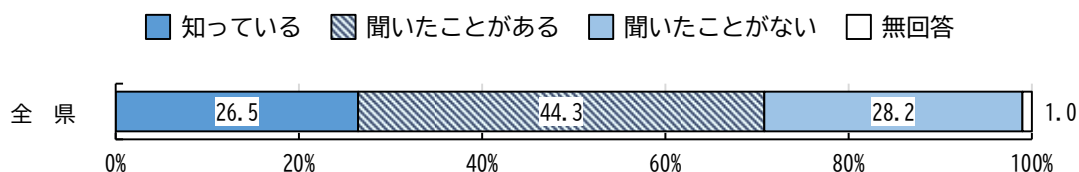
(15) 生物多様性への理解

— 「生物多様性」という言葉や意味を「知っている」人は26.5% 認知は70.8% —

Q21 「生物多様性」という言葉や意味について、どの程度知っていますか。(○は1つ)

※「生物多様性」…地域ごとに固有の自然や特有の生物が存在し、その生物が“食べる－食べられる”といった食物連鎖などの関係でつながっていることをいいます。人類は、生物多様性からもたらされる様々な恵みに支えられており、この恵みを今後も享受していくためには、生物多様性を維持し後世へ継承していくことが必要不可欠です。

【 生物多様性への理解 】

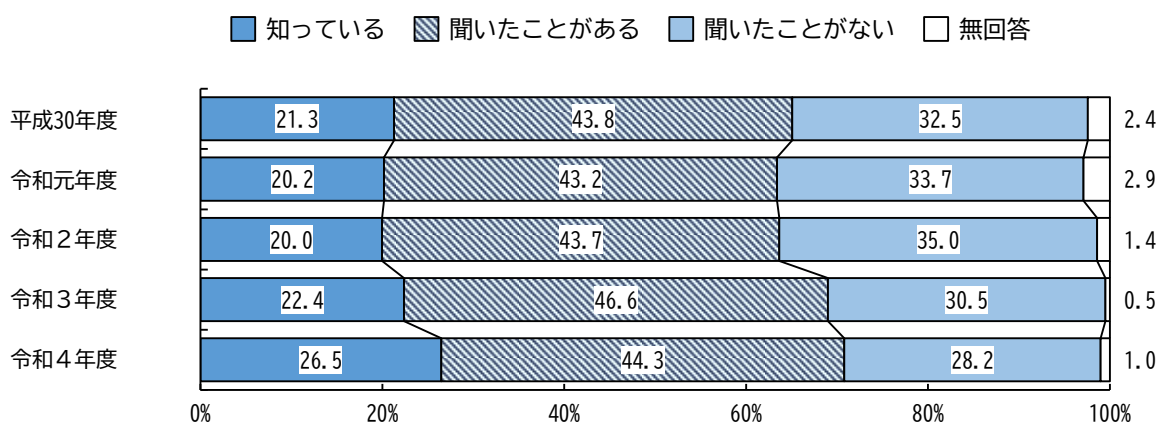


「生物多様性」という言葉や意味については、「聞いたことがある」(44.3%)が最も多く、以下「聞いたことがない」(28.2%)、「知っている」(26.5%)となっている。「知っている」(26.5%)と「聞いたことがある」(44.3%)を合わせた70.8%が生物多様性について認知していると考えられる。

[過去の調査との比較] (図2-59)

平成30年度以降の推移でみると、「生物多様性」という言葉や意味を知っている人の割合は、今年度は26.5%と、前年度(22.4%)を4.1ポイント上回っている。認知している人の割合は、今年度は70.8%と、前年度(69.0%)を1.8ポイント上回っている。

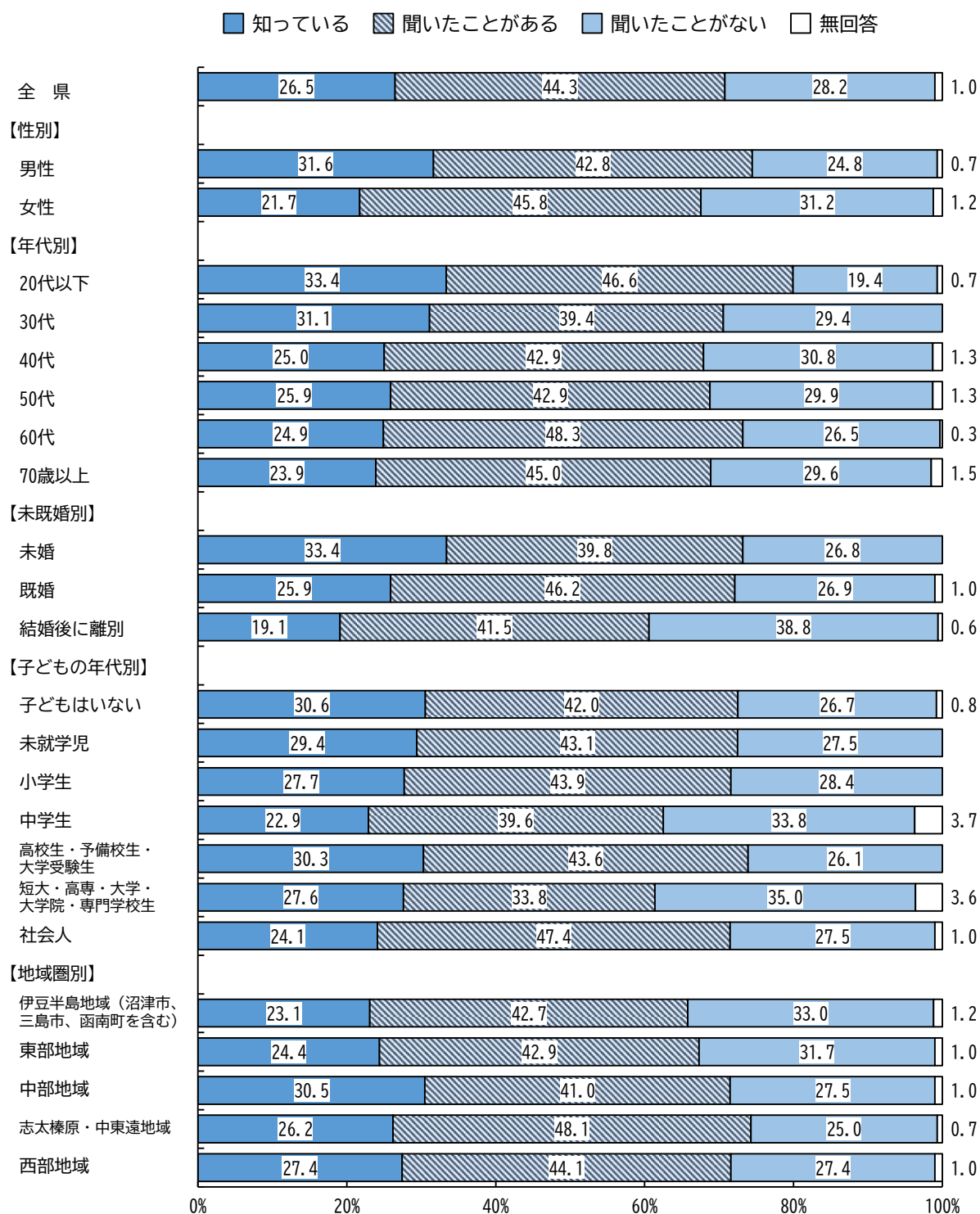
【 図2-59 生物多様性への理解 経年比較 】



【属性による比較】（図2-60）

性別でみると、『男性』は、「知っている」（31.6%）が全体と比較して高くなっている。
 年代別でみると、『20代以下』は、「知っている」（33.4%）が全体と比較して高くなっている。
 未既婚別でみると、『未婚』は、「知っている」（33.4%）が全体と比較して高くなっている。
 また、『結婚後に離別』は、「聞いたことがない」（38.8%）が全体と比較して高くなっている。
 子どもの年代別でみると、『中学生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「聞いたことがない」が全体と比較して高くなっている。
 地域圏別では、大きな差はみられない。

【 図2-60 生物多様性への理解 性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域圏別 】



第3章 体感治安に関する意識

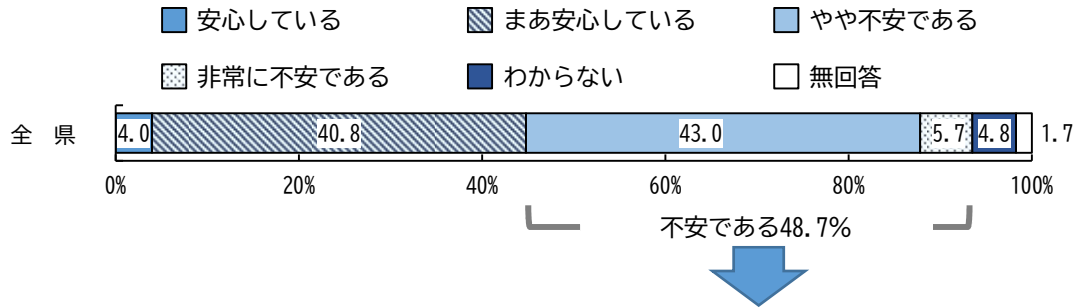
1 体感治安に関する意識

— 犯罪被害への不安を「感じている」人は48.7%

不安を感じている犯罪は、「空き巣などの侵入窃盗」64.8%

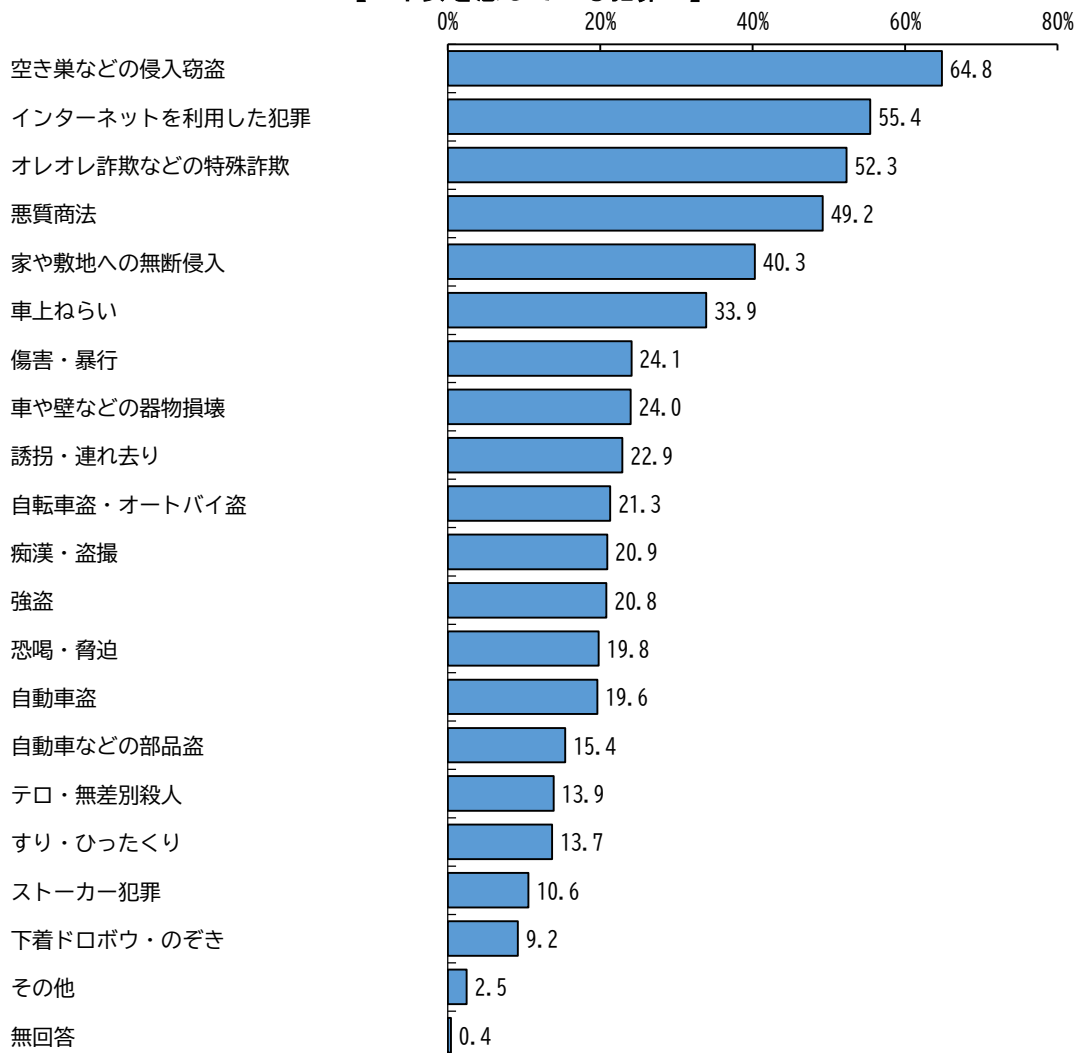
Q22 あなたは、あなたやあなたの家族が、県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を、どの程度感じていますか。(〇は1つ)

【 犯罪被害への不安の有無 】



Q23 不安を感じている犯罪は何ですか。(〇はいくつでも)

【 不安を感じている犯罪 】



※Q23はQ22で「やや不安である」、「非常に不安である」と回答した人を基準に集計している。

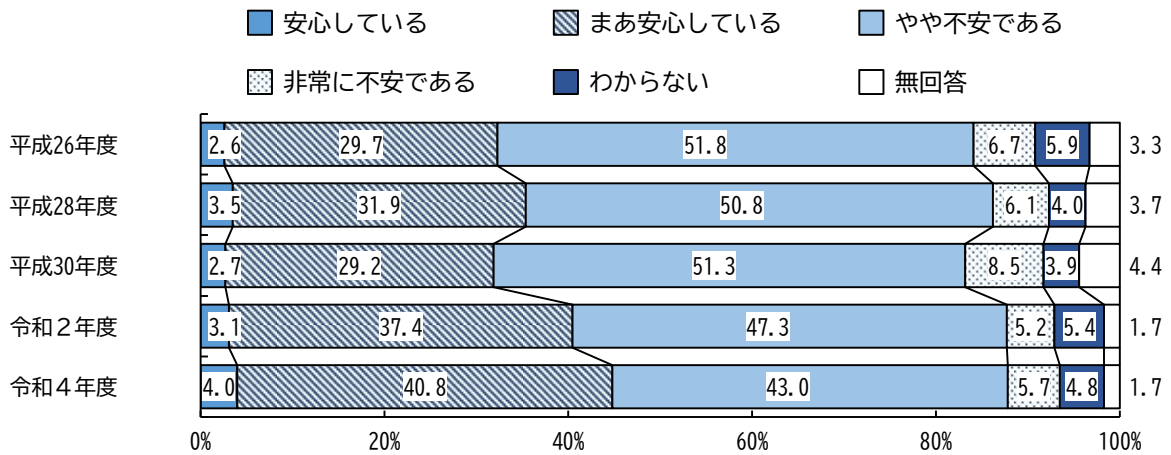
(1) 犯罪被害への不安の有無

犯罪被害への不安の有無については、「やや不安である」(43.0%)が最も多く、以下「まあ安心している」(40.8%)、「非常に不安である」(5.7%)、「わからない」(4.8%)、「安心している」(4.0%)となっている。「安心している」(4.0%)、「まあ安心している」(40.8%)を合わせた44.8%が犯罪被害への不安を“感じていない”と回答し、「やや不安である」(43.0%)と「非常に不安である」(5.7%)を合わせた48.7%が犯罪被害への不安を“感じている”と回答している。

【過去の調査との比較】(図3-1)

平成26年度以降の推移でみると、犯罪被害への不安を“感じていない”人の割合は、今年度(44.8%)は令和2年度(40.5%)を4.3ポイント上回っている。

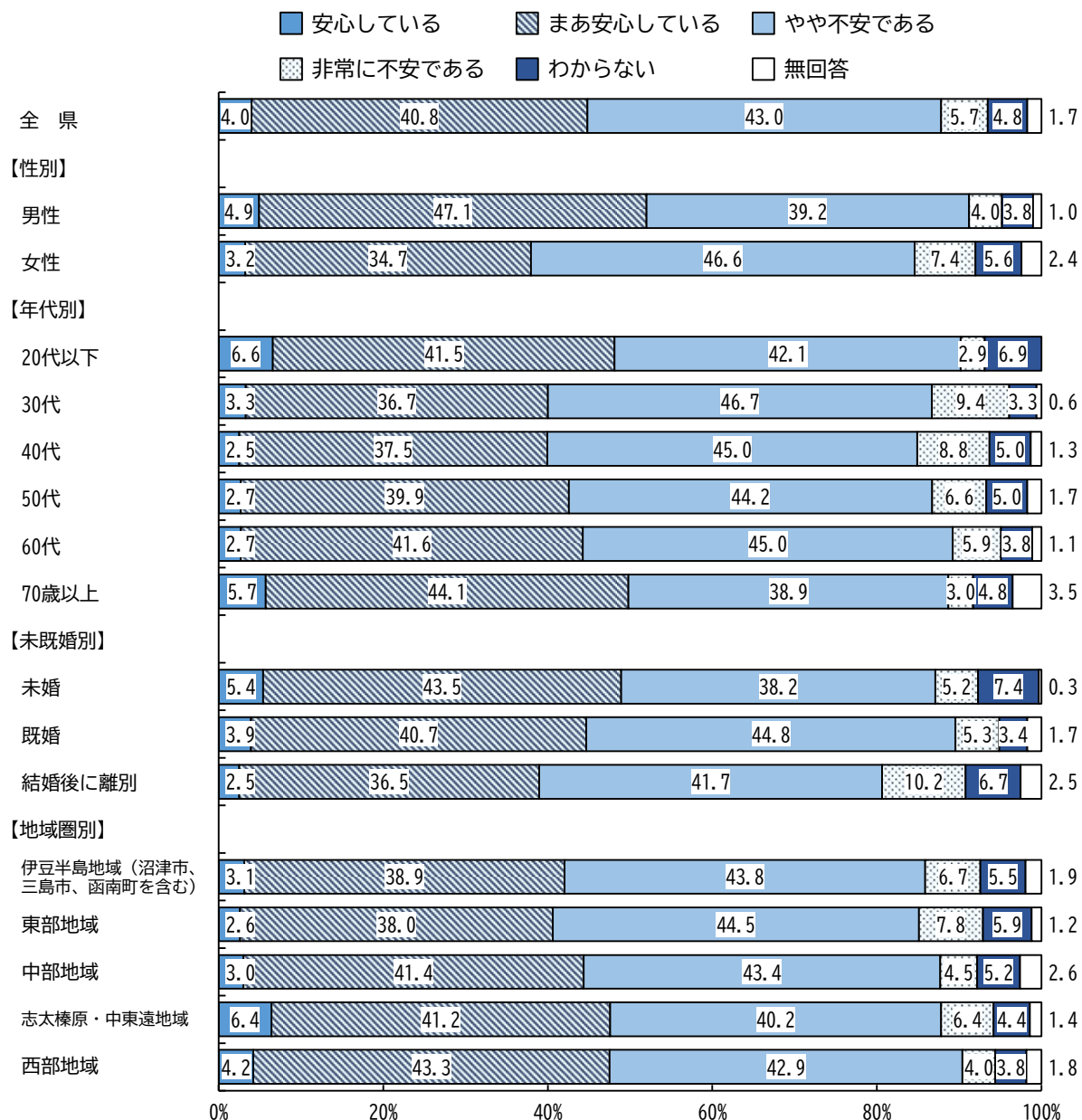
【 図3-1 犯罪被害への不安の有無 経年比較 】



【属性による比較】（図3-2）

性別でみると、『男性』は、不安を“感じていない”（52.0%）が全体と比較して高くなっている。また、『女性』は不安を“感じている”（54.0%）が全体と比較して高くなっている。年代別でみると、『30代』、『40代』は、不安を“感じている”が全体と比較して高くなっている。また、『70歳以上』は、不安を“感じていない”（49.8%）が全体と比較して高くなっている。未既婚別、地域圏別では、大きな差はみられない。

【 図3-2 犯罪被害への不安の有無 性別、年代別、未既婚別、地域圏別 】



(2) 不安を感じている犯罪

不安を感じている犯罪については、「空き巣などの侵入窃盗」(64.8%)が最も多く、以下「インターネットを利用した犯罪」(55.4%)、「オレオレ詐欺などの特殊詐欺」(52.3%)、「悪質商法」(49.2%)、「家や敷地への無断侵入」(40.3%)となっている。

【属性による比較】(図3-3)

性別でみると、『男性』は、「悪質商法」(55.6%)が全体と比較して高くなっている。

年代別でみると、『20代以下』、『30代』は、「家や敷地への無断侵入」、「車や壁などの器物損壊」、「ストーカー犯罪」が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『30代』、『40代』は、「痴漢・盗撮」、「誘拐・連れ去り」が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『40代』、『50代』は、「インターネットを利用した犯罪」が全体と比較して高くなっている。

また、『30代』、『60代』は、「車上ねらい」が全体と比較して高くなっている。

また、『40代』、『60代』は、「空き巣などの侵入窃盗」が全体と比較して高くなっている。

また、『60代』、『70歳以上』は、「オレオレ詐欺などの特殊詐欺」、「悪質商法」が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『子どもはいない』、『未就学児』、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「車や壁などの器物損壊」が全体と比較して高くなっている。

また、『未就学児』、『小学生』、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「痴漢・盗撮」が全体と比較して高くなっている。

また、『未就学児』、『小学生』、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』は、「誘拐・連れ去り」が全体と比較して高くなっている。

また、『未就学児』、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「自転車盗・オートバイ盗」が全体と比較して高くなっている。

また、『未就学児』、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』は、「車上ねらい」が全体と比較して高くなっている。

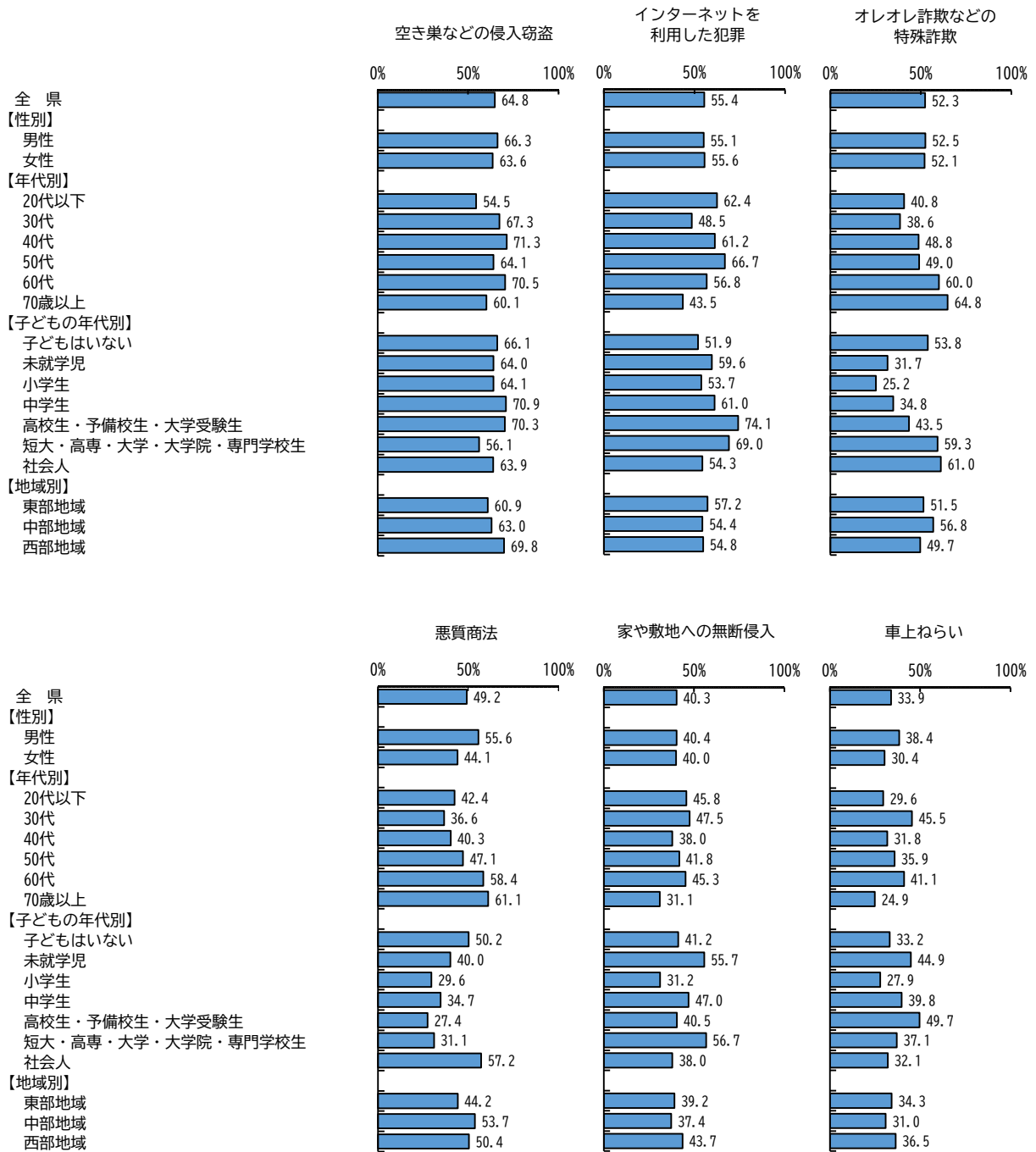
また、『未就学児』、『中学生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「家や敷地への無断侵入」が全体と比較して高くなっている。

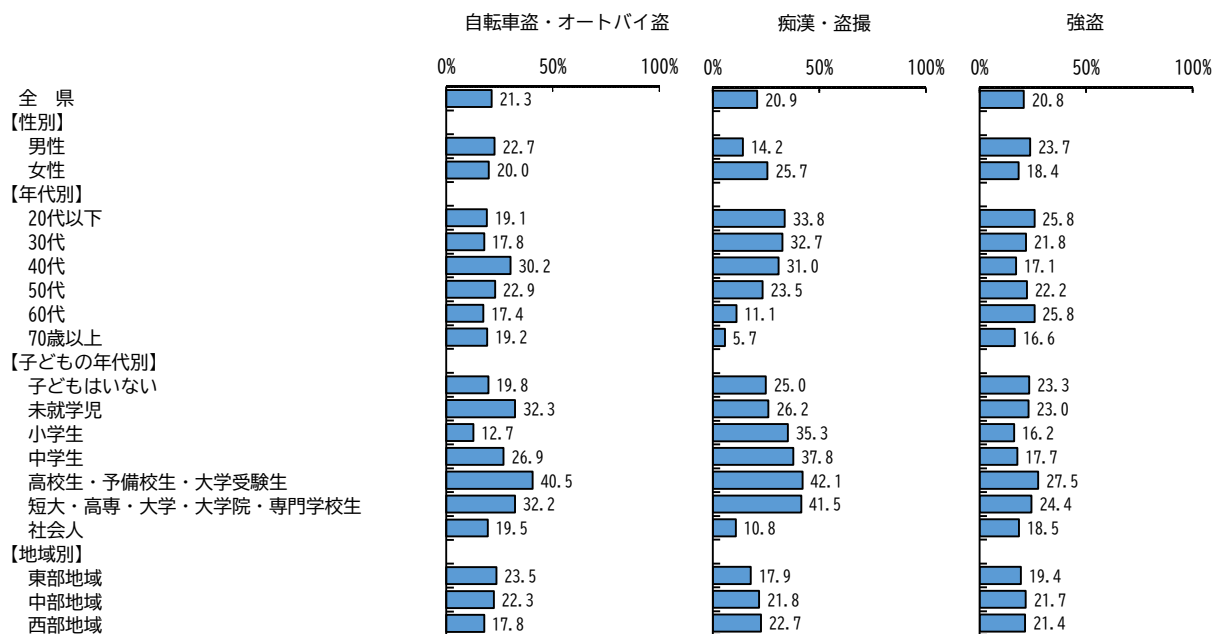
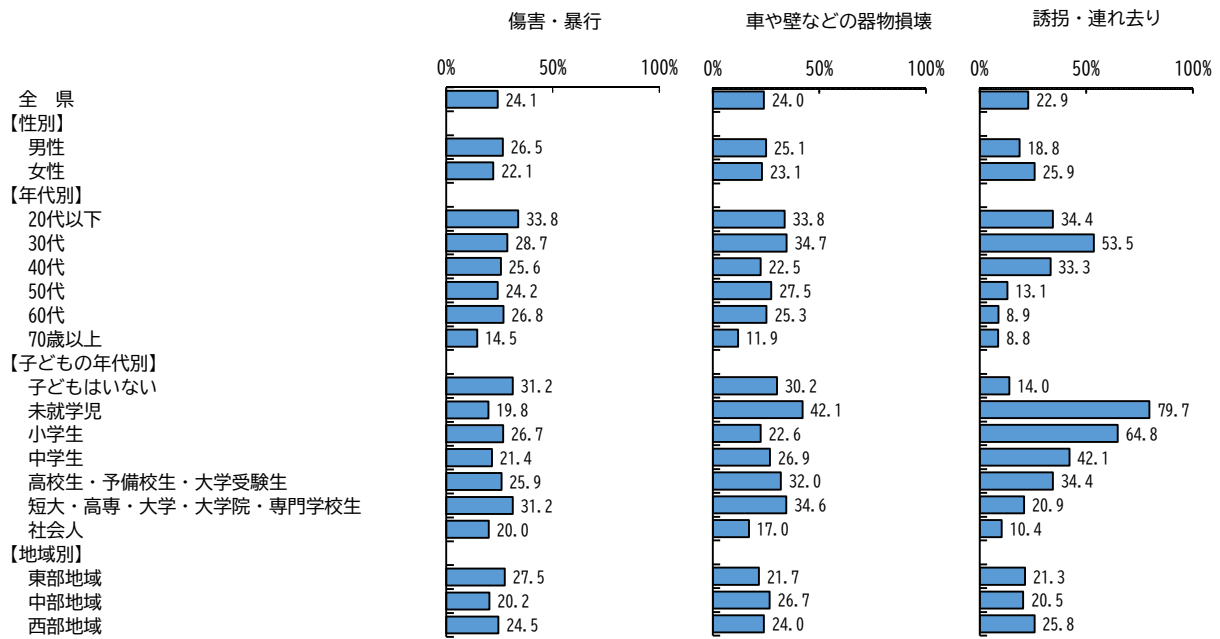
また、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「インターネットを利用した犯罪」が全体と比較して高くなっている。

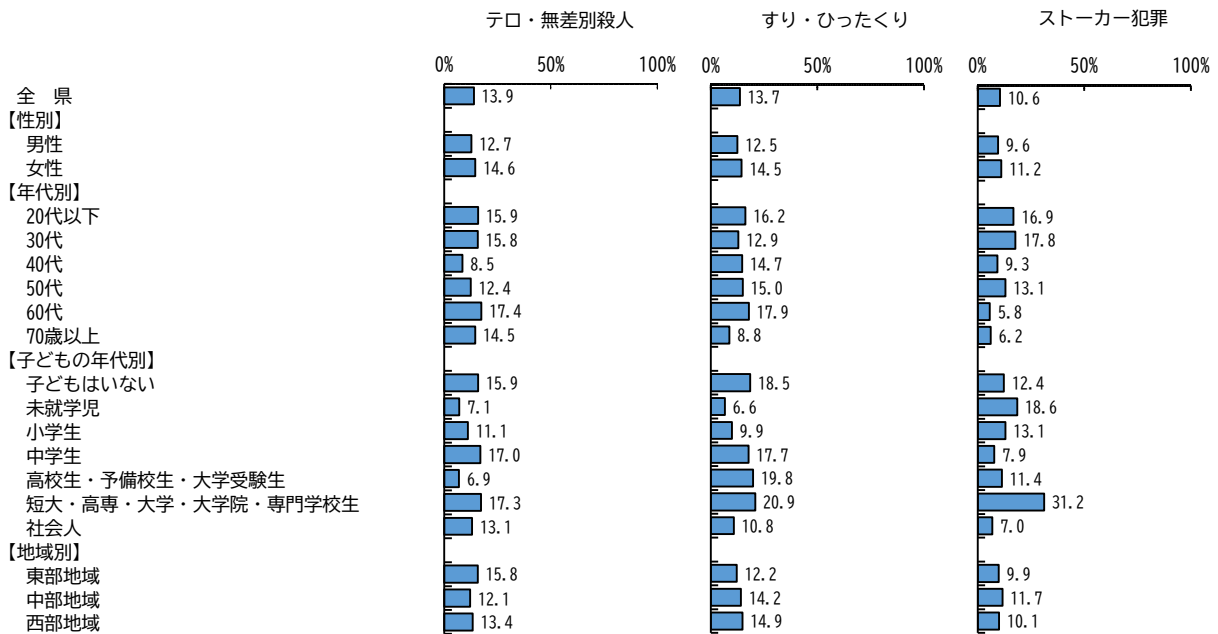
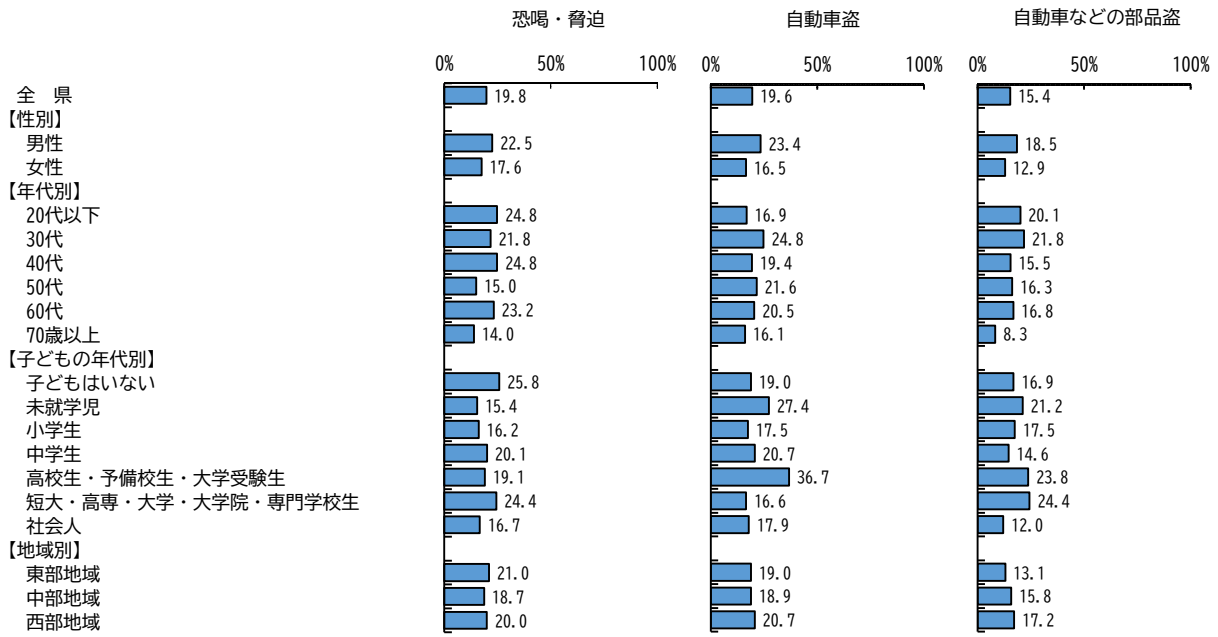
また、『未就学児』、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「自動車などの部品盗」が全体と比較して高くなっている。

地域別では、大きな差はみられない。

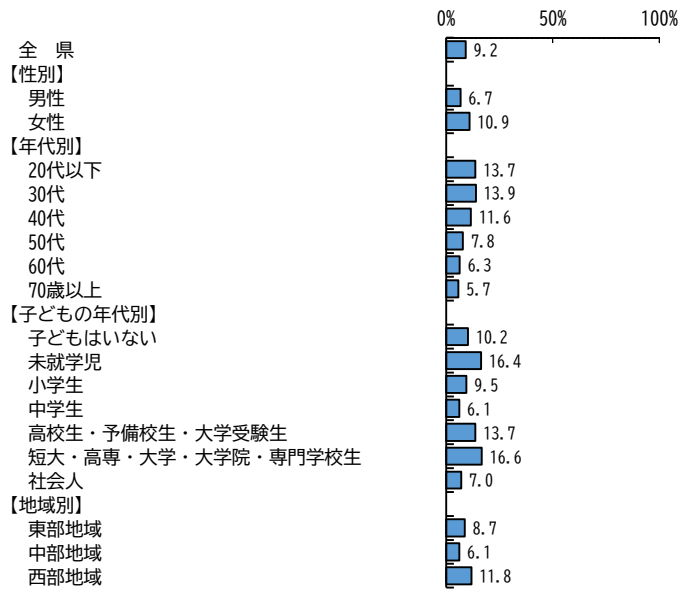
【 図 3-3 不安を感じている犯罪 性別、年代別、子どもの年代別、地域別 】







下着ドロボウ・のぞき



第4章 アルコール依存症に対する意識

1 アルコール依存症に対する意識

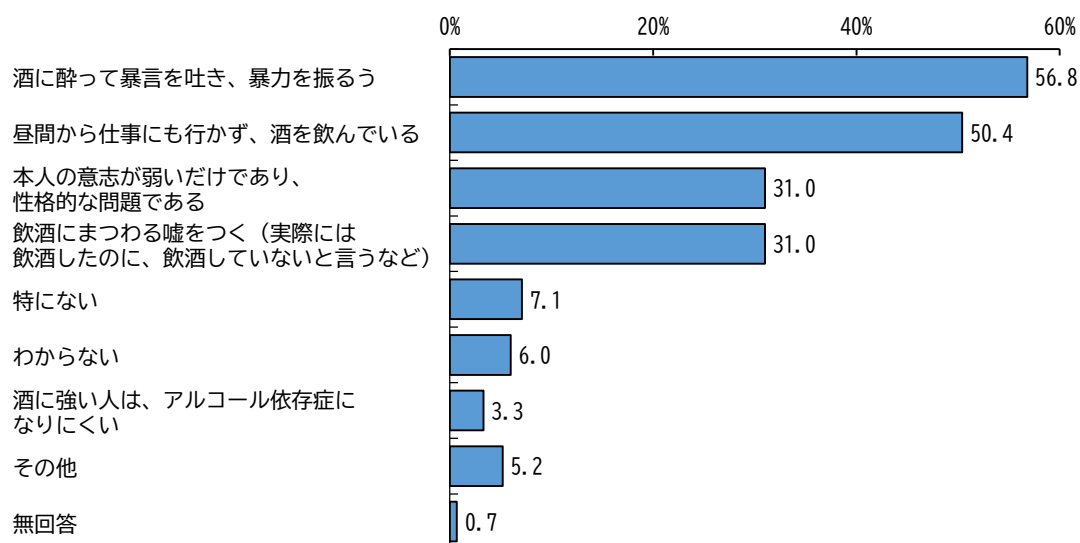
(1) アルコール依存症又は依存症者のイメージ

—— アルコール依存症又は依存症者のイメージは

「酒に酔って暴言を吐き、暴力を振るう」が56.8% ——

Q24 アルコール依存症又はアルコール依存症者について、あなたの持っているイメージとして当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

【 アルコール依存症又は依存症者のイメージ 】



アルコール依存症又は依存症者のイメージについては、「酒に酔って暴言を吐き、暴力を振るう」(56.8%)が最も多く、以下「昼間から仕事にも行かず、酒を飲んでいる」(50.4%)、「本人の意志が弱いだけであり、性格的な問題である」(31.0%)、「飲酒にまつわる嘘をつく (実際には飲酒したのに、飲酒していないと言うなど)」(31.0%)、「特にない」(7.1%)となっている。

【属性による比較】（図4-1）

性別、地域圏別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』、『30代』、『60代』は、「酒に酔って暴言を吐き、暴力を振るう」が全体と比較して高くなっている。

また、『30代』、『40代』は、「飲酒にまつわる嘘をつく（実際には飲酒したのに、飲酒していないと言うなど）」が全体と比較して高くなっている。

また、『60代』は、「昼間から仕事にも行かず、酒を飲んでいる」（58.4%）が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「本人の意志が弱いだけであり、性格的な問題である」（49.1%）が全体と比較して高くなっている。

性・年代別でみると、『男性50代』、『女性60代』は、「昼間から仕事にも行かず、酒を飲んでいる」が全体と比較して高くなっている。

また、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』、『女性60代』は、「酒に酔って暴言を吐き、暴力を振るう」が全体と比較して高くなっている。

また、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』は、「飲酒にまつわる嘘をつく（実際には飲酒したのに、飲酒していないと言うなど）」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性70歳以上』、『女性70歳以上』は、「本人の意志が弱いだけであり、性格的な問題である」が全体と比較して高くなっている。

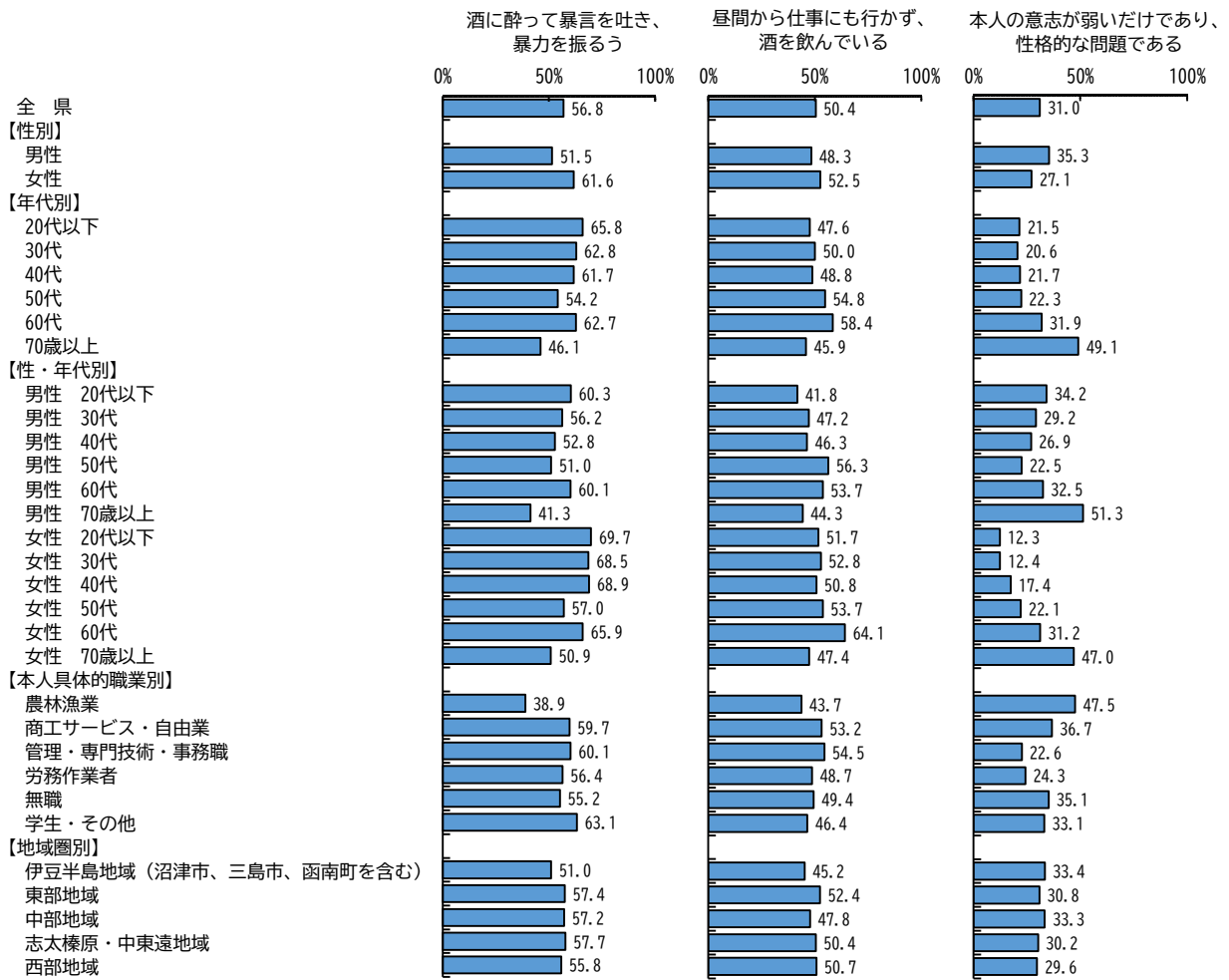
本人具体的職業別でみると、『農林漁業』、『商工サービス・自由業』は、「本人の意志が弱いだけであり、性格的な問題である」が全体と比較して高くなっている。

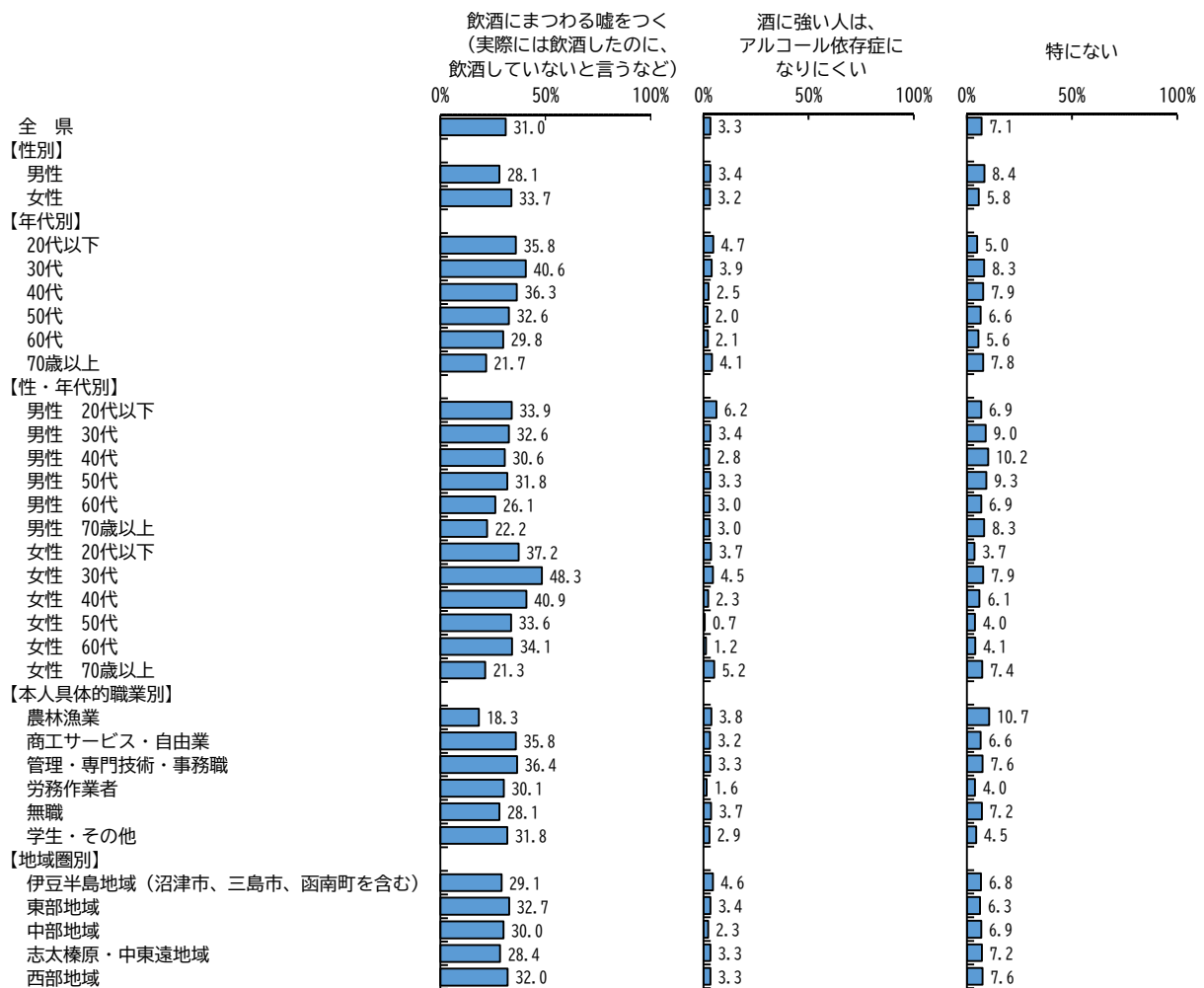
また、『管理・専門技術・事務職』は、「飲酒にまつわる嘘をつく（実際には飲酒したのに、飲酒していないと言うなど）」（36.4%）が全体と比較して高くなっている。

また、『学生・その他』は、「酒に酔って暴言を吐き、暴力を振るう」（63.1%）が全体と比較して高くなっている。

【 図 4-1 アルコール依存症又は依存症者のイメージ】

性別、年代別、性・年代別、本人具体的職業別、地域圏別





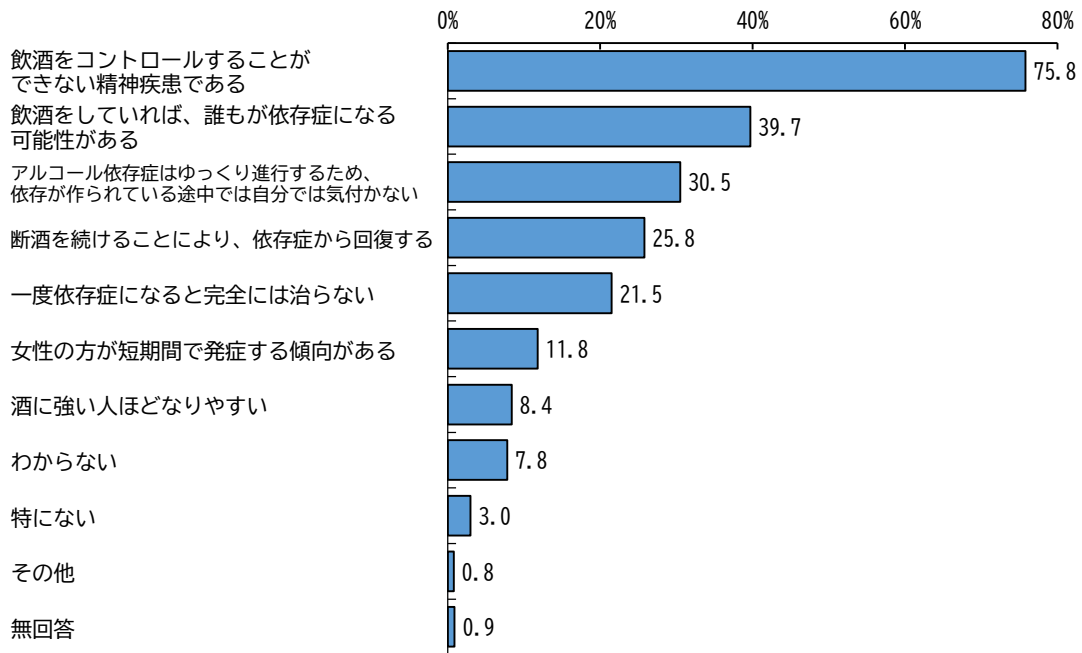
(2) アルコール依存症について知っているもの

— アルコール依存症について知っているものは

「飲酒をコントロールすることができない精神疾患である」が75.8% —

Q25 アルコール依存症について、あなたの知っているものを選んでください。
(〇はいくつでも)

【 アルコール依存症について知っているもの 】



アルコール依存症について知っているものについては、「飲酒をコントロールすることができない精神疾患である」(75.8%)が最も多く、以下「飲酒をしていれば、誰もが依存症になる可能性がある」(39.7%)、「アルコール依存症はゆっくり進行するため、依存が作られている途中では自分では気付かない」(30.5%)、「断酒を続けることにより、依存症から回復する」(25.8%)、「一度依存症になると完全には治らない」(21.5%)となっている。

【属性による比較】（図4-2）

性別、地域圏別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』、『30代』、『40代』は、「飲酒をしていれば、誰もが依存症になる可能性がある」が全体と比較して高くなっている。

また、『40代』、『60代』は、「飲酒をコントロールすることができない精神疾患である」が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』は、「一度依存症になると完全には治らない」（30.4%）が全体と比較して高くなっている。

また、『50代』は、「女性の方が短期間で発症する傾向がある」（17.3%）が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「断酒を続けることにより、依存症から回復する」（31.3%）が全体と比較して高くなっている。

性・年代別でみると、『男性30代』、『男性50代』、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』は、「飲酒をしていれば、誰もが依存症になる可能性がある」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性40代』、『男性50代』、『男性60代』、『女性30代』、『女性40代』は、「飲酒をコントロールすることができない精神疾患である」が全体と比較して高くなっている。

また、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』は、「一度依存症になると完全には治らない」が全体と比較して高くなっている。

また、『女性50代』、『女性60代』は、「アルコール依存症はゆっくり進行するため、依存が作られている途中では自分では気付かない」、「女性の方が短期間で発症する傾向がある」が全体と比較して高くなっている。

また、『女性20代以下』は、「酒に強い人ほどなりやすい」（18.0%）が全体と比較して高くなっている。

また、『女性70歳以上』は、「断酒を続けることにより、依存症から回復する」（32.6%）が全体と比較して高くなっている。

本人具体的職業別でみると、『管理・専門技術・事務職』、『学生・その他』は、「飲酒をしていれば、誰もが依存症になる可能性がある」が全体と比較して高くなっている。

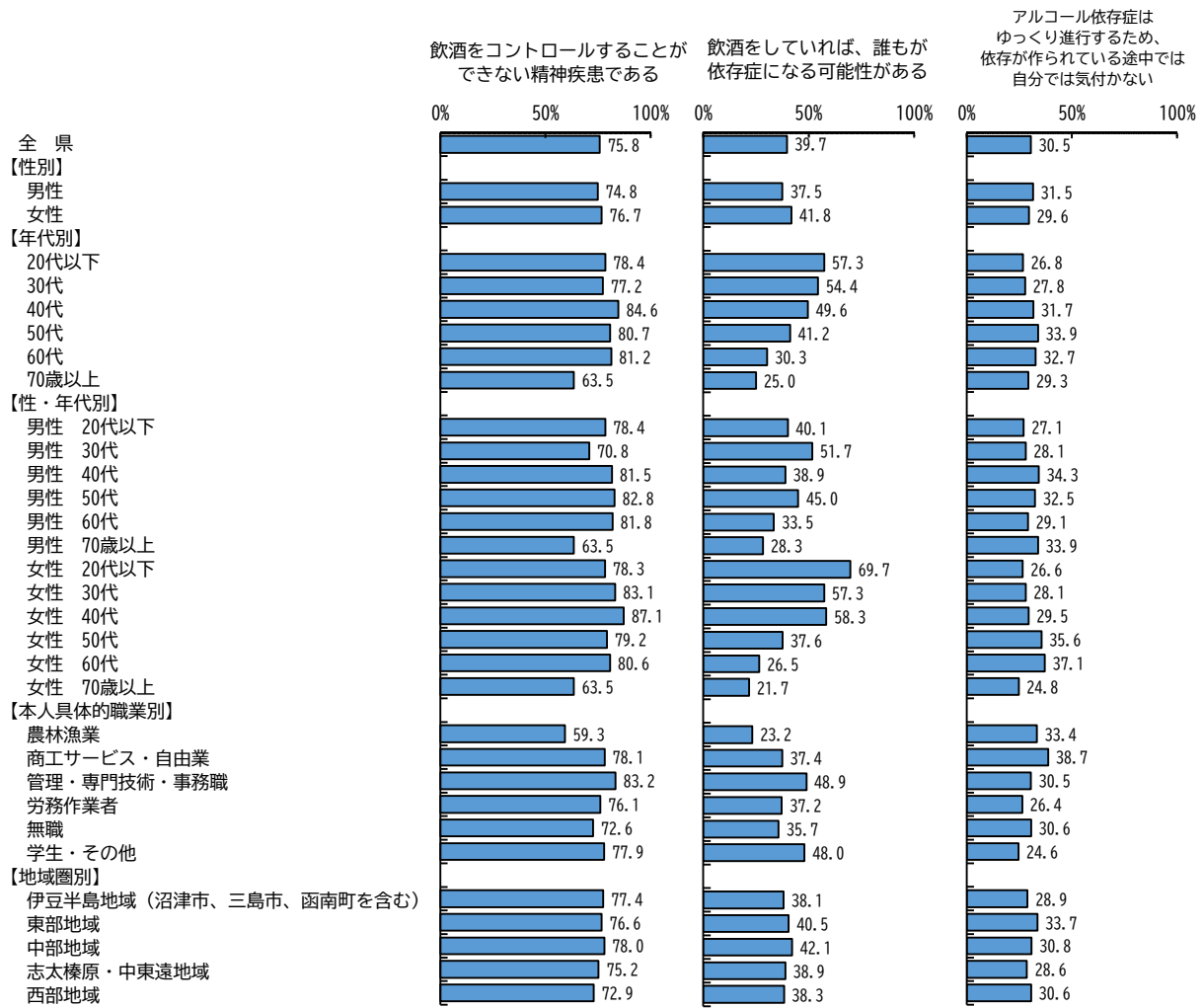
また、『農林漁業』は、「断酒を続けることにより、依存症から回復する」（31.8%）が全体と比較して高くなっている。

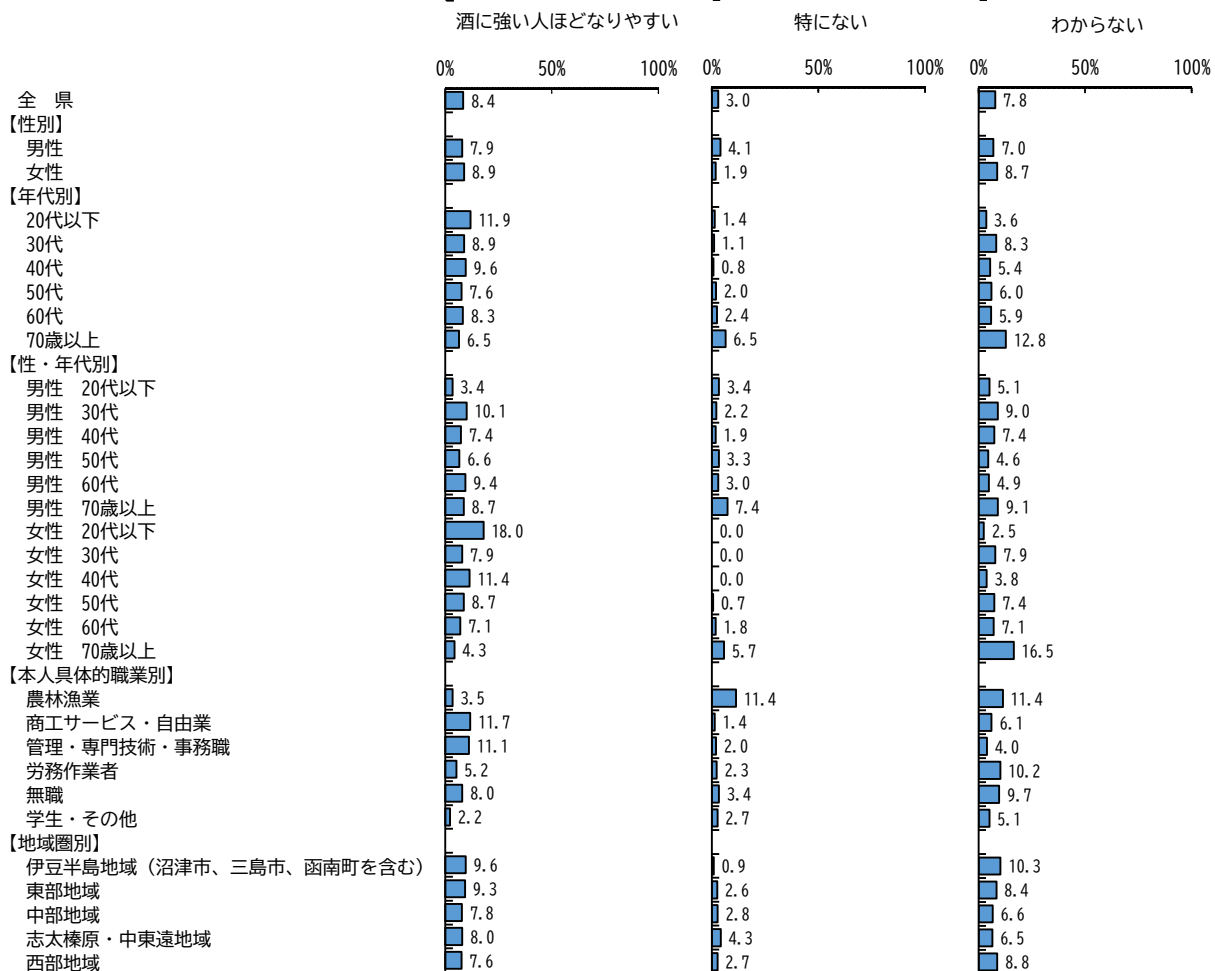
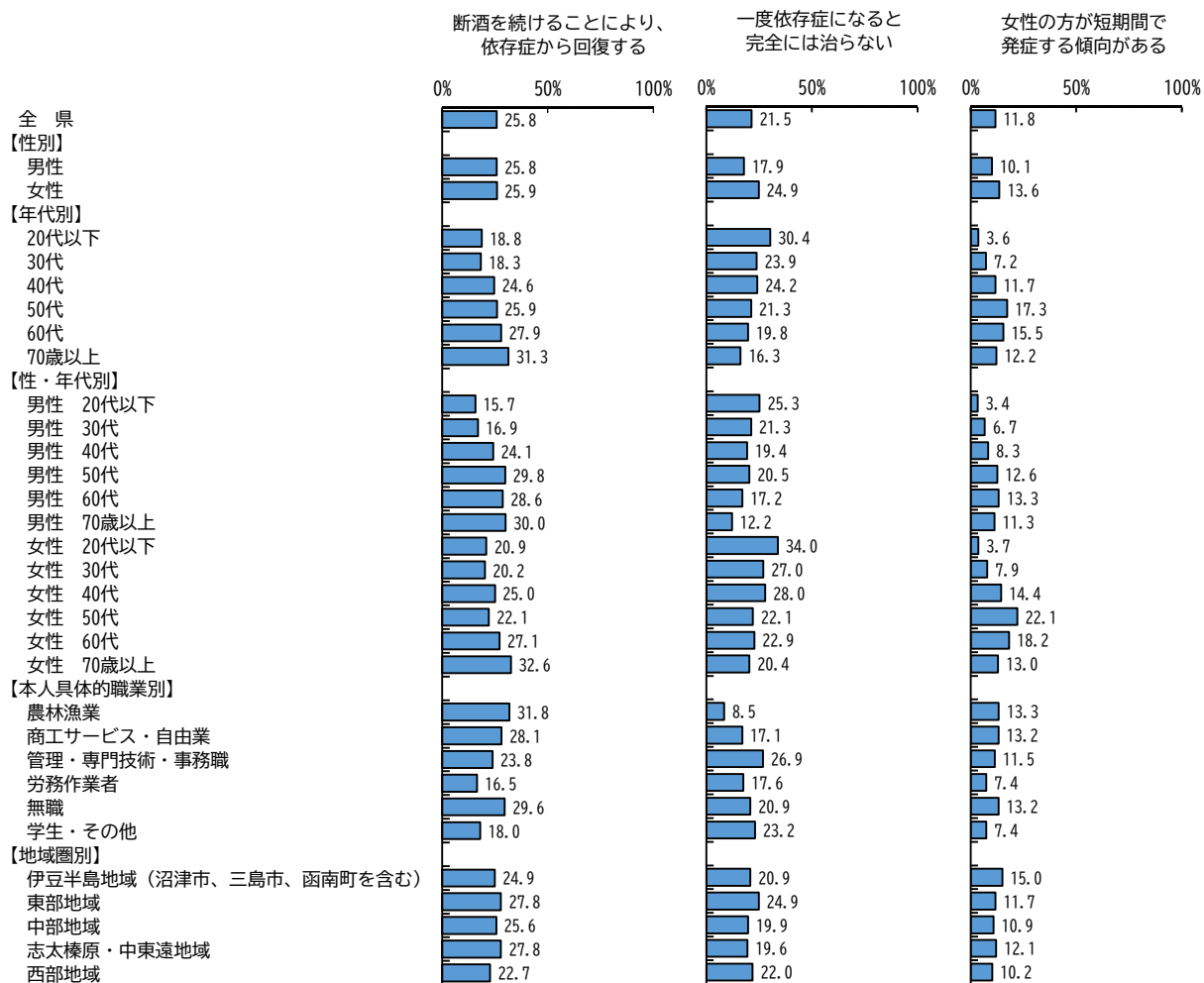
また、『商工サービス・自由業』は、「アルコール依存症はゆっくり進行するため、依存が作られている途中では自分では気付かない」（38.7%）が全体と比較して高くなっている。

また、『管理・専門技術・事務職』は、「飲酒をコントロールすることができない精神疾患である」（83.2%）、「一度依存症になると完全には治らない」（26.9%）が全体と比較して高くなっている。

【 図4-2 アルコール依存症について知っているもの

性別、年代別、性・年代別、本人具体的職業別、地域圏別 】





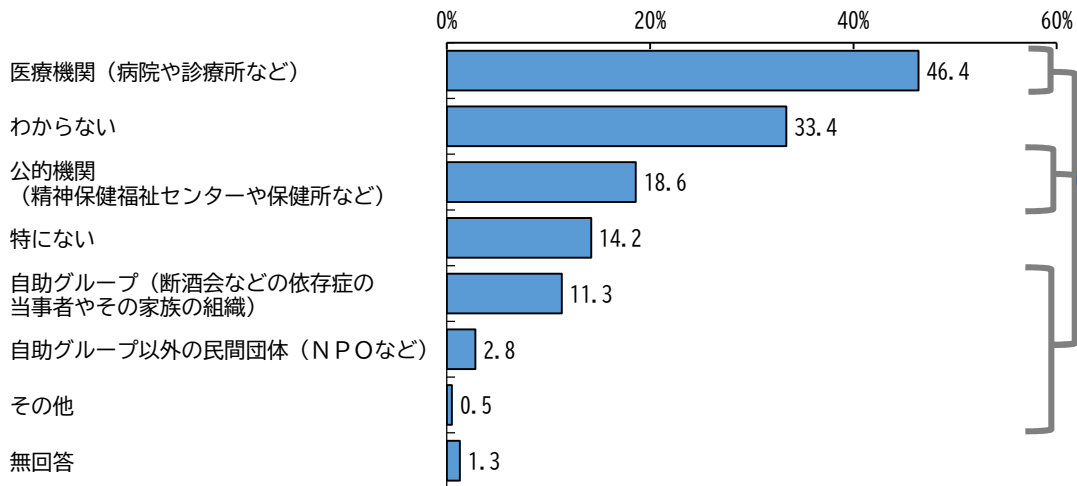
(3) アルコール依存症が疑われる場合に相談できる場所

— アルコール依存症が疑われる場合に相談できる場所は

「医療機関（病院や診療所など）」が46.4% —

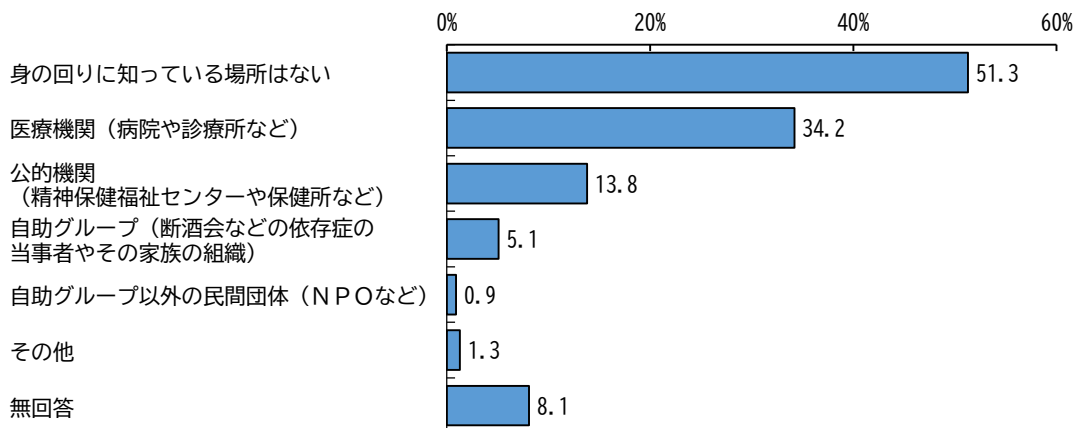
Q26 あなたやあなたの家族にアルコール依存症が疑われる場合に、相談できる場所として知っているものを選んでください。（〇はいくつでも）

【 アルコール依存症が疑われる場合に相談できる場所 】



SQ あなたのお住まいの地域で、相談できる場所として具体的に知っている場所がありますか。（〇はいくつでも）

【 住まいの地域で相談できる場所 】



アルコール依存症が疑われる場合に相談できる場所については、「医療機関（病院や診療所など）」（46.4%）が最も多く、以下「わからない」（33.4%）、「公的機関（精神保健福祉センターや保健所など）」（18.6%）、「特にない」（14.2%）、「自助グループ（断酒会などの依存症の当事者やその家族の組織）」（11.3%）となっている。

【属性による比較】（図4-3）

性別、地域圏別では、大きな差はみられない。

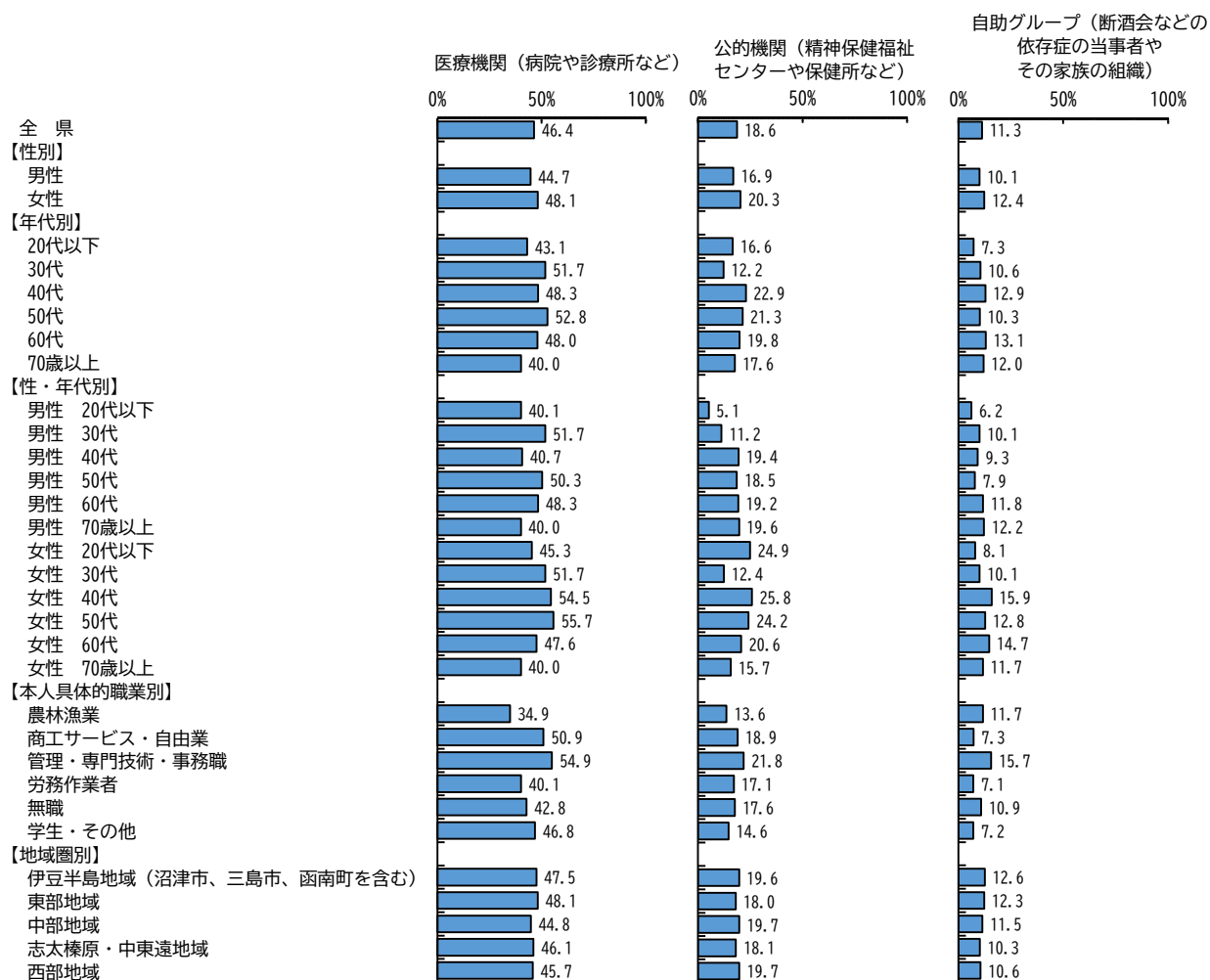
年代別でみると、『30代』、『50代』は、「医療機関（病院や診療所など）」が全体と比較して高くなっている。

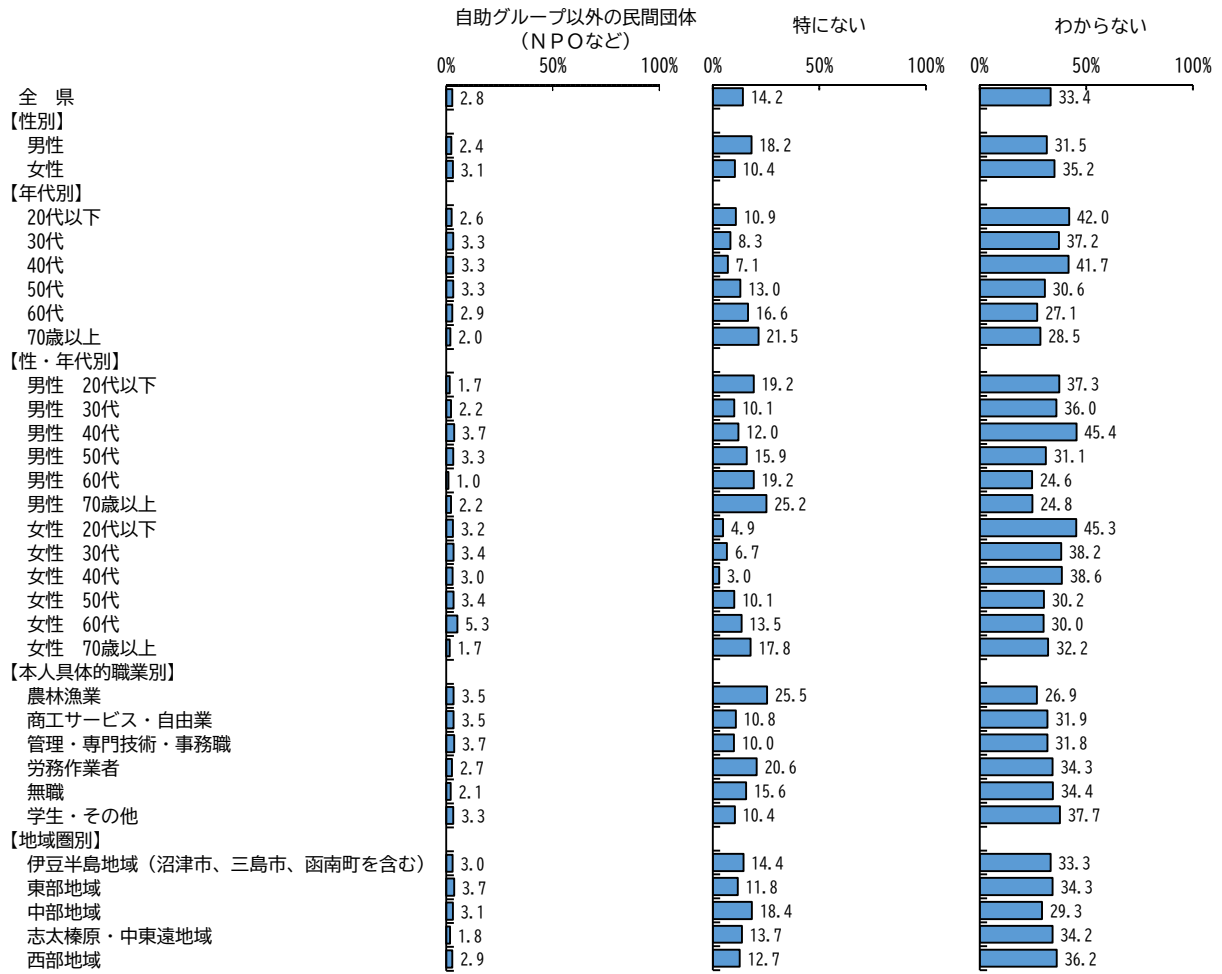
性・年代別でみると、『男性30代』、『女性30代』、『女性40代』、『女性50代』は、「医療機関（病院や診療所など）」が全体と比較して高くなっている。

また、『女性20代以下』、『女性40代』、『女性50代』は、「公的機関（精神保健福祉センターや保健所など）」が全体と比較して高くなっている。

本人具体的職業別でみると、『管理・専門技術・事務職』は、「医療機関（病院や診療所など）」（54.9%）が全体と比較して高くなっている。

【 図4-3 アルコール依存症が疑われる場合に相談できる場所
性別、年代別、性・年代別、本人具体的職業別、地域圏別 】





(4) 住まいの地域で相談できる場所

住まいの地域で相談できる場所については、「身の回りに知っている場所はない」(51.3%)が最も多く、以下「医療機関(病院や診療所など)」(34.2%)、「公的機関(精神保健福祉センターや保健所など)」(13.8%)、「自助グループ(断酒会などの依存症の当事者やその家族の組織)」(5.1%)となっている。

【属性による比較】(図4-4)

性別、地域圏別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』、『30代』、『40代』は、「身の回りに知っている場所はない」が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「医療機関(病院や診療所など)」(43.3%)、「公的機関(精神保健福祉センターや保健所など)」(20.5%)が全体と比較して高くなっている。

性・年代別でみると、『男性20代以下』、『男性30代』、『男性40代』、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』は、「身の回りに知っている場所はない」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性50代』、『男性70歳以上』、『女性60代』、『女性70歳以上』は、「医療機関(病院や診療所など)」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性70歳以上』、『女性70歳以上』は、「公的機関(精神保健福祉センターや保健所など)」が全体と比較して高くなっている。

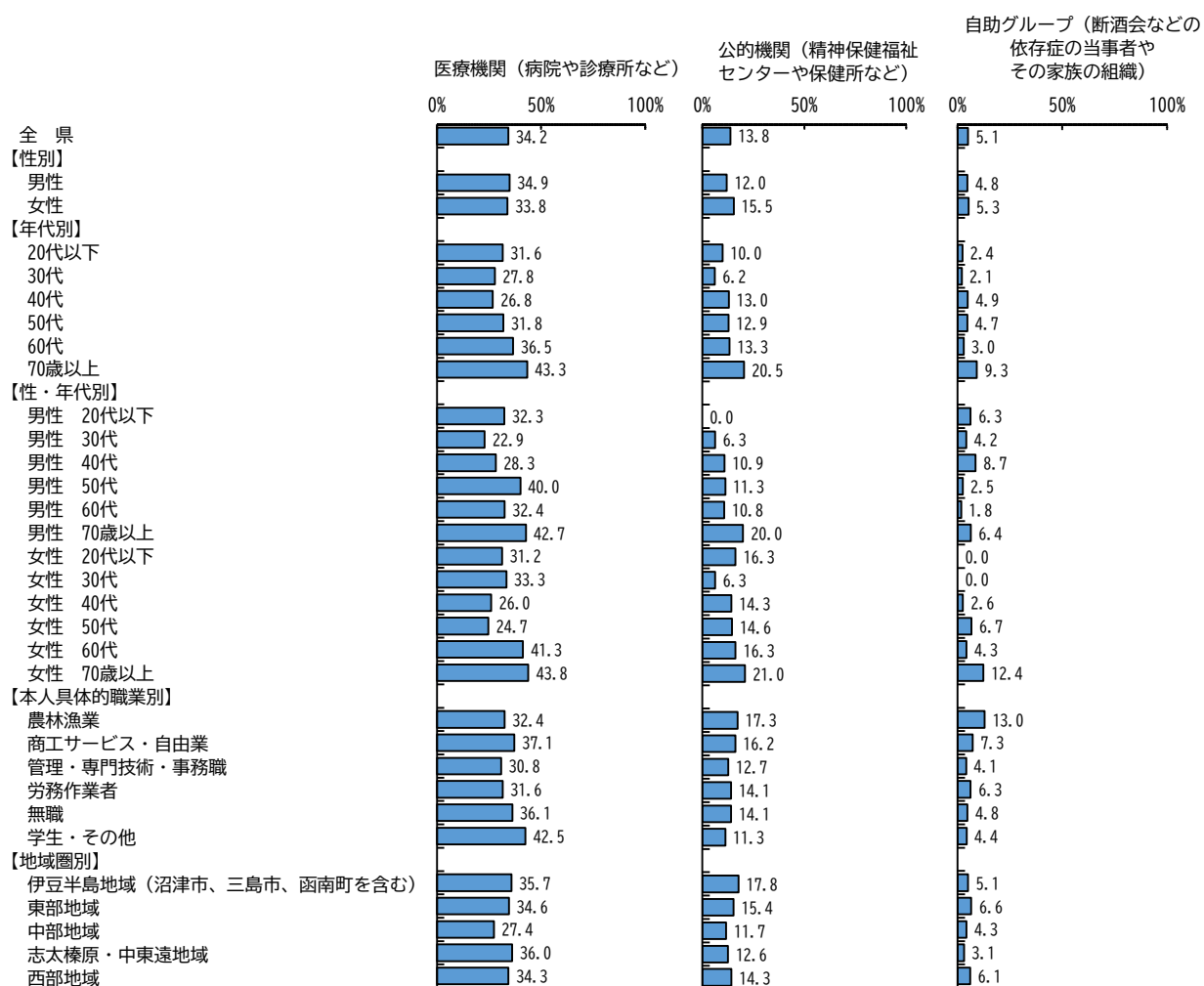
また、『女性70歳以上』は、「自助グループ(断酒会などの依存症の当事者やその家族の組織)」(12.4%)が全体と比較して高くなっている。

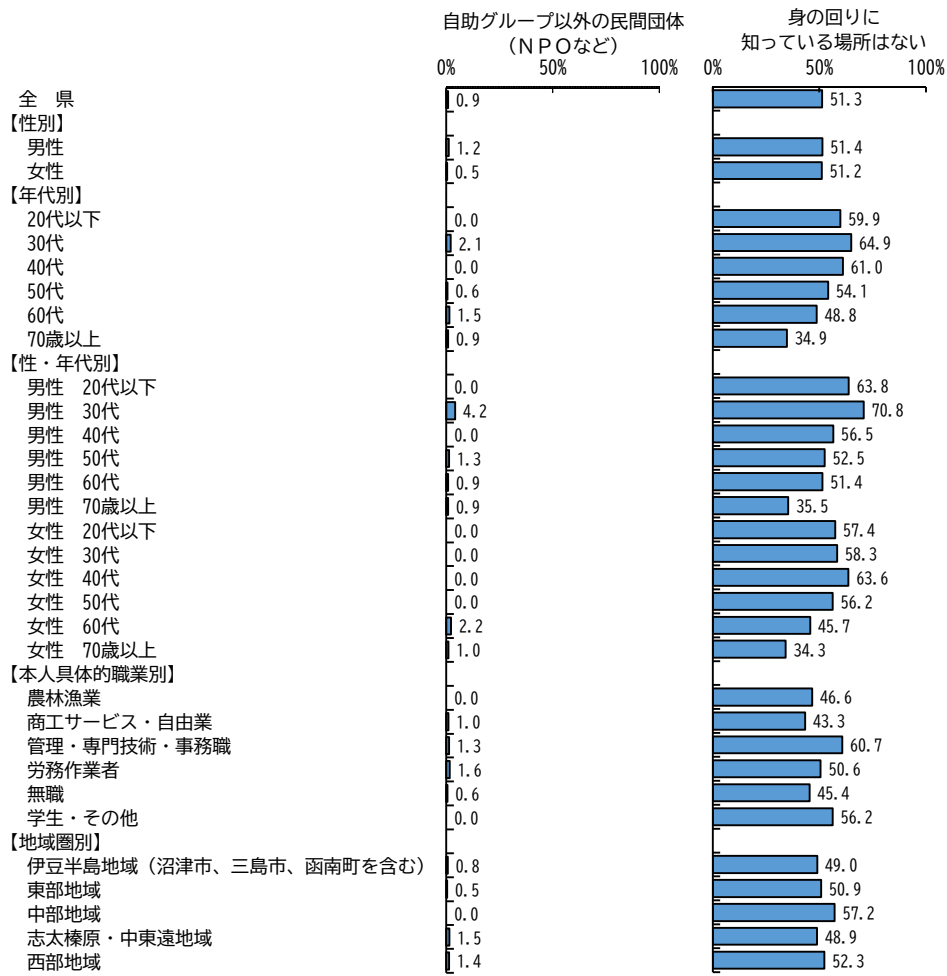
本人具体的職業別でみると、『農林漁業』は、「自助グループ(断酒会などの依存症の当事者やその家族の組織)」(13.0%)が全体と比較して高くなっている。

また、『管理・専門技術・事務職』は、「身の回りに知っている場所はない」(60.7%)が全体と比較して高くなっている。

また、『学生・その他』は、「医療機関(病院や診療所など)」(42.5%)が全体と比較して高くなっている。

【 図4-4 住まいの地域で相談できる場所
性別、年代別、性・年代別、本人具体的職業別、地域圏別 】



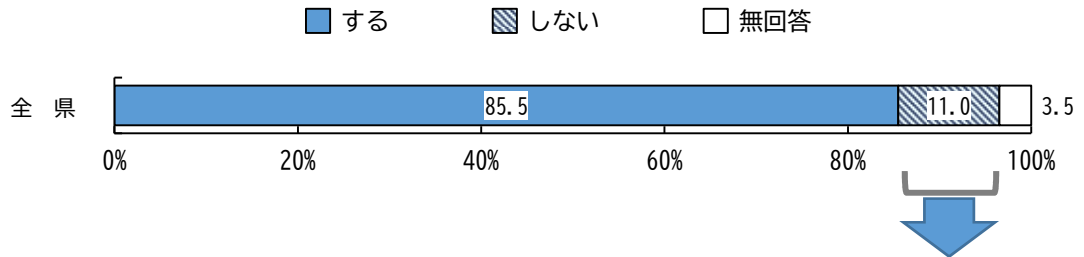


(5) 相談窓口を知っていれば相談するか

—— 相談を「しない」人は11.0% その理由は、「相談する必要を感じないから」が高い ——

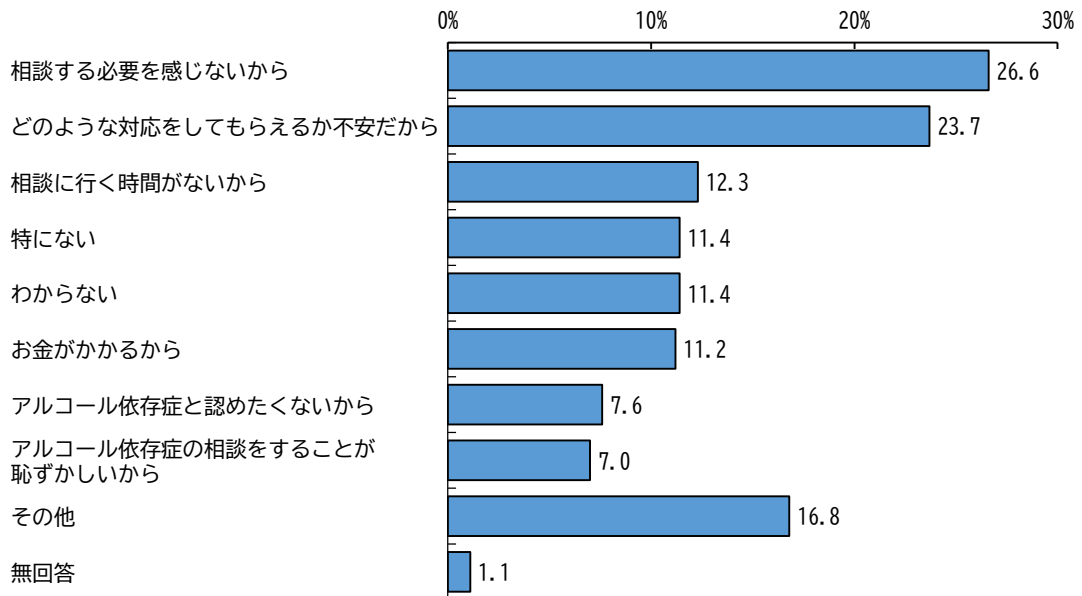
Q27 あなたやあなたの家族にアルコール依存症が疑われる場合、相談窓口を知っていれば、相談しますか。(〇は1つ)

【 相談窓口を知っていれば相談するか 】



SQ 相談しない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

【 相談しない理由 】



相談窓口を知っていれば相談するかについては、「する」が85.5%、「しない」が11.0%となっている。

【属性による比較】（図4-5、図4-6）

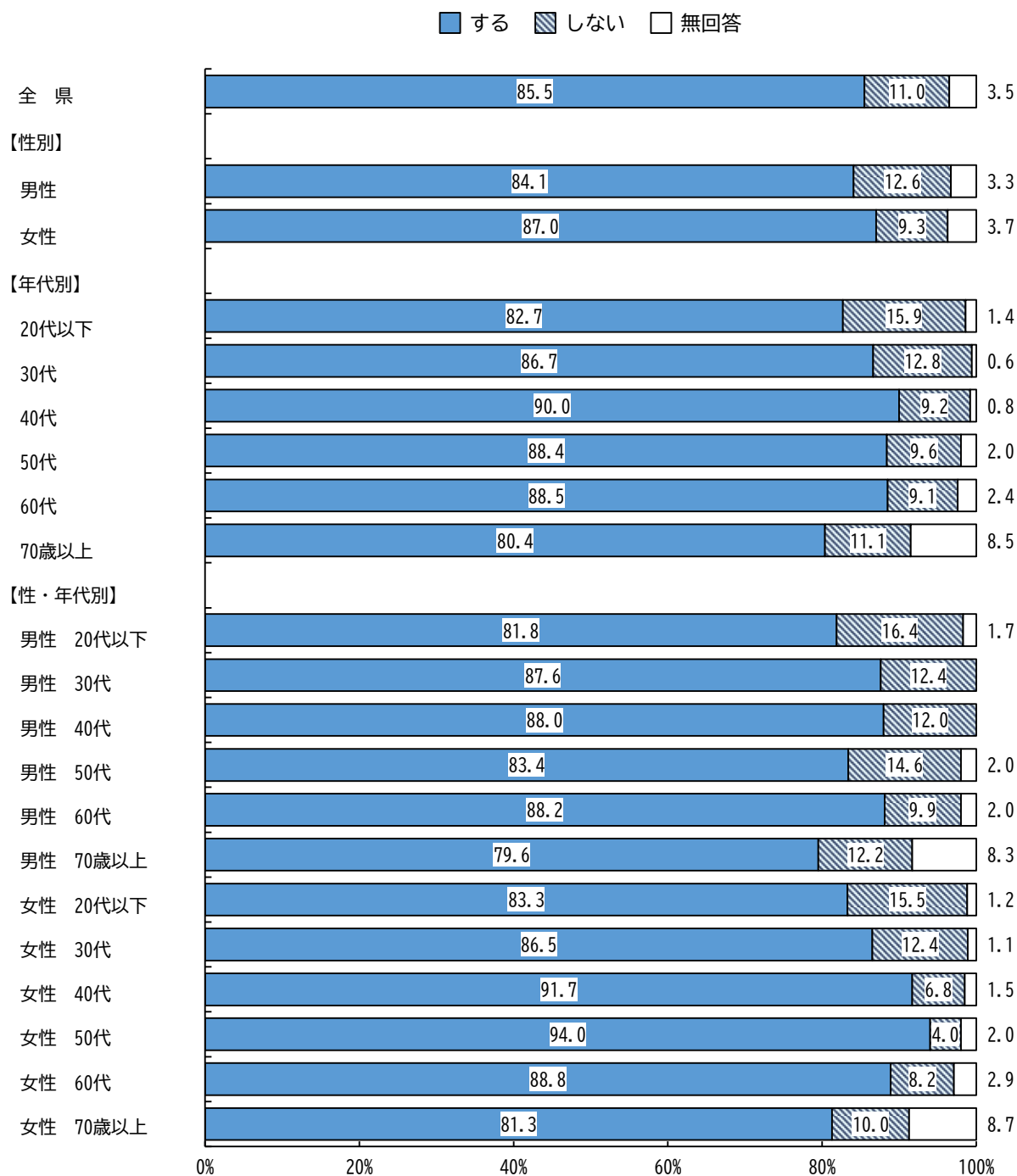
性別、年代別、地域圏別では、大きな差はみられない。

性・年代別でみると、『男性20代以下』は、「しない」(16.4%) が全体と比較して高くなっている。

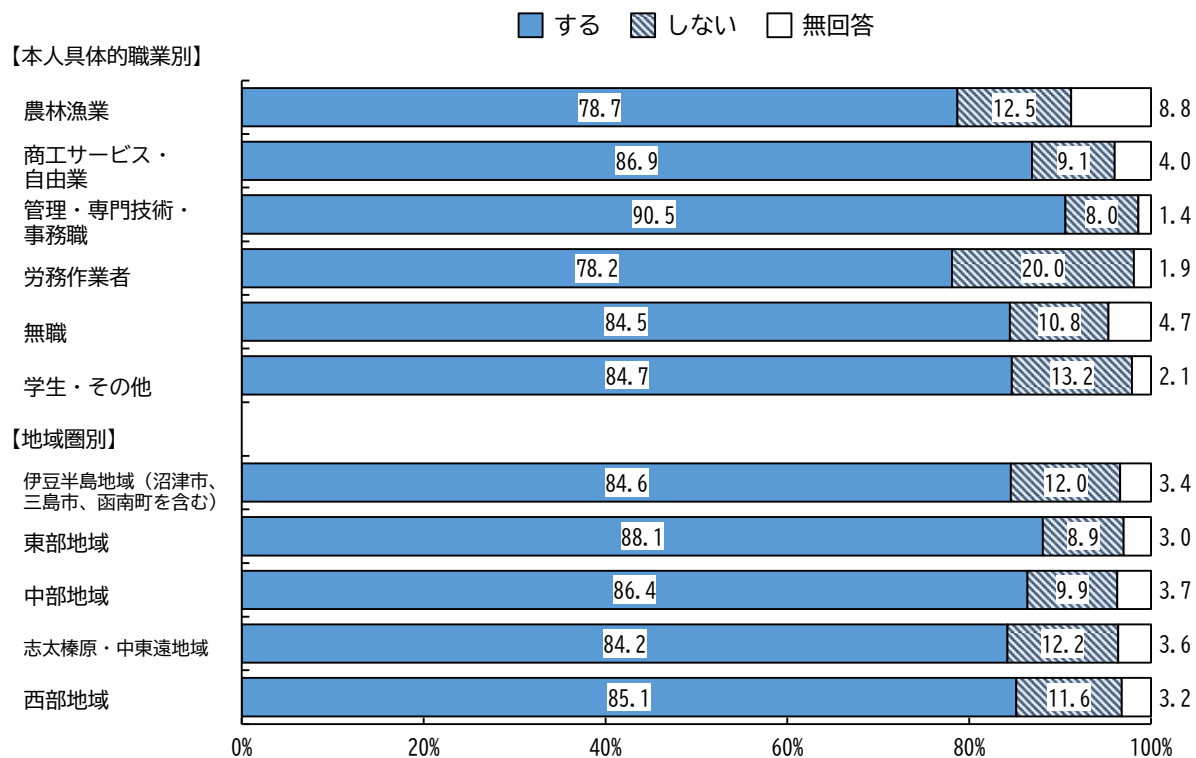
また、『女性40代』、『女性50代』は、「する」が全体と比較して高くなっている。

本人具体的職業別でみると、『労務作業者』は、「しない」(20.0%) が全体と比較して高くなっている。

【 図4-5 相談窓口を知っていれば相談するか 性別、年代別、性・年代別 】



【 図 4-6 相談窓口を知っていれば相談するか 本人具体的職業別、地域圏別 】



(6) 相談しない理由

相談しない理由については、「相談する必要を感じないから」(26.6%)が最も多く、以下「どのような対応をしてもらえるか不安だから」(23.7%)、「相談に行く時間がないから」(12.3%)、「特にない」(11.4%)、「わからない」(11.4%)となっている。

【属性による比較】(図4-7)

性別でみると、『女性』は、「お金がかかるから」(16.3%)が全体と比較して高くなっている。

年代別でみると、『20代以下』、『30代』、『40代』は、「相談に行く時間がないから」が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『30代』、『50代』は、「相談する必要を感じないから」が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『40代』は、「お金がかかるから」が全体と比較して高くなっている。

また、『30代』、『40代』は、「どのような対応をしてもらえるか不安だから」が全体と比較して高くなっている。

また、『60代』は、「アルコール依存症の相談をすることが恥ずかしいから」(14.7%)が全体と比較して高くなっている。

性・年代別でみると、『男性20代以下』、『男性30代』、『女性30代』、『女性40代』は、「どのような対応をしてもらえるか不安だから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性30代』、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』は、「相談に行く時間がないから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性30代』、『男性50代』、『女性20代以下』、『女性30代』は、「相談する必要を感じないから」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性60代』は、「アルコール依存症と認めたくないから」(15.0%)が全体と比較して高くなっている。

また、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』は、「お金がかかるから」が全体と比較して高くなっている。

また、『女性60代』は、「アルコール依存症の相談をすることが恥ずかしいから」(21.4%)が全体と比較して高くなっている。

本人具体的職業別でみると、『商工サービス・自由業』は、「どのような対応をしてもらえるか不安だから」(48.9%)、「アルコール依存症の相談をすることが恥ずかしいから」(16.7%)、「アルコール依存症と認めたくないから」(23.9%)が全体と比較して高くなっている。

また、『管理・専門技術・事務職』、『労務作業』は、「相談する必要を感じないから」が全体と比較して高くなっている。

また、『労務作業』は、「相談に行く時間がないから」(20.9%)、「お金がかかるから」(18.1%)が全体と比較して高くなっている。

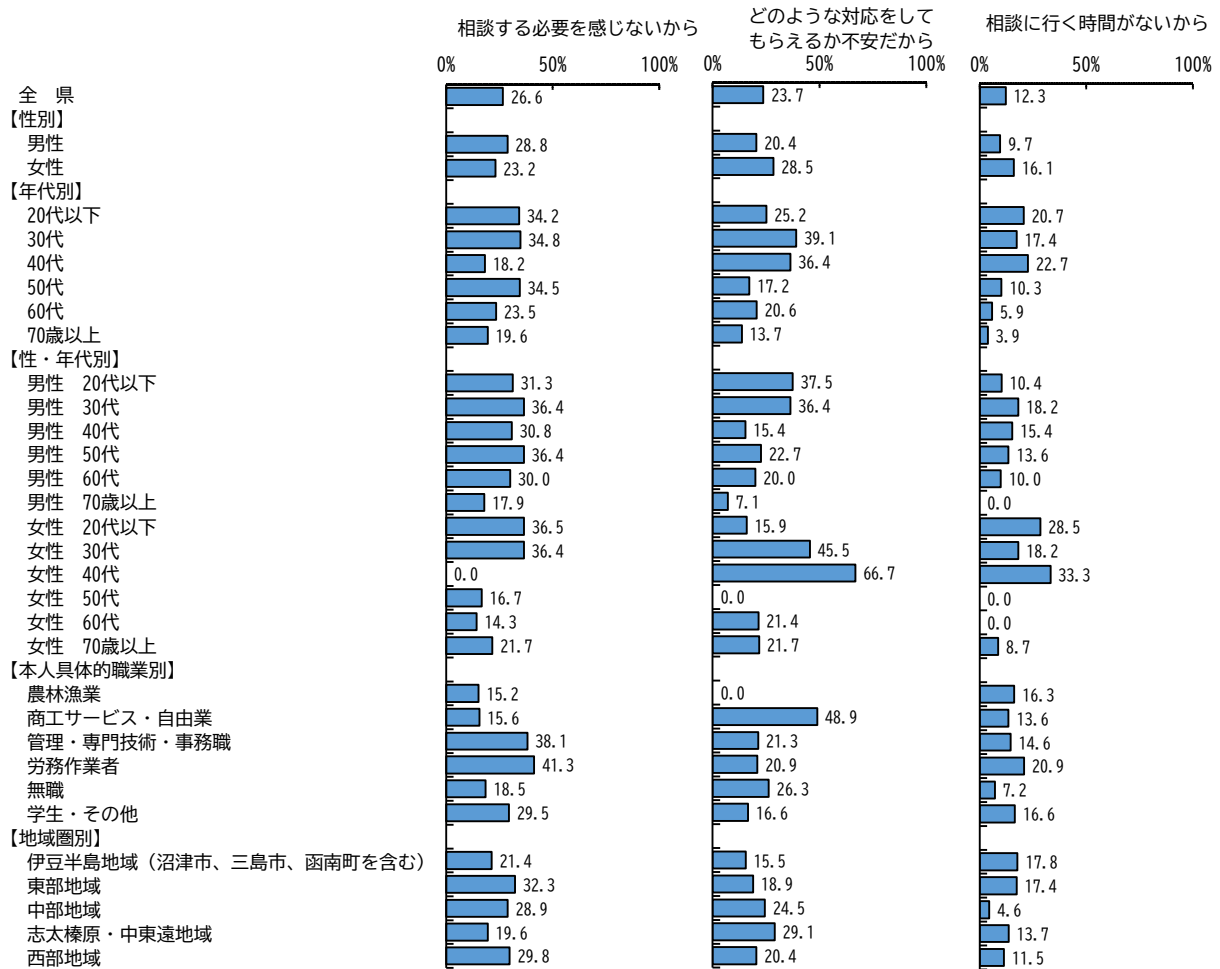
地域圏別でみると、『伊豆半島地域(沼津市、三島市、函南町を含む)』、『東部地域』は、「相談に行く時間がないから」が全体と比較して高くなっている。

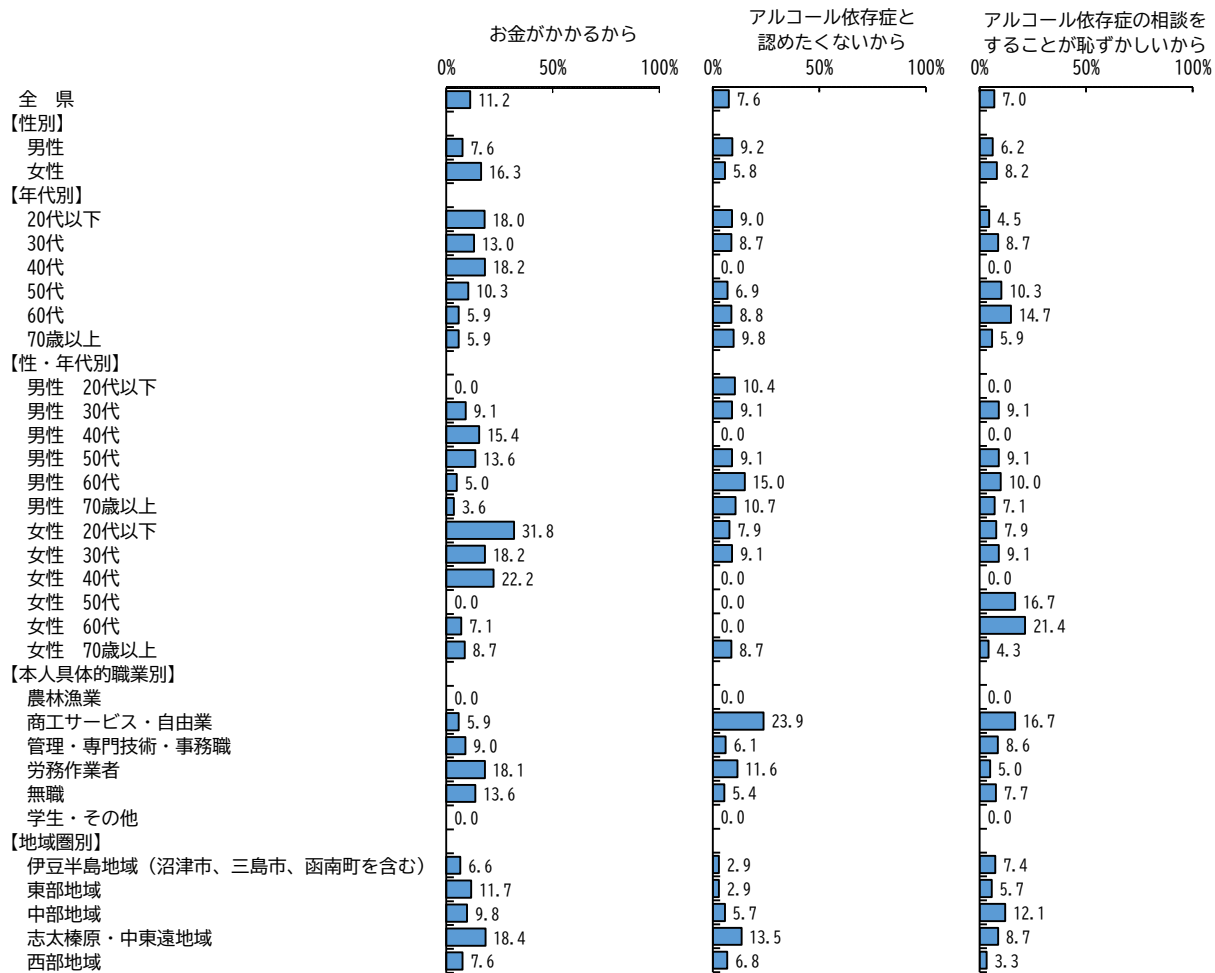
また、『東部地域』は、「相談する必要を感じないから」(32.3%)が全体と比較して高くなっている。

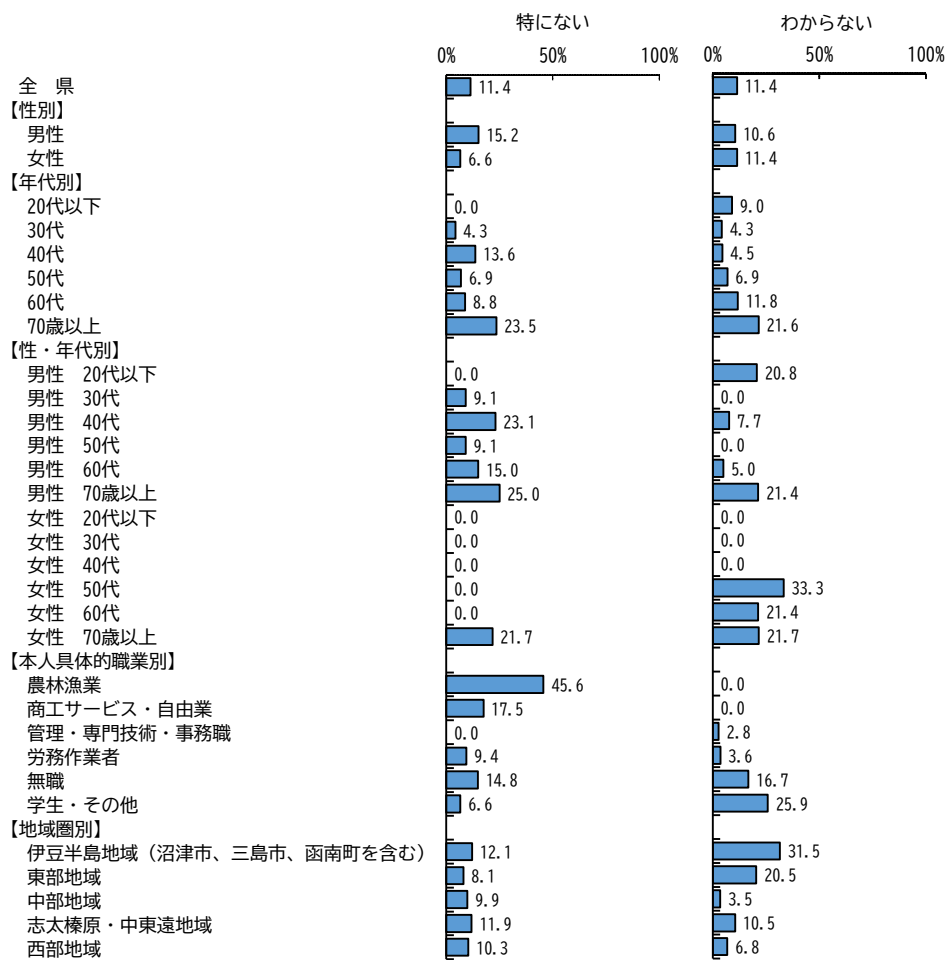
また、『中部地域』は、「アルコール依存症の相談をすることが恥ずかしいから」(12.1%)が全体と比較して高くなっている。

また、『志太榛原・中東地域』は、「どのような対応をしてもらえるか不安だから」(29.1%)、「お金がかかるから」(18.4%)、「アルコール依存症と認めたくないから」(13.5%)が全体と比較して高くなっている。

【 図 4-7 相談しない理由 性別、年代別、性・年代別、本人具体的職業別、地域圏別 】







(7) アルコール依存症についての情報取得

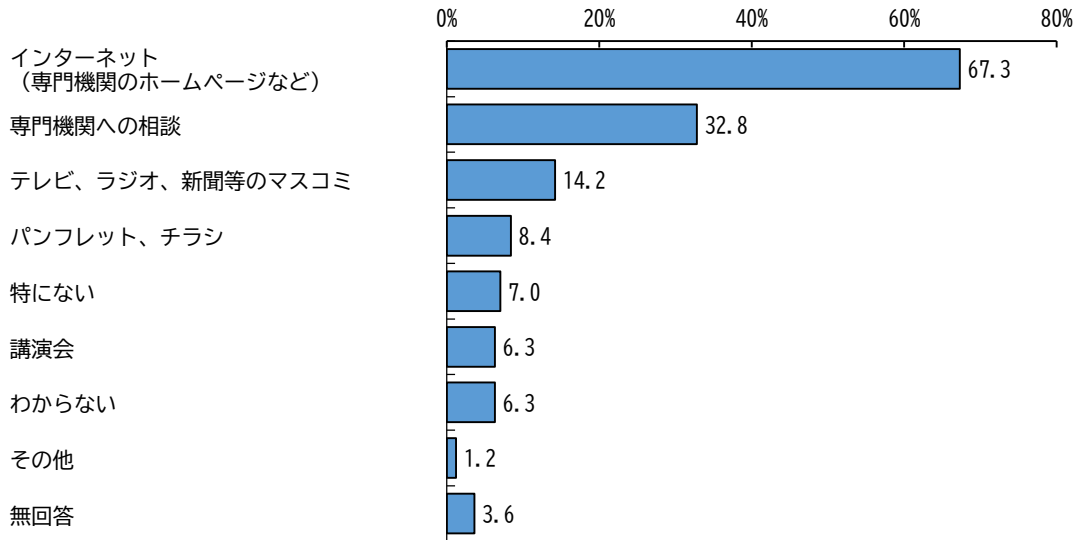
— アルコール依存症についての情報取得は

「インターネット（専門機関のホームページなど）」が67.3% —

Q28 アルコール依存症について、どのような方法で情報を得ようと思いますか。

(○はいくつでも)

【 アルコール依存症について情報取得 】



アルコール依存症についての情報取得については、「インターネット（専門機関のホームページなど）」(67.3%)が最も多く、以下「専門機関への相談」(32.8%)、「テレビ、ラジオ、新聞等のマスコミ」(14.2%)、「パンフレット、チラシ」(8.4%)、「特にない」(7.0%)となっている。

【属性による比較】（図4-8）

性別、地域圏別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』、『30代』、『40代』、『50代』は、「インターネット（専門機関のホームページなど）」が全体と比較して高くなっている。

また、『60代』は、「専門機関への相談」（40.8%）が全体と比較して高くなっている。

性・年代別でみると、『男性20代以下』、『男性30代』、『男性40代』、『男性50代』、『女性20代以下』、『女性30代』、『女性40代』、『女性50代』は、「インターネット（専門機関のホームページなど）」が全体と比較して高くなっている。

また、『男性70歳以上』、『女性20代以下』は、「テレビ、ラジオ、新聞等のマスコミ」が全体と比較して高くなっている。

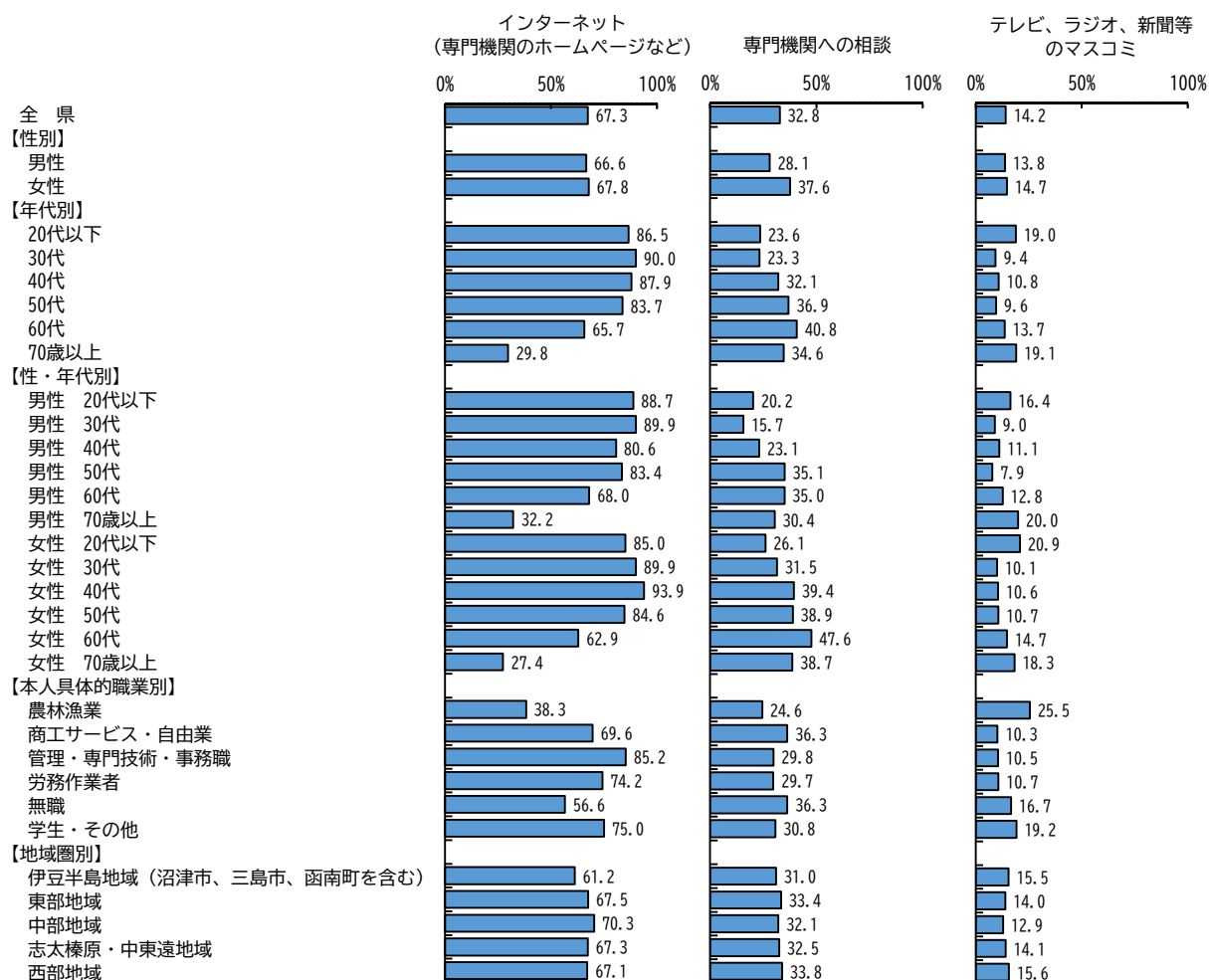
また、『女性40代』、『女性50代』、『女性60代』、『女性70歳以上』は、「専門機関への相談」が全体と比較して高くなっている。

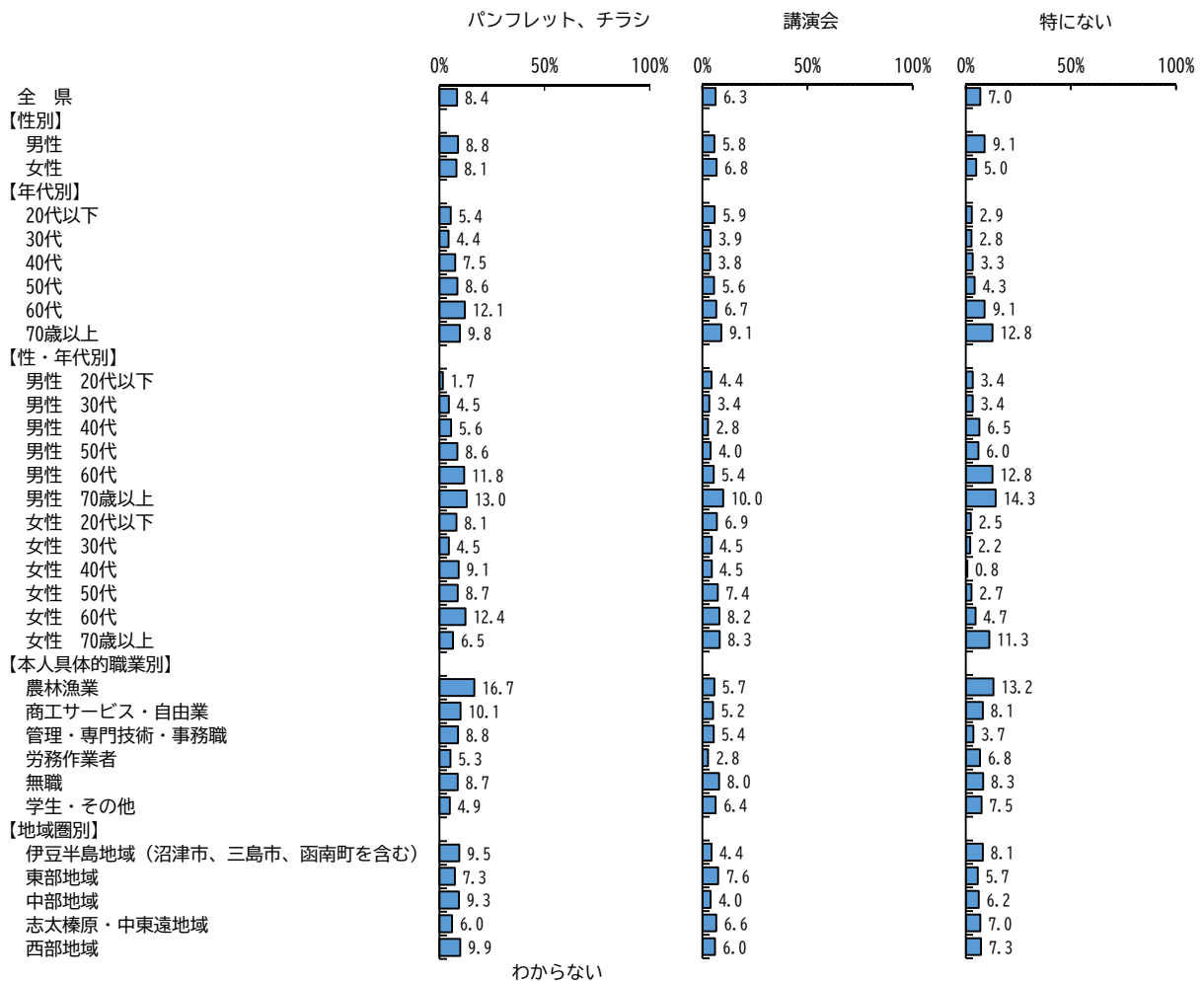
本人具体的職業別でみると、『農林漁業』は、「テレビ、ラジオ、新聞等のマスコミ」（25.5%）、「パンフレット、チラシ」（16.7%）が全体と比較して高くなっている。

また、『管理・専門技術・事務職』、『労務作業員』、『学生・その他』は、「インターネット（専門機関のホームページなど）」が全体と比較して高くなっている。

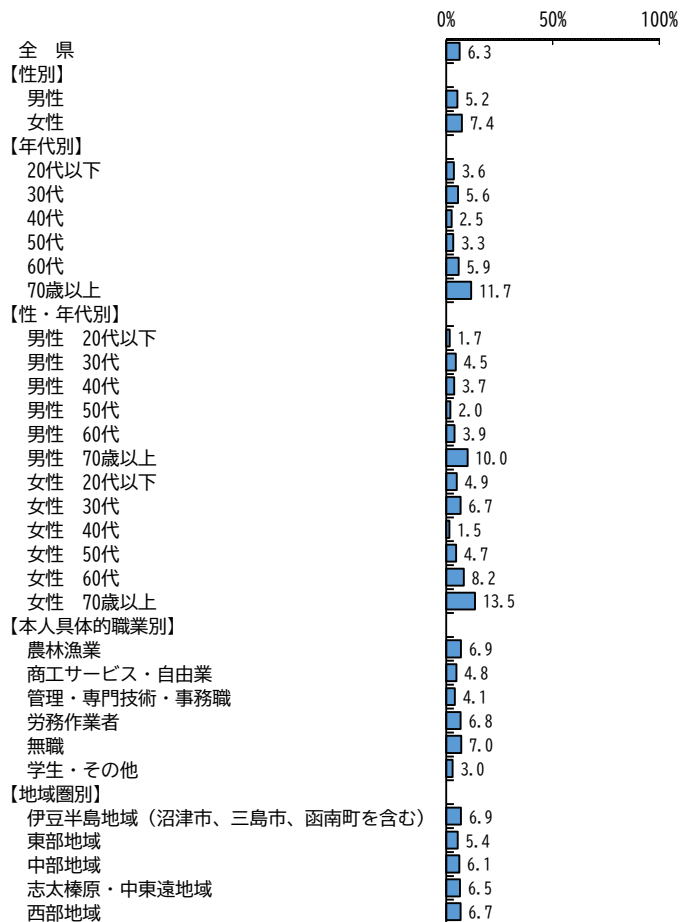
【 図4-8 アルコール依存症についての情報取得

性別、年代別、性・年代別、本人具体的職業別、地域圏別 】





わからない



第5章 森の力再生事業に関する意識

1 森の力再生事業に関する意識

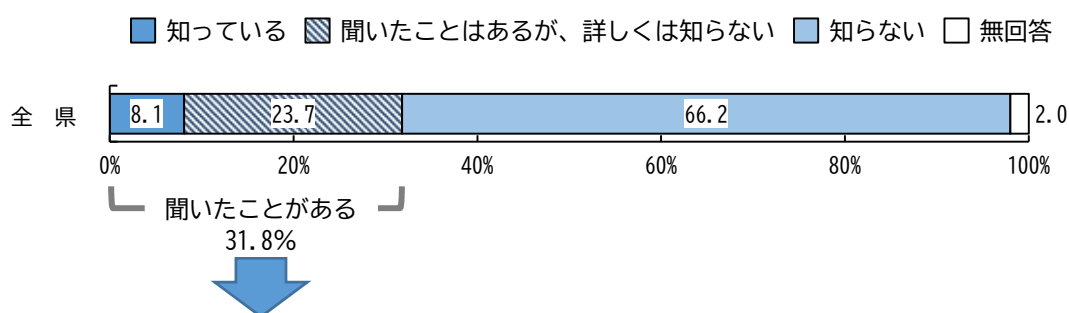
(1) 『森の力再生事業』の認知

— 『森の力再生事業』を認知している人は31.8% —

『森の力再生事業』の情報取得方法は「テレビ・ラジオ」が43.9% —

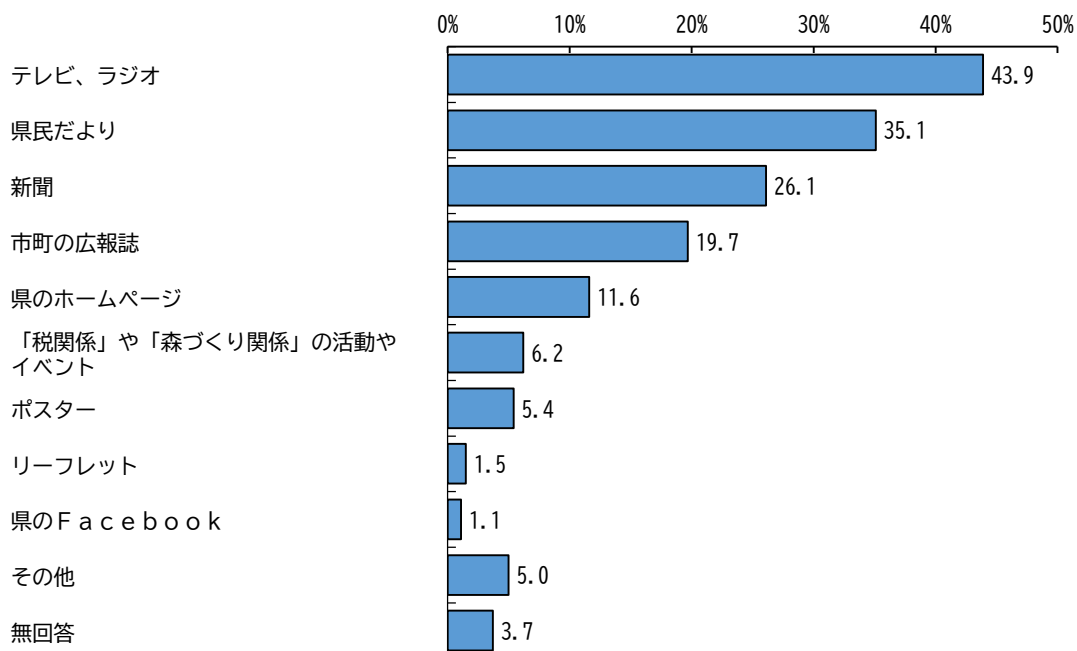
Q29 県では、荒廃している森林のうち、緊急性の高い森林を整備する「森の力再生事業」を行っています。あなたは、「森の力再生事業」を知っていますか。(〇は1つ)

【 『森の力再生事業』の認知 】



SQ あなたは、「森の力再生事業」を、どのような方法で知りましたか。(〇はいくつでも)

【 『森の力再生事業』の情報取得方法 】



『森の力再生事業』の認知については、「知らない」(66.2%)が最も多く、以下「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」(23.7%)、「知っている」(8.1%)となっている。「知っている」(8.1%)と「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」(23.7%)を合わせた31.8%が『森の力再生事業』について認知していると考えられる。

【属性による比較】（図5-1）

性別、地域圏別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』、『30代』、『40代』、『50代』は、「知らない」が全体と比較して高くなっている。

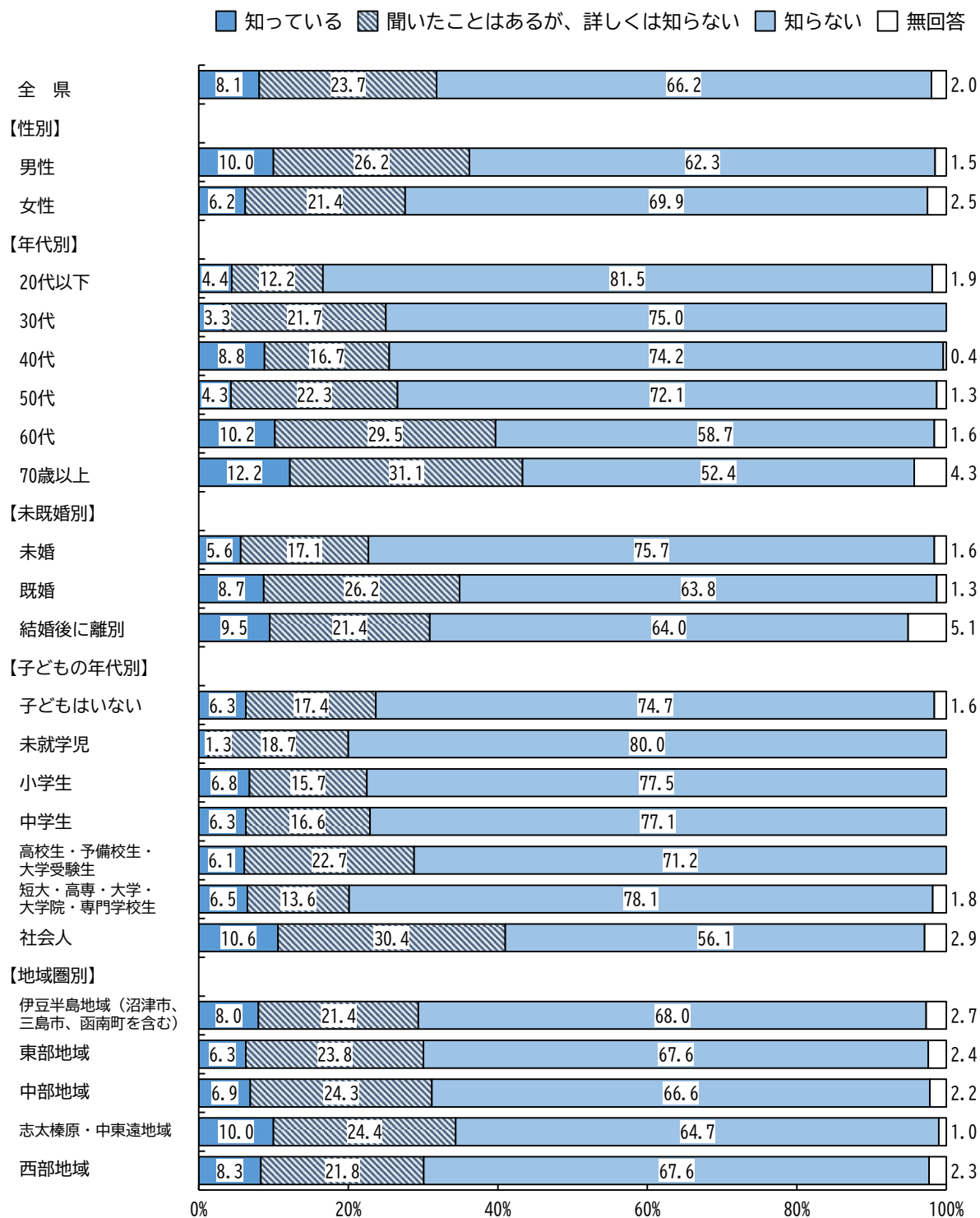
また、『60代』、『70歳以上』は、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が全体と比較して高くなっている。

未既婚別でみると、『未婚』は、「知らない」（75.7%）が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『子どもはいない』、『未就学児』、『小学生』、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「知らない」が全体と比較して高くなっている。

また、『社会人』は、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」（30.4%）が全体と比較して高くなっている。

【 図5-1 『森の力再生事業』の認知 性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域圏別 】



(2) 『森の力再生事業』の情報取得方法

『森の力再生事業』の情報取得方法については、「テレビ、ラジオ」(43.9%)が最も多く、以下「県民だより」(35.1%)、「新聞」(26.1%)、「市町の広報誌」(19.7%)、「県のホームページ」(11.6%)となっている。

[属性による比較] (図5-2)

性別でみると、『男性』は、「新聞」(32.2%)が全体と比較して高くなっている。

年代別でみると、『20代以下』、『40代』は、「県のホームページ」が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』、『50代』は、「テレビ、ラジオ」が全体と比較して高くなっている。

また、『20代以下』は、「税関係」や「森づくり関係」の活動やイベント」(12.9%)が全体と比較して高くなっている。

また、『30代』は、「ポスター」(13.3%)が全体と比較して高くなっている。

また、『60代』、『70歳以上』は、「県民だより」が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「新聞」(35.2%)、「市町の広報誌」(30.7%)が全体と比較して高くなっている。

未婚別でみると、『未婚』は、「テレビ、ラジオ」(58.5%)が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『子どもはいない』、『未就学児』、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』は、「テレビ、ラジオ」が全体と比較して高くなっている。

また、『小学生』は、「県のホームページ」(21.4%)、「税関係」や「森づくり関係」の活動やイベント」(12.9%)が全体と比較して高くなっている。

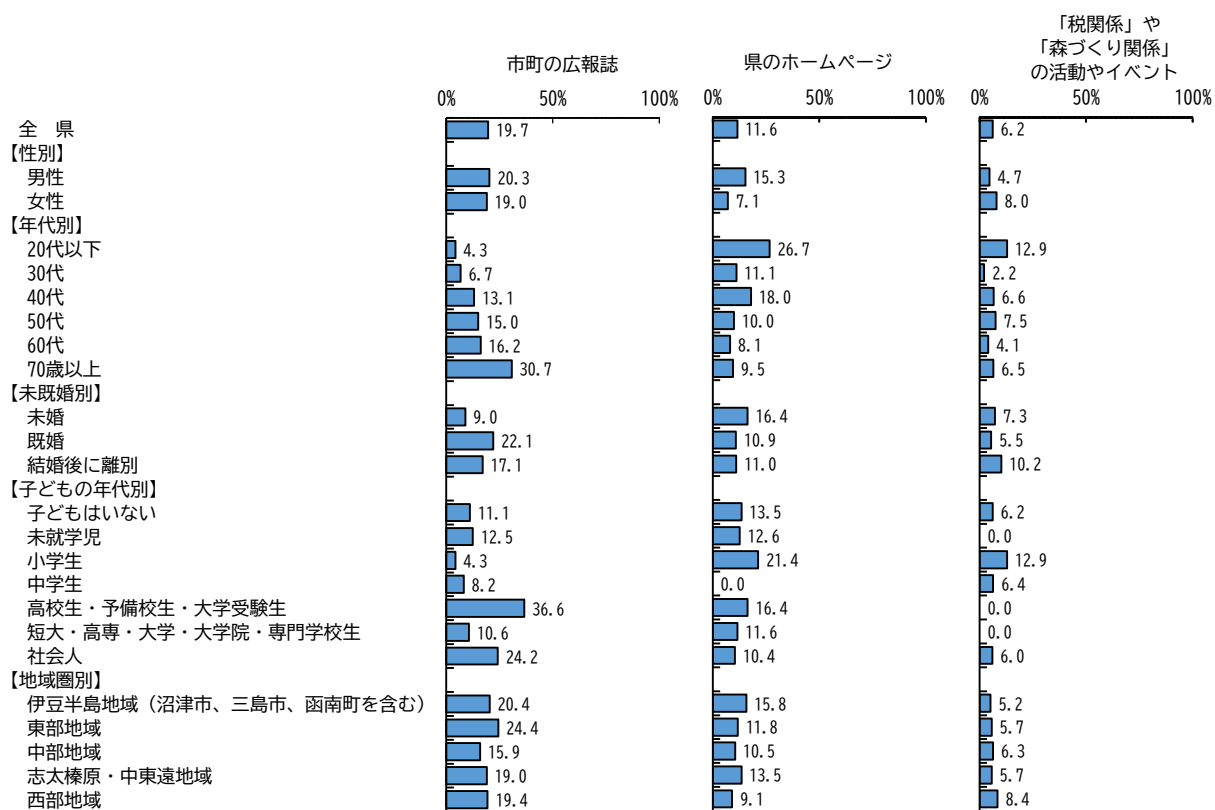
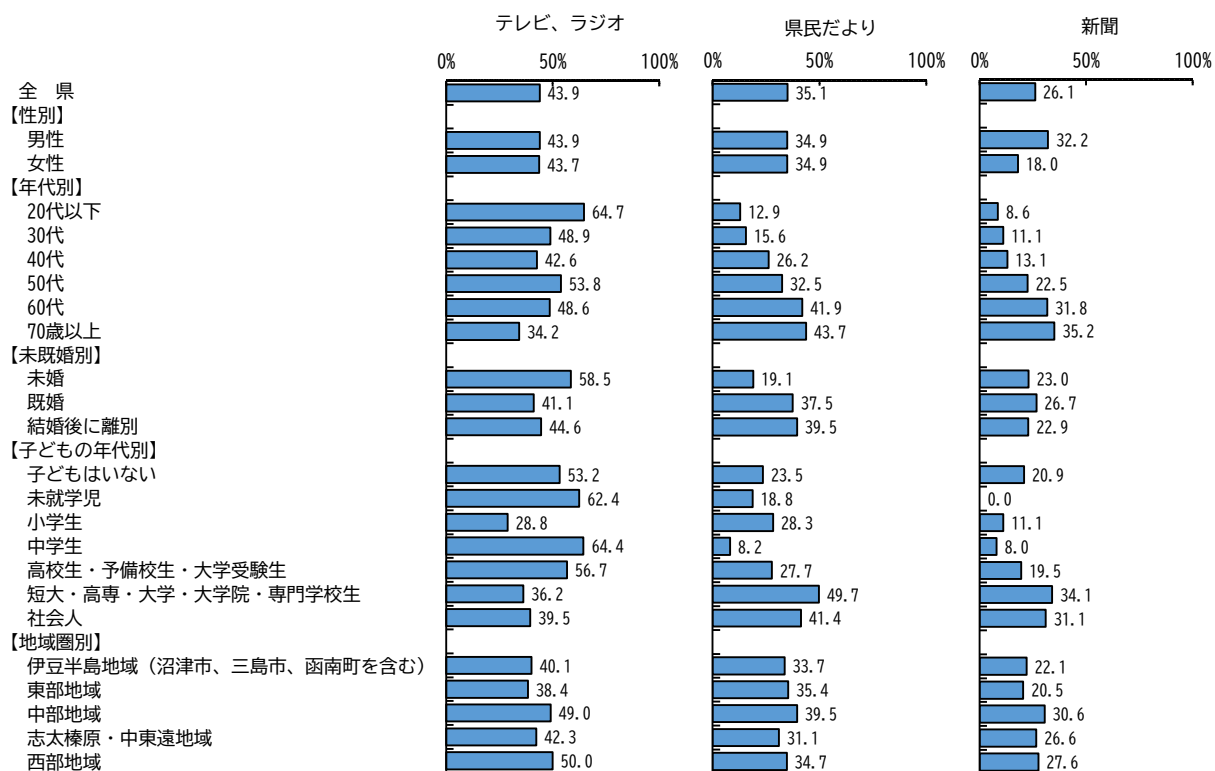
また、『高校生・予備校生・大学受験生』は、「市町の広報誌」(36.6%)が全体と比較して高くなっている。

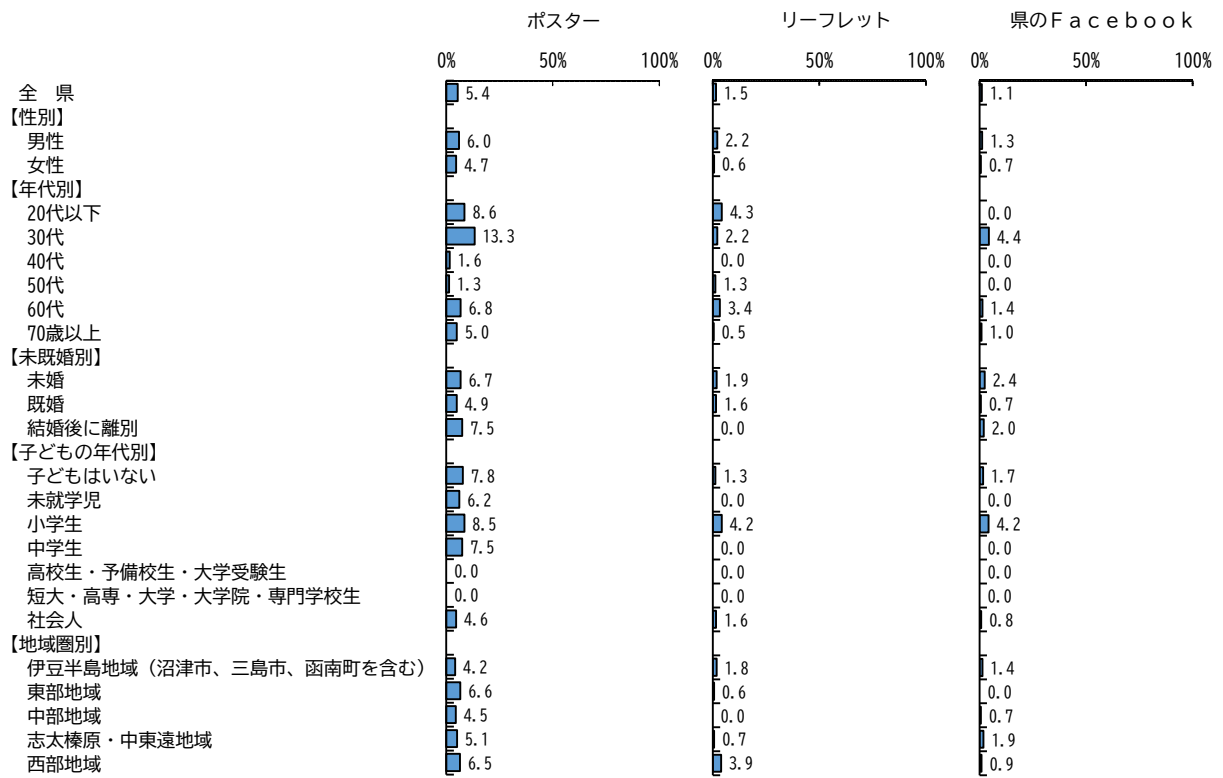
また、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』、『社会人』は、「県民だより」が全体と比較して高くなっている。

また、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、「新聞」(34.1%)が全体と比較して高くなっている。

地域圏別でみると、『中部地域』、『西部地域』は、「テレビ、ラジオ」が全体と比較して高くなっている。

【 図5-2 『森の力再生事業』の情報取得方法
性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域圏別 】



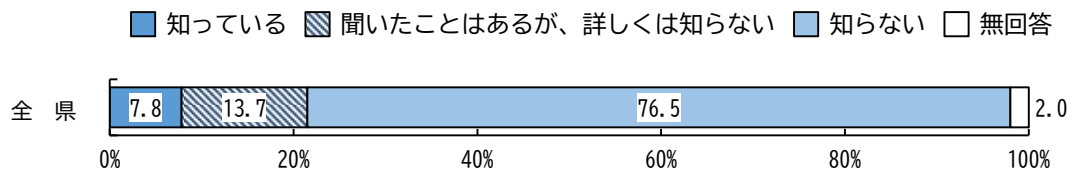


(3) 『森林（もり）づくり県民税』の認知

— 『森林（もり）づくり県民税』を認知している人は21.5% —

Q30 「森の力再生事業」を行うために、県では、平成18年4月から県民の皆様に「森林（もり）づくり県民税（個人400円/年）」を負担していただいています。あなたは、「森林（もり）づくり県民税」を知っていますか。（○は1つ）

【 『森林（もり）づくり県民税』の認知 】



『森林（もり）づくり県民税』の認知では、「知らない」（76.5%）が最も多く、以下「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」（13.7%）、「知っている」（7.8%）となっている。「知っている」（7.8%）と「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」（13.7%）を合わせた21.5%が『森林（もり）づくり県民税』について認知していると考えられる。

【属性による比較】（図5-3）

性別、地域圏別では、大きな差はみられない。

年代別でみると、『20代以下』、『40代』、『50代』は、「知らない」が全体と比較して高くなっている。

また、『70歳以上』は、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」（22.8%）が全体と比較して高くなっている。

未婚別でみると、『未婚』は、「知らない」（84.9%）が全体と比較して高くなっている。

子どもの年代別でみると、『子どもはいない』、『未就学児』、『小学生』、『中学生』、『高校生・予備校生・大学受験生』は、「知らない」が全体と比較して高くなっている。

【 図5-3 『森林（もり）づくり県民税』の認知
性別、年代別、未既婚別、子どもの年代別、地域圏別 】

